

メセナ白書 1997

[社] 企業メセナ協議会 編

特集: 企業の顕彰・コンクール事業

顕彰事業の目的





芸術家の発掘・育成に貢献する企業メセナ

今回の特集は芸術文化に関する顕彰・コンクール事業を取り上げました。「顕彰・コンクール事業」は日本における企業メセナの特徴のひとつとも言え、これは無名の優れた芸術家の発掘や芸術活動の質の向上にも貢献していると考えられます。企業が主催する事業のなかには、受賞者への充実したアフターフォローを行っているものが少なくないことも明らかになりました。今回の特集を含め、企業が展開するメセナ活動の多面性をご熟読いただきたいと思います。

[社] 企業メセナ協議会 会長 西尾信一

メセナ
白書
1997



メセナ 白書 1997

[社] 企業メセナ協議会 編

はじめに

社団法人企業メセナ協議会会長

西尾 信一

5

1997年版のメセナ白書を皆様にお届けできることを、たいへんうれしく思います。本書で7冊目になりますが、これも企業をはじめ、芸術団体、評論家、研究者などのご協力と読者のご支援を得て可能になったもので、関係各位と読者にお礼を申し上げる次第です。白書も回を重ねるごとに、企業メセナがわが国に定着しつつあることが明らかになってきており、喜ばしく思います。しかし、企業メセナに関する記録や研究調査が少ないことは残念なことで、この白書は貴重なものであると自負しております。

白書の内容は大きく二つに分けられます。一つは毎年継続的に調査し、その時系列的変化をとらえて、将来への示唆を得ようとするもの、一つは時宜にかなったテーマを特集し、その現状と問題点を明らかにしようとするものです。1996年版白書では「企業の芸術文化施設」を特集し、企業・アーティスト・観客・施設のそれぞれの観点から、その実情を明らかにしました。今回は企業の芸術文化に関する顕彰・コンクール事業をとりあげました。顕彰事業やコンクール事業は既存の芸術家の功績をたたえるだけでなく、無名の優れた芸術家を発掘できるという効果が期待されます。また、コンクールなどで競争させることによって切磋琢磨し、芸術活動の質の向上に貢献する効果もあるのではないのでしょうか。さらに、受賞者へのアフターフォローを充実させている事業が少なくないことも明らかになりました。そういう意味では「顕彰・コンクール事業」が人材の育成に果たす役割は大きいと考えます。

企業が芸術文化施設を数多く運営していること、企業が独自の顕彰事業やコンクール事業を積極的に行っていることは、日本の企業メセナの特徴を示しています。このように見てきますと、日本における企業メセナ活動は単に資金援助をするだけでなく、人的、物的援助など企業の経営資源を活用しての支援、企業自らが企画した文化事業、そして、文化施設や顕彰事業等への参加など多面的に展開しているといえるでしょう。

ぜひご熟読いただきたいと存じます。

	はじめに		5
	[社]企業メセナ協議会会長 西尾信一		
序章	1996年の企業メセナ		10
	[社]企業メセナ協議会理事長 福原義春		
第1章	企業のメセナ活動		13
	1 調査の概要	14	「顕彰事業活動」を追加
	2 調査の結果から	17	
	3 調査結果の分析	26	
		32	メセナ活動実施企業
		54	メセナ活動未実施企業
第2章	企業別メセナ活動		57
	1 企業別メセナ活動一覧	58	基本方針と活動内容
第3章	特集 企業の顕彰・コンクール事業		145
	1 メセナ活動における 企業の顕彰・コンクール事業	146	
	2 アート界の公募型 顕彰・コンクール事業	163	企業における公募イベントとのかかわり
	3 欧米における企業の 顕彰・コンクール事業	173	
	4 顕彰・コンクール事業を 支える主催者	181	
		182	株式会社毎日新聞社
		186	朝日放送株式会社
		190	サントリー株式会社
		194	モービル石油株式会社
		198	株式会社東急文化村
		202	株式会社イムズ
	5 顕彰・コンクールプログラム紹介	206	
	6 企業・企業財団の 顕彰・コンクール一覧	229	

第4章 国・地方自治体・財団等のメセナ活動 235

- 1 国・地方自治体の芸術文化支援 236 21世紀へ向けての展望
- 2 企業財団の芸術文化支援 248
- 3 企業財団のメセナ活動一覧 255 事業方針と活動内容

第5章 メセナ大賞'96 287

- 1 授賞趣旨と受賞企業の紹介 288 創造性、独創性、質の高さを求める
- 290 アサヒビール株式会社
- 292 キヤノン株式会社
- 294 株式会社毎日新聞社
- 295 株式会社ヨークベニマル
- 296 凸版印刷株式会社
- 297 株式会社海文堂書店
- 298 財団法人八十二文化財団
- 299 大日本印刷株式会社
- 2 応募企業および企業財団とその活動 300 31都道府県より142団体の応募

第6章 メセナ・データ 307

- 1 活字になったメセナ [1996年度] 308 新聞、雑誌、書籍に登場したメセナ
- 2 メセナ年表 320 メセナ関連セミナー開催、施設のオープンなど

付録 323

- 1 世界のメセナ機関 324
- 2 地方のメセナ組織 327
- 3 企業メセナ協議会1996年の活動状況 329
- 4 1996年度助成認定活動 331 109件の活動を認定
- 5 回答企業および企業財団名一覧 338
- 6 企業メセナ協議会会員リスト 342

おわりに 344



デザイン・ディレクター

中川憲造

NAKAGAWA kenzo

デザイナー

森上 隼 + 中山典科

MORIKAMI satoshi + NAKAYAMA norika

NDCグラフィックス

序

章

1996年の企業メセナ

1996年の企業メセナ

『メセナ白書1991』を発行して以来、メセナ活動実施企業の1社当たりの平均資金援助額は毎年漸減傾向を示してきた。しかし、1996年版ではその漸減傾向に歯止めがかかり、95年の7546万円から9665万円への増加となった。これが「増加に転じた」といえるかどうかは、今回の調査結果を見ないとわからないと思っていたが、今回も増加して9975万円となることが明らかになったことから、企業メセナも上向きになってきたといえそうである。では、その好転しつつあるメセナ活動に96年はどのような特徴が見られたであろうか。調査の詳細は後述をご覧いただくとして、支援の現状について述べてみたい。

企業メセナ協議会は94年の2月に特定公益増進法人の認可を受け、助成認定活動を始めた。これは、当協議会が認定した芸術活動への支援を当協議会を経由して行えば税制上の優遇措置が得られるという制度である。この制度を利用して支援した企業は確実に増加し、96年度は544社、金額も5億5590万円と急速に伸びている。これも企業メセナが上向きになっている証左といえよう。しかし、その内容を見ると一つの傾向を見ることができる。それは少額化ということである。すなわち、1件当たりの支援金額を見ると、30万円未満が94年34%、95年50%、96年54%とその比率が増加している。その一方で、200万円以上の支援も95年度7%31件が96年度は10%70件に増加している。つまり、支援は少額支援と多額支援に二極分化しつつあり、そのなかで、少額支援のウエートが年々大きくなっていることがわかる。これを本書の調査結果と関連づけて見てみよう。1社当たりの平均活動実施件数を見ると、3年間で5.5、6.0、6.2件と活動件数は増加している。また、前年と比較して支援件数が増加した企業も比率が増加している。資金援助総額が1000万円未満の企業も増加している。このような結果をあわせ考えると、企業の資金援助は限られた枠のなかで、数多くの芸術団体に少額の支援をしているという現状が見えてくる。その背景には、支援要請件数の増加が挙げられよう。つまり、支援要請の増加が支援件数増となり、そのためには1件当たりの支援金額を少額にして多くの活動を支援する。芸術団体側にとっては1社からの支援額が少ないため、数多くの企業に支援要請をせざるをえないといった循環関係になっているのではないだろうか。そして、単独支援が減り、

多数社による少額共同支援が多くなっていると考えられる。

バブル経済が崩壊しはじめていた1991年には、まだ、バブル経済の余韻があり、多額の資金援助がなされていた。その援助レベルを基準にすれば、現在の状況は少額といえるが、はたしてそうなのか。ただ、芸術活動は多額の資金を必要とするものが多いこと、芸術団体側のファンドレイジングの体制が整っていないことを考えると、芸術団体側の努力を多とする少額多件数支援が本当に良い方向なのかどうかは検討課題ではないだろうか。

さて、1996年を振り返るとき、内外の動きにふれねばなるまい。

(1)多様化するメセナ

「メセナ大賞96」では182件の応募があった。その応募内容を見ると、単に企業や企業財団からの応募だけでなく、商工会議所や経済団体、労働団体、学校法人、市民団体などさまざまな支援主体からの応募があった。現在、日本の各地にメセナに関する組織が誕生しつつあるが、その組織の活動の主なものは地元の文化活動への支援である。つまり、地元の企業が少しずつお金を出し合って、支援しようとするものである。最近の傾向を見ると、このような1企業、1企業財団によるメセナだけでなく、複数の企業が、組合員が、市民が協力して行うメセナなど、メセナの多様化が目につく。メセナという概念が社会に認知されてきた結果、メセナを身近に考え、行動しようとする人たちが増えてきているのではなかろうか。今後、ますますメセナは多様化していくものと考えてる。

(2)地方メセナも徐々に拡大

96年度には甲府に「山梨メセナ協会」、横浜市に「中区メセナ活動推進懇話会」が発足した。いずれも、地元の文化興隆をめざす市民有志が熱心に企業や行政に働きかけてできたものである。このように、現在、企業や個人の有志、文化振興財団などにより、徐々にではあるが、全国各地にメセナに関する組織が誕生し、全国で14団体あるが、そのうちの2団体を除いては、任意団体である。そのため、組織の存在も広く知れ渡っておらず、その活動が地元の人々から十分評価されるまでにいたっていないのが実情である。そのうえ、一部の熱心な人たちに依存している面もあり、財政基盤（ほとんどが会費収入）と組織の強化をどのようにはかっていくかが、今後の課題であろう。

(3)文化庁「アーツプラン21」のスタート

「アーツプラン21」の特色は特定の芸術団体へ助成金を集中配分する育成型

支援事業を設けた点である。選ばれた15団体は日本を代表する芸術団体であり、その活動が日本の芸術文化の向上に影響を与えると考えられるので、そこへの重点支援は意義あるものと思う。民間の支援が少額多件数支援の傾向がみられるのとは対照的である。ただ、3年間の継続支援の先はどうか、資金的援助のフォローについて、どのような指導をしていくのであろうか。いまこそ芸術団体に対する長期の財政計画をたてるべきではないか。第4章で太下氏が報告されているので、ご覧いただきたい。

(4)国際ネットワーク

海外の動きとしては、96年6月にニューヨークでメセナの国際会議が開催され、国際ネットワーク会議が結成されたこと。11月には韓国での国際会議で「アジアにおけるメセナ国際交流ネットワーク組織」結成が決まり、そのための作業委員会がスタートしたことが挙げられる。とくに、アジアにおけるネットワークづくりについては、アジアでの最初の本格的メセナ組織である日本の企業メセナ協議会が積極的に協力していくことになる。

(5)メセナとマーケティング

さて、海外での最も重要な動きはメセナに関する考え方に差が出始めたことである。イギリスのABSА（芸術支援協会）は、企業の芸術支援に対する「見返り」を認め、企業のマーケティングの一環としてのメセナを奨励する姿勢を打ち出している。アメリカも企業戦略の見地からメセナを考える傾向がみられ、たとえば80年代にコース・リレイテッド・マーケティングを開発したアメリカン・エクスプレス社は有名である。フランスのADMICAL（商工業メセナ振興協議会）はメセナが企業戦略の一環であることは認めるものの、芸術文化への奉仕・貢献を第一義としている。では、日本ではどうか。かつて、マーケティング戦略として芸術を利用してきた苦い経験を持つわれわれは、社会貢献活動の一環として芸術文化を支援し、日本の芸術文化の振興に貢献することが企業にとって大切であることを欧米諸国から学んだのである。そして、芸術文化を企業が支援することに社会のコンセンサスが得られるまでになっているのが日本の現状である。その方向で、欧米各国の動向にも注目しながら、日本型企業メセナのあり方を確立していかねばなるまい。また、企業にとって、芸術文化の支援は経済的発展に対する背反事象ではなく、パラドックスのように見えながらもともに発展することがゴールなのである。

第

1

章

企業のメセナ活動

調査の目的

企業メセナ活動の現状を調査する「メセナ活動実態調査」は、1990年度の調査に始まり、今回で7回目を迎える。本調査は、各企業が実施するメセナ活動の実例を収集する一方、メセナ活動に対する意識ならびに窓口の対応の実態の動向を把握し、今後のメセナ活動のあり方や展望を探る手がかりとする目的で実施している。

新しい調査項目・回答方法

今回の調査では、国内の大多数の企業が採用している決算時期に合わせ、対象期間を原則的に1996年4月1日から1997年3月31日までとした。ただし、決算時期の都合で回答が困難な企業については、1996年1月1日から12月31日を対象期間としての回答とした。

1996年度の本調査の内容は、前回までの調査票を踏襲しつつ、この『メセナ白書1997』でとりあげる特集「企業の顕彰・コンクール事業」と関連づける目的により、日本企業による顕彰・コンクール事業についての質問項目を設けた。回答結果は、第3章に反映させたので、そちらを参照いただきたい。

調査の方法

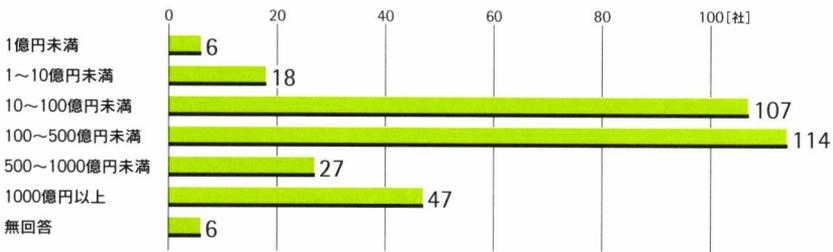
本調査は、全上場企業（東京1・2部、大阪、名古屋、札幌、新潟、京都、広島、福岡）と企業メセナ協議会会員企業の計2340社を対象に調査票を1997年3月に送付し、郵便による回収方式で実施した。回答数は325通であり、回収率は13.9%であった。

回答企業のプロフィールは図のとおりである。

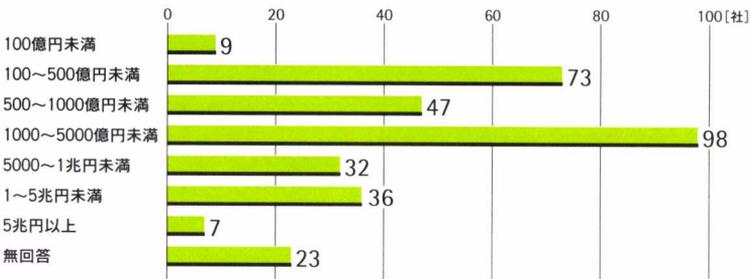
調査結果の見方（留意事項）

- ・比率はすべて百分率（%）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出した。したがって、合計が100%を上下する場合もある。
- ・基数となるべき実数は、 $N = \bigcirc\bigcirc\bigcirc$ として掲載、その際は N を100%として算出した。
- ・回答は本来「一つ」であるが、「複数回答可」の設問には、図表にMA（マルチ・アンサー）と記載した。なお、この場合、1社が二つ以上の回答を出してもよい問いであるため、回答の合計比率は100%を超える場合もある。
- ・図表として示したもののなかには、「無回答」の社を省略した部分もある。

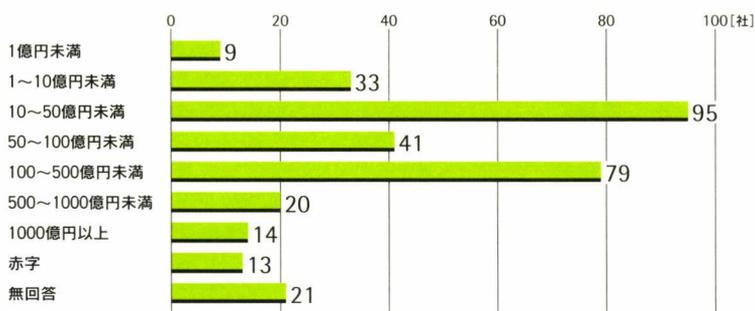
[資本金]



[売上高]



[経常利益]



[従業員数]



1991年度に企業の「メセナ活動実態調査」を始めてから、今年で7年目となる。この7年間は日本の政治、経済、社会にとって激動の時期であった。当協議会発足の1990年はバブル経済が崩壊し始めていたが、まだ経済的余裕があり、メセナはブーム的様相を呈しながら急速にひろがっていった。

バブル経済の崩壊と、その後の深刻な長期的経済不況は企業メセナにとって逆風的な環境をつくりだしたかに見えた。しかし、調査結果は、そのような環境下にあっても、企業の社会貢献活動の一環としてメセナ活動を行う企業が増加し、メセナが企業のなかに着実に根づいていったことを明らかにしている。

1996年の概況と7年間の経年推移から課題を探ってみた。

1. 1996年の企業メセナ

メセナ実施率

回答企業中のメセナ実施企業数の比率は、91年版調査の42.7%を最低に年々増加し、97年版調査で初めて70%を超えた（P. 26）。

資金援助額

1社当たりの平均資金援助額は、92年版調査を最高に毎年減少していったが、前回の調査から増加の兆しが現れ、今回も増加し、9975万円となった。

[1社あたりの平均資金援助額]



予算の決定

協議会はメセナが企業に定着してきているかどうかのパロメーターとして、メセナ予算を決めている企業数の推移に注目してきた。「予算を決める」ことは、組織として計画的にメセナに取り組んでいると考えられるからである。

91年版調査の36.2%から年をおうごとに増加し、今回は59.6%となり、メセナが企業に根づいていることを示した（P. 40）。

メセナの財源

メセナの財源調査として、毎年メセナの費用をどのような項目で処理しているかを調べている。今回は「寄付金」と「宣伝広告費」とがそれぞれ57.8%、55.7%を占めた（P. 41）。この2項目は毎年他の項目より突出しており、主要な財源となっている。

メセナのイニシアティブ

前回は「会長・社長」が38.5%、「担当部署」が34.3%であったが、今回は「担当部署」が46.1%と大幅に増加し、「会長・社長」の30.9%を引き離れた（P. 39）。

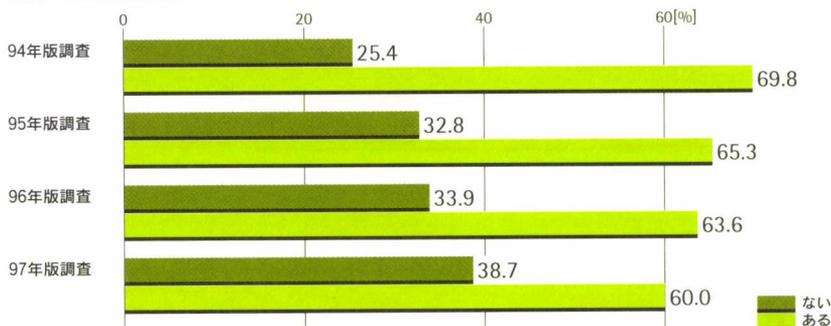
社内外 PR

社内 PR の方法は、「社内報」が83.7%と昨年を若干下回るものの依然として突出している。また、インターネットによる PR が、33.7%と前回より大きく伸びている点が注目される（P. 50）。

メセナ活動の支障となる事柄の有無

94年版調査から本設問を始めたところ、「ない」と回答した企業が年々増加している。これは各企業内のメセナ環境が整いつつあることを示している。しかし、まだ6割の企業が「ある」と答えており、課題が多いことがわかる。

[支障となる事柄の有無]



以上主な七つの調査項目をとりあげ、1996年の企業メセナの調査結果をまとめてみた。総体的には企業メセナが着実に企業に定着しつつあることを明らかにしている。

しかし、調査データも個々に分析してみると、いくつかの課題を提起することができる。

以下、当協議会の特定公益増進法人制度を利用した助成認定事業のデータを参考にしながら、7年間の調査結果を包括的に考察してみたい。

2. 経年推移から見た企業メセナの課題

支援要請件数増をどのように受け止めるか

バブル経済崩壊後、メセナ活動にどのような影響を与えているかを把握するために、93年版調査より「前年との比較」を調査項目に入れた。

本調査結果から下記の三つの現象が読みとれる。

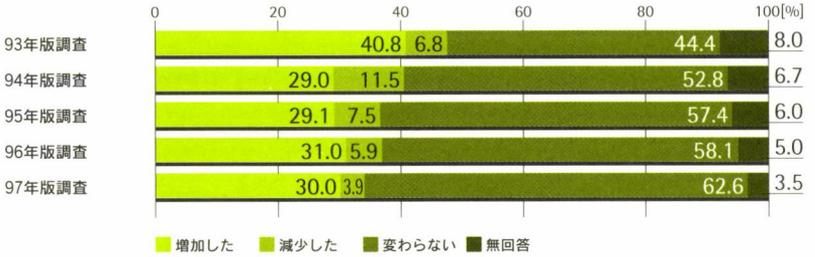
- ①各項目とも「変わらない」が年々増加している。
- ②支援要請件数と支援件数は94年、資金援助額は95年版調査を境に「増加した」と「減少した」の差がひろがっている。
- ③支援要請件数の「増加した」が毎年高い比率を示している。

つぎに、支援件数と支援要請件数、支援件数と資金援助額の相関に着目する。まず、今回の調査での支援件数と支援要請件数の相関を見ると、支援件数が増加した企業の75.0%は支援要請件数が「増加した」と回答している。また、支援件数が「減少した」企業の28.6%は支援要請件数も減少している。さらに、支援件数と資金援助額の相関を見ると、支援件数が増加した企業の76.9%は資金援助額が「増加した」と回答、支援件数が「減少した」企業の76.2%は資金援助額が減少している。支援件数と支援要請件数、支援件数と資金援助額、ともに高い相関関係があることがいえる。

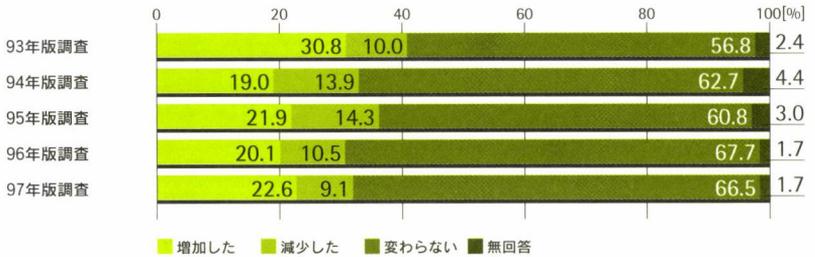
特定公益増進法人制度

（社）企業メセナ協議会は、文化庁から「公共法人、公益法人等
その他特別の法律によって設立された法人のうち、芸術の普及
向上に関する業務を行うことを主たる目的とする法人で、公益
の増進に著しく寄与するもの」として認可されている。特定公益
増進法人への寄付は、一般寄付金で決められている損金算入
限度額と同額だけ別枠で損金になる。つまり、当協議会が認定
した芸術活動へ協議会の口座を経由して資金援助した場合、寄
付をした企業が税法上の優遇措置が得られる。すなわち、一般
寄付金と同額の寄付金が別枠で免税になるという制度。

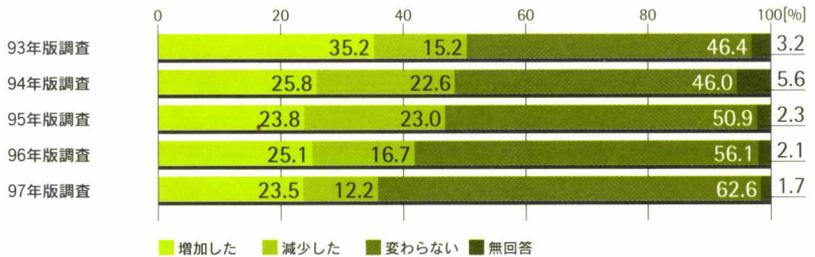
[前年との比較/支援要請件数]



[前年との比較/支援件数]



[前年との比較/資金援助額]



[支援件数と支援要請件数の相関／97年版調査]

		支援要請件数	
		増加した	減少した
支援件数	増加した	75.0%	1.9%
	減少した	19.0%	28.6%

[支援件数と資金援助額の相関／97年版調査]

		資金援助額	
		増加した	減少した
支援件数	増加した	76.9%	5.8%
	減少した	9.5%	76.2%

続いて、資金援助額の年度別推移を見てみる。すると、1000万円未満の層が増加傾向にあることが読みとれる。また、助成認定事業の寄付金額の内訳を見ると1件当たりの認定活動に対する30万円未満の寄付金が増加しつつある。

[資金援助額の年度別推移]



支援要請件数の増加が支援件数の増加を生んでいる。いっぽう、資金援助額には限りがある。支援要請を受ける企業側からすれば、限られたメセナ予算で、できるだけ多くの芸術活動を支援するならば、1件当たりの援助額は少額にせざるをえない。「薄く広く」か、「厚く狭く」かは議論の分かれるところではあるが、自社のメセナの方針と資金効率を考えての支援が大切ではないだろうか。

寄付金か宣伝広告費か

メセナ活動の財源を毎年調査しているが、毎回、寄付金と宣伝広告費が突出している。今回のメセナ実施企業230社の支援形態を見ても171社が寄付金・協賛金の提供をしていることがわかる（P. 35）。また、寄付金と宣伝広告費をメセナの財源にしている企業は230社中182社となり79.1%を占める。当協議会は94年に文化庁から特定公益増進法人の認可を受け、当協議会が認定した芸術活動に協議会の口座を経由（スルー）して資金援助した場合、寄付をした企業が税制上の優遇措置が得られることになった。しかし、今回の調査でメセナを実施している230社のなかでこの制度を利用した企業は62社（27.0%）にすぎなかった。特定公益増進法人制度を利用して芸術活動を支援した企業は、96年度は544社に及んでいることと、回答したメセナ実施企業中62社にすぎなかったことを考えると、残りの482社の企業が現実にメセナを実施しているわけであり、調査対象とならなかった未上場企業等にメセナがひろがっているといえる。

メセナ実施企業の約8割は寄付金か宣伝広告費を財源にしており、寄付金のみは1割強であることがわかった。メセナの財源をどこに求めるかは、企業個々の事情によって異なり一概にはいえない。しかし、メセナを行う理由の90%以上が「社会貢献の一環として」を挙げているのを考慮すれば、財源を寄付金に求めることは、メセナの目的に合致するのではないだろうか。

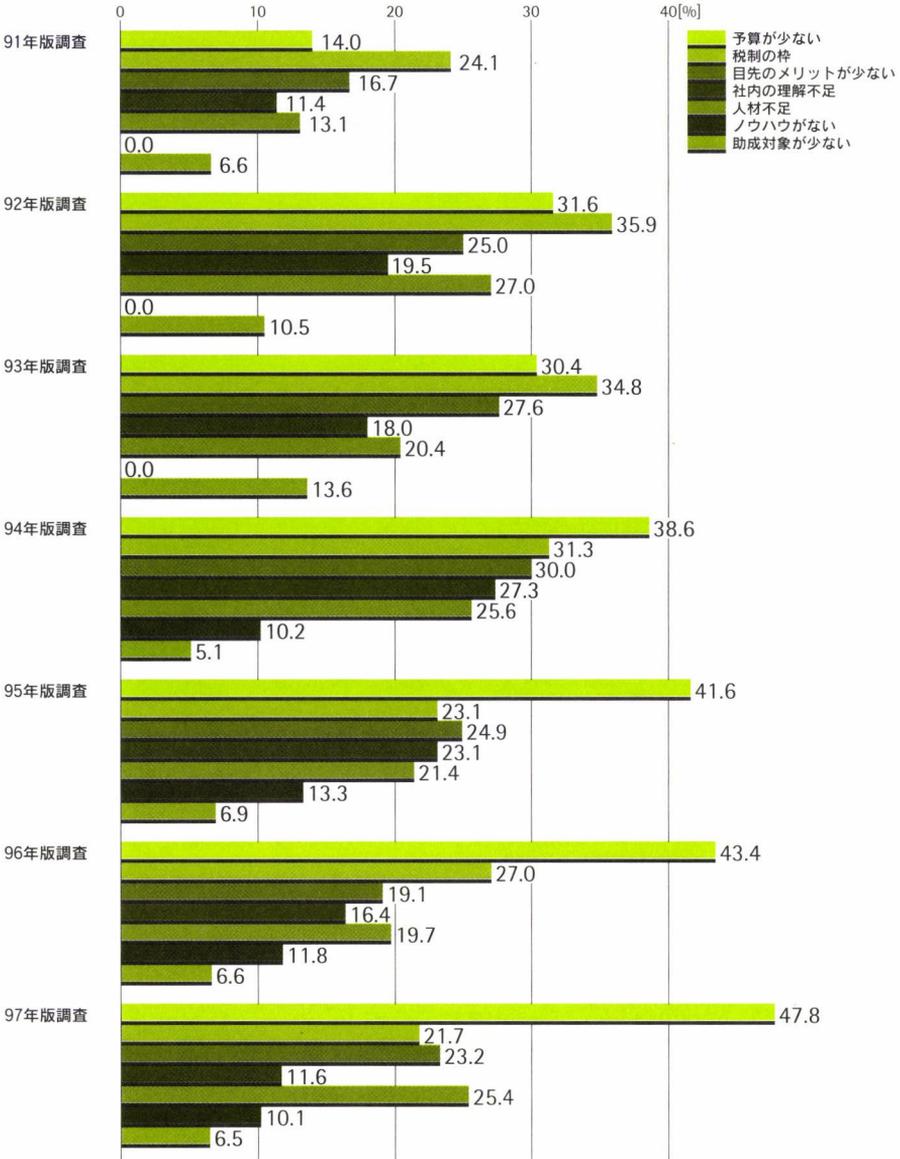
[[寄付金]と[宣伝広告費]の内訳]

	寄付金のみ	寄付金+ 宣伝費を 除く費目	寄付金+ 宣伝費	寄付金+ 宣伝費と その他	宣伝費+ 寄付金を 除く費目	宣伝費のみ	合計	スルー 企業数
寄付金 比率	27社 20.3%	28社 21.1%	40社 30.1%	38社 28.6%			133社 100%	42社
宣伝広告費 比率			40社 31.5%	38社 29.9%	21社 16.5%	28社 22.0%	127社 100%	32社

メセナ活動の支障

メセナ活動の支障となる事柄を見ると「予算が少ない」は増加し、逆に「税制上の枠」は減少している。支障があると回答した企業のなかでは「予算が少ない」に問題があるようだ。「予算が少ない」は、支援件数が「増加した」企業でも、「減少した」企業でも、他の項目に比べ高い比率を占めている。これは「支援件数を増やしたが予算が少ないので困った」と「予算が

[メセナ活動の支障となる事柄]



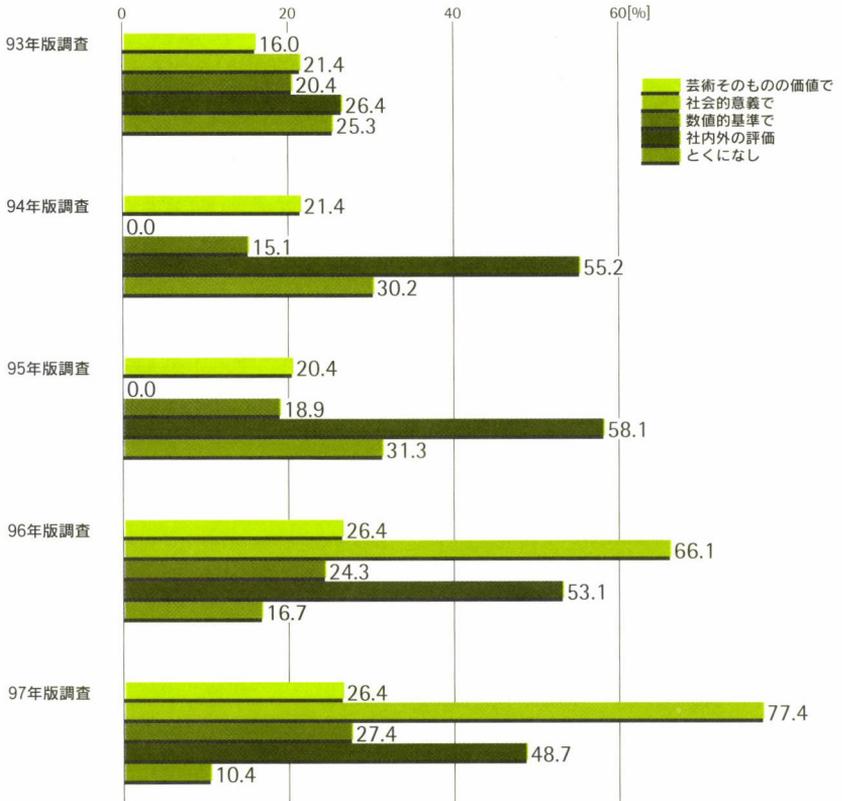
24

少ないため支援件数を減らさざるをえなかった」の両方が考えられる。

また、「社内の理解不足」が減少傾向にあることは喜ばしい。これは社内PRを実施している企業も年々増加しており、その成果のあらわれと考えられる。

「目先のメリットが少ない」が依然として20%前後を占めていることは、メセナの考えが十分認識されていないとも考えられる。啓発活動のいっそうの充実を心がけねばならない。

[メセナ活動の結果を評価する基準]



気になる社内外の評価

メセナ活動の結果を評価する基準を見ると「社内外の評価」が重視されているのがわかる。「社内外の評価」は来場者の評価、被支援者の評価、専門家の評価、社内の評判、マスコミの評価によって決まってくる。しかし、支援する目的はそれぞれの芸術活動によって異なるはずであり、同じ基準で評価することはできない。したがって「社内外の評価」を参考にするにしても、それ以前に支援する側で支援する対象にあった評価の尺度を設定しておくべきで、結果を社内に報告する際、その尺度を基準とした自己評価を堂々と主張できるようにすべきである。

また、「社会的意義（教育的効果、地域社会への貢献など）で判断」の項目が欠けていたため96年版調査から追加したところ、高い比率で回答を得た。

ここで気になるのは「芸術そのものの価値で」が低い順位になっていることである。さらに、「社内外の評価」の内訳を見ると、来場者、マスコミ、専門家の評価、社内の評判に比べて被支援者の評価がきわめて低い。これらは芸術の価値判断が難しいことやアーティストとのコミュニケーション不足などによるものと考えられる。企業内に芸術文化を自由に発言できる企業風土を醸成することが必要ではないか。今後の企業のあり方に、メセナを含む社会貢献活動が重要であると考えるのであれば、多様な価値観を持った人材の採用、育成が望ましい。

まとめ

7回にわたる調査結果を見ると、「企業メセナが着実に浸透しつつある」というこれまでの主張が確認されてきたと考える。それは定例的調査項目については同じような結果が得られるようになってきたからである。このような安定した調査データが得られるようになったのは、各企業のトップの理解やメセナ担当者の日々の努力の結果であり、敬意を表したい。

現在の日本経済の回復状況を考えれば、しばらくはきびしい環境下でのメセナ活動が強いられると思われる。その一方で、「企業メセナが着実に浸透しつつある」ことにより、アーティストからの支援要請件数はますます増加するであろう。だからこそ、より適切な資金援助や支援先の選定による企業メセナが求められる。芸術文化の普及・向上のために、企業メセナの今後のさらなる発展を期待したい。

メセナ活動実施状況

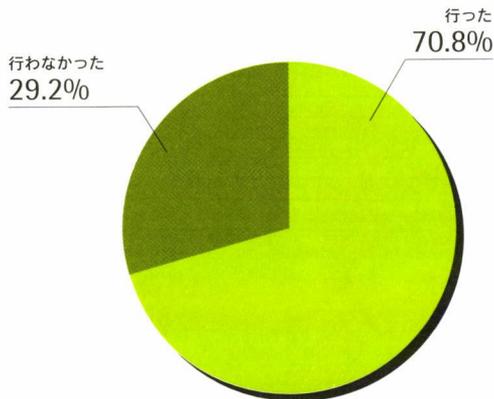
96年度のメセナ活動実施の有無

—70.8%の企業がメセナ活動を実施、実施率は増加

- 図1は1996年度1年間においてメセナ活動を行ったか否かを尋ねた結果を表している。全回答企業325社中、230社70.8%の企業がメセナ活動を実施している結果となった。
- 同じ質問を91年版から経年的にみると(図2)、昨年の66.8%から4.0%上昇している。
- 図3は「1996年度にはメセナ活動を行わなかった」企業95社の行わなかった内訳である。

[メセナ活動の有無] 図1

N=325

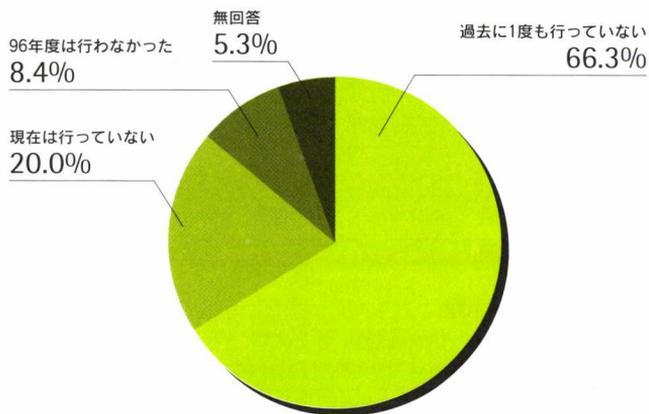


[メセナ活動実施率の変遷] 図2



[メセナ活動を行わなかった内訳] 図3

N=95



実施の概要

[1] 業種別実施状況——公共、マスコミ、金融・保険は安定した高実施率

- メセナ活動の実施状況を業種別にまとめてみると下表のような状況である。
- 「公共」10社や「不動産」4社は企業数が少ないもののすべての企業が実施している。
- 回答社数が68社ある金融・保険では前回調査の実施率85.2%と同レベルの85.3%の実施がある。
- 前回調査において118社中69社58.5%の実施率であった「その他製造業」は、今回の結果においても103社中61社59.2%と業種別にみると実施率は低い。

[業種別実施状況]

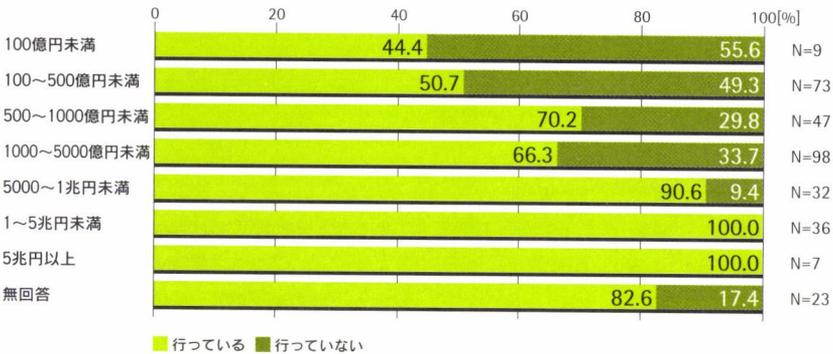
業種	行った	過去に行ったが 96年度は 行っていない	過去に行ったが 現在は 行っていない	過去に1度も 行っていない	無回答	合計
水産			1 [100.0]			1 [100.0]
建設	16 [69.6]	2 [8.7]	1 [4.3]	3 [13.0]	1 [4.3]	23 [100.0]
電気工事他				3 [100.0]		3 [100.0]
食品	15 [71.4]		2 [9.5]	4 [19.0]		21 [100.0]
自動車製造・販売	8 [80.0]			2 [20.0]		10 [100.0]
その他製造業	61 [59.2]	4 [3.9]	8 [7.8]	28 [27.2]	2 [1.9]	103 [100.0]
商業	12 [66.7]		3 [16.7]	3 [16.7]		18 [100.0]
量販店・スーパー・百貨店	12 [92.3]			1 [7.7]		13 [100.0]
金融・保険	58 [85.3]	2 [2.9]	2 [2.9]	5 [7.4]	1 [1.5]	68 [100.0]
不動産	4 [100.0]					4 [100.0]
運輸・倉庫	7 [63.6]			4 [36.4]		11 [100.0]
マスコミ	13 [76.5]			3 [17.6]	1 [5.9]	17 [100.0]
公共[電力・ガス・通信]	10 [100.0]					10 [100.0]
サービス	9 [60.0]		1 [6.7]	5 [33.3]		15 [100.0]
その他	5 [71.4]			2 [28.6]		7 [100.0]
無回答			1 [100.0]			1 [100.0]
総数(社)	230 [70.8]	8 [2.5]	19 [5.8]	63 [19.4]	5 [1.5]	325 [100.0]

[2] 売上高別／経常利益別／従業員数別実施状況

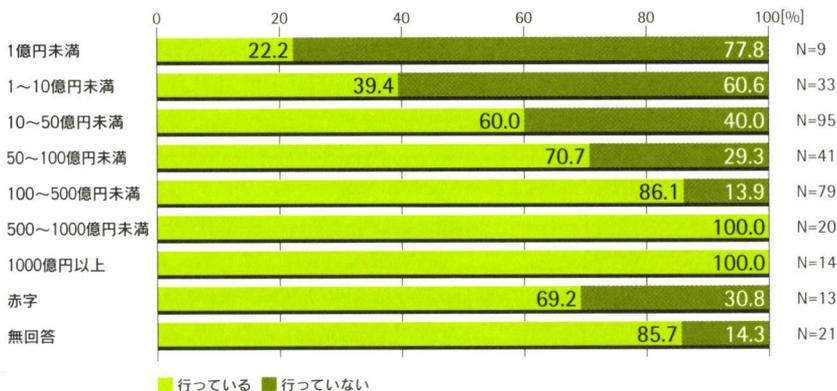
—— 経常利益が高く、従業員が多いほど高い実施率

- メセナ実施率を売上高別にみると、500～1000億円未満の企業のほかは売上高が高いほど実施率も高い。500～1000億円未満の企業は前回の調査では45.5%の実施率であったから、この層の実施率は24.7%伸びたことになる。
- 経常利益別、従業員数別ともに大企業のほうがメセナ実施率は高い。

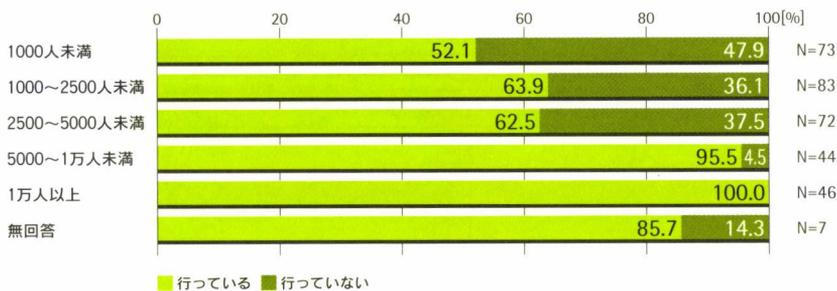
[メセナ活動の有無／売上高別]



[メセナ活動の有無／経常利益別]



[メセナ活動の有無／従業員数別]



96年度のメセナ以外の社会貢献活動の実施

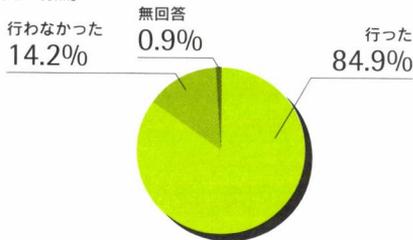
96年度のメセナ活動以外の社会貢献活動の実施

——社会貢献活動の実施率は84.9%

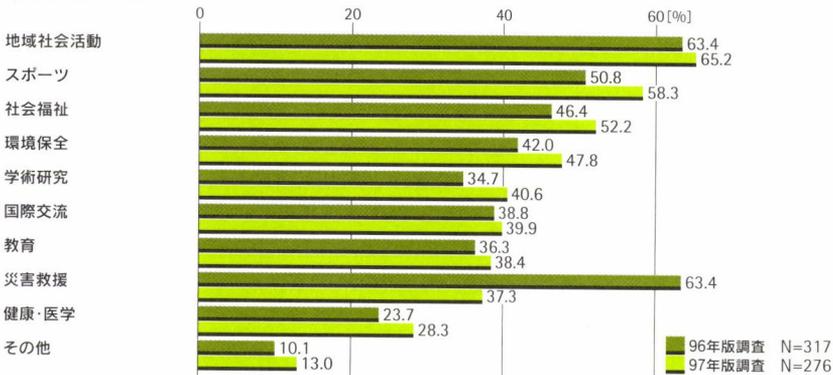
- 96年度のメセナ活動以外の社会貢献活動は325社中276社84.9%で実施されているが、前回の調査結果である358社中317社88.5%の実施率からみると減少する結果となった。
- 前回の調査においては、「災害救援」に95年1月の阪神淡路大震災への災害救援が含まれていたため63.4%の企業が実施していたが、今回の調査では37.3%という結果であり、この部分の減少が影響を与えている可能性がある。
- 前回の調査においては、「学術研究」は34.7%で8番目であったが、今回は40.6%と上昇し、5番目に多い実施率となっている。

〔メセナ以外の社会貢献活動の有無〕

N=325



〔具体的な内容〕 MA



活動実績と内容について

【1】実施件数——1社当たりの平均活動実施件数は6.2件

■ 回答のあった企業の個別のメセナ活動の実施件数を合計すると、1387件となった。前回の調査における「メセナ活動実施件数」は1397件、1社当たり6.0件であったが、今回のメセナ活動実施件数は1社当たり6.2件である。

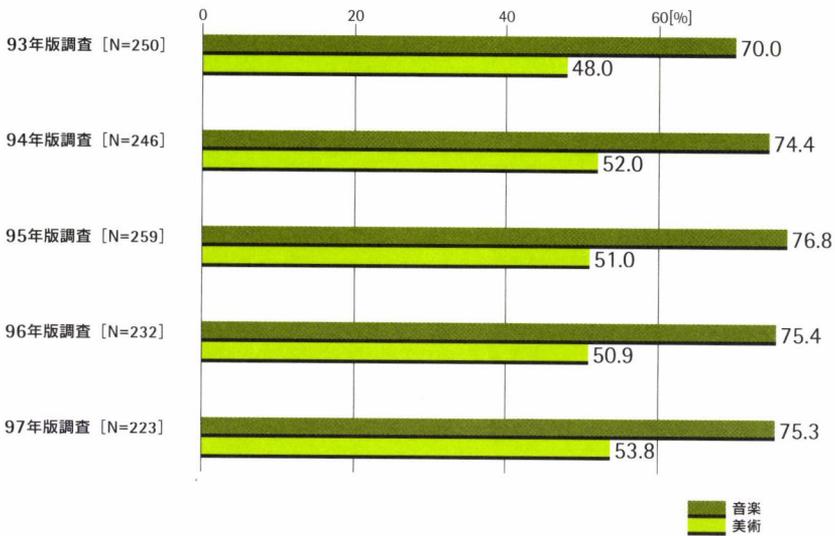
■ 下表にみるように音楽・美術の分野は例年支援している企業の比率が高いが、今年の調査においても例年同様の結果は変わらない。

※ 下表で指す「延べ実施件数」とは、個々の活動の芸術分野の数を合計した数字である。1件の活動が複数のジャンルにまたがるケースがあるため、実際の活動件数を示す「メセナ実施件数」よりも数値が高い。

[活動分野の比率]

芸術分野	延べ実施件数	件数比率 [%] N=1387	実施企業数	企業数比率 [%] N=223
音楽	566	40.8	168	75.3
美術	301	21.7	120	53.8
演劇	144	10.4	69	30.6
舞踊・バレエ	59	4.3	32	14.3
映像(映画・ビデオ)	49	3.5	28	12.6
工芸	27	1.9	19	8.5
グラフィックデザイン	18	1.3	14	6.3
服飾デザイン	8	0.6	7	3.1
民俗芸能・郷土文化	85	6.1	37	16.6
文学	59	4.3	36	16.1
書道	11	0.8	8	3.6
文化遺産・歴史的建造物	37	2.7	29	13.0
現代建築	19	1.4	12	5.4
造園	6	0.4	5	2.2
博物館	24	1.7	21	9.4
文化振興機関への出捐、寄付	56	4.0	39	17.5
その他	115	8.3	60	26.9
合計	1584		704	

[音楽・美術の支援企業数比率の推移]



[2] 音楽・美術・演劇における支援内容およびジャンル

—— 「演奏会」「展覧会」「公演活動」への支援が中心

■ 音楽、美術、演劇ともに発表支援（「演奏会活動」72.2%、「展覧会活動」57.0%、「公演活動」75.7%）が大多数である傾向が続いている。

[音楽・美術・演劇の支援対象・ジャンル]

音楽		美術		演劇	
支援対象	件数	支援対象	件数	支援対象	件数
演奏会活動	437	展覧会活動	208	公演活動	115
音楽施設の建設・運営	27	作品購入	20	劇場の建設・運営	16
音楽家の日常活動	77	作品貸与	6	劇団の運営・演劇人の日常活動	8
育英・奨学	27	美術館・ギャラリーの建設・運営	55	育英・奨学	4
顕彰	16	美術家・美術団体の日常活動	18	顕彰	4
その他	21	育英・奨学	13	その他	5
		顕彰	23		
		その他	22		
合計	605	合計	365	合計	152
無回答	15	無回答	10	無回答	18
支援ジャンル	件数	支援ジャンル	件数	支援ジャンル	件数
クラシック音楽	404	絵画	182	歌舞伎・文楽	16
現代音楽	86	版画	75	能・狂言	14
オペラ	64	彫刻	92	演劇・パフォーマンス	82
ポピュラー	57	写真	65	ミュージカル	38
邦楽・民謡	32	インスタレーション	50	人形劇・パントマイム	17
童謡	8	その他	76	その他	13
その他	45				
合計	696	合計	540	合計	180
無回答	19	無回答	15	無回答	9

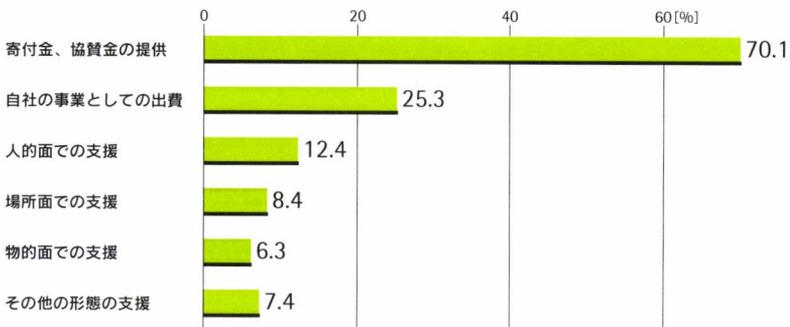
[3] 支援形態——資金による支援が中心

■ 「寄付金・協賛金の提供」と「自社の事業としての出費」は資金による支援とすることができる。

■ 本設問に回答した企業230社中223社（97.0%）が、資金による支援を行っている。

[支援形態] MA

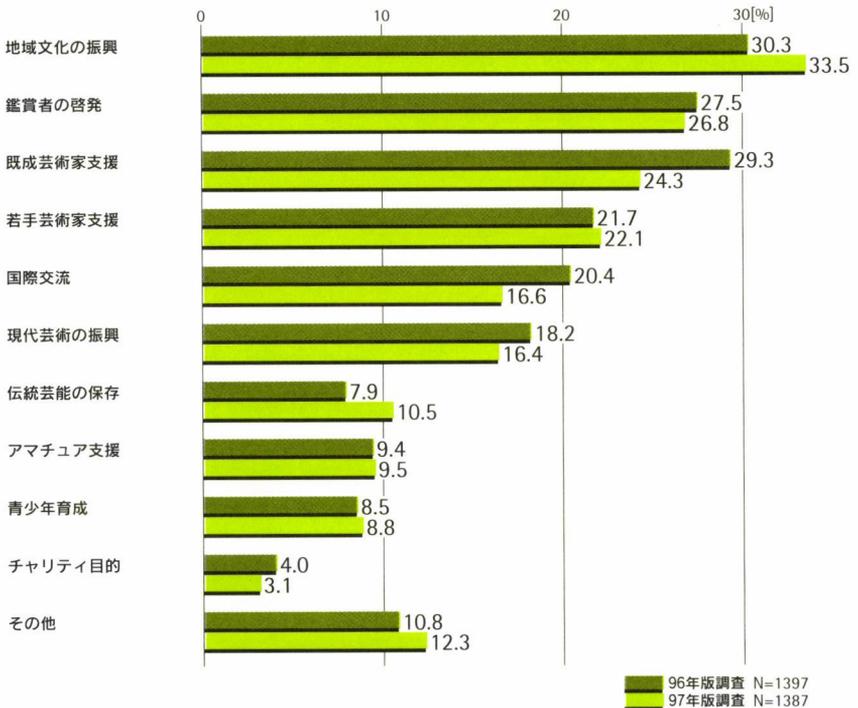
N=1387



[4] 支援目的——「若手芸術家支援」が「既成芸術家支援」に近づく

- 「既成芸術家支援」が前回調査の29.3%から24.3%と減少する一方で、「若手芸術家支援」は21.7%から22.1%と増加している。
- 支援目的においては「地域文化の振興」が前回の30.3%から33.2%増加している。

[支援目的] MA



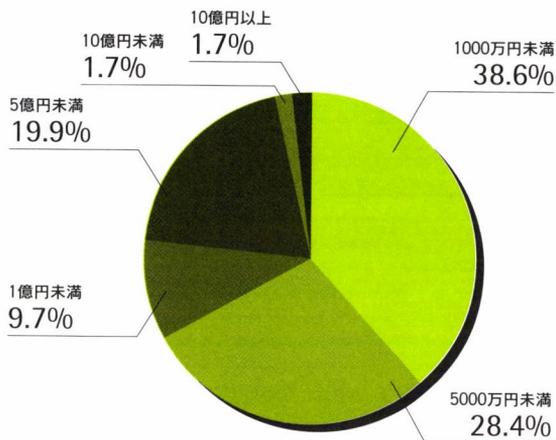
[5] 資金援助額（総額） — 1社当たりの平均資金援助額は前年度から増加

■ メセナ活動費の回答があった企業176社の資金援助総額では、1000万円未満の企業が38.6%で最も多い。

■ 176社の資金援助額の総計は175億5527万円となり、1社平均では9975万円となる。前回調査においては174社の平均額が1社平均9665万円であったから、300万円以上の増加という結果である。

[1社当たりの資金援助額]

N=176



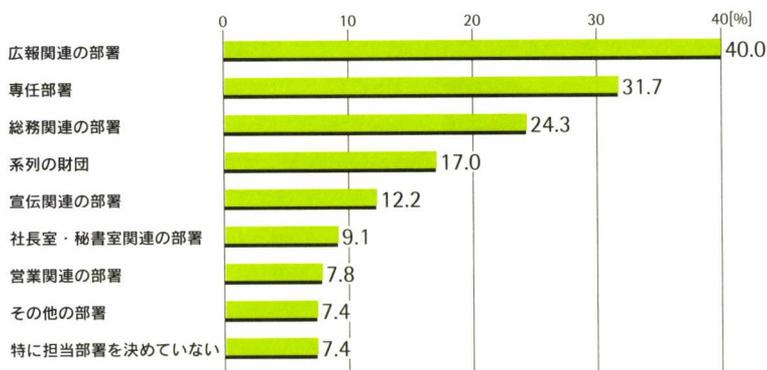
メセナ活動の運営について

[1]メセナ活動の担当組織について——31.7%の企業にメセナ専任部署

■メセナを担当する組織として最も回答が多いのが「広報関連の部署」であり、「専任部署」は2番目となっている。

[メセナを担当する部署] MA

N=230



[2]イニシアティブをとっている人

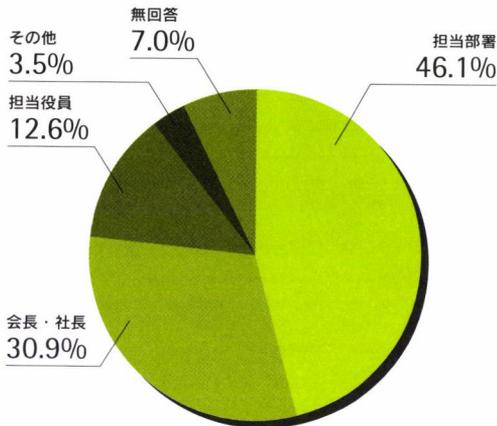
——担当部署リードが大きく増加、トップダウン型企業を引き離す

■「会長・社長」がメセナのイニシアティブをとっているトップダウン型の企業が71社30.9%に対し、「担当部署」がリードしている企業が106社46.1%という結果となった。

■前回の調査では「会長・社長」が92社38.5%、「担当部署」が82社34.3%であったから、96年度の活動においては両者の関係が逆転している。

[イニシアティブを取っている人]

N=230



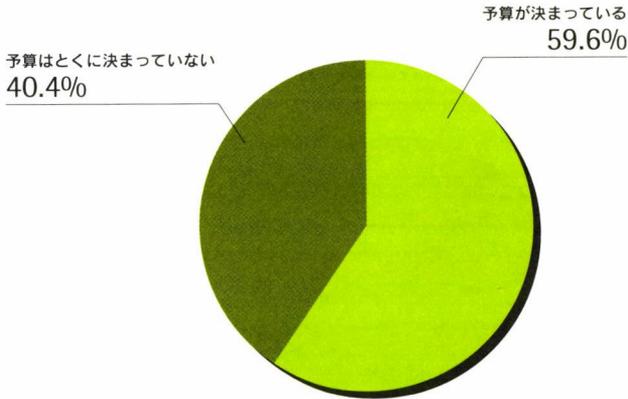
[3] 予算の決定について——メセナ活動を予算化している企業は今年も増加

■ メセナ活動の「予算が決まっている」企業は今回の調査では137社59.6%であった。経年的にみると「予算が決まっている」企業の割合は今年も増加し続けている。

■ 「予算化していない」企業に対して、どのような場合にメセナ費を支出するかを尋ねたところ、「社外からの要請があれば個別に判断して支出する」が79社84.9%、「社内から要請があれば個別に判断して支出する」が46社49.5%、「その他」が3社3.2%である。

[予算の決定]

N=230



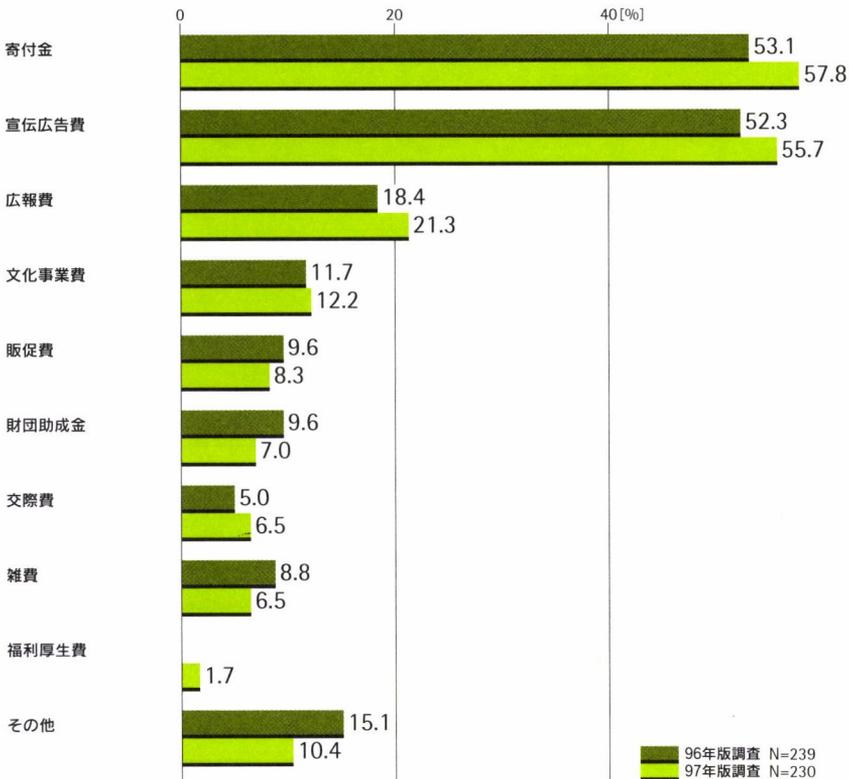
[メセナの予算の決定の推移]



[4]メセナ活動の財源——「寄付金」「宣伝広告費」は今年も突出

■メセナ活動の財源がどこから出ているかについては、例年「寄付金」と「宣伝広告費」の2項目が突出する傾向が続いているが、96年度も同じ結果であった。

[メセナ活動の財源] MA



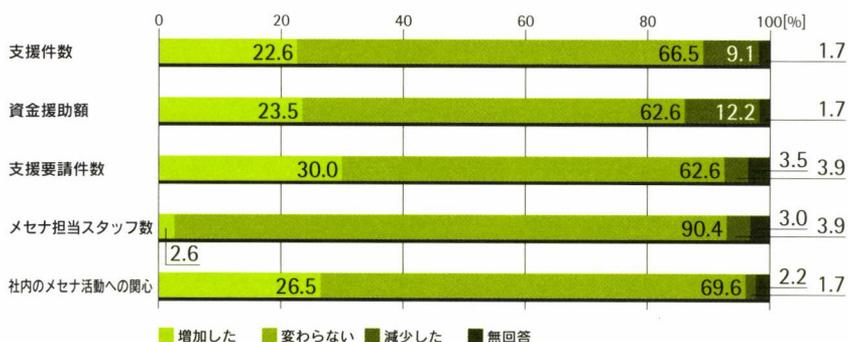
95年度と96年度のメセナ活動の比較

前年のメセナ活動との比較——支援件数の増加は22.6%

- 「支援件数」「資金援助額」「支援要請件数」「メセナ担当スタッフ数」「社内のメセナ活動への関心」の5項目中「増加した」「減少した」について、95年度の活動と96年度の活動を比較したのが下図であるが、「支援件数」が増加した企業は前回調査の20.1%から22.6%と2.5%増加している。
- 「メセナ担当スタッフ数」に関しては「増加した」より「減少した」ほうが多い。

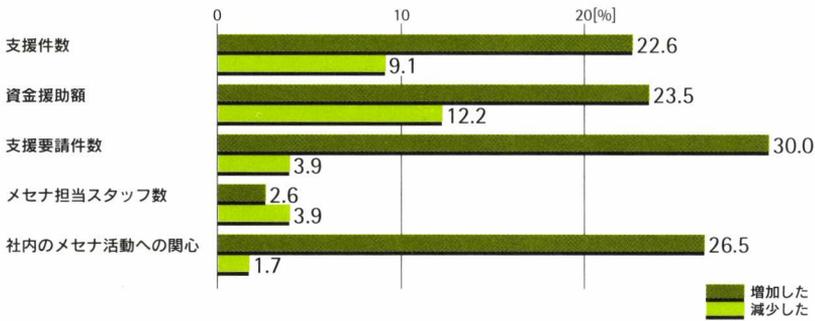
[昨年のメセナ活動との比較]

N=230



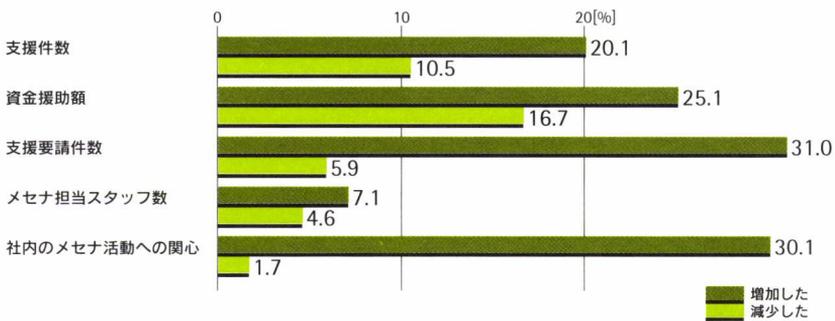
[97年版調査(96年の活動)]

N=230



[96年版調査(95年の活動)]

N=239

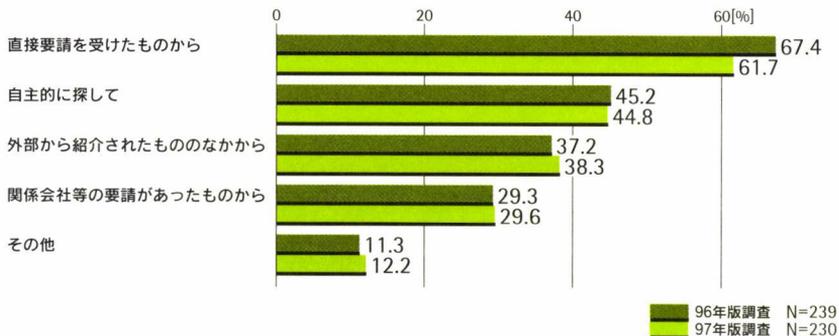


メセナ活動の進め方

[1] 支援先を選ぶ方法——「自主的に探して」が44.8%

■ 支援先を選ぶ方法としては前回の調査結果と比較すると、「直接要請を受けたものから」が67.4%から61.7%に減少し、「自主的に探して」が45.2%から44.8%に微減、「外部から紹介されたものなかから」が37.2%から38.3%に微増という結果である。

[支援先を選ぶ方法] MA



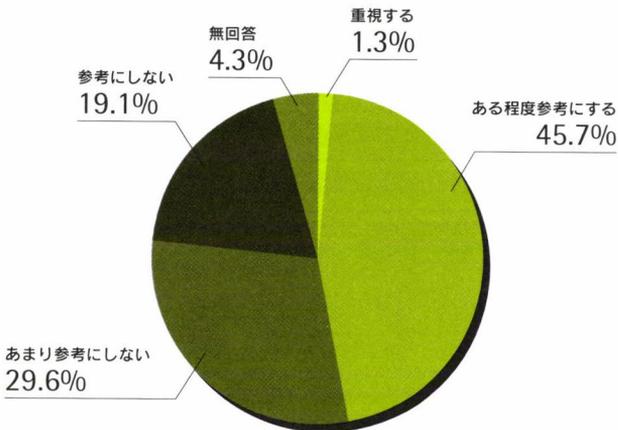
[2] 受賞歴を参考にするか

— 受賞歴を「参考にする」「参考にしない」はほぼ均衡

■ 支援先の選択基準として、支援の対象となる個人および団体の顕彰・コンクール事業の受賞歴を参考にするかについての質問では、「重視する」「ある程度参考にする」と回答した企業は合計すると108社47.0%であり、半数近くが参考にしている。

[受賞歴の参考]

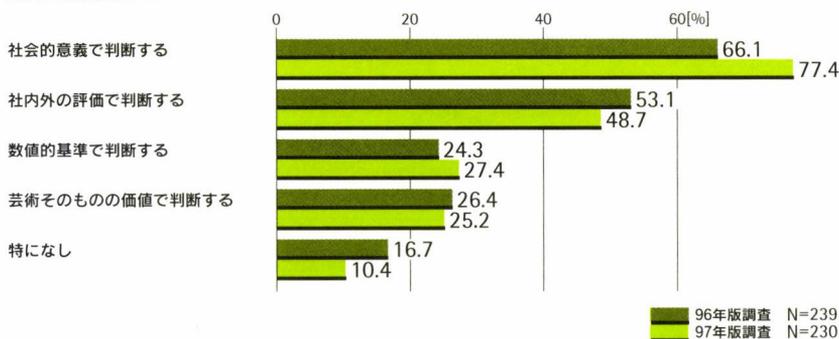
N=230



[3] 結果を評価する基準——「社会的意義で判断する」企業が増加

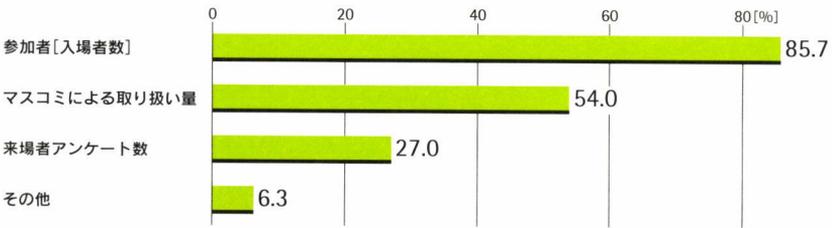
- メセナ活動の結果の評価基準としては、「社会的意義で判断する」が178社77.4%であり、前回調査の66.1%から大きく伸びた。
- 「社内外の評価で判断する」という評価基準は、53.1%から今回では112社48.7%と減少している。
- 評価基準のない企業24社の「今後評価基準をつくる意向」は6社25.0%であった。

【結果の評価基準】 MA



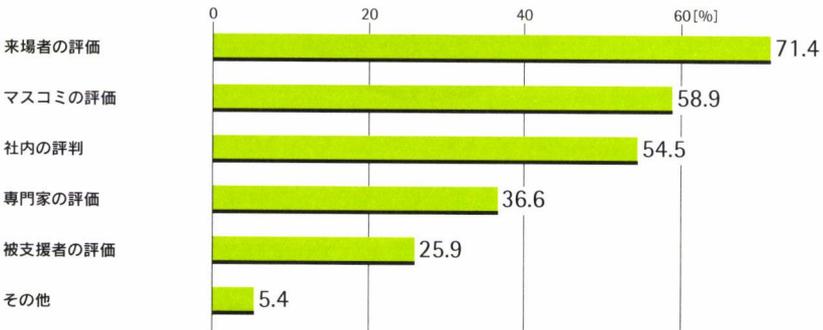
〔判断する数値的基準〕 MA

N=63



〔判断する社内外の基準〕 MA

N=112



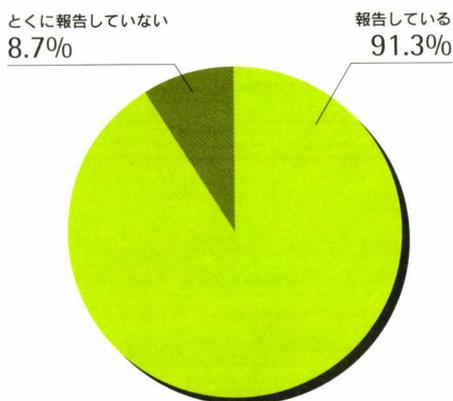
[4]社内への活動結果報告——9割以上が報告している

■ 今回の調査結果では、メセナ実施企業230社中210社91.3%が報告しており、前回の結果（86.2%）を上回り、今回初めて「報告をする」率が9割を超えた。

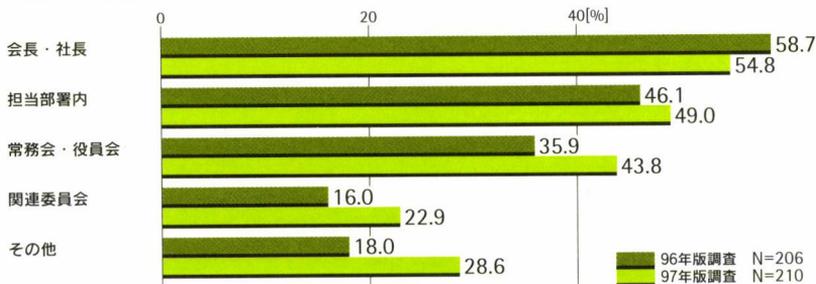
■ 具体的に誰に報告しているかについては、「会長・社長」は115社54.8%で前回調査の58.7%から減少し、関連組織（担当部署内、常務会・役員会、関連委員会）への報告は増加している。

[社内への活動結果報告]

N=230



[活動結果の報告先] MA

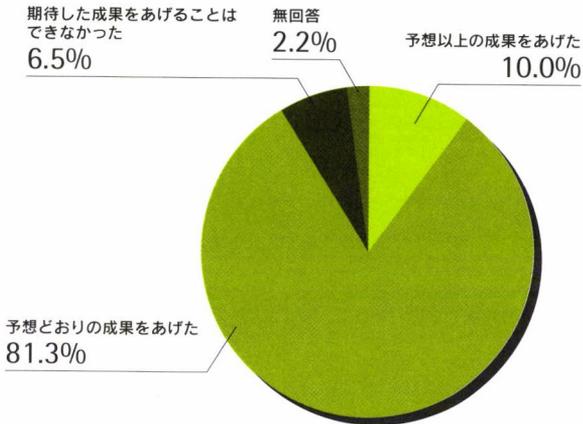


[5] 96年度のメセナ活動の自己評価—— 9割以上が満足のいく自己評価

■ 自社の96年度のメセナ活動の自己評価では、「予想以上の成果をあげた」23社10.0%、「予想どおりの成果をあげた」187社81.3%の回答があり、9割以上の企業が満足のいく自己評価をしている。

[メセナ活動の自己評価]

N=230



メセナ活動のPR

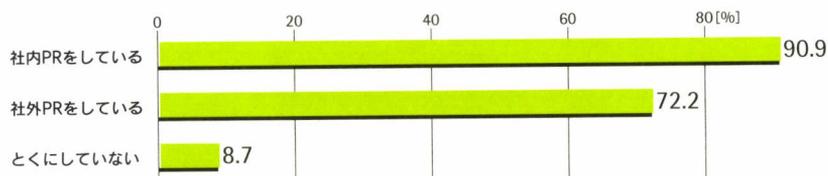
メセナ活動のPR

——メセナPRに「イントラネット」「インターネット」を活用

- 「社内PRをしている」企業は209社90.9%である。
- 社内PRでは時代性を反映して「イントラネット」が33社15.8%で活用されており、同様に社外PRにおいても「インターネット」が56社33.7%で活用されている。

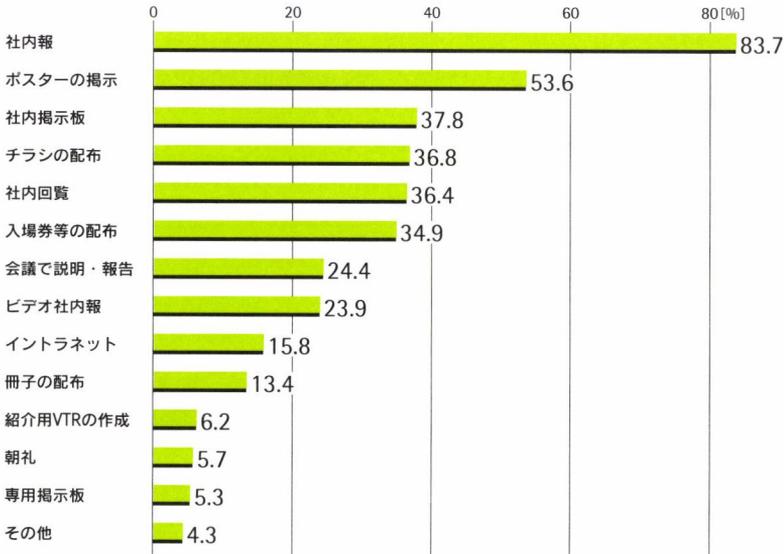
[メセナ活動のPR] MA

N=230



[現在実施している社内PR方法] MA

N=209



[現在実施している社外PR方法] MA

N=166



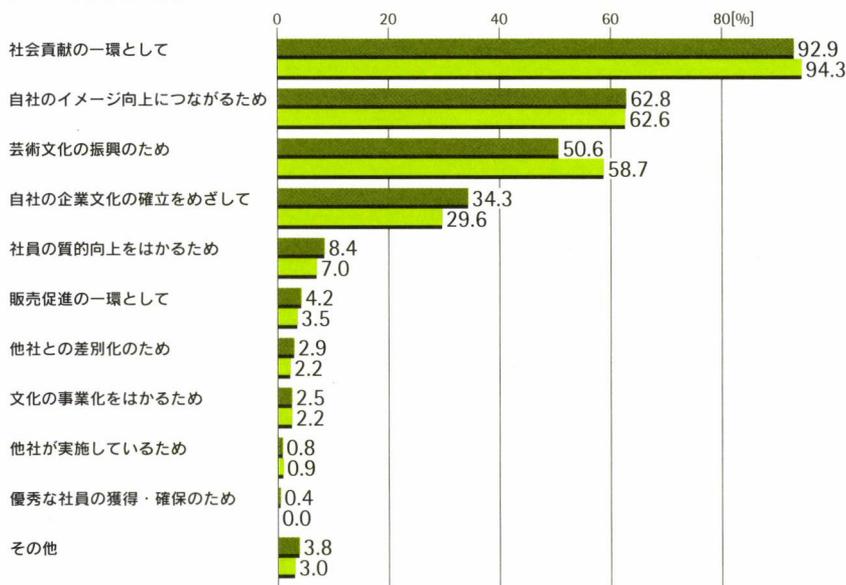
メセナ活動を行う理由

メセナ活動を行う理由——「社会貢献の一環として」が約95%

■ 前回の調査においては「社会貢献活動の一環として」が92.9%であったが、今回の調査においては217社94.3%が回答している。

■ 「芸術文化の振興のため」が前回の50.6%から58.7%に増加している。

[メセナ活動を行う理由] MA



■ 96年版調査 N=239
■ 97年版調査 N=230

メセナ活動の支障となる事柄

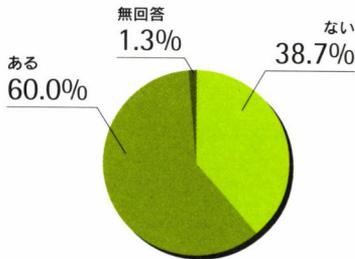
メセナ活動の支障となる事柄の有無

——「メセナ活動の支障事項がない」企業が増加

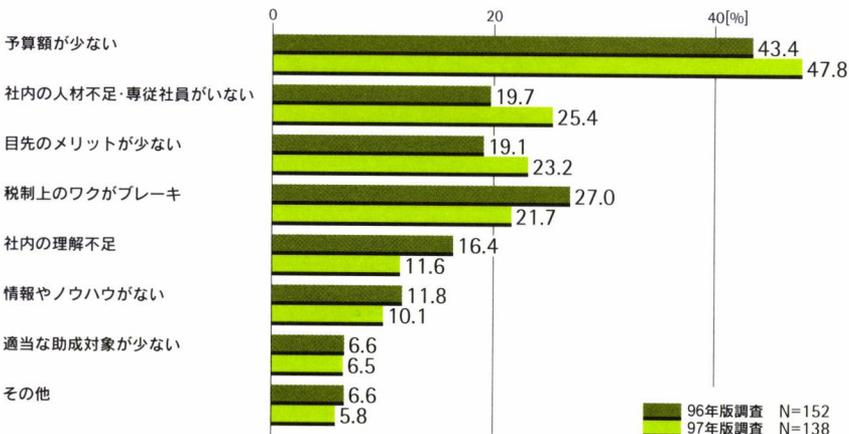
- メセナ活動の支障があるかについては、「ない」と回答した企業は前回調査の33.9%から38.7%と増加した。
- 支障のある企業の具体的な内容で最も多いのは「予算額が少ない」66社47.8%で、この数字は前回調査の43.4%から増加している。
- 前回調査では27.0%で2番目の支障であった「税制上のワクがブレーキ」は、今回の調査では21.7%と4番目の項目となっている。

[メセナ活動の支障の有無]

N=230



[メセナ活動の支障となる事柄の内容] MA



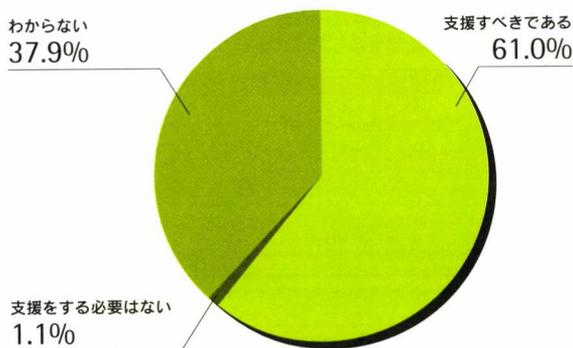
企業とメセナについての考え

企業とメセナについての考え——「支援をする必要はない」は1社のみ

■1996年度にはメセナ活動を行わなかった企業95社のメセナに対する考えとしては、「企業は芸術振興のために支援をする必要はない」という企業は1社1.1%のみであるが、「わからない」という層が前回調査の26.9%から37.9%と増加している。

[企業のメセナ活動の必要性]

N=95



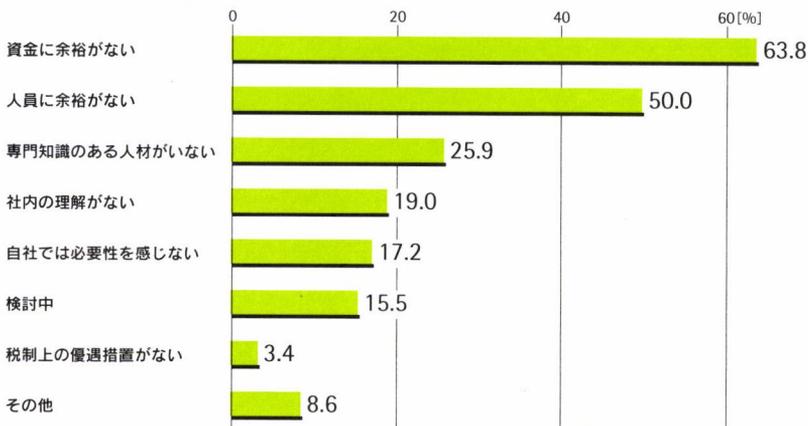
活動をしない理由**メセナ活動をしない理由****——必要は感じているもののカネ・ヒトが依然ネック**

■メセナを実施していない企業95社のうち、「企業は芸術文化振興のために支援すべきである」と考える企業58社のメセナを行わない理由としては「資金に余裕がない」が37社63.8%で最も多い。

■「人員に余裕がない」29社50.0%、「専門知識のある人材がない」15社25.9%とスタッフの問題も大きい。

[メセナ活動をしない理由] MA

N=58



第

2

章

企業別メセナ活動

企業別メセナ活動一覧

基本方針と活動内容

58

-回答をいただいた企業のうち、活動実績およびメセナ活動基本方針を記述している企業を五十音順（頭文字が同音の場合はアルファベット・カタカナ・ひらがな・漢字の順）に掲載。
-従業員数は96年、資本金、売上高、経常利益の項は、基本的には96年のものであるが、決算期月の相違により、企業によっては95年のものもある。
-資本金の**1**は1億円未満、**2**は1～10億円未満、**3**は10～100億円未満、**4**は100～500億円未満、**5**は500～1000億円未満、**6**は1000億円以上を示す。
売上高の**1**は100億円未満、**2**は100～500億円未満、**3**は500～1000億円未満、**4**は1000～5000億円未満、**5**は5000億～1兆円未満、**6**は1～5兆円未満、**7**は5兆円以上を示す。
経常利益の**1**は1億円未満、**2**は1～10億円未満、**3**は10～50億円未満、**4**は50～100億円未満、**5**は100～500億円未満、**6**は500～1000億円未満、**7**は1000億円以上、**8**は経常赤字を示す。
-売上高について、輸送、倉庫、放送、電力・ガス、興業、サービス会社は営業収入、銀行は経常収益、信販・証券会社は営業収益、生保・損保会社は正味保険料で回答をいただいた。
-※はメセナ活動担当部署名・スタッフ数・設置年および財団名、予算決はメセナ予算が決まっていることを示している。
-芸術分野のうち、略して表記したものは下記のとおりである。
舞踊・バレエ⇒舞踊
グラフィックデザイン⇒グデ
服飾デザイン⇒服デ
民俗芸能・郷土文化⇒民文
文化遺跡・歴史的建造物⇒文歴
現代建築⇒現建
博物館⇒博物
文化振興機関への出捐、寄付⇒出捐
その他⇒他

●.....支援内容の数字はつぎのことを示している。

音楽の場合	美術の場合	演劇の場合
1 演奏会活動	1 展覧会活動	1 公演活動
2 音楽施設の建設・運営	2 作品購入	2 劇場の建設・運営
3 音楽家・音楽団体の日常活動	3 作品貸与	3 劇団の運営、演劇人の日常活動
4 育英・奨学	4 美術館、ギャラリーの建設・運営	4 育英・奨学
5 顕彰	5 美術家・美術団体の日常活動	5 顕彰
6 その他	6 育英・奨学	6 その他
	7 顕彰	
	8 その他	

●.....ジャンルの数字はつぎのことを示している。

音楽の場合	美術の場合	演劇の場合
1 クラシック音楽	1 絵画	1 歌舞伎・文楽
2 現代音楽	2 版画	2 能・狂言
3 オペラ	3 彫刻	3 演劇・パフォーマンス
4 ポピュラー	4 写真	4 ミュージカル
5 邦楽・民謡	5 インスタレーション	5 人形劇・パントマイム
6 童謡	6 その他	6 その他
7 その他		

●.....支援形態の数字はつぎのことを示している。

- 1 寄付金・協賛金の提供
- 2 自社（主催）の事業としての出費
- 3 人的面での支援
- 4 物的面での支援
- 5 場所面での支援
- 6 その他の形態の支援

●.....支援目的の数字はつぎのことを示している。

- | | | |
|-----------|-----------|--------|
| 1 若手芸術家支援 | 6 チャリティ目的 | 11 その他 |
| 2 既成芸術家支援 | 7 現代芸術の振興 | |
| 3 アマチュア支援 | 8 伝統芸能の保存 | |
| 4 青少年育成 | 9 地域文化の振興 | |
| 5 鑑賞者の啓発 | 10 国際交流 | |

アサヒビール株式会社

食品

資本金6 売上高5 経常利益5 設立1949年 従業員4274人 ※企業文化部(17人・1990年設置)/財アサヒビール芸術文化財団 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 お客様への感謝の気持ちを表現する社会貢献活動の一つとして実施。
- 2 評価の定まっていないもので、将来性に富むと考えられるものに重点。
- 3 独創性重視、参加型、継続性に配慮。
- 4 社員の見ている前で活動。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
アサヒビールロビーコンサート(年間10回)	音楽	1	1・2					2・3・4・5	1・5・7・9・10
アサヒビール文化講座(年間8回)	他							2・3・4・5	5・9・11
アサヒビール芸術文化財団への寄付	出捐							1・3	11
アサヒビール大山崎山荘美術館の開館・運営	美術・文歴・現建			4	1・6			2	5・8・9
日経オルセー美術館	美術		1	1・2・3			1		5・10
東武美術館展	美術		1	1			1		5・10
東京国際映画祭	映像						1		1・3・7・10
キーロフオペラ	音楽	1	3				1		5・10
岩城宏之コンサート	音楽	1	1				1		2
日本フィルスプリングコンサート	音楽	1	1				1		1・2
ふるさときゃらばん	演劇						1	3	1
伊藤 キム+輝く 未来「BODY MARKET」	舞踊								1
外国人作曲家による現代尺八音楽	音楽	1	2				1		1・7
牧水記念館コンサート	音楽	1	1・2					1・4	1
曾根裕「SCOOP展」	美術		1	1・3・4・5			1		1
アリスフェスティバル	演劇						1	3	1
光の記憶展'96	美術		1	5			1		1
IZUMIWAKUプロジェクト	音楽・美術・映像・グテ	1	2	1	1・3・4・5			1・4	1・7・9
秋吉台国際音楽セミナー	音楽	1・2	2					1・4	1・4・7・9・10
中山ダイスケ展「Delicate」	美術		1	1・5			1		1
フェスティバル「リヒトウング」	音楽・映像						1		1・7・10
アートを学ぶ「音楽講座」	音楽	6	7					1・4	5
藍染布展「パーカッションデュオコンサート」	音楽・工芸	1	2					1・4	1・2

月と遊園地	音楽・ 舞踊	1	2				1	1
トボスの復権展2	美術・ 現建			1	1・3・4・ 5		1・4	1・2
時々自動「飛行機でゆくから」	音楽・ 美術・ 演劇・ 舞踊	1	2	1	4	1	3	1
モルフェ'96	美術・ 映像			1	1・2・3・ 4・5		1・4	1・7・9
アーカス構想	音楽・ 美術・ 舞踊	1・3・4	2	1・5	1・2・3・ 4・5		1・4	1・7・9・ 10
パークタワーネクストダンスフェスティバル	舞踊						1	1
木佐貫邦子ダンス公演	舞踊						1・4	1
八谷和彦「anonymous figures」	美術			1	6		1	1
第九フロイテ IN西条	音楽	1	1				1	2・3
北海道演劇財団	出捐						1	9
ドキュメント2000	他						1・3・4	7・11
ク・ノウカ「道成寺」	演劇					1	3	1・5
メカス日本日記の会	文学						1・4・5	2
興望館ジャズコンサート	音楽	1	4				1・4・5	6
台湾伝統人形劇	演劇・ 民文					1	5	1・5
音楽三昧コンサート「魔術師ラヴェル」	音楽	1	1				1・4・5	1
優しさが手をとりあって	舞踊						1	6・11
アダムベンジャミン・ダンスワークショップ	舞踊						1	11

アメリカン・エクスプレス・インターナショナル, Inc.

サービス

資本金6 売上高6 経常利益7 設立1850年 従業員850人 予算決

メセナ活動基本方針

アメリカン・エクスプレスの企業理念の一つに「社会に貢献する良き市民」という一文がある。会社および社員がビジネス活動を行う地域に利益を還元するとともに、社員を積極的にボランティア、募金活動に参加させる。

社員のボランティア活動に対しては、会社には同額を合わせる「マッチング・ファンド」、そして、個々の活動を支援するための「マッチング・ギフト」制度がある。

フィランソロピー活動基本方針(メセナ)

- 1 社会貢献活動の一環。
- 2 企業文化の確立。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的	
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容			
文楽協会義太夫ハワイ公演支援	演劇					1	1	1	8
糸あやつり人形「結城座」公演支援	演劇					1	5	1	8
JVC「メサイヤ」支援	音楽	6	1					1	10
クリスマス・チャリティコンサート「ギターとマリンバの夕べ」開催	音楽	1	1					2・3・5	1・9

株式会社青森銀行

銀行

資本金4 売上高3 経常利益4 設立1943年 従業員1901人 予算決

メセナ活動基本方針

当行は地域に根ざしたリージョナルバンクとして地域の皆様に信頼される銀行をめざしています。その表れとして、「地域のために、お客様とともに、人を大切に」という企業理念を掲げており、メセナ活動の基本方針は、「地域への還元」である、と考えています。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
おおさん講演会の開催	他						2	9
青森交響楽団への寄付	音楽	4	1				1	9
おおさん賞の授与	他						2	9

旭硝子株式会社

ガラス窯業

資本金5 売上高5 経常利益5 設立1950年 従業員8838人 予算決

メセナ活動基本方針

当社はメセナを社会貢献活動の一環として位置づけている。
 (企業方針)——社会貢献に努め、世界の人人々に信頼される企業市民をめざします。
 (新AGCビジョン21——2000年までの企業活動のあり方と目標)——経団連1%クラブのメンバーとして、国内外にわたる社会貢献活動を積極的に推進し、社会と調和し共生する「良き企業市民」となることをめざします。
 (具体的な項目の一つとして「芸術・文化・スポーツの振興」を掲げている。)

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
ガラスアート展	美術		1	6			2・3・5	7・9
ガラス芸術に対する協力	美術		1・8	6			1・4	11
財静嘉堂協会に対する寄付	美術		4	6			1	11
財日本交響楽振興財団への寄付	音楽	2	1				1	11
サン・ヴィゴール・ド・ミュール礼拝堂プロジェクトへの支援	美術		4	6			4	8・10・11
フランス国立ギメ美術館「日本ギャラリー」増設に対する協力	美術		4	6			1	8・10・11

株式会社朝日広告社

広告

資本金2 売上高3 経常利益2 設立1924年 従業員736人

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
カザルスホール倶楽部	音楽	1	1				1	1

株式会社朝日新聞社

新聞

売上高4 経常利益5 設立1879年 従業員7600人 ※文化企画局文化メセナ部(12人・1997年設置)/財朝日新聞文化財団、財朝日新聞厚生文化事業団

メセナ活動基本方針

- 内外社会の相互理解、文化交流と社会・文化の向上・発展に寄与する。
- 優れた業績を表彰する。
 - 世界や日本の美術・文化遺産の展覧会、音楽会、公開のシンポジウム、合唱や吹奏楽の全国コンクール、全国高等学校野球選手権大会、東京国際女子マラソン、福岡国際マラソン、「平成の遣唐使」など数多くの文化・スポーツ催事を主催する。
 - 内外の恵まれない人々を支援する。

栃木県立美術館への協賛	美術	1	1	1	9
宇都宮市立美術館への寄付	美術	2	1	1	9

味の素株式会社

食品

資本金⁵ 売上高⁵ 経常利益⁵ 設立1925年 従業員5319人 ※味の素の文化センター

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
世界蘭展	造園							1	7
Music Meets Art 18th	音楽	1	2					1	7
ジョージ・シアリング・クインテット	音楽	1	4					1	7
ミルバ・ドラマティックリサイタル96	音楽	1	4					1	7
マルク・シャガール展	美術			1	1			1	7
ミュージカル中尾ミエ	演劇					1	4	1	7
中山エミチャリティコンサート	音楽	1	4					1	7

イズミヤ株式会社

スーパー

資本金⁴ 売上高⁴ 経常利益⁵ 設立1952年 従業員4092人 ※総務部社会貢献担当(3人・1996年設置) 予算決

メセナ活動基本方針

企業が市民社会のなかで与える影響が増大した現在、本来の責任である「経済的責任」(利益追求)、「受託者責任」(利害関係者への配慮)に加えて、第3段階として「社会貢献活動」に取り組み、企業市民として応分の貢献を果たすことが使命だと考える。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
「みんなの美術館」(絵画コンクール)主催	美術			1・5	1			2	3・9
母の日絵画展	美術			1	1			2	3・9
父の日絵画展	美術			1	1			2	3・9
明石原人祭り	美術・ 民文			1	1			1・5	9

株式会社イトーヨーカ堂

量販店

資本金⁴ 売上高⁶ 経常利益⁶ 設立1958年 従業員3万8149人 ※社会・文化開発室(3人・1992年設置) 予算決

メセナ活動基本方針

イトーヨーカ堂グループでは、企業の社会的な責任は毎日の仕事に誠実に取り組んで「基本責任」を果たすことを中心に、ビジネスを通じて雇用機会の創造や納税などの「義務責任」を果たし、また、企業も社会の一員(企業市民)であるという視点から、ビジネスで得た成果を広く社会のために役立てることで「支援責任」を果たす。この三つの責任についてバランスのとれた活動を進めていくことが経営の重要なテーマの一つであると考えています。

そして、企業市民としての活動をより充実させようと考え、1992年に社会・文化開発室を設立しました。これにより、いままでグループ各社や各店舗が個々に取り組んできた社会・文化活動に関する情報を共有化し、さらに社会の要請にスピーディに対応できるよう努めています。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
高校生懸賞作文	他							2	4
小さな童話大賞	文学							1・5	3
子ども図書館	他							2・4・5	4・9

株式会社伊勢丹

百貨店

資本金4 売上高4 経常利益5 設立1930年 従業員5501人 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 百貨店の果たす社会的役割のなかでも最も重要なコーポレート・コミュニケーションの一つ。
- 2 商品にかぎらず、つねに新しい価値観や明日の生活を提案し、お客様の暮らしをより高め、豊かにすることこそ、百貨店の使命。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
伊勢丹美術館の運営、企画	美術		1	1	2	6		2	11

伊藤忠商事株式会社

商業

資本金6 売上高7 経常利益5 設立1949年 従業員7345人 ※社会関連管理部社会貢献チーム(3人・1992年設置)/財伊藤忠記念財団 予算決

メセナ活動基本方針

伊藤忠商事は国際的視野に立って、良き企業市民として果たすべき役割を自覚し、国内のみならず国際的にも社会貢献活動を行い、豊かでゆとりのある社会の実現をめざす。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
ロビーコンサート	音楽	1	1					1・2・3・4・5・9・10	2・4・5
日本音楽文化交流協会	音楽	1	1					1	2・10
大阪フィルハーモニー協会	音楽	1	1					1	2・9
環境フォトコンテスト	美術			7	4			1	1・3
劇団柝の実	演劇					1	3	1	2・9・10
早稲田大学アンコールワット修復	文歴							1	10
日中国交回復25周年記念事業「大敦煌」公演	演劇					1	3	1	10
ブラジル日本移民資料館拡張	博物							1	10
中国文物展示館建設	文歴							1	9・10
青山を研究する会	他							1	9

株式会社伊予銀行

銀行

資本金4 売上高4 経常利益5 設立1941年 従業員3388人 予算決

メセナ活動基本方針

愛媛県内の営業店網(124か所)を活用し、地域に根ざした文化活動を発掘、支援することによって当行の企業理念「潤いと活力ある地域の明日を創る」を具現化していく。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
伊予銀行地域文化活動助成制度	音楽・演劇・工芸・民文	1・3	1・3・5・6			1	3	1	3・4・5・8・9・10
いよぎんギャラリー・どんどびの運営	美術			4		1	2・3・4・5	5	3・5・9

AIU保険会社

損保

資本金³ 売上高⁴ 設立1946年 従業員2500人 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 自分たちで考え、自分たちで企画し、自分たちで実施する。
- 2 実施するほうも参加するほうも協力して実施する。
- 3 継続して行う。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
AIG Concert	音楽	1	1					2・3・4・5	1・2・3・4・5

エッソ石油株式会社

石油

資本金⁴ 売上高⁵ 経常利益⁴ 設立1961年 ※広報部(1人・1964年設置) 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 企業も社会の一員であり、社会がよりよくなっていけば、企業も栄えるという考えにもとづいて行う。
- 2 広告宣伝活動とは明確に一線を画すべきである。
- 3 既存の団体に援助を行うのとは別に、現状で必要とされている当社独自のプログラムを開発。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
全日本ピアノ指導者協会ヤングピアニストコンペティション	音楽	4・5	1					1	1
「虎」の本制作	文学							1	11
「日本人のこころ」を考える会	他							1	9・10

オムロン株式会社

他電機(制御機器)

資本金⁵ 売上高⁴ 経常利益⁵ 設立1933年 従業員7299人 ※コーポレートコミュニケーションセンター-企業市民グループ(4人・1991年設置) 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 社会貢献活動の理念的ベース：社憲(1959年制定)。
 - 2 社会貢献活動の指針：企業市民憲章(1991年制定)。
- メセナ活動も社会貢献活動の一環として上記にもとづいて実施している。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
オムロン京都文化フォーラム、オムロンけいはんな文化フォーラムへの協賛	他							1	5・11
京都コンサートホールバイブオルガンコンサートへの協賛	音楽	1	1					1	1・2・5・9
山下和仁と21世紀のアジアの作曲家たち	音楽	1	2					1	1・7
「ワタリウム」美術館への協賛	美術			1	1・5			1	1・2・7
グリーン・コンサーツへの協賛	音楽	1	2					1	1・7
京都市交響楽団への支援	音楽	1	1					1	2・9
メセナの神髄コンサートへの協賛	音楽	1	1					1	1・2
日露交歓コンサートへの協賛	音楽	1	1					1	1・2

株式会社大分銀行

銀行

資本金⁴ 売上高³ 経常利益⁴ 設立1892年 従業員2121人

メセナ活動基本方針

当行の経営理念である「地域社会の繁栄に貢献するため銀行業務を通じ最善を尽くす」のもと、地元の文化・芸術の育成・支援を目的として行っています。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
アルゲリッチコンサート協賛	音楽	1	1				1	2・9・10
大分銀行ファミリーコンサート	音楽	1	1・2				2・3	1・2・3・5・9
大分銀行ウェンズティコンサート	音楽	1	1・2・5・7				2・3・5	1・2・3・7・9
大分銀行絵画展	美術			1	1		5	1・2・3・5・9
NHK交響楽団コンサート	音楽	1	1				2・3	4・5・9
営業店でのロビー展	美術・ 工芸・ 服テ・ 文学・ 書道			1	1・2・3・4		5	1・2・3・9

株式会社大分放送

放送

資本金² 売上高¹ 経常利益² 設立1953年 従業員178人 ※財大分放送文化振興財団 予算決

メセナ活動基本方針

当社には、放送業務に関連して行う各種事業（芸術・文化・教育）と県内の教育・文化・芸術および学術の助成にかかわるものとの二通りのメセナ活動がある。

放送に関するものは、関係団体の活動の支援・後援で、報道（放送）を通じて、発展・育成に期することが目的である。

助成にかかわるメセナ活動は、一定金額を贈りその団体あるいは個人の活動を助成するもので、財団法人大分放送文化振興財団の寄付行為となる。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的	
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容			
大分交響楽団	音楽	1	1				1	3	
大分県民演劇	演劇					1	3	1	3
県民オペラ30周年メモリアルコンサート	音楽	1	3				1	3	
国民文化祭に向けて大分マンドリン・オーケストラ	音楽	1	1・4				1	3	

株式会社大垣共立銀行

銀行

資本金⁴ 売上高⁴ 経常利益⁵ 設立1896年 従業員2951人 ※社会貢献推進委員会(13人・1996年設置)

メセナ活動基本方針

当行は、明治29年の創立以来、地域社会の一員として、地域の発展に貢献することが社会的使命であると考えてきました。

メセナ活動に関しては、これだけを個別にとらえるのではなく、広く社会貢献活動の一環としてとらえ展開しています。当行の社会貢献活動の基本的な考え方は、銀行本来の金融業務、サービスを通して行うことをベースとし、本業以外の分野においては、下記の点などに留意して進めています。

- 1 活動の地域・分野がバランスのとれたものであること。
- 2 無理なく、息長く続けられる活動であること。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
100周年記念コンサート3回	音楽・演劇	1	1・5			1	4	2	5・8・9
海外3拠点レセプション	演劇					1	3	2	5・10
100周年記念シンポジウム	服テ							2	5・9
共立総合研究所設立記念講演会	他							2	11
「めいほう高原音楽祭」に協賛	音楽	1	2					1	9
ミスターフライデー全国キャンペーンに協賛	服テ							1	9・11
「日本文化デザイン会議」に協賛	グテ							1	7・9・11
「マナブ間部展」に協賛	美術			1	1			1	5・9
大垣ポスター展	美術			1	6			1	7・9
水門川万灯流しに協賛	民文							1・3	9
和泉宗家後援会大垣友の会への協賛	演劇					3	1	1	8

大阪ガス株式会社

ガス

資本金⑥ 売上高⑤ 経常利益⑤ 設立1897年 従業員1万430人 ※財大阪ガス国際交流財団

メセナ活動基本方針

関西の地域に根ざした企業として、文化活動を支援し、地域の皆様から支持され信頼される企業グループをめざす。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
社大阪フィルハーモニー協会	音楽	1	1					1	2
みどり教育財団五嶋みどりレクチャーコンサート	音楽	1	1					1	4・6・9
大阪城平成の大修理	文歴							1	11
ウィーン音楽祭	音楽	1	1					1	5・10・11
宮廷の美術展	美術			1	1			1	5・11
いずみホール「マーラーシリーズ」	音楽	1	1					1	5・11
ジャパンヴィルトーゾシンフォニーオーケストラ大阪公演	音楽	1	1					1	2

株式会社カスミ

スーパー

資本金④ 売上高④ 経常利益③ 設立1961年 従業員1742人 ※社長室広報(5人・1990年設置) 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 マイケルグレイブス設計によるカスミつくばセンターがオープンなスペースになること。
- 2 マイケルグレイブス設計によるカスミつくばセンターが多くの人とのコミュニケーションの場となること。
- 3 地域の活性化になること。
- 4 継続して行うこと。
- 5 従業員も一緒に参加すること。

なお、当社はカスミグループとしてメセナ活動を行っている。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
「わたしの企画」応援します！(総称)	音楽・美術・演劇							1・3・4・5	3・4・5・9・10・11

	舞踊・映像・民文・他					1・3・4・5 5	3・4・5 9・10・11
わ太鼓のワークショップ	音楽	6	5			1・3・4・5 5・6	4・5・8・9 9・10・11
つくば子供フォーラム	演劇・他			6	3	1・3・4・5 5・6	4・5・11
ハンドワークの楽しさをあなたに	民文					1・3・4・5 5・6	5・8・9・11
木島知草さんのがらくた座公演	演劇			6	5	1・3・4・5 5・6	4・5・11
クリスマスデザートシアター	音楽・演劇・他	6	7	6	3	1・3・4・5 5・6	3・4・5・9 9・10・11

カテナ株式会社 **商業**

資本金**3** 売上高**3** 設立1968年 従業員1500人 予算決

メセナ活動基本方針
国際交流、国際教育交流のさまざまな活動を通し、国や文化の枠を超える「文際人」の育成に努め、同じ目的を持つ人々同士の出会いと相互研鑽・ネットワークづくりの機会提供等により、より住みやすい地球社会づくりに貢献する。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
江東区音楽家協会特別賛助会員	音楽	3	1					1	3・9

カヤバ工業株式会社 **機械部品**

資本金**4** 売上高**4** 経常利益**4** 設立1948年 従業員4300人

メセナ活動基本方針
個々の要請については、そのつど検討、対応しているが、全社的活動方針については、今後の検討課題である。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
長谷川逸子・建築計画工房株への寄付	現建							1	11

株式会社カンセイ **自動車**

資本金**3** 売上高**4** 経常利益**3** 設立1956年 従業員2877人

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
大宮市児童音楽コンクール	音楽	1	6					1	4・9

花王株式会社 **化学**

資本金**5** 売上高**5** 経常利益**6** 設立1890年 従業員7100人 ※広報センター文化活動担当(2人・1990年設置)/財花王芸術・科学財団 予算決

メセナ活動基本方針

- メセナ活動は、花王株と財花王芸術・科学財団(★)の両建てで進める。花王株の予算枠と財団の助成総額の規約もあり、オール花王として効果的に対応する。
- 花王は老若男女、生活者すべてが、お客様であり、長いご愛顧に対し芸術文化を通じて社会貢献に努める。

3 トータルな社会・文化活動を通じ、企業文化を確立し、企業イメージの向上に努める。

★いままでの花王芸術・文化財団の財団活動(音楽・美術への助成)に、さらに科学技術分野への助成・支援事業を加え、1997年4月1日花王芸術・科学財団とした。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
美術館連絡協議会	美術			1・6・8	1			1	1・2・5・7・8・9・10
国内オーケストラ支援	音楽	1	1・2					1	1・2・5・7・8
音楽公演祭協賛協力	音楽	1	1・2・3					1	1・2・5・7・8・9・10
美術展協力	美術			1	1・5			1	5・7・8・10
日タイ舞踊団	舞踊							1	2・5・10
花王芸術・科学財団	音楽・美術・舞踊・出捐	1・4	1・2・3・1		1	1・2・3・4・5		1	1・2・3・5・7・8・9・10・11

株式会社香川銀行

銀行

資本金⁴ 売上高² 経常利益⁴ 設立1943年 従業員1368人 予算決

メセナ活動基本方針

子供たちの健全な育成。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
香川オーリーブ児童合唱団	音楽	1・2	6					1・3・5	4

鹿島建設株式会社

建設

資本金⁵ 売上高⁶ 経常利益⁵ 設立1930年 従業員1万3877人 ※財鹿島美術財団、財鹿島学術振興財団

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
東急Bunkamuraオフィシャルサブライマ	音楽・美術・演劇・舞踊・映像	1・2	1・3	1・4	1・2・3・4	1・2	3	1・6	1・7・10
天王洲アートスフィア(東京オペニオンズ)運営参加	音楽・演劇	1・2	4			1・2	3・4	1・6	7
新日本フィルハーモニーX'masコンサート	音楽	1	1					1	5・7
日本フィルハーモニーニューイヤーコンサート	音楽	1	1					1	5・7
東京国際映画祭	映像							1	2・7・10
'96アーキテクチャ・オブ・ザ・イヤー展	現建							1	2・7・11
新日本フィルハーモニー交響楽団への特別支援	音楽	1	1					1	2・7

黒川紀章回顧展	現建				1	7
テムズ川の歴史美術展	美術		1	1	1	5・11
「世界の中のル・コルビジェと日本」国際シンポジウム	現建				1	5・10
財鹿島美術財団の活動	美術		5・6	1・2・3	1・3	1・2・5
フランス国立ギメ美術館「日本ギャラリー」の改修	美術・博物		4	1・6	1	5・10
吉田秀和芸術振興基金	音楽	4	1・2・3		1	1・7
メトロポリタン美術館	美術		4	5	1	5・8・10

鐘紡株式会社

繊維

資本金4 売上高4 経常利益3 設立1887年 従業員4600人

メセナ活動基本方針

既存の活動に対する単なる冠協賛型ではなく、ともに新しい文化を創造する活動の場を提供していく。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
朝日ベルサロン	他							2・3	1・2・5・7・8・10
読売ヒューマンドキュメンタリー大賞カネボウスペシャル	文学							1・3	3・5
カネボウミセス童話大賞	文学							1・3	3・5
ピアノデュオ作品による第4回国際作曲コンクール	音楽	4・5	1					1・3	1・2・5・7・10
カネボウ国際女性映画週間	映像							1・3	1・2・5・7・8・10
カネボウ・読売日曜サマーフェスティバル	音楽	1	1					1・3	2・5・8
鐘紡繊維美術館	博物							2・3・4・5	5・8・9

亀田製菓株式会社

食品

資本金3 売上高3 経常利益3 設立1957年 従業員3482人

メセナ活動基本方針

「会社まつわるすべての者の要望に応える」ことを経営理念に掲げており、事業を通して地域社会の発展を担うだけでなく、会社の事情が許す範囲でメセナ活動も行うことを基本的な考え方としている。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
新潟新能	演劇					1	2	1	8・9
日本海夕日コンサート	音楽	1	4					1	9
新潟県子ども劇場おやこ劇場	演劇					1	3	1	6・9
障害を持つ人たちの芸術展	美術			1	1・3			1	7・9

関西電力株式会社

電力

資本金6 売上高6 経常利益7 設立1951年 従業員2万6265人 予算決

メセナ活動基本方針

1 電気事業を営む当社は、電力の安定供給という社会的使命を果たすとともに、地域密着の事業であることから、地域のニーズに沿った活動を行っていくことが大切と考えている。

2 このため芸術文化支援活動についても、一点豪華ではなく、地域における音楽、美術、演劇分野での継続的な活動を進めていきたいと考えている。

活動名	分野が音楽			分野が美術		分野が演劇			
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援形態	支援目的
かんでんクラシックスペシャル(大阪)	音楽	1	1・3					2	2・5・6・9
かがやきフェスティバルIN南港	音楽・演劇	1	4・5		1	3・5	2		2・5・11
かんでん子供ミュージカル(和歌山)	演劇				1	4	2		2・4
かんでんクラシックコンサート(全国4か所)	音楽	1	1					2	1・2・3・5・9
美浜美術展	美術		1・2・7	1				2	1・3・5・9
中之島素人寄席	演劇				1	6		1・3・4・5	3・6・8
知的障害者美術展(滋賀)	美術		1	1・2・3				1	3・5

キッコーマン株式会社

食品

資本金4 売上高4 経常利益3 設立1917年 従業員2914人 予算決

活動名	分野が音楽			分野が美術		分野が演劇			
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援形態	支援目的
映画制作「日本の食文化」	映像							2	7・8

キャノン販売株式会社

商業

資本金5 売上高5 経常利益5 設立1968年 従業員8179人 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 「映像と情報のシステムインテグレーター」を標榜するキャノン販売の方向性に沿った活動であること。
- 2 写真文化の振興・発展に寄与すること。
- 3 デジタル映像文化の振興・発展に寄与すること。

活動名	分野が音楽			分野が美術		分野が演劇			
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援形態	支援目的
日本文化デザイン会議'96	出捐							1	11
キャノンフォトハウス	美術			1・4	4			2・3・4・5	1・2・3・5
キャノンワンダーミュージアム	美術			1・4	4			2・3・4・5	1・5・7

麒麟ビール株式会社

食品

資本金6 売上高6 経常利益6 設立1907年 従業員9026人 ※広報部社会貢献室(8人・1987年設置)/財麒麟福祉財団 予算決

メセナ活動基本方針

経営理念——私たちは世界の人々の健康、楽しさ、快適さに貢献します。

- 1 若手芸術家の発掘、育成のための支援活動。
 - ・麒麟コンテンポラリーアワード(一般公募コンクール、作品展)。
 - ・麒麟プラザ大阪の企画運営。
 - ・麒麟アートスペース原宿の企画運営。
 - ・横浜ピアビレッジにおける彫刻展。
- 2 人々への優れた芸術作品の提供。

- ・キリニューイヤーコンサート。
- ・現代舞踊シリーズへの協賛。

3 全国の事業所で地域に密着したメセナ活動を実施する。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的	
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容			ジャンル
キリンプラザ大阪各種企画	美術・ 映像・ 他		1・4	1・2・3・ 4・5・6			2	1・2・5・ 7	
キリンアートスペース各種企画	美術・ 映像・ 他		1・4	1・2・3・ 4・5・6			2	1・2・5・ 7	
キリンコンテンポラリーアワード'96	音楽・ 美術・ 演劇・ 舞踊・ 映像・ 工芸・ グテ・ 服テ・ 民文・ 文学・ 書道・ 文歴・ 現建・ 造園・ 他		1・2・7	1・2・3・ 4・5・6			2	1・2・5・ 7	
アートタンクシリーズ	美術		1	1・2・3・ 4・5・6			2	1・5・7	
キリニューイヤーコンサート	音楽	1	1				1	2・5・6	
H・アール・カオス公演協賛	舞踊						1	2・5・7	
オーケストラアンサンブル金沢公演協賛	音楽	1	1				1	2・5・6・ 7・9・10	
サイトウキネンオーケストラ公演協賛	音楽	1	1・2				1	2・5・7・ 9・10	
ケイト・グリーンウェイの世界展協賛	美術		1	2			1	2・5・10	
城下るり子アート活動支援	美術		1	6			1	2・5・7	
中岡慎太郎写真集協賛	美術		8	3			1	2・5・7	
東京芸術大学オペラ公演協賛	音楽	1	3				1	1・3・5	
世界蘭展	他						1	10	
アジア太平洋ゴ・コンgres協賛	他						1	10・11	
東京交響楽団創立50周年公演協賛	音楽	1	1・2・3				1	2・5・10	
東京交響楽団賛助会	音楽	6	1・2・3				1	2	
国際音楽祭ヤングブラ八協賛	音楽	1・5	1・2				1	1・3・10	
ピアパーク北陸庭園彫刻コンクール	美術		1・2・7	3			2	1・3・5・ 7・9	
第9回国際親善交流特別演奏会	音楽	1	1				1	1・2・5・ 6・10	
デフバベツシアターひとみ公演	演劇					1	5	1	2・5・6

北九州コカ・コーラボトリング株式会社

食品

資本金③ 売上高③ 経常利益③ 設立1960年 従業員1721人 ※広報室(2人) 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 企業市民として社会的責任が重要視されるなか、当社は地域企業としての役割を認識し、その責任を果たしていかなければならないと考えている。
- 2 コカ・コーラビジネスはテリトリー制であり、地域社会に愛されてこそ成り立つ。地域の健全な繁栄なくして当社の繁栄はありえない。
- 3 当社の地域社会貢献活動は、「社会福祉支援」「スポーツ活動支援」「環境問題への対応」「文化活動支援」の四つを柱に活動している。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
さわやかクラシックコンサート	音楽	1	1				2		9
高松宮杯英弁大会	他						2		4
さわやかサマーキャンプ	他						2		4
ファミリーミュージカル	演劇					1	4	2	9
育英会	他						2		4
九州国際博物館への寄付	博物						1		11

北野建設株式会社

建設

資本金③ 売上高③ 経常利益③ 設立1946年 従業員723人 ※関連事業本部(6人・1987年設置)/財北野美術館 予算決

メセナ活動基本方針

当社のメセナ活動に関する考え方は「企業文化を創造する」というキャッチフレーズにも表れているように、地元企業として地域へ芸術・文化を通して貢献することを重要な使命の一つとしていることである。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
第2回落語名人会米朝・枝雀上方落語の会	演劇					1	6	2	8
渡辺美佐子「酔ざめお園」	演劇					1	1	2	11
花形女流舞踊会	舞踊							2	8
善光寺歌舞伎'96	演劇					1	1	2	8
山川静夫、三遊亭圓歌「芸、話、人、コレクショ ン」	演劇					1	6	2	11
能・狂言	演劇					1	2	2	8
文楽特別公演	演劇					1	1	2	8
雪路の雪月花	演劇					1	3	2	11
花街名妓舞踊会	舞踊							2	8
文枝・三枝二人会	演劇					1	6	2	8
六輔その世界「粋な芸・粋な人」	他							2	11

株式会社紀伊國屋書店

商業

資本金① 売上高④ 経常利益③ 設立1946年 従業員2500人

メセナ活動基本方針

1 長い展望に立った支援活動を行う。

2 紀伊國屋ホール、紀伊國屋サザンシアター、紀伊國屋演劇賞の運営を通じてつねに良質な演劇を提供し、また若手劇団を登用して世に送り出すなど演劇文化の向上に貢献する。

3 1993年「演劇振興基金」を設置し、半年ごとの決算時に1000万円ずつ積み立て紀伊國屋演劇賞が永く継続でき

るよう、また現代演劇発展の一助となるよう、演劇芸術の振興に力をそそぐ。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
紀伊國屋ホール運営	演劇					2	3・4・5・6	1・2・5・7・8・11
紀伊國屋サザンシアター運営	演劇					2	3・4・5・6	1・2・5・7・8・11
紀伊國屋画廊運営	美術		4	1・2・3			2	1・2・5・7・11
第31回紀伊國屋演劇賞運営	演劇					5	3・4・5	1・2・5・7・11
日本舞台テレビ美術家協会主催第23回「伊藤 藤薫明賞」協賛	演劇					5	3・4・5	1・2・5・7・8・11

九州電力株式会社 **電力**

資本金6 売上高6 経常利益6 設立1951年 従業員1万4473人 予算決

メセナ活動基本方針

当社は企業の社会的責任はもとより、地域の発展なくしては当社の発展はないとの認識のもとに、文化の高いヒューマンな九州づくりに貢献していくため、下記を3本の柱として、地域・文化活動を展開することとしています。

- 1 地域文化への支援。
- 2 地域スポーツ活動の支援。
- 3 ボランティア活動の充実。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的	
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容			
ふれあいコンサート	音楽	1	1				2	2・5・6・9	
文化の森コンサート	音楽	1	1				2	2・5・9	
ふれあい劇場	演劇					1	5	2	3・5・6・9
文化の森シアター	演劇					1	3	2	3・5・6・9
お茶の間論文募集	文学							2	9
まつり参加、イベント支援	美術・博物館・他		1	1・2				1	5・9
九州電力若手工芸家国内外派遣制度	工芸								2・5・6 9
「民俗芸能ビデオライブラリー」作成	民文								2・6 5・8
文化講演会	他							2	5
論文募集	文学							2	9
作文募集	文学							2	9

株式会社紀陽銀行 **銀行**

資本金4 売上高4 経常利益3 設立1895年 従業員2550人 ※財紀陽文化財団 予算決

メセナ活動基本方針

音楽・美術等、芸術を通して文化の向上をはかり、心豊かな地域づくりに寄与することを目的とする。この目的を達成するために、

- 1 芸術文化に関する事業の実施。
- 2 芸術文化活動に対する支援。
- 3 芸術文化の鑑賞機会の提供。
- 4 その他、上記の目的を達成するために必要な事業。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
紀陽文化財団の運営	出捐							1	9
大阪センチュリー交響楽団演奏会	音楽	1	1					3	5・9
ゲヴァントハウス弦楽四重奏団	音楽	1	1					3	5・9
熊野古道を翔く	文歴							1・2	9・11

京セラ株式会社

他電機

資本金⑥ 売上高⑥ 経常利益⑥ 設立1959年 従業員1万3286人

メセナ活動基本方針

当社は会社経営の基本的理念として「全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、人類、社会の進歩発展に貢献すること」を定めており、メセナ活動もこの「人類、社会の進歩発展に貢献する活動」として創業以来各方面で行ってきた。

具体的基準としては、

- ・後世に残る価値ある文化・芸術への支援。
- ・大勢の人々に感動等を与えた創作活動への支援・顕彰。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
映画「地球交響曲第3番」の製作協力	映像							2	5
映画「血の絆」製作への協賛	映像							1	7
第7回京都フランス音楽アカデミーへの協賛	音楽	1	1					1	1
林写真展	美術			1	4			1	2
京都国立博物館記念事業	博物							1	9
長江遺跡調査支援	文歴							1・2	10・11
アップ・ウィズピープルへの協力	演劇					1	4	1	
京都伝統芸能振興財団	出捐							1	8

桐生機械株式会社

自動車

資本金③ 売上高② 経常利益③ 設立1906年 従業員840人 予算決

メセナ活動基本方針

社員の文化意識の向上および育成。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
桐生音楽文化協会への参加	音楽	1	1・2・3・4・5					1	5・9

株式会社クボタ

産業機械

資本金⑤ 売上高⑤ 経常利益⑤ 設立1890年 従業員1万6000人

メセナ活動基本方針

下記の視点から活動内容を検討し、前向きに対応する。

- 1 社会貢献の一環として。
- 2 企業文化の確立。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
クボタグローバルメッセージ宗次郎オカリナ演奏「四季」	音楽	1	1・7					2	
いずみホールコンサート企画「ウィーン/大作曲家の肖像」	音楽	1	1					1	

グンゼ産業株式会社

商業

資本金³ 売上高⁴ 経常利益² 設立1931年 従業員970人

メセナ活動基本方針

協賛方式での活動が中心。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
チャカ・カーン日本コンサート協賛	音楽	1	4					1	7・10

倉敷紡績株式会社

繊維

資本金⁴ 売上高⁴ 経常利益² 設立1888年 従業員2563人

メセナ活動基本方針

1 企業の社会的責任として、恒常的にできうる範囲で活動していく。

2 弊社の創業以来の信念として、メセナ活動に対する考え方は厚く存している。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
財大原美術館	美術		4	1・2・3		3		7	
財倉敷考古館	民文							8・11	
財古代学協会	出捐							11	
財千里文化財団	出捐							9・11	
大阪フィルハーモニー協会	音楽	3	1・2				3	1・3・10	
第40回産業音楽祭関西大会	音楽	1・2・3	1・3					3・9	

株式会社群馬銀行

銀行

資本金⁴ 売上高⁴ 経常利益⁵ 設立1932年 従業員3957人 予算決

メセナ活動基本方針

地域貢献活動の一分野として、その芸術文化活動が地域の文化向上に貢献するものに対して支援する。なお、「メセナ活動」という言葉は使用していません。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
群馬交響楽団賛助会員	音楽	3	1					1	2・9
群馬交響楽団定期演奏会協賛	音楽	1	1					1	2・9
群馬交響楽団演奏会活動支援	音楽	1	1					3	2・9
高崎元旦コンサート協賛	音楽	1	1					1	2・9
大川美術館活動賛助	美術		4	1				1	9
前橋音楽文化協会支援	音楽・美術・演劇・舞踊							1	9
草津国際音楽アカデミー賛助	音楽	1	1					1	1・3・4

株式会社建設技術研究所

サービス

資本金3 売上高2 経常利益3 設立1963年 従業員1025人 予算決

メセナ活動基本方針

弊社では本社ビル1Fの大通りに面したウィンドウに新進の芸術家の作品を展示する「CTIウィンドウ・ギャラリー」を設けています。

目的は、文化活動の一環として社員への啓蒙、一般行人・付近住民に対して心の安らぎ、憩いの場を提供することにあります。

また、建設コンサルタントとしての弊社の概要・事務内容を広く世間にアピールし、社会的認知およびイメージアップをはかることも含んでいます。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
CTIウィンドウ・ギャラリー	美術		4	1・2・3・			2	9
				4				

コスモ石油株式会社

石油

資本金5 売上高6 経常利益4 設立1986年 従業員3500人 予算決

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
PMFコンサート	音楽	1	1				2	1

株式会社コロナ

金属製品

資本金3 売上高3 経常利益4 設立1937年 従業員2150人 予算決

メセナ活動基本方針

地域の文化活動向上への援助。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
コロナスペシャルコンサート	音楽	1	4				2	9

株式会社公益社

サービス

資本金3 売上高2 経常利益3 設立1932年 従業員345人 予算決

メセナ活動基本方針

協賛方式での活動が基本。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
大阪フィルハーモニー交響楽団への支援	音楽	3	1				1	

株式会社講談社

出版

資本金2 売上高4 経常利益5 設立1909年 従業員1200人 ※財野間奉公

メセナ活動基本方針

- 1 本社は出版社ですので出版文化の向上を目的とした各種の賞を設けています(国内、海外ともに)。
- 2 この流れのなかから各地の学校、図書館(国内外)へ図書寄贈を行っています。
- 3 日本文化の向上に尽くしながら報われることの少ない人に対しては吉川英治文化賞を贈呈しています。
- 4 これ以外の分野においてはそのつど検討して決めています。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
講談社ノンフィクション賞	文学						2	7

講談社エッセイ賞	文学			2	7
講談社出版文化賞	文学			2	7
野間文芸翻訳賞	文学			2	10
講談社漫画賞	美術	7	6	2	7
野間アフリカ出版賞	文学			2	10
時代小説大賞	文学			2	7
財野間奉公会	文学			1	4・11
財吉川英治国民文化振興会	文学			1	7・11
スペイン諸大学への図書寄贈	文学			4	10
フランスギメ美術館の改修	美術	4	1・2・3	1	10
第1回アジア太平洋ベン会議	文学			1	7・9・10
読書週間50周年記念事業	他			1	6・11

株式会社サンゲツ

商業

資本金4 売上高4 設立1953年 従業員1145人

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
財名古屋フィルハーモニー交響楽団への活動支援	音楽	1	1					1	9
名古屋むすめ歌舞伎への支援	演劇					1	1	1	9
名古屋伝統芸能振興会への支援	演劇			4	6	1	1	1	8
名古屋をどり後援会への加入	演劇					1	6	1	8
東京オペニオンズへの支援	演劇					1	3	2	9

サントリー株式会社

食品

資本金4 売上高5 経常利益5 設立1899年 従業員4841人 ※文化事業部(95人(美術館・ホールを含む)・1987年設置)/財サントリー文化財団、財サントリー音楽財団 予算決

メセナ活動基本方針

利益三分主義：事業の利益の三分の一は社会へ還元すべし。

生活文化企業：企業活動自体が深く文化と結びついている。

独自の企業文化に根ざす。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
サントリーホールでの運営、公演	音楽	1・2・3・4	1・2・3・4					1・2・3・4・5	1・2・3・4・5・6・7
サントリー音楽財団での運営	音楽	1・3・4・5	1・2・3・4・5					1・2・3・4・5	1・2・3・4・5・7
「ニューイヤーコンサート」	音楽	1	1					1・3	1・2・5
「一万人の第九」コンサート	音楽	1	1					1・3	3・5・9
白州・夏・フェスティバル	音楽・美術・演劇・舞踊	1	2・4	5	3・5	1	3	1・3	1・2・7・9
サントリーミュージアム(天保山)での運営	美術			1・2・3・4	1・2・3・4・5			1・2	1・2・3・4・5・7

サントリー美術館の運営	美術	1・2・3・4	1・2・3・4・5	1・2	1・2・5・7・8
演劇協賛	演劇	1	3	1	1・2・7
サントリーミステリー大賞	文学			1	1・2・3
開高健賞	文学			1	1・2・3
サントリー文化財団の運営	出捐			1・2・3・4・5	11

株式会社さくら銀行

銀行

資本金⑥ 経常利益⑧ 設立1876年 従業員2万261人 ※広報部社会活動推進室(2人・1991年設置) 予算決

メセナ活動基本方針

1 当行ではメセナ活動も社会貢献活動の一分野と位置づけている。

2 この活動に対する基本取り組み方針はつぎのとおり。

「当行および当行の行員が継続的に行える活動を中心に、当行の支店が存在する地域レベルでの貢献活動に取り組む」。

社会貢献活動に取り組む目的は、企業理念の一つである「地域とのふれあいを大切に、お客様とともに歩む銀行」の実現をめざしていくためである。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
京都文化財展示室の運営	民文・文歴							2・5	4・5・8・9・10
貨幣資料室の運営	他							2	4・5・11
プロムナードコンサートの運営	音楽	1	1・7					2・5	1・2・7・9
各種音楽団体等への支援	音楽	1・3	1・2・3					1・3・5	1・2・5・7・10
支店のロビーコンサート開催	音楽	1	1					2・5	1・5・7・9

株式会社佐賀銀行

銀行

資本金④ 売上高(経常収益)③ 経常利益④ 設立1955年 従業員2020人 ※財佐賀銀行文化財団 予算決

メセナ活動基本方針

美術・音楽・演劇等を通して文化の向上をはかり、豊かな地域づくりに寄与する。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
さざんニューイヤークンサートの実施	音楽	1	1					2	9
さざんウェンズディコンサートの継続開催	音楽	1	7					2	9
さざんファミリー劇場の実施	演劇					1	4	2	9
「新人賞」の贈呈	音楽・美術・文学	5	5					1	1
九州交響楽団への支援	出捐							1	9

株式会社札幌銀行

銀行

資本金③ 売上高② 経常利益③ 設立1950年 従業員1106人

メセナ活動基本方針

- 1 地域に根ざした企業として地域への貢献は必要。
- 2 地域の芸術・文化の振興は地域の企業文化の確立をうながす。
- 3 北海道の音楽分野における札幌交響楽団の活動は、北海道の芸術・文化のレベルの象徴であり、ひきつづき支援していく。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
札幌交響楽団への寄付	音楽	3	1					1	9
PMFへの寄付	音楽	1	1					1	1
リンケーリアップフェスティバル	音楽	2	1					1	9
芸妓の芸能保存会への寄付	舞踊							1	8
伝統芸能振興会への寄付	舞踊							1	8
北大交響楽団への寄付	音楽	1	1					1	3
北海道演劇財団会費	演劇					3	3	1	3

佐藤工業株式会社

建設

資本金4 売上高5 経常利益4 設立1931年 従業員5070人 ※秘書部(3人・1962年設置)

メセナ活動基本方針

建設業の本業として豊かな社会を支える役割を果たすとともに、企業市民としても学術・文化などさまざまな分野での支援活動を通じて社会との交流を深める。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
財富山美術館への活動支援	美術			1・2・3・4	6			1	9
財NHK交響楽団への活動支援	音楽	3	1					1	9

三協アルミニウム工業株式会社

金属製品

資本金4 売上高4 経常利益3 設立1960年 従業員5911人 予算決

メセナ活動基本方針

地域社会に対する文化・芸術・スポーツの発展振興という視点でメセナを考え、支援または主催をしている。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
ホームタウンコンサート	音楽	1	4					1	9

三洋電機株式会社

家電

資本金6 売上高6 経常利益4 設立1950年 従業員2万5236人 ※社会業務センター社会文化課(5人・1991年設置) 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 良き企業市民として、いきいきした豊かな社会づくりの一端を担い、企業と社会の接点として双方のニーズを汲み上げ、共生できるようにコーディネートしていく。
- 2 社会貢献の一環としてのメセナを通じ、社員ひとりひとりが芸術・文化に興味を持ち、また積極的に参加する文化の香りあふれる社風づくりに努める。
- 3 単に資金を提供するだけでなく、ともに汗を流し、時間を費やし、知恵を絞り、一つの目標に向かい支援団体とともに歩む活動をめざす。
- 4 自社企業文化の確立を通じ、結果として企業イメージ向上につながれば幸いである。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
大阪シンフォニカー支援	音楽	1・3	1				1・5・6	1・5・9
大泉文化むらコンサート協賛	音楽	1	1				1・3	2・5・9
社大阪フィルハーモニー後援会	音楽	3	1				1	2・9
関西フィルハーモニー後援会	音楽	3	1				1	2・9
'96「国際少女合唱祭・大阪」	音楽	1	7				1	4
(阪神大震災)被災者を励ますコンサート協賛	音楽	1	1				1	1・5・9
いずみホール主催公演協賛「ウィーン音楽祭'97」	音楽	1	1				1	1・5・9
第72回白日展協賛	美術			1・2・5	1		1	1・5・9
毎日DAS学生デザイン賞「洋々賞」	美術			7	1・2・3		1	1・5・9
財上方文化芸能協会	民文						1	8・9
しずかホールヴィオラコンクール協賛	音楽	4・5	1				1	1

三洋信販株式会社

他金融

資本金4 売上高3 経常利益5 設立1959年 従業員1050人 予算決

メセナ活動基本方針

地域文化の育成保護と人々が広く文化に親しむことのできる活動を支援していく。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的	
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容			ジャンル
三洋信販クラシックコンサート	音楽	1	1				2・3・4・9 5		
三洋信販クラシックスベシャルコンサート	音楽	1	1				2・3	9	
テアトルハカタ8月公演	演劇					1	3	1	1
アジアフォーカス福岡映画祭	映像							1	5・10
'96別府アルゲリッチコンサート	音楽	1	1					1	9
九州交響楽団への寄付	音楽	3	1					1	9

三和酒類株式会社

食品

資本金3 売上高2 経常利益4 設立1958年 従業員253人 予算決

メセナ活動基本方針

利益で行う企業の文化活動ではなく、文化を見直し、発掘する企業文化の創造をめざす。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的	
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容			ジャンル
三和文庫	文学							1	9
季刊iichiko	文学							2	9・11
いいちこ文化学賞	他							2	11

JTB

サービス

資本金9 設立1963年 ※財日本交通公社 予算決

メセナ活動基本方針

- 内外にわたる人々と文化の交流をすすめる、より豊かな生活に貢献する。
- 良き企業市民として、地域の観光・文化の資源の保全振興に寄与する。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
旅行文化講演会の開催	他						1・2・3・4・5	5・9・10
旅行文化賞3賞の実施(JTB紀行文学大賞 JTB旅行文化賞JTB旅行写真賞)	美術・ 文学		7	4			1・2・3・4・5	1・3・10
「杜の願い」の実施	民文						1・2・3・4・5	8・9
観光文化資料館(旅の図書館)の運営	他						1・2・3・4・5	11

株式会社JEUGIA(ジュージャ)

商業

資本金² 売上高² 経常利益¹ 設立1952年 従業員251人

メセナ活動基本方針

地域における音楽芸術の普及・振興をはかり、若い人々の育成と発展に結びつくものを中心に、自主的な文化支援と振興に努めている。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
'96京都ピアノコンクール	音楽	3	1				2	3
京都市交響楽団ヨーロッパ公演	音楽	1	1				1	10

ジャスコ株式会社

量販店

資本金⁴ 売上高⁶ 経常利益⁵ 設立1926年 従業員3万5733人 ※イオングループ1%クラブ(2人・1989年設置)/財イオングループ環境財団 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 国際的文化交流に資する事業の実施および助成。
- 2 地域の文化振興に資する事業の実施および助成。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
日本とベルギー・エコ絵画交流展	美術		1	1			2	4・10
イオンレディースフォーラムの開催(岐阜、水戸、大阪、小山)	他						2	9
「全日本郷土芸能協会」への寄付	民文						1	8・9
「日本音楽文化交流協会」への寄付(第9回国際親善交流演奏会—ロシア、東欧)	音楽	1	1				1	10
「財地域伝統芸能活用センター」への寄付	出捐						1	8・9

シヤチハタ工業株式会社

他製造

売上高² 経常利益² 設立1941年 従業員1000人 予算決

メセナ活動基本方針

文化的道具として文具を扱い、生活文化価値創造企業をめざすことから、商品だけでは伝えることのできない部分での社会への参画とともに、社会活動へ参加することで、時代の求める新しい価値を創造し、生活文化の向上に貢献していきたいと考えます。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
ジャパン・アート・スカラシップ	美術		1・7	5			1	1

四国コカ・コーラボトリング株式会社

食品

資本金3 売上高2 経常利益3 設立1963年 従業員860人 予算決

メセナ活動基本方針

基本的には協力支援の方向にある。

四国電力株式会社

電力

資本金6 設立1951年 従業員5719人 ※財よんでん文化振興財団 予算決

メセナ活動基本方針

当社は、地域共生という基本理念にもとづき、「四国地域における芸術文化の振興をはかり、わが国の文化の向上・発展に寄与する」ことを念願している。

そのため、当社は、平成3年10月に設立した「財よんでん文化振興財団」において、諸活動を実施している。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
ヨンデンギャラリーの運営	美術・ 工芸			1	1・4			5	5・9
よんでん文化振興財団への支援(寄付)	出捐							1	1・3・5・ 7・9
よんでん文化振興財団主催行事への協力・支 援								3	5・9

株式会社静岡銀行

銀行

資本金5 売上高4 経常利益5 設立1943年 従業員4865人 ※総合企画部広報文化室(1人・1991年設置) 予算決

メセナ活動基本方針

企業理念「地域とともに夢と豊かさを広げます」の実践活動の一環ととらえ、地域社会の豊かな発展に貢献していく。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
「しずぎんニューフォニア・コンサート」シリー ズ	音楽	1	1・7					1・2	1・5・9
文化講演会「しずぎんカルチャー・フォーラム」他								2	5・9
ギャラリー企画展「ピカソ・グラフィックアー ト展」	美術			1	2			2	9

株式会社資生堂

化学

資本金4 売上高4 経常利益5 設立1872年 従業員3954人 ※企業文化部(26人・1990年設置) 予算決

メセナ活動基本方針

私たちは「新しく深みのある価値の発見と美しい生活文化の創造」をめざす企業活動の一環として、芸術文化支援を行っていきます。

現代美術を中心に幅広いジャンルを対象としますが、とくに

- 1 まだ評価の定まらない若手アーティストの活動を応援します。
- 2 アジアの作家や女性アーティスト、そしてハンディキャッパーの創作活動にも注目し、サポートします。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
劇団青い鳥「ありがとうママン」	演劇					1	3	1	1・7
生誕120周年記念上村松園大回顧展	美術			1	1			1	2・5

日本フィルハーモニー交響楽団第3回ヨーロッパ公演	音楽	1	1			1	10
「森村泰昌」展	美術			1	6	1	7
第4回プリンツ21版画グランプリ展	美術			1	2	1	1・7
第50回女流画家協会展・資生堂賞	美術			6	1	1	1・7
女性ドラマシリーズNo1「メアリー・ステュアート」	演劇					1	3 7
キューバ現代美術調査	美術			8	6	1	7・10
イサム・ノグチ&ルイス・カーン夢のランドスケープ展	現建					1	7
吉村七重二十絃箏リサイタル	音楽	1	2			1	7
スリー音楽祭'96(フランス)	音楽	1	1			1・3	9
「1953年ライトアップ」展	美術・ 工芸・ グテ・ 服テ			1	1・2・3・ 4・5・6	1	5・7
今日の日本美術展	美術			1	1・2・3・ 4・5・6	1	7
「倉俣史朗」展	他					1	5
「Ambition/Field Climbing(大志/大地登り)」	美術			1	5	1	1・7
第9回日仏音楽コンクール	音楽	5	1			1	1
西川千麗舞の夕「いろはにほへと」	舞踊					1	7
劇団態変'96エジンバラ公演「BLOOM咲く」	演劇					1	3 10・11
ヒロシマアートドキュメント'96「SITUATION」	美術			1	5	1	1・7
日本女性作曲家連盟「おながくのおもちゃばこ」	音楽	1	1			1	5
「ジェンダー記憶の淵から」展	美術			1	4	1	7
国際陶芸アカデミー日本会議'96	工芸					1	10
フランス近代彫刻展	美術			1	3	1	7・10
モーツァルト劇場5大オペラ上演完結記念フェスティバル	音楽	1	3			1	5
第41回CWAJ現代版画展	美術			1	2	1	1・7
「トボスの復権」展2	美術			1	5	1	7
ハーブムーン・シアター・カンパニー	演劇					3	3 1
蔡国强「Project for 20th Century」	美術			1	5	1	7・10
フランクフルト現代美術館「荒木経惟」展	美術			1	4	1	7・10
日本の音とこころ展PARTⅢ	音楽	1	2			1	7
オムスク日本文化と芸術フェスティバル	演劇					1	3 1
「新制作座フェスティバル」中国公演	演劇					1	3 1
第5回「嗜欲の器」展	工芸					1	7
蔡国强第23回サンパウロ・ピエンナーレ特別企画展	美術			1	5	1	7・10
「火の起源と神話」展	美術			1	5	1	7

NINAGAWA COMPANY「1996待 つ」	演劇			1	3	1	7
「堀浩哉」展	美術			1	1	1	7
現代日本陶磁の秀作・アジア巡回展	工芸					1	10
日韓友好オペラ・ガラ・コンサート	音楽	1	3			1	10
第25回ローザンヌ国際バレエコンクール	舞踊					1	1・10
金恵敬作品展「生命そして生命」	工芸					1	7
「デ・ジェンダリズム」展	美術			1	5	1	7
現代詩フェスティバル'97「ダンス/ポエジー」	舞踊・ 文学					1	7
第5回「いのちの輝き」作詩大賞	文学					1	3・11
ドキュメント2000プロジェクト	他					1	7・11
資生堂ギャラリー展覧会の企画・運営	美術			1	1・2・3・ 4・5・6	2	1・7
ザ・ギンザ アートスペース展覧会の企画・運 営	美術			1	1・2・3・ 4・5・6	2	1・7
資生堂アートハウス展覧会の企画・運営	美術・ 他			1	1・2・3・ 4・5・6	2	9
資生堂アートハウスコンサート の企画・運営	音楽	1	1			2	9
現代詩花椿賞の選考と表彰	文学					2	7

清水建設株式会社

建設

資本金5 売上高6 経常利益5 設立1804年 従業員1万5000人

メセナ活動基本方針

「地球社会への貢献」という経営理念のもと、社会貢献活動の一つとして、社会のニーズに合致したものを選んで支援する。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
東京オペラシティ文化財団	音楽	2	3					1	1・2
「ルーブル美術館展」	美術			1	1・3			1	5
大阪城天守閣平成大改修(寄付)	文歴							1	11
97年サイトウ・キネンフェスティバル・イン ・松本	音楽	1・5	1					1	2・5
97年ザルツブルグ・イースター・フェスティ バル	音楽	1・5	1・3					1	2・10
神戸ルミナリエ	造園							1	9

株式会社主婦の友社

出版

資本金2 売上高2 経常利益2 設立1916年 従業員318人 ※財石川文化事業財団

メセナ活動基本方針

- 1 財石川文化事業財団が中心になって活動。
- 2 文化事業財団に協賛するかたちでイベントを開催。
- 3 室内楽・展覧会・講演会など定期的に開催。
- 4 出版活動とその関連事業で文化の普及を広報。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
山本有三記念「郷土文化賞」	民文						1	9・11

株式会社十八銀行**銀行**

資本金**4** 売上高**3** 経常利益**4** 設立1877年 従業員2117人 ※経済文化部(2人)/財十八銀行社会開発振興基金

メセナ活動基本方針

地域における教育・科学・芸術・文化・体育等の向上に資することを基本方針としている。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
県・市美術展	美術		1				1	9
県民・市民演劇祭	演劇				1	3・4・6	1	9
作家による文化講演会	文学						2	9
時局、政局、経済講演会	他						2	9
財十八銀行社会開発振興基金	出捐						1	4・11

株式会社常陽銀行**銀行**

資本金**5** 経常利益**4** 設立1935年 従業員4511人 ※財常陽藝文センター 予算決

メセナ活動基本方針

「地域の繁栄のなかに当行の発展の源泉がある」との当行の経営理念のもとに、地域の産業、経済、芸術文化、環境保全などのニーズに創造的に対応していきたいとの考えから、地域社会における幅広い文化支援活動を実施する。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
近代美術館所蔵品図録寄贈	美術		1	6			1	5・9
常陽ファミリーコンサート	音楽	1	4・5				2	5・8・9
常陽藝文センター支援	出捐						2	1・2・5・9
常陽ギャラリー運営	美術		1	3・4・6			2・5	1・5・9
絵画巡回展	美術		1	1・2			2・5	5・9
村山密フランス風景画展ほか	美術		1	2			2・5	

株式会社殖産銀行**銀行**

資本金**3** 売上高**2** 経常利益**3** 設立1914年 従業員1002人 予算決

メセナ活動基本方針

地域の文化・芸術の振興・支援。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
山形美術館の一定時間無料開放	美術		1・4	1・2・3・4			2	5・9

新日本空調株式会社**建設**

資本金**3** 売上高**4** 経常利益**3** 設立1969年 従業員1200人 予算決

メセナ活動基本方針

三井広報委員会の一員として活動している。

株式会社親和銀行

銀行

資本金4 設立1939年 従業員1870人 ※財親和銀行ふるさと振興基金 予算決

メセナ活動基本方針

長崎県内の産業開発および振興ならびに教育・文化の振興をはかるための必要な事業を行い、もって地域振興に資すること。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
しんわニューイヤークンサート	音楽	1	1				2	9
しんわスプリングコンサート	音楽	1	1				2	9

住友海上火災保険株式会社

損保

資本金5 売上高5 経常利益5 設立1944年 従業員7647人

メセナ活動基本方針

- 1 企業には、サイエンス(経済合理性の追求)の側面とアート(企業文化の追求)の側面がある。
- 2 当社はビッグカンパニーであるだけでなく、グッドカンパニーであることをめざしている。
- 3 メセナ活動はグッドカンパニーであることを追求するために重要であるが、その活動は企業と社会が調和していくために、その企業固有のフィロソフィー、文化に根ざしたものでなければならない。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
しらかわホール	音楽	2	1				1・2・3・4・5・6	1・2・9
オリジナルコンサート	音楽	1	7				1	4
財神奈川フィルハーモニー管弦楽団	音楽	1	1				1	2
モーツァルト室内管弦楽団	音楽	1	1				1	2
社大阪フィルハーモニー協会	音楽	1	1				1	2
財エー・ビー・シー音楽振興財団	音楽	1	1				1	2
財日本フィルハーモニー交響楽団	音楽	1	1				1	2
財文化財保護振興財団	出捐						1	11
関西フィルハーモニー管弦楽団	音楽	1	1				1	2
財二期会オペラ振興会	音楽	1	3				1	2
財おはなしきやらばんセンター	演劇				1	3	1	1
財NHK交響楽団	音楽	1	1				1	2
名古屋フィルハーモニー交響楽団	音楽	1	1				1	2
財日本オペラ振興会	音楽	1	3				1	2
財東京フィルハーモニー交響楽団	音楽	1	1				1	2
芸術文化交流の森	出捐						1	2

株式会社住友銀行

銀行

資本金6 経常利益5 設立1895年 従業員1万5570人 ※社会文化事業室(3人・1990年設置) 予算決

メセナ活動基本方針

良き企業市民として、社会を真に豊かにする応分の貢献をする必要がある。この貢献の一環として芸術文化の支援を行う。また実際の活動に際しては、以下の活動基準をなるべく多く満たすものを実施している。

- 1 継続性のあるもの。
- 2 若い世代を育てるもの。
- 3 行員の理解と共感を得られるもの。
- 4 国際性のあるもの。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
住友銀行スプリングコンサート	音楽	1	1				2	4・5

住友生命保険相互会社

生保

経常利益7 設立1926年 従業員6万9926人 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 本業である生命保険業を通じて社会貢献することがまず第一義である。
- 2 同時にご契約者などから納得いただける範囲で社会・文化に貢献したいと考えている。
- 3 従来から取り組んでいるものを継続実施する。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
いずみホール	音楽	1・2	1				1	1・2・5・9
全日本子ども絵画コンクール	美術			1・6	1		2	4・9
全国縦断チャリティコンサート	音楽	1	1				2	5・6・9
財日本室内楽振興財団支援	音楽	1	1				1	1・10
交響楽団等への支援	音楽	3	1				1	2

住友電装株式会社

他電機

資本金3 売上高4 経常利益3 設立1917年 従業員5000人

メセナ活動基本方針

地域を中心とした文化・芸術活動を支援し、地域社会への貢献、企業文化の向上をめざす。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
諏訪太鼓保存会への参加支援	民文						1	8
博物館への寄託	博物						4	9
日米高校交流コンサート	音楽	1	1				1・3・4・5	9・10

セイコーエプソン株式会社

他電機(情報)

資本金4 売上高5 経常利益3 設立1942年 従業員1万1500人

メセナ活動基本方針

- 1 自社の体力の許す範囲内での活動支援を実施する。
- 2 自社となんらかの関連がある活動について支援を実施する。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
サイトウ・キネン・オーケストラ	音楽	1	1				1・3	2・9・10

セイコー電子工業株式会社

精密

資本金3 売上高4 設立1937年 従業員6000人 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 著名な音楽家を招き、芸術の振興と文化の交流をはかる。
- 2 周辺地域の人々との交流の場をつくる。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
ウィーン・オペラ舞踏会管弦楽団ニューイヤ ー・コンサート	音楽	1	1				1	11
メラニー・ホリデイCD制作	音楽	1	1				1	11
ウィーン弦楽四重奏団コンサート	音楽	1	1				1	11

株式会社セガ・エンタープライゼス

他製造

資本金4 売上高4 経常利益5 設立1960年 従業員3764人 ※財中山準雄科学技術文化財団 予算決

メセナ活動基本方針

社長の私財を投じた中山準雄科学技術文化財団の活動をベースに行っている。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
中山準雄科学技術文化財団		出捐					3	11

セゾングループ

その他(生活総合産業)

従業員9万8000人 ※財セゾン文化財団 予算決

メセナ活動基本方針

"生活総合産業をめざす"という企業理念に沿って、真にクリエイティブな芸術家の活動を支援し、そのための条件を整備していくことは同時代に生きる者のつとめである、という認識のもとで、1、創造性 2、社会性 3、継続性を持つ良質な文化活動をあらゆる機会ととらえ紹介、支援していくことがセゾングループの企業活動には不可欠である。ただし、これを実現していく過程は可能なかぎり事業化の計画を持つことを基本とする。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
銀座セゾン劇場の運営・プロデュース	演劇				1・2	3	1・2・3	5・7・10
セゾン美術館の運営・プロデュース	美術		1・4	1・2・3			1・2・3	5・7・10
サンダンス・フィルム・フェスティバル・イン ・トーキョー'96	映像						1・2・3・ 5	1・5・7・ 10
さっぽろ映像フェスタ'96	映像						1・2・3	5・7・9
さっぽろ映像セミナー	映像						1・2・3	1・7・10
八ヶ岳高原音楽堂の運営	音楽	1・2	1・2・5・ 7				2・3	2・5・7・ 9
八ヶ岳高原音楽祭'96	音楽	1	1・2				1・2・3	2・5・7・ 9
バルコ・アーバナート展の運営	美術・ グテ		1・6	1・2・3・ 4・5・6			2・5	1・2・3・ 5・7
ロシア・バレエ・インスティテュートの運営	舞踊						2	4・10
東京国際映画祭'96の協賛	映像						1	1・5・7・ 10

株式会社センリン

出版

資本金3 売上高2 経常利益3 設立1974年 従業員1944人 予算決

メセナ活動基本方針

- 社会的存在としての企業の果たすべき役割と認識している。
- 主に文化・スポーツ関連の各種事業に対して、①地域に根ざした、②支援・協賛規模が妥当な、③企業活動や企業姿勢と整合性のあることを支援・協賛等の判断材料としている。

3 企業と社会、企業と従業員との間に良好な信頼関係や好企業イメージを醸成することに資する活動と考えている。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
第4回オリジナル地図コンクール	美術・ 工芸・ グテ		1	1・3・4・ 6			2	1・2・3・ 11

株式会社せとうち銀行

銀行

資本金**3** 売上高**2** 経常利益**3** 設立1941年 従業員1106人 ※業務部(2人・1986年設置) 予算決

メセナ活動基本方針

地域の活性化と文化の発展向上に寄与するとともに当行の企業文化の確立とイメージアップをはかる。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
せとぎんコンサートベルリン室内合奏団(呉)	音楽	1	1				1	9
せとぎんコンサートブラ八国立歌劇場オペラ ・モーツァルト「魔笛」(広島)	音楽	1	1				1	9
せとぎんコンサートウィーン・ヨハン・シュト ラウスシンフォニエッタ(福山)	音楽	1	1				1	9
くらしの文集	他						2・4・5	4

西濃運輸株式会社

陸運

資本金**4** 売上高**4** 経常利益**3** 設立1946年 従業員1万5900人 ※カンガルーメセナ協議会(3人・1991年設置) 予算決

メセナ活動基本方針

地域企業市民としての立場を確認(自覚)する地域の文化芸術活動の向上のために支援、啓蒙をはかることを目的とする。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的	
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容			ジャンル
名古屋国際青少年音楽祭	音楽	1	5				1	4・9	
カンガルーコンサート96	音楽	1	2				2	5・7・11	
日本室内楽アカデミー	音楽	1	1				1	2	
県民文化祭サランカフェスティバルオーケ ストラ	音楽	1	1				1	5・9	
県民文化ホールわくわく子供自由学校	他						1	4	
文化庁芸術祭岐阜公演ミュージカル・ファー ブルの昆虫記	演劇					1	4	1	2・5・7・ 9
大垣市文化事業団大垣音楽祭	音楽	1	1				1	2・5・7・ 9	
岐阜県美術館モスクワ美術展	美術			1	1			1	5・7・9

積水化学工業株式会社

化学

資本金**6** 売上高**5** 経常利益**5** 設立1947年 従業員6011人

メセナ活動基本方針

当社では、「社会的責任にもとづく事業運営の徹底」(法の遵守、安全対策、地球環境対策、PL問題対応、社会貢献)を1997年度の全社共通の経営方針としている。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
ミクル劇団ミュージカル公演	演劇				1	4	2	1
朝日作文コンクール	文学						2	4

株式会社泉州銀行

銀行

資本金4 売上高3 経常利益8 設立1951年 従業員1622人 予算決

メセナ活動基本方針

地域金融機関として、メセナ活動を通じて地域密着、地域活性化をよりいっそう推進する。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
「96子ども演劇祭」協賛	演劇				1	3	1	9
「高松宮杯日本菊花大会」特別協賛	造園						1	9
「みんないっしょにコンサート」協賛	音楽	1	7				1	9
「岸和田城址保存会」事務局	民文						1・3・5	9
「岸和田文化事業協会」理事派遣、出捐	出捐						1・3	9
「財大阪21世紀協会」人材派遣、出捐	出捐						1・3	9

ソニー株式会社

家電

資本金6 売上高6 経常利益6 設立1946年 従業員2万1937人 ※渉外部門社会貢献室(6人・1990年設置)/財ソニー音楽芸術振興会 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 芸術・文化活動には、行政だけでなく、民間からの支援も必要と考える。
- 2 当社の事業活動の領域を考慮し、音楽分野を中心に活動する。
- 3 活動は主に、当社が設立した財団を中心に行う。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的	
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容			ジャンル
ソニー音楽芸術振興会「事業活動資金」	音楽	3	1・2				1	1・2・3・4・6・7・9・10	
ソニー音楽芸術振興会「イベント：ベルリンフィルオーケストラコンサート」	音楽	1	1				1・2・3・6	4・5	
東京フィルハーモニー交響楽団「事業活動資金」	音楽	3	1・3				1	2	
ヨハン・シュトラウス研究所(オーストリア)「楽譜整備事業」	音楽	6	1				1	10	
ホノルル交響楽団「指揮者確保の基金」	音楽	3	1・2・3				1	1・2・10	
フランス国立ギメ美術館「日本ギャラリー改修」	美術			4	1・3		1	10	
財地域伝統芸能活用センター「基本財産造成」	民文						1	8・9	
青少年の心を育てる会「ミュージカル・ファープルの昆虫記」	演劇					1	4	1	4

株式会社増進会出版社

出版

資本金2 売上高2 経常利益3 設立1931年 従業員330人 ※経営企画本部総合宣伝課(3人・1992年設置) 予算決

メセナ活動基本方針

弊社は「学問・音楽・映像・美術・娯楽」と広範囲な分野を文化的サービスと位置づけ、そのなかから「学ぶ意欲や感受性、好奇心を喚起するテーマ」を提供することにより若者の創造的な「生き方」を提案し、また支援するという方針です。このような方針のなかに「メセナ活動」も含まれています。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
大岡信文化講演会	文学							2	2・5・9
佐野美術館「智恵子抄—光太郎に捧げた愛の紙絵」協賛	美術			1	1			1	7・9
佐野美術館「岸田劉生展」協賛	美術			1	1			1	7・9
富士山麓国際音楽祭協賛	音楽	1	1					1	1・2・9
大阪フィルハーモニー交響楽団東京定期演奏会協賛	音楽	1	1					1	2・5
山田耕筰生誕110年記念ガラ・コンサート	音楽	1	1					1	11
天城峠コンサート、朗読コンテスト協賛	音楽・文学	1						1	4・9

株式会社第一勧業銀行

銀行

資本金③ 売上高⑧ 経常利益⑦ 設立1971年 従業員1万8069人

メセナ活動基本方針

- 1 継続性。
- 2 地域的にかたよりが無いこと。
- 3 広く国民の支持を得られるもの。
- 4 営利を目的としない。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
行員楽団によるコンサート	音楽	1	1・4					3・5	5・9
資料展示室の運営	博物							3・4・5	8
オルセー美術館展協賛	美術			1	1・3			1	5・8・10
セゾン美術館展協賛	映像							1	5
イタリア・バロック絵画展協賛	美術			1	1・3			1	5・8・10
「現代の音楽を育てる会」協賛	音楽	1	2					1	1・7

第一生命保険相互会社

生保

経常利益⑦ 設立1902年 従業員7万38人 ※社会文化事業室(4人・1991年設置) 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 地道だが真摯な企業イメージの獲得。
- 2 育てる(育成・啓蒙)ことと、続ける(継続支援)ことを基本コンセプトとしている。
- 3 美術・音楽・演劇を3本柱として支援する。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
VOCA展'97	美術			1	1			1	1・5
東京ソリストステーションのための室内楽コンサート	音楽	1	1					1	1・5
劇団「扉座」	演劇					1	3	1	1・5

第一生命ギャラリーの運営	美術	4	1	1・2・4・5	1・5・7
--------------	----	---	---	---------	-------

第一製薬株式会社**医薬**資本金**4** 売上高**4** 経常利益**3** 設立1918年 従業員3863人 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 企業スローガン「いのち、ふくらまそう」の具現化の一つである。
- 2 世界の健康文化に貢献し、人々の手にする「いのちの喜び」をわが喜びとして共感し、その実現に向かってかぎりなく挑戦していく。
- 3 業績に左右されることなく、「継続」を基本姿勢とする。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
劇団四季「オペラ座の怪人」(東京・福岡)	演劇				1	4	1	2
水戸室内管弦楽団	音楽	3	1				1	2
日本経営クラブ若い音楽家を励ます会	音楽	1	1				1	1・5
日本フィルハーモニー交響楽団会員	音楽	3	1				1	2・5
日露交歓コンサート	音楽	1	1				1	1・10

株式会社大光銀行**銀行**資本金**3** 売上高**2** 経常利益**3** 設立1942年 従業員1383人 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 企業も地域社会の一員であるという意識を持っていく。
- 2 地域の芸術文化形成に、地域の一員として協力していくという考えで無理なく継続していく方針である。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
長岡交響楽団への活動支援	音楽	1	1				1	3

株式会社第三銀行**銀行**資本金**4** 売上高**3** 経常利益**3** 設立1912年 従業員1973人 ※財三銀ふるさと文化財団

メセナ活動基本方針

- 1 文化振興ならびに、地域文化活動の育成と、地域社会への密着をはかり、文化の高揚とうるおいのあるふるさとづくりを行う。
- 2 上記の方針のもと1990年1月26日、財三銀ふるさと文化財団を設立。
 - ・ 地域文化活動貢献者の表彰。
 - ・ 文化講演会・定期コンサートの開催。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
三銀ふるさと文化財団運営	出捐						1	1・2・9
第2回伝統サミット'97への協賛	演劇				1	1	1	8

株式会社第四銀行**銀行**資本金**4** 経常利益**5** 設立1873年 従業員3412人 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 広く地域に貢献する活動であること。
- 2 当行の企業文化創造に合致する活動であること。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
だいしライブアップコンサートシリーズの実施	音楽	1	1・2					2・3・5	1・2・4・5・9
だいしホールの貸出・運営	音楽	2	1・2・5					3・5	1・2・3・5・9
だいしライブアップコンサート「ベートーヴェン第九演奏会」の開催	音楽	1	1					2・3・5	1・3・5・9

大正製薬株式会社

医薬

資本金4 売上高4 経常利益6 設立1928年 従業員4803人

メセナ活動基本方針

- 1 企業の社会貢献の一環として芸術文化活動を支援する。
- 2 支援活動は特定の分野に限定することなく幅広く行うものとする。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
野外彫刻の祭典20世紀の巨匠たち	美術		1	3			1	5・9	
日本フィルハーモニー交響楽団	音楽	1	1				1	2・5	
東京フィルハーモニー交響楽団	音楽	1	1				1	2・5	
カザルスホール	音楽	1	1				1	2・5	

大東京火災海上保険株式会社

損保

資本金5 売上高4 経常利益4 設立1918年 従業員6479人

メセナ活動基本方針

- 1 社花である「椿」をテーマとした活動。
- 2 当社製作物を活用した芸術家支援。
- 3 協賛支援(作家支援)。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
「椿絵」巡回展	美術		1	1			2	5	
バーチャル椿絵美術館(ホームページ内)	美術		4	1			6	5	
扇子を活用した日本画家支援	美術		8	1			6	1	
卓上カレンダーを活用した油彩・イラストレーター支援	美術		8	1			6	1	
大型カレンダーを活用した写真家支援	美術		8	4			6	1	
美術館展協賛(マコトフジムラ展)	美術		8	1			6	1	

大同生命保険相互会社

生保

経常利益6 設立1902年 従業員9132人 ※財大同生命国際文化基金 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 財団法人大同生命厚生事業団は、1974年5月に公共福祉の増進を目的に、各種の厚生福祉事業の助成のほか、社会福祉・公衆衛生の分野の発展に寄与するため設立されました。
- 2 1985年3月に財大同生命国際文化基金を設立、国際相互理解の促進をはかり、日本の国際化に貢献することを目的に「アジア現代文芸」と題するプログラムを設け、翻訳出版を行うなどの活動をすすめています。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
財大同生命国際文化基金								出捐

大都工業株式会社**建設**資本金**4** 売上高**3** 経常利益**3** 設立1940年 従業員870人

メセナ活動基本方針

間接経費の削減が求められていることから予算的に縮小せざるをえない。

大日本土木株式会社**建設**資本金**3** 売上高**4** 経常利益**3** 設立1944年 従業員2602人

メセナ活動基本方針

地域社会への社会的貢献活動。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
あかりフェスタ'96(あかりのオブジェ展)	美術・ 工芸・ グテ			1	6		1	1・7

大日本印刷株式会社**他製造(印刷)**資本金**6** 売上高**6** 経常利益**6** 設立1894年 従業員1万4427人 ※ICC本部(10人・1991年設置)

メセナ活動基本方針

当社の保有する印刷技術を媒介とした芸術活動を支援する。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
グラフィックデザインギャラリー「ggg」グテ 「DDD」の運営							2	1・2・5・ 10
現代グラフィックアートセンター「CCGA」美術 の運営	美術			1	2		2	1・2・5・ 7・10
URBANART 5	グテ						1	1
城下るり子展	美術			1	3		1	2・7
フランス国立ギメ美術館日本ギャラリー	美術			4	1・6		1	10
東京写真月間'97	映像						1	1・2
日仏文化交流支援事業	出捐						1	10
JAGDA ONE DAY SCHOOL 96	グテ						1	1
美術館メディア研究会	美術・ 映像			5	6		2	11

大和証券株式会社**証券**資本金**6** 売上高**4** 経常利益**5** 設立1943年 従業員7700人

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
読書感想画コンクールへの協賛	美術・ 文学			1・8	1		1	4

株式会社高田工業所**建設**資本金**3** 売上高**3** 経常利益**3** 設立1948年 従業員1900人 ※社会貢献課(4人・1992年設置)

大阪フィルハーモニー交響楽団定期演奏会	音楽	1	1		1	2・5・8
法隆寺金堂壁画展	美術		1	1	1	8
法隆寺文化講演会	他				1	11
いずみホールウィーン音楽祭in Osaka	音楽	1	1		1	2・5・8

株式会社千葉銀行

銀行

資本金⑥ 設立1943年 従業員5046人 予算決

メセナ活動基本方針

千葉県を代表する企業として、また地域の金融機関として、地域の芸術・文化振興に貢献する。

活動名	芸術分野	分野が音楽			分野が美術			分野が演劇		
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援形態	支援目的	
ちばざんアートギャラリー	美術		1		1・2・3			2・5	1・2・5・7・9	
ちばざんひまわりコンサート	音楽	1	4					2	5・9	

株式会社千葉興業銀行

銀行

資本金④ 売上高② 経常利益③ 設立1952年 従業員2041人 ※地域貢献室(2人・1993年設置)

メセナ活動基本方針

企業理念である「地域とともに」「お客様のために」「親切の心で」にもとづき、地域に存在感のある行動をする。

活動名	芸術分野	分野が音楽			分野が美術			分野が演劇		
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援形態	支援目的	
県民の日千葉駅コンサート	音楽	1	1					2	3・5	
コスモスコンサート	音楽	1	1・2					2	1・5	
美しい房総写真展	美術			1・2	4			2・5	2・3・5	

中京コカ・コーラボトリング株式会社

食品

資本金③ 売上高③ 経常利益③ 設立1961年 従業員1573人 予算決

メセナ活動基本方針

私たちは「さわやかさの演出家」です。

- 1 人々にうるおいと豊かさを提案します。
- 2 心のこもったサービスで、さわやかさをお届けします。
- 3 美しい街、大切な地球を守ります。
- 4 一人ひとりが自分を磨き、夢と誇りの持てる会社になります。

以上の経営理念をもって、地元に住生活する人々と深くかわり、文化・スポーツ活動、環境保全への取り組みにも積極的に参加し、地域社会の発展のために大きく貢献しています。

活動名	芸術分野	分野が音楽			分野が美術			分野が演劇		
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援形態	支援目的	
さわやかファミリーコンサート	音楽	1	1					2	2・4・9	
さわやかウィンド・クリニック	音楽	3	7					1	4・9	
高松宮杯全日本中学校英語弁論大会	文学							1	4・9	

中部電力株式会社

電力

資本金⑥ 売上高⑥ 経常利益⑥ 設立1951年 従業員2万1068人

メセナ活動基本方針

当社の経営基本方針「お客様と未来を」「地球社会の中で」を受け、地域産業の発展、文化の振興に寄与する活動に対し「良き企業市民」として積極的に貢献する。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
名古屋国際室内楽フェスティバル	音楽	1	1				1	1・3・9
ふれあいコンサート	音楽	1	4				2	6・9
ふれあいこども劇場	演劇				1	3	2	4・9
ライブアップセミナー&カルチャー	他						2	9
未来の夢作文コンクール	文学						2	4

中部日本放送株式会社

放送

資本金3 売上高2 経常利益3 設立1950年 従業員470人 ※事業部(20人・1950年設置)

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
ウィーン音楽コンクールインジャパン	音楽	5	1				2	4
名古屋国際音楽祭	音楽	1	1				2	9
東京フィル名古屋定期演奏会	音楽	1	1				2	9
ミュージカル回転木馬	演劇				1	4	2	9
富岡鉄斎展	美術			1	1		2	9
大英博物館イタリヤ素描展	美術			1	1		2	9
中部二科展	美術			1	1		2	9

TOA株式会社

他電機(音響)

資本金3 売上高2 経常利益3 設立1949年 従業員888人

メセナ活動基本方針

- 1 本来業務に役立てる。社会の音、公共の音づくりが本業。メセナ活動を通じて得た情報や人的ネットワークを生かし、より良い音環境を創造していく。
- 2 世の中の「音」に対する関心を高める一助とする。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
アジアの音楽シリーズ天界音楽・百千種楽	音楽	6	7				2	11
ダニエル・レントンコンサートMusic from the Desert	音楽	1	2				2	2
高橋悠治+高橋アキピアノデュオコンサート	音楽	1	2				2	2
Just Forum(#2)新しい音律を考える	音楽	6	7				2	5
Live on MAX	音楽	6	7				2	11
a sound & art exhibition 仮想空間アート	美術			1	1		2	11
a sound & art exhibition 村井啓哲展	美術			1	6		2	11
a sound & art exhibition wrk 展 有価とその変位	美術			1	6		2	11
a sound & art exhibition 川崎義博 展環境・重力	美術			1	6		2	11
a sound & art exhibition 赤松正行 展World Remix	美術			1	6		2	11
FMプログラム「Ears Wide Open」	音楽	3	2				2	1
アジア音楽シリーズ	音楽	1	5				2	10

アトウ&テベ「即興作曲ワークショップ&パ フォーマンス」	音楽	3	2			2	1
Evening Tea Party	他					2	11
Work on Maxコンピュータ音楽ワークシ ョップ	音楽	1	2			2	7
Just Forum(#1)新しい音律を考える	音楽	6	7			2	5
プニプニ・スワラgamelan土	音楽	1	7			2	11
Free World Big Band	音楽	6	7			2	11
インターリンク96	音楽	1	2			2	2
コンピュータプラスストリングスエレクトリ ックII	音楽	6	7			2	11

株式会社TYK

ガラス窯業

資本金3 売上高2 経常利益2 設立1947年 従業員382人 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 地域の芸術文化の発展に寄与する。
- 2 芸術・文化に対する社員の関心を高める。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
TYK絵画大賞の制定	美術			2・7	1			1	1・9

株式会社デンソー

自動車

資本金6 売上高6 経常利益6 設立1949年 従業員4万2000人 ※総務部庶務課(7人・1991年設置)

メセナ活動基本方針

- 当社の社会貢献活動の重点項目外であるためとくに方針・考え方は定めていない。
社外より依頼のあった案件について、そのつど検討している。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
薬師寺(薬師三尊像)保存・修理事業	文歴							1	8
刈谷文化協会	出捐							1	9
刈谷かく展うつす展	美術			1	1			1	9

株式会社電通

広告

資本金3 売上高6 経常利益5 設立1901年 従業員5628人

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
日本文化財保護振興財団	出捐							1	8
日本交響楽団振興財団	出捐							1	7
国際文化会館	出捐							1	10
日本オペラ振興会	出捐							1	7
日本フィルハーモニー交響楽団	音楽	3	1					1	2
芸術研究振興財団	出捐							1	8
読売日本交響楽団	音楽	3	1					1	2
ユネスコアジア文化センター	出捐							1	8・10
サントリー音楽財団	音楽		1・5					1	5・7

広告電通賞	他	2	11
学生広告論文電通賞	他	2	11
電通フォーラム	他	2	11
電通コミュニケーションワークショップ	他	2	11
電通ギャラリー	他	2	11

株式会社トーメン

商業

資本金**4** 売上高**6** 経常利益**5** 設立1920年 従業員2795人 ※広報室(1人・1989年設置) 予算決

メセナ活動基本方針

- 厳しい経営環境のなかであっても、
- 1 支援を始めた案件は継続する。
 - 2 見返りはいっさい求めない。
 - 3 陰徳として体質・体力に見合った活動を続ける。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
国際親善音楽祭協賛	音楽	1	1					1	10
CWAJ現代版画展協賛	美術			6	2			1	7
創作舞踊「大敦煌」協賛	舞踊							1	10

株式会社トクヤマ

化学

資本金**4** 売上高**4** 経常利益**4** 設立1918年 従業員2800人 予算決

メセナ活動基本方針

当社は事業活動を通じて社会に貢献できる分野では、さらなる貢献をめざしております。
また社員ひとりひとりの活動を評価しております。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
御影文庫図書券寄贈	他							4	4
徳山美術連盟展	美術			2	1			1	1・4

株式会社ドミー

スーパー

資本金**2** 売上高**2** 経常利益**2** 予算決

メセナ活動基本方針

地域の教育・文化の向上に少しでも役立てばという主旨で活動。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
「母の日作品展」	美術			7	1			2	9

トヨタ自動車株式会社

自動車

資本金**6** 売上高**7** 経常利益**7** 設立1937年 従業員7万561人 ※「社会貢献活動委員会」事務局(22人・1989年設置)/財トヨタ財団 予算決

メセナ活動基本方針

- メセナ活動を含む社会貢献活動全般に対する取り組みにあたっては、
- 1 経営環境に左右されることなく継続的に取り組み定着をはかる。
 - 2 社会のニーズを見極め国際社会、地域社会に溶け込んだ活動を推進する。
という2点を基本方針としている。

このなかで、メセナ活動においては文化基盤の充実につながることを方針として、

- 1 「育成」と「裾野の拡大」。
- 2 地域の文化活動の促進と活性化。

の2点に重点を置いた活動への支援に継続的に取り組む。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
「トヨタ・コミュニティ・コンサート」開催(年間63回)	音楽	1	1					2・3	3・5・9
「トヨタ青少年オーケストラキャンプ」開催	音楽	1	1					2・3	3・4
「トヨタ・ミュージック・ライブラリー」運営	音楽	1・3	1					2・3	3
「アマチュアオーケストラフェスティバル」協賛	音楽	1・3	1					2・3	3・9
「アフター5(ファイブ)コンチェルト」開催	音楽	1	1					2・3	5・9
「第3回アフター5(ファイブ)コンサートin TOYOTA—ベルリンフィル・クインテット特別演奏会」開催	音楽	1	1					2・3・5	5・9
「第4回アフター5(ファイブ)コンサートin TOYOTA—オペラサロン・トナカイクリスマスコンサート」開催	音楽	1	1					2・3・5	5・9
「トヨタクラシックス・ワールドオペハーモニー(アジア公演)」開催	音楽	1	1					2・3	5・10
「ジャパン・ヤングアーティスト・チェンバーミュージック・ソサエティ・第10/11回公演」開催	音楽	1	1					2・3	1
「第1/2回JYACMSヴォーリスコンサート」協賛	音楽	1	1					3	1
「PMFコンサート1996」協賛	音楽	1	1					1	3・4・10
「PMFウィーンコンサート」協賛	音楽	1	1					1	2
「PMF卒業生コンサート」協賛	音楽	1	1					1	1・10
「PMFアカデミーの仲間たちによるグローバルコンサートfor unu」協賛	音楽	1	1					1	1・10
「第15回ジャパン・ヴィルトゥオーゾ・シンフォニーオーケストラ名古屋公演」協賛	音楽	1	1					1	2
「第18回ジャパン・ヴィルトゥオーゾ・シンフォニーオーケストラ大阪公演」協賛	音楽	1	1					1	2
「第6回グリーンコンサート」協賛	音楽	1	1					1	1・3・9
「第17回霧島国際音楽祭・講習会」協賛	音楽	1	1					1	3・4・9
「第5回国際音楽祭「ヤングブラハ」」協賛	音楽	1	1					1	1・10
「第168/169回毎日ソリスト」協賛	音楽	1	1					1	1
「第20回音楽之友社賞」協賛(副賞=トヨタ音楽賞)	音楽	1・3・4	1					1	2・7・8
「第6回富士山麓国際音楽祭」協賛	音楽	1	1					1	9
「第2回御殿場国際音楽祭」協賛	音楽	1	1					1	9
「第9回国際親善交流演奏会」協賛	音楽	1	1					1	2・10
「第19回名古屋国際音楽祭」協賛	音楽	1	1					1	2・9・10
「第8回栃木蔵の街音楽祭」協賛	音楽	1	1					1	2・9
「第4回音楽と心のハーモニーコンサート」協賛	音楽	1	1					1	6

「'96日露交歓コンサート」協賛	音楽	1	1				1	1・3・10	
「ストラティヴァリウス・サミット・コンサート1996」協賛	音楽	1	1				1	2・5	
「G・シュワルツ「オーチャードホール定期演奏会」」協賛	音楽	1	1				1	2	
「親と子のファミリーコンサート」協賛	音楽	1	1				1	5	
「リチャード・グードピアノリサイタル」協賛	音楽	1	1				1	2	
「オラトリオ東京・第4回定期演奏会」協賛	音楽	1	1				1	1	
「中杉知子・ウェルカムコンサート」協賛	音楽	1	1				1	1	
「シネマ・クラシック・コレクションズ97」協賛	音楽	1	1				1	5	
「モーツァルトピアノ協奏曲・全曲演奏会 vol. 2」協賛	音楽	1	1				1	1	
「名古屋フィルハーモニー交響楽団・定期・特別演奏会」協賛	音楽	1	1				1	2	
「Sun & Star 1996」支援	音楽・美術・演劇	1	1・3・4・5	1	1	1	1・2・3	1	10
「新しい音に遊ぶー現代音楽のタベ」協賛	音楽	1	2				1	1・5	
「歌舞劇「ボッペアの戴冠」」協賛	音楽	1	3				1	2	
「第10回船橋市民オペラ「ヘンゼルとグレーテル」」協賛	音楽	1	3				1	3・5・9	
「神戸アーバンオペラハウス「椿姫」」協賛	音楽	1	3				1	2・3・9	
「オペラ・バンビーノ「魔笛」」協賛	音楽	1	3				1	4・9	
「'97日中オペラガラコンサート」協賛	音楽	1	3				1	10	
「エイジアン・ファンタジィ1996」協賛	音楽	1	4・5				1	2・10	
「邦楽合奏団「炎」トルコ演奏会」協賛	音楽	1	5				1	3・10	
「第6回インターナショナル・オルガン・フェスティバル・インジャパン」協賛	音楽	1	7				1	2・10	
「スペシャルオリンピックス東京・チャリティーコンサート「内藤敏子チャターリサイタル」」協賛	音楽	1	7				1	6	
「ヤマサリ日本公演'96」協賛	音楽	1	7				1	10	
「原荘介とブリュッセル弦楽四重奏団」協賛	音楽	1	7				1	2・10	
「アジアの芸術広場96」協賛	音楽	1	7				1	1・10	
「神蔵香芳+FREE WORLD BIG BAND「月と遊園地」」協賛	音楽	1	7				1	2	
「とよたミュージックバトル96」協賛	音楽	1	7				1	1・3・4・5・9	
「アート講座ーアートを学ぶ(音楽)」協賛	音楽	6	1				1	5	
「カザルスホール倶楽部」協賛	音楽	2	1				1	11	
「名古屋フィル・新日本フィル・日本フィル・NHK交響楽団」への賛助	音楽	3	1				1	2	
「財日本交響楽振興財団」への賛助	音楽	3	1				1	2	
「親と子のクラシック入門講座」協賛	音楽	6	1				1	4・5	
「トヨタアートマネジメント講座」開催(札幌・神戸・岡山・福岡)	美術・演劇						2	5・11	

「エイブル・アート・フォーラム'96」開催(札幌・八戸・神戸・三原・熊本)	美術	1・5	1・3	2	5・6・11	
「トヨタコミュニティアート」開催(奈良・兵庫)	美術	1	3	2	1・9	
「今日の日本美術展パートII 一と地の間に」協賛	美術	1	3・6	1	1	
「中国歴史博物館名品展」協賛	美術	1	1・3・6	1	5・10	
「デ・ジェンダリズム展」協賛	美術	1	1・3・4・6	1	2・5	
「枠組みの間で：フォーラム展」協賛	美術	1	6	1	2・5	
「エイブル・アート展」協賛	美術	1	1・3	1	5・11	
「ワンダーアートコレクション96」協賛	美術	1・2	1・3	1	3・11	
「デゾ・ホフマン「ビートルズ写真展」」協賛	美術	1	4	1	5	
「ASEAN 写真展「EYES ON ASEAN」」協賛	美術	1	4	1	5・10	
「第46回豊田美術展」協賛	美術	1	1・3	1	1・2・3・9	
「第34回豊田市民美術展」協賛	美術	1	1・3	1	1・2・3・9	
「豊田市美術館「劉生と御舟展」」協賛	美術	1	1・3	1	2・9	
「名古屋ボストン美術館」開館準備支援(発起人会支援)	美術	4	6	1	9	
「現代美術投稿雑誌「アートコム」」協賛	美術	5	6	1	1・5	
「第5回プリンツ21グランプリ展」協賛	美術	7	2	1	1	
「アート・オン・ザ・ネット・インターネットの挑戦1996」協賛	美術	8	6	1	11	
「和泉宗家・狂言フィリピン公演」協賛	演劇		1	2	1	2・8・10
「和泉宗家・狂言イギリス公演」協賛	演劇		1	2	1	2・8・10
「第2回シアターコクーン戯曲賞」協賛	演劇		1・4	3	1	1
「ギイ・フォワシイ・シアター20周年記念「ギイ・フォワシイ・フェスティバル」」協賛	演劇		1	3	1	2
「ギイ・フォワシイ・シアター公演「シカゴブルース」」協賛	演劇		1	3	1	2
「瑠華殿「バビロンより愛をこめて」」協賛	演劇		1	3	1	2
「瑠華殿「REM」」協賛	演劇		1	3	1	2
「PEOPLE ART FESTA」協賛	演劇		1	3	1	2・6・11
「ミュージカル「シェルブールの雨傘」」協賛	演劇		1	4	1	1・4
「台湾の伝統人形芝居「布袋戯」日本公演」協賛	演劇		1	5	1	5・10
「ダンス・ダイナミクス・ワークショップ」協賛	舞踊				1	4・11
「'96サマーアートスクール(ダンス・ワークショップ)」協賛	舞踊				1	4・11
「舞踏鑑賞入門ワークショップ」協賛	舞踊				1	5
「横浜ダンスコレクション'97」協賛	舞踊				1	2・5
「ダンスセレクション'96」協賛	舞踊				1	2・5
「フィリピンバレエシアター日本公演」協賛	舞踊				1	2・10

「教育アニメ映画『星空のバイオリン』」上映会 映像 支援(札幌・青森県五戸町・熊本)		2	4・11
「民俗芸能・郷土文化にかかわる地域イベント」協賛(24件)	民文	1	8・9
「第21回新宿ケチャまつり」協賛	民文	1	3・9・10
「第2回日米合同俳句大会」協賛	文学	1	5・10
「豊田佐吉翁記念館保存会」支援	文歴	1	9
「薬師寺講堂薬師三尊像修復事業」支援	文歴	1	8
「第7回いけばなインターナショナル世界大会」協賛	造園	1	5
「第2回フラワーデザイン・コンペティション 東京カップ97」協賛	造園	1	5
「財日本民族工芸技術保存協会」への寄付	出捐	1	9
「第15回こうばこの会チャリティ公演」協賛	他	1	5・6
「よこはまメセナ研究会『市民メセナ』創刊号」 協賛	他	1	9
「よこはまメセナ研究会『アートマネジメント 講座』」協賛	他	1	5・9
「京都パブリック・アート研究会公開シンポジ ウム」協賛	他	1	5・11
「パブリックアート・フォーラム定例研究会(年 間5回)」協賛	他	1	5・11
「第10期アートマネジメント・トーニング・プ ログラム」協賛	他	1	5・11
「パブリックアート・フォーラム第3回全国シ ンポジウム」協賛	他	1	5・11

東亜建設工業株式会社

建設

資本金4 設立1920年 従業員3429人 予算決

メセナ活動基本方針

企業ができる社会貢献活動の一つとして考え、予算の範囲内で検討、実施する。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
日フィル第73回サンデーコンサート	音楽	1	1				1		7
靖國神社夜桜能	演劇					1	2	1	8

東京海上火災保険株式会社

損保

資本金6 売上高6 経常利益6 設立1879年 従業員1万4746人 ※総務部社会環境室(6人・1997年設置)

メセナ活動基本方針

良き企業市民として地域・社会に貢献する(経営方針の一部である)。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
トウキョウマリンギャラリー運営	美術・ 工芸・ グテ・ 服テ・ 書道		4		1・2・3・ 4・6			5	3・6

財五島記念文化財団	音楽・ 演劇	1・3	
東急広報委員会	出捐		1

東京電力株式会社

電力

資本金6 売上高6 経常利益7 設立1951年 従業員4万3115人 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 広く地域の要望にお応えする活動。
- 2 より多くのお客様が参加できる活動。
- 3 社員が汗を流すことのできる活動。
- 4 継続できる活動。
- 5 当社の設備やスペースを活用できる活動。
を基準として重点選別のうえ、すすめている。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
TEPCO1万人コンサート	音楽	1	3				2	3・5・9	
TEPCOふれあいツアーコンサート	音楽	1	4				2	3・5・9	
TEPCOおはなしキャラバン	演劇				1	3・5	2	4	
TEPCOファミリーミュージカル	演劇				1	3・4	2	4	
お客さま相談ギャラリーの開放	美術		4	3・6			5	1・7	
TOKYO演劇フェア'96への支援	演劇				1	3・4	1	7・9	

株式会社東京都民銀行

銀行

資本金4 売上高4 経常利益3 設立1951年 従業員1800人 ※広報室(1人・1992年設置)

メセナ活動基本方針

- 1 企業市民として芸術文化活動に対する支援を行う。
- 2 芸術文化活動の支援を通して地域社会の発展に貢献する。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
冠コンサート	音楽	1	1				1	2	

株式会社東京放送

サービス

資本金4 売上高4 経常利益5 設立1951年 従業員1512人

メセナ活動基本方針

- 一時的な団体・個人への支援というのではなく、できうるかぎり長期的に支援しようという方針です。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
「シカン展」成功でベルーのシカン博物館に寄付	美術・ 文歴		4	3・6			1	8・10	
劇団「四季」のシンガポール公演	演劇				1	4	1	7	
「日独イベロアメリカシンポジウム」	文歴・ 他						1	5	
「全国こども音楽会」	音楽	1	6				2	4	
財サントリー音楽財団	音楽	2	1・2・4				1	1・2	
財東京音楽祭	音楽	2・5	4				2	1・2	
財日本交響楽振興財団	音楽	1	1				1	1・2	
全国文化団体連盟	音楽	2	1・3・4				1	1・2	

社東京ファッション協会	服予・ 出捐				1	3
財古代学協会	文歴				1	11
日独協会	他				1	10
日本・エジプト友好協会	他				1	10
財エー・ピー・シー音楽振興財団	音楽	2	1・3・4		1	1・2
財川喜多記念映画文化財団	映像				1	11
日本放送芸術学会	映像				1	7
財放送番組センター	映像				1	7・8・11
財橋田文化財団	演劇				3	3・6 1 2・7

東邦ガス株式会社**ガス**

資本金4 売上高4 経常利益4 設立1922年 従業員3500人 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 地域の文化向上への貢献。
- 2 企業イメージの向上。
- 3 地域社会とのコミュニケーション。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
詩(自然や環境に関する)の募集「虹のこぼれ」	他							2・3	4
名フィルコンサート	音楽	1	1					2	4・5・6 9
ふれあい寄席	他							2・5	6・8・9
東邦ガスクラシック	音楽	1	1					2・5	1・2・6・9
栄ガスビルギャラリー	美術・ 他			1	6			2・5	1・2・5・ 7・9

東洋エンジニアリング株式会社**産業機械**

資本金4 売上高4 経常利益3 設立1961年 従業員1562人 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 国際社会への文化的貢献をはかる。
- 2 長期展望に立って、支援活動を継続する。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
カンボジア・アンコール遺跡救済活動	文歴							1・3	9・10

同和火災海上保険株式会社**損保**

資本金4 売上高4 経常利益5 設立1944年 従業員4105人 予算決

メセナ活動基本方針

メセナ活動は企業が果たすべき社会的役割の一つであるとの認識のもとに、社会的貢献度の高い支援を行っていく方針。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
若手芸術家支援展覧会(16回)	美術			1・4	1・2・4・ 5・6			5	1
主催音楽公演(24回)	音楽	1・2・3	1・4・5					1	7

共催音楽公演(4回)	音楽	1・2・3	1・4・5	1	7
共催映像公演(14回)	音楽・ 舞踊		3	1	7
貸館公演(174回)	音楽・ 演劇	1・3	1・4・5	1	7

株式会社十勝毎日新聞社**新聞**資本金**1** 売上高**1** 経常利益**2** 設立1919年 従業員206人

メセナ活動基本方針

- 1 地域文化の振興。
- 2 芸術・文化の啓発。
- 3 地元出身の芸術家等の育成・支援。
- 4 新聞社としての社会的責務・地域社会の期待・事業経営の調和。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
ピュッフェ展	美術			1	1			2	9
十勝文化会議	出捐							1	9
帯広交響楽団への支援	音楽	6	7					1	1
十勝小唄振興保存会	民文							1	8

株式会社栃木銀行**銀行**資本金**4** 売上高**3** 経常利益**4** 設立1942年 従業員1981人 ※広報文化部(9人・1994年設置)

メセナ活動基本方針

- 1 当行の経営理念の一つとして、社会貢献活動を明確に打ち出しており、1994年7月に社会貢献活動を推進する専門部署として広報文化部を新設。
- 2 メセナ活動を前向きな活動としてとらえている。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
栃木県子ども総合科学館第25回企画展	博物							1	5
第1/2回とちぎん文化セミナー	民文							2	5
とちぎんコンサートメラニーホリディニュー イヤールコンサート	音楽	1	3					1	5
尾島利雄受賞記念特別講演会	民文							1	5
宇都宮市立美術館への絵画寄贈	美術			2	1			4	5

凸版印刷株式会社**他製造(印刷)**資本金**6** 売上高**5** 経常利益**6** 設立1900年 従業員1万4000人 予算決

メセナ活動基本方針

当社の活動理念を情報・暮らし・文化に貢献する「コミュニケーション産業」と位置づけ、①印刷技術・デザインに関連した内容、②印刷周辺の関連分野(写真・絵画・書・出版など)、③地域社会に還元できるもの、の三つを活動の対象領域とする。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
'96年度読書感想画中央コンクール	美術・ 文学			6・7	1			1・4・6	4
プリンツ21版画グランプリ展	美術・ グテ			1・7	2			1・4	1・7
日本・オランダ現代美術交流展協力	美術			8	6			4	1・7・10

東京大学「歴史の文字」展協力	他					4	11
日仏文化交流支援委員会寄付	音楽・演劇・映像	1	2			1	7・10
印刷史料館企画展示運営	博物					2	

株式会社富山銀行

銀行

資本金³ 売上高² 経常利益³ 設立1954年 従業員525人

メセナ活動基本方針

平成7年度よりスタートした第4次中期経営計画における「地域により存在感のある銀行の実現」において、地域貢献活動の充実を明確に打ち出しています。また、「メセナ活動」という言葉は使用していません。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
福富ギャラリーー	美術・工芸・書道		1	1・2・3				1・3・5	9
城富ギャラリーー	美術・工芸・書道		1	1・2・3				2・3・5	9
守山町御車山御神体	民文							3	8

株式会社豊田自動織機製作所

自動車

資本金⁴ 売上高⁵ 経常利益⁵ 設立1926年 従業員9260人

メセナ活動基本方針

社会貢献活動を通じて、広く社会に親しまれる良い会社をめざす。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
ギター・マンドリンアンサンブル「エーデルワイス」コンサートへの協賛	音楽	1	1・4・5・6					1	3
「刈谷市市民吹奏楽団」定期演奏会への協賛	音楽	1	1・4					1	3
「大府市市民吹奏楽団」定期演奏会への協賛	音楽	1	1・4					1	3
薬師寺三尊像修復に対する寄付	文歴							1	11
「EUジャパンフェスト」開催に対する寄付	出捐							1	10
刈谷市大名行列保存会「刈谷大名行列」開催	民文							1	8
「佐藤友相と日本音楽アンサンブル」への協賛	音楽	3	5					1	8
刈谷文化協会(会員)	出捐							1	9
「名古屋フィルハーモニー交響楽団」への協賛	音楽	3	1					1	9
「刈谷かく展うつす展」への協賛	美術			1	1・4			1	3
「豊田佐吉翁記念館保存会」支援	博物							1	11

豊田通商株式会社

商業

資本金⁴ 売上高⁶ 経常利益⁴ 設立1948年 従業員2000人

メセナ活動基本方針

1 [企業理念]

人・社会・地球との共存共栄をはかり、豊かで快適な地球社会づくりに貢献する総合企業をめざす。

2 [行動指針]

良き企業市民として社会に貢献する。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	
名古屋ボストン美術館の運営	美術		4	1・2・3・4			1	7・9・10
名古屋フィルハーモニー交響楽団賛助	音楽	1	1・2・4				1	3・5・9
佐藤友相と日本音楽アンサンブル賛助	音楽	1	5				1	5・7・8・9
徳川美術館に対する寄付	美術		4	1・2・3			1	5・8・9
EUジャパンフェスト日本委員会への寄付	出捐						1	7・8,9,10
国際陶芸アカデミー開催費用賛助	美術		1	1・2・3			1	5・7・8・9・10
豊田佐吉翁記念館運営に対する寄付	文歴						1	8・9
産業技術記念館運営に対する寄付	博物						1・2	5・7・8・9

東レ株式会社

繊維

資本金5 設立1926年 従業員9791人

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	
財日本フィルハーモニー交響楽団加入	音楽	1	1				1	1・2
財新日本フィルハーモニー交響楽団加入	音楽	1	1				1	1・2
財東京フィルハーモニー交響楽団加入	音楽	1	1				1	1・2
財スターダンサーズバレエ団加入	舞踊						1	1・2
財古代学協会加入	文歴						1	11
財三井文庫加入	文歴						1	11
財芸術文化交流の会加入	出捐						1	11
全国高等学校文化連盟かるた大会ユニフォーム寄贈	他						4	4
木曾福島町第22回木曾音楽祭協賛	音楽	1	1				1	9
軽井沢町第29回軽井沢氷まつり協賛	他						1	9
社ドイツ「恵光」日本文化センター建立奉賛金	出捐						1	10

株式会社ナイガイ

繊維

資本金3 売上高3 経常利益3 設立1920年 従業員1133人

メセナ活動基本方針

- 1 企業理念として、「芸術と技術の統合によって、高質で、生活者の美意識を満足させる商品を提供する。グローバルな視点から環境保全に努力し、美しい文化を持った美しい企業」を掲げている。
- 2 企業の社会的(貢献)活動の一つとしてとらえているが、企業にとって利潤の確保が前提であると考えており、社会的責任においては応分の活動をすべきであると思う。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	
新星日本交響楽団への賛助金	音楽	1	1				1	1・2
新日本フィルへの賛助金	音楽	1	1				1	1・2

株式会社ナムコ							サービス			
資本金 ⁴ 売上高 ³ 経常利益 ⁴ 設立1955年 従業員2191人 ※財ニューテクノロジー振興財団										
メセナ活動基本方針										
当社では“遊び”の事業化全般に取り組んでおり、メセナ活動のテーマ上でも遊び心のある提案に対して積極的に取り組みたいと考えている。										
広義の“遊び”、“遊び心”を通して文化・社会・地域へ広く貢献を果たしていくことを基本姿勢とする。										
活動名	芸術分野	分野が音楽	支援内容	ジャンル	分野が美術	支援内容	ジャンル	分野が演劇	支援形態	支援目的
第21回新宿ケチャまつりへの寄付			舞踊・ 民文						1	3・4・9
東京国際映画祭への協賛			映像						1	7・9・10

株式会社名古屋銀行							銀行			
資本金 ⁴ 売上高 ⁴ 経常利益 ⁴ 設立1949年 従業員2900人										
活動名	芸術分野	分野が音楽	支援内容	ジャンル	分野が美術	支援内容	ジャンル	分野が演劇	支援形態	支援目的
名古屋銀行コンサート			音楽	1	1				2	9

ニチハ株式会社							他製造			
資本金 ³ 売上高 ³ 経常利益 ⁴ 設立1956年 従業員1134人										
活動名	芸術分野	分野が音楽	支援内容	ジャンル	分野が美術	支援内容	ジャンル	分野が演劇	支援形態	支援目的
名古屋フィルハーモニー交響楽団			音楽	1	1				1	3・9

西松建設株式会社							建設			
資本金 ⁴ 売上高 ⁵ 経常利益 ⁵ 設立1960年 従業員5900人										
活動名	芸術分野	分野が音楽	支援内容	ジャンル	分野が美術	支援内容	ジャンル	分野が演劇	支援形態	支援目的
サウンドコニファー229			音楽	1	4				1	1

日動火災海上保険株式会社							損保			
資本金 ⁵ 設立1914年 予算決										
メセナ活動基本方針										
芸術・文化振興に資することを基本に、下記の3点を中心に活動している。										
1 地域社会への芸術・文化の紹介。										
2 芸術・文化イベントへの協賛。										
3 若手芸術家の育成・顕彰。										
活動名	芸術分野	分野が音楽	支援内容	ジャンル	分野が美術	支援内容	ジャンル	分野が演劇	支援形態	支援目的
イベントスペース「日動キュリオ」で文化人を中心に、本人紹介の展示・トークショーを開催	美術・ 映像・ グデ・ 文学				5	6			1	2・5・7・ 9
毎日新聞社主催「アイルランド国立美術館所蔵19・20世紀フランス近代絵画展」協賛	美術			1	1				1	5・11
東京国立博物館主催特別展「法隆寺献納宝物展」協賛	美術・ 博物			1	1・3・6				1	5・11

和栗由紀夫+好善社舞踏公演「エローラ〜石 舞踊の夢」		1	2・7
ニッサン童話と絵本のグランプリ	文学	2・5	3・4
日産おはなしの部屋	文学	2	4・5・11
ゆかいな絵本と童話展	文学・ 他	2	1・2・4・ 5
国際アンデルセン賞	文学・ 出捐	1	2・4・10
日本国際図書評議会(JBBY)	文学・ 出捐	1	4・5
文化財保護振興財団	文歴・ 出捐	1	8
日本NPOセンター	出捐	1	11
企業メセナ協議会	出捐	1	11

日新電機株式会社

重電

資本金⁴ 売上高³ 経常利益³ 設立1917年 従業員3441人 予算決

メセナ活動基本方針

宗教、政治的にかたよらないこと。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
グリーン・コンサーツVol. 6	音楽	1	1・2・3			1	1・2・3		
メセナの神髄コンサートPartII	音楽	1	1・2			1	1		
藤家深子コラボレーションVol. 1	音楽	1	2			1	1		
和波孝禧ヴァイオリンリサイタル	音楽	1	1			1	1		
シャクティインド舞踊公演	舞踊					1	2		

日精樹脂工業株式会社

産業機械

資本金³ 売上高² 経常利益³ 設立1947年 従業員860人

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
TSB児童画展	美術			6	2			1	4

日鐵ドラム株式会社

金属製品

資本金³ 売上高² 経常利益³ 設立1934年 従業員260人 予算決

メセナ活動基本方針

当社単独でメセナ活動ができる規模ではなく余裕もない。新日鐵グループのなかで共同して行う活動に参加している。可能になればいずれは単独でも社会貢献したいと考えている。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
新日鐵主唱の財団「新日鐵文化財団」への基金出資	音楽	2・5	1・5			1	1・2・8		

日本アイ・ピー・エム株式会社

産業機械

資本金⁶ 売上高⁶ 経常利益⁷ 設立1937年 従業員2万580人 予算決

メセナ活動基本方針

1 社会貢献の一環として。

- 2 自社のイメージ向上のため。
3 自社の企業文化の確立をめざして。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
日本IBMバレー奨学金	舞踊						1・4	1・4
上野の森美術館大賞展	美術			1・6	1		1・5	1・3・5・7
IBMびわこ現代絵画展	美術			1・6	1		1・2・3	1・2・3・7・9
かわさきIBM市民文化ギャラリー	美術			1・4	1・2・5		5	1・2・5・7・9
飛鳥村文化財保存協力	文歴						1	11
交響楽振興支援	音楽	3	1				1	2・5
オペラ・オペレッタ振興支援	音楽	3	3				1	2・5

日本アムウェイ株式会社

その他(ダイレクト・セリング)

資本金4 売上高4 経常利益6 設立1977年 従業員788人 予算決

メセナ活動基本方針

当社の経営理念の基本は日本の方々の生活向上にお役立てすることです。品質を誇る製品とサービスの提供を通して、また、文化(芸術)のサポート活動を通してその使命を遂行することが、良き企業市民としての責任であるとも考えます。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
リチャード・グードピアノリサイタル	音楽	1	1				1	11
ヨーヨー・マ	音楽	1	1				1	11
インターリンク'96	音楽	1	2				1	10
東京国際書道展	書道						1	10
興福寺国宝展	文歴						1	8
極北のイヌイットアート展	美術			1・2	2・3		1	10
ビル・リード展	美術			1	2		1	10

日本ガイシ株式会社

ガラス窯業

資本金4 売上高4 経常利益5 設立1919年 従業員4457人

メセナ活動基本方針

- 1 地元芸術・文化団体への支援。
2 事業関連分野への芸術・文化支援活動。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的	
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容			ジャンル
名古屋フィルハーモニー交響楽団	音楽	3	1				1	2・5・9	
日本棋院中部総本部	他						1	8	
日本室内楽アカデミー友会	音楽	3	1				1	2・5	
アクターズフェスティバルNAGOYA	演劇					1	3	1	2・5・9

日本火災海上保険株式会社

損保

資本金⁵ 売上高⁵ 経常利益⁵ 設立1944年 従業員6329人

メセナ活動基本方針

幅広い事業活動を通して、豊かな社会の発展に貢献する。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
日本バレエ協会コンクール	舞踊							1	1
国際親善交流特別演奏会	音楽	1	1					1	10

日本橋梁株式会社

鉄鋼

資本金³ 売上高² 経常利益² 設立1919年 従業員505人

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
大阪フィルハーモニー後援	音楽	3	1					1	11

日本航空株式会社

航空

資本金⁶ 売上高⁶ 経常利益⁸ 設立1953年 従業員1万9018人 ※財日航財団 予算決

メセナ活動基本方針

企業特性を生かし、

- 1 国際交流・文化交流に通じる活動を支援。
- 2 従来から取り組んでいるものを継続実施。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
日航財団の運営	他							2	4・7・10
世界こどもハイクコンテスト	文学							2・3	4・10
アートフォーラム	他							2	7
京都音舞台	音楽	1	1・2・5					2・3	2・5・6・9・10
JALクラシックスペシャルニューアーティ ストシリーズ	音楽	1・4	1					2	1・5・9
東京オペニオンズ	音楽・ 演劇	1・2	1・2・3・ 4			1・2	3・4	1・3	2・9
PMFコンサート	音楽	4	1					1	1・4・5・ 9・10
JALチャリティ・トークコンサート	音楽	1	1・4					2	1・6・9
「都市と芸術」展など各種美術展・企画展への 協賛(74件)	美術・ 工芸			1	1・2・3・ 4・5			1	5・10
ポアンJALでのギャラリー活動(パリ支店)	美術			1・4	1・6			2・3・5	1・3
日露交歓コンサート	音楽	1・4	1					1	1・4・10
アリオン音楽財団「東京の夏」音楽祭	音楽	1	1・7					1	2・9・10
ブーブドクリコフォトコンテスト	美術			7	4			1	10

日本酸素株式会社

化学

資本金⁴ 売上高⁴ 経常利益³ 設立1910年 従業員1977人 予算決

今治みなと祭り協賛と出演	民文		1・4	9
今治市民劇場協賛	演劇	1	1	3
獅子舞の保存伝承と育成	民文		1・5	8
ケーオークラブの育成	音楽・ 民文・ 文学	1	1・3・5	9

日本信販株式会社

他金融

資本金4 売上高6 経常利益5 設立1951年 従業員7639人 予算決

メセナ活動基本方針

当社では、文化・芸術支援の一つとして地元・文京区に暮らす方々や、若手のアーティストたちに作品の発表の場を提供できればと「人々に開かれたアートスペース」をコンセプトとしてNICOSギャラリーを運営している。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
NICOSギャラリーの運営	美術・ 工芸・ グテ・ 書道・ 現建		1・4	1・2・3・ 4・5・6			2	1・3・9	

日本たばこ産業株式会社

食品

資本金6 売上高6 経常利益7 設立1985年 従業員2万2160人 ※企業文化部(7人・1994年設置)/財アフィニス文化財団 予算決

メセナ活動基本方針

JTの文化施設を拠点とした、また、関連する財団との連携による文化活動を通じた「芸術・文化」への継続的貢献を行う。

- 1 JTアートホールでの活動、アフィニス文化財団を通じた活動により、クラシックを中心とした音楽文化の向上に寄与する。
- 2 たばこ壺の博物館の活動を通じ、たばこ壺を切り口とした、歴史・文化を伝えることにより、それらとのふれあい・発見の場を提供する。
- 3 生命誌研究館の活動を通じ、科学が本来持っている文化としての側面を伝えるとともに、多様性と共通性をあわせ持つ生き物の世界から見えてくる「人間」とらえる、新しい視点を提供していく。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
アフィニス文化財団の運営	音楽	1・4	1				6	1・2	
JTアートホール室内楽シリーズの開催	音楽	1	1				2	1・2・5	
JTアートホールアフタヌーンコンサートの開催	音楽	1・4	1・7				2	1・5	
生命誌研究館の運営	博物						2	5・11	
たばこ壺の博物館の運営	博物						2	5	

株式会社日本長期信用銀行

銀行

資本金6 売上高6 経常利益8 設立1952年 従業員3821人 予算決

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
長銀アトリウムギャラリーの運営	美術		4	1・2・3・ 4・6			5	5・7・8	
ティータイムコンサートシリーズ	音楽	1	1・5				2	5	

日本電気株式会社

他電機

資本金6 売上高6 経常利益7 設立1899年 従業員4万788人 ※広報部社会貢献推進室(15人・1991年設置) 予算決

メセナ活動基本方針

当社の企業理念「NECはO&Oを通して、世界の人々が相互に理解を深め、人間性を十分に発揮する豊かな社会の実現に貢献します」にもとづき、良き企業市民として、ワールドワイドにメセナ活動を推進する。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
NECスーパータワーコンサート(第13回～14回)	音楽	1	1					2	9
ボストン交響楽団10コンサート支援	音楽	1	1					1	2・10
東急Bunkamuraオフィシャルサブライマー	音楽・美術・演劇・映像							1	5
日本フィル交響楽団創立40周年記念第3回ヨーロッパ公演	音楽	1	1					1	2・10
アラウンドシンガーズ“the Third Major”	音楽	1	7					1	3・10
新日本フィル定期演奏会(第240回・243回)	音楽	1	1					1	2
ストラディヴァリウス・サミット室内オーケストラ	音楽	1	1					1	2
'96サイトウキネンオーケストラライン松本	音楽	1	1・3					1	2・9
日本の音とこころ展	音楽	1	7					1	7・8
モーツァルト・ピアノ協奏曲全32曲連続演奏会(第1回・2回)	音楽	1	1					1	1
ハンブルク現代日本美術展	美術			1	2			1	7
パッサ・コレギウム・ジャパン定期演奏会およびCD制作	音楽	1・6	1					1	11
フェスティバル「リヒトウング96」	音楽	1	2					1	7
JMSコンサート	音楽	1	1					1	1
国際親善交流特別演奏会	音楽	1	1					1	1・10
日本フィル「20世紀の作曲家たち」シリーズ第3～5回	音楽	1	2					1	7
現代日本陶磁の秀作/アジア巡回展	美術			1	6			1	7・10
港区政50周年事業「Art Kunst Festival96」	音楽	1	1					1	9
魅惑のアーティストシリーズ「川本嘉子/中野振一郎」	音楽	1	1					1	1
Meta Media展	美術			1	6			4	7
ジャパン・ヴィルトゥオーゾ・シンフォニー・オーケストラ	音楽	1	1					1	2
バルセロナ国際ギターフェスティバル	音楽	1	1					1	2
クロス・ザ・バルーンIN神戸	美術							1	9
シネマ・クラシック・コレクションズ'97	音楽	1	1					1	5
新しい音に遊ぶ現代音楽のタベ	音楽	1	2					1	1・7

クラシックはいかがア～きいてみないかオーケストラ	音楽	1	1			1	5
東京室内歌劇場「ボッペアの戴冠」	音楽	1	3			1	7・11
NEOマルチメディアアート大賞	美術		7	6		2	1

日本電信電話株式会社

通信

資本金6 売上高7 経常利益7 設立1985年 従業員18万2482人

メセナ活動基本方針

- 1 新しいコミュニケーション文化の形成。
- 2 良き企業市民としての役割を果たす。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
NTTインターコミュニケーションセンター 他 の設立準備	他								
NTT-N響コンサート	音楽	1	1						
NTTふれあいトーク大賞	他								
東急Bunkamuraオフィシャルサブライヤ ー	他								
カザルスホール特別演奏会	音楽								
小川未明文学賞	文学								
南越王の至宝展	美術			1	6				
縄文まほろば博	文歴								
地球環境ジュニア国際会議	他								

日本メナード化粧品株式会社

化学

資本金1 売上高4 経常利益4 設立1959年 従業員1250人

メセナ活動基本方針

「女性がより美しく魅力的に、そして永遠に若々しくあってほしい」という願いを込めて、化粧品を通じて女性美に貢献してきた。そして美術品により、精神的豊かさ・充実感を加えたバランスのとれた美を提供していきたい。

- 1 美術品の保護(人類共有の財産でもある文化遺産の保護)。
- 2 地域社会への貢献。
- 3 美と文化に貢献するという企業理念の実現。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
メナード美術館の運営	美術			2・3・4	1・2・3			2・5	5・7・9
名古屋をどり協賛	舞踊							1	1・2・8
和泉流狂言協賛	演劇					1	2	1	1・2・8
名古屋フィル支援	音楽	1	1					1	1・2・7
以文会書展協賛	書道							1	1・2・9

株式会社八十二銀行

銀行

資本金5 売上高4 経常利益5 設立1931年 従業員3948人 ※財八十二文化財団 予算決

メセナ活動基本方針

当行の経営理念「健全経営を堅持し、もって地域社会の発展に寄与する」の趣旨にもとづき財八十二文化財団を主体にメセナ活動が行われている。

財八十二文化財団は芸術・文化面から地域社会の発展に寄与することを目的に1985年に設立された。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
財八十二文化財団の運営	他						2	9

株式会社阪神百貨店**百貨店**

資本金**3** 売上高**4** 経常利益**3** 設立1957年 従業員1655人 ※販売促進部

メセナ活動基本方針

- 1 人の心をなごませ、精神的な高揚のある創作(家)を広く一般に紹介する。
- 2 地域的文化性の高い文化芸術を支援する。
- 3 メセナ活動を通じ、地域社会への貢献の一つとする。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
斎藤清版画展	美術		1	2			2	2・5
大本山永平寺展	他						2	5
相川伸一郎展	美術		1	1			2	1・5
日本クラフト展	工芸						2	5・7
大阪の伝統工芸品展	工芸						5	5・9
鶴田一郎展	美術		1	1			2	1・5・7
手技工房展	工芸						2	5・9
松永真クリース展	美術		1	2・3			2	2・5・7

ビジョン株式会社**他製造**

資本金**3** 売上高**2** 経常利益**3** 設立1957年 従業員389人 ※総合企画室PRグループ(4人・1976年設置) 予算決

メセナ活動基本方針

国際交流を含めて、若手芸術家支援と企業PR。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
パシフィック・ミュージック・フェスティバル	音楽	1	1				1	1・3・6・7・10

ヒロセ電機株式会社**電機部品**

資本金**3** 売上高**3** 経常利益**5** 設立1948年 従業員629人

メセナ活動基本方針

- 1 社会貢献活動の一つとして実施する。
- 2 芸術・文化の振興に寄与することにより会社のイメージ向上をはかる。
- 3 日本文化の世界への発信を期待する。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
オペラ「忠臣蔵」	音楽	1	3				1	2・5

株式会社びわこ銀行**銀行**

資本金**4** 売上高**3** 経常利益**3** 設立1942年 従業員1352人 ※業務渉外部隣人室(1人・1973年設置) 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 企業文化の地域への還元。

- 2 地域文化への貢献。
- 3 業務部隣人室を通じた地域への社会活動および協賛活動。
- 4 緑化事業助成、県下の伝統芸能の育成。
- 5 有望な芸術家の育成、助成、支援。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
「湖国と文化」(歴史・文化情報誌)への協賛	出捐							1	9
滋賀県技能フェアへの協賛	他							1	11
障害者アートフェスティバルインしがへの協賛	他							1	11
江州音頭フェスティバルへの協賛	民文							1・3	8
草の根子ども善行賞への協賛	他							1・3	11
びわ湖シネマフェスタへの協賛	映像							1	9
びわ湖音楽祭への協賛	音楽	6	7					1	11

東日本旅客鉄道株式会社

鉄道

資本金6 売上高6 経常利益7 設立1987年 従業員7万9635人 ※経営管理部(2人・1992年設置)/財東日本鉄道文化財団

メセナ活動基本方針

- 1 地域社会と密接な関係を持つ当社の事業を通じて、新しい価値を創造し、社会に貢献する企業文化を築いていく。
- 2 上記の考え方にもとづき、文化事業に取り組むために、財東日本鉄道文化財団を1992年に設立し、以下の三つを柱として積極的に社会貢献および文化活動を行う。
 - ① 鉄道を通じた地域文化の振興。
 - ② 鉄道経営、鉄道技術に関する調査・研究の促進。
 - ③ 鉄道にかかわる国際文化交流活動の推進。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
「日本の自然を描く展」への協賛	美術			5	1			1	3
「毎日写真コンテスト」への協賛	美術			5	4			1	3
「産経児童出版文化賞」への協賛	文学							1	2
「読売小中学生作文コンクール」への協賛	他							1	4
「ピティナピアノコンクール」への協賛	音楽	4	1					1	4
「世界のお巡りさんコンサート」への協賛	音楽	4	1					1	10
「縄文まほろば博覧会」への協賛	文歴							1	11
東日本鉄道文化財団への出捐	出捐							1	7・8・9・10

株式会社肥後銀行

銀行

資本金4 売上高4 経常利益5 設立1925年 従業員2785人 ※企画部広報課・地域文化課(4人・1990年設置)

メセナ活動基本方針

- 1 地域社会への貢献活動の一環として、優れた芸術文化活動の鑑賞機会を地域に提供するなど、地域の文化向上に貢献すべく継続的に取り組んでいく。
- 2 地域と心のかようコミュニケーションを通じて、文化交流の促進をはかり、存在感のある活動を行う。
- 3 当行の企業文化創造に合致した活動で、しかも、行員の共感を呼び、意識の高揚がはかれる活動とする。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
小澤征爾&新日本フィル	音楽	1	1					1	9
ニューイヤーコンサート	音楽	1	1					1	9
ブーニンピアノリサイタル	音楽	1	1					1	9
フォルツヴァング美術館展	美術			1	1			1	9
レニングラードバレエ団公演	舞踊							1	9

日立機電工業株式会社

産業機械

資本金③ 売上高② 経常利益③ 設立1956年 従業員820人 予算決

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
大阪フィルハーモニー協会への資金援助	音楽	3	1					1	2
関西フィルハーモニー協会への資金援助	音楽	3	1					1	2

株式会社日立製作所

他電機(総合電機)

資本金⑥ 売上高⑥ 経常利益⑥ 設立1920年 従業員7万2193人 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 企業が社会の一員であることを深く認識し、社会活動のため、当社の有する有形・無形の資源を有効に活用する。
- 2 学術・文化・教育を積極的に奨励・支援する。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
別府国際ジャズフェスティバル協賛	音楽	1	2					1	1・2・11
国立文楽劇場	演劇					1	1	1	8
天王洲アーツフィア	美術			8	1・4・6			1	11
大道芸ワールドカップ	他							1	10・11
バンダイ子どもミュージカル	演劇					1	4	1	4・11
日立カルチャー講演会	他							2	11
日立カルチャースペシャル	他							2	11
スミソニアン博物館への支援	博物							1	9・10・11
創作舞踏「大敦煌」公演への寄付	舞踊							1	10
写真展「EYES ON ASEAN」への寄付	美術			1	4			1	10
第40回欧州囲碁大会への協賛	他							1	10
第1回欧州女性囲碁選手権大会への協賛	他							1	10
第11回全米囲碁選手権大会への寄付	他							1	10
地域伝統芸能活用センター	民文							1	8・9
劇団「橋の美」	演劇					1	3	1	2
東京オペラシティ文化財団への寄付	音楽・演劇・舞踊・他	1・2	1・2・3・4・7			1・2	3・4	1	7・11
松山バレエ団への寄付	舞踊							1	2
読売日響「日立コンサート」協賛	音楽	1	1					1	2

第82回二科展協賛	美術		1			1	3
東急Bunkamura協賛	音楽・ 美術・ 演劇・ 舞踊・ 工芸	2	1・2・3・ 4・5	4	1・2・3・ 4	3・4	1 2・7
囲碁教室実施	他					2・3	4
NYシンフォニックアンサンブル公演協賛	音楽	1	1			1	2・10
ケイトグリーンウェイ世界展協賛	美術		1			1	11
「ユージンスミスの見た日本」写真展協賛	美術		1	4		1	2・11
国際アマチュアペア囲碁選手権大会協賛	他					1	3
囲碁十段戦	他					1	11
シンガポールライトアップ	他					1	6・10

日立プラント建設株式会社**建設**

資本金³ 売上高⁴ 経常利益⁴ 設立1929年 従業員2514人 ※社長室広報部(15人・1988年設置) 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 地元貢献活動の一環。
- 2 企業のイメージアップ。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
地元コンサートの協賛(2回)	音楽	1	1					1	9
大塚阿波踊り協賛	民文							1・3・4	9

日野自動車工業株式会社**自動車**

資本金⁴ 売上高⁴ 経常利益⁵ 設立1942年 従業員9246人 予算決

メセナ活動基本方針

現在まで本社所在の地域について実施してきたが、将来的にはもう少し幅を広げていきたい。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
日野自動車コミュニティコンサート、古澤巖 ヴァイオリンコンサート	音楽	1	1					2	9

株式会社百五銀行**銀行**

資本金⁴ 売上高⁴ 経常利益⁵ 設立1878年 従業員2969人

メセナ活動基本方針

地域貢献活動の一環として取り組んでいる。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
シャルル・デュトワ指揮「モントリオール交響 楽団」コンサート	音楽							1	9

株式会社広島銀行**銀行**

資本金⁵ 売上高⁴ 経常利益⁸ 設立1878年 従業員4201人 ※広報文化部(1人・1992年設置)/財ひろしま美術館 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 当行は「地域社会への密着と奉仕を強力に推進する」を基本理念に掲げ、銀行本来業務で良質のサービスを提供することはもちろん、本業以外でも地域社会の発展のため、幅広い活動を行っている。
- 2 メセナ活動もその一環であり、財ひろしま美術館の運営、および広島交響楽団への協力を中心に、地域の芸術文化活動を支援している。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
財団法人ひろしま美術館の運営	美術			1・2・3 4	1・2・3			2	9
広島交響楽団の支援(①冠コンサートの実施 ②年会費の抛出)	音楽	1	1					1・2・3	9
「スペイン舞踊団フラメンコ公演」の主催	舞踊							2	9
日本能楽芸術振興会「橋の会」への寄付	演劇					1	2	1	8
「広島音楽文化協会」への寄付	音楽	6	1・4・5					1	9
広島県立美術館開館記念広告協賛	美術			8	1・2・3			1	9

広島建設工業株式会社

建設

資本金³ 売上高² 経常利益² 設立1947年 従業員1171人 予算決

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
ヒロケンバレンタインコンサート	音楽	1	3					2	11

株式会社広島総合銀行

銀行

資本金⁴ 売上高³ 経常利益² 設立1923年 従業員2340人 ※広報文化部(広報課・文化事業室)(8人・1989年設置) 予算決

メセナ活動基本方針

豊かな地域社会づくりに貢献するため、地域の経済的・文化的発展に貢献する。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
ヒロソー花のニューイヤーコンサート	音楽	1	1					2・3	2・9
ヒロソー花の広場	他							2・3	9

フィリップモリス株式会社

その他(たばこの輸入および販売)

資本金¹ 設立1985年 従業員160人 ※広報部パブリックリレーションズ(4人) 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 グローバルに事業を展開する企業として、各地域社会の伝統や文化に対応した柔軟な考え方で、地域社会とのコミュニケーションをうながす活動を行う。
- 2 芸術分野での支援においては、大胆で革新的であること、文化的多様性を持ったものであることを基本理念とする。
- 3 イマジネーション、イノベーション、クリエイティビティにあふれる芸術を支援することで、自らも受益者となりうる。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
日本美術修復計画	美術			5	1			1	
日本美術修復計画カレンダー基金	美術			8	1			2	

フィリップモリスアートアワード1996	美術・映像・工芸	7	1・2・3・4・5	2
アメリカン・バレエシアター	舞踊			1
高松宮殿下記念世界文化賞	出捐			1

株式会社フォーバル 通信機

資本金**3** 売上高**2** 経常利益**3** 設立1980年 従業員700人 ※フォーバル・ファンデーション 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 フォーバルの企業コンセプトは「若さ」「国際性」「文化性」。
- 2 「若い」才能を「文化」の面で「国際的に」飛躍させる手助けを通じ社会貢献を果たす。
- 3 音楽は世界の共通語「名器は才能を伸ばし、才能は名器を生かす」と考えている。
- 4 希少高価のため個人では入手や使用の困難な「弦楽器分野での無償貸与システム」で名器と才能の出会いの場をつくる。
- 5 これから世に出ようという「若い才能の芽」を対象に広く門戸を開放し、「公正なコンクール審査」で貸与者を決定する。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
フォーバル・スカラシップ・ストラディバリウス・コンクール	音楽	4	1					1

株式会社フジ スーパー

資本金**4** 売上高**4** 経常利益**3** 設立1967年 従業員2210人 予算決

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
広島交響楽団コンサート	音楽	1	1				2	2・5・9
アートギャラリー運営	美術			4	1・2・3・4・5		2・5	1・3・5・9

フレックス株式会社 スーパー

資本金**3** 売上高**2** 設立1973年 従業員1052人

メセナ活動基本方針

- 1 地域社会のお役に立つこと。
- 2 地域の芸術文化の普及に貢献できること。
- 3 当社の企業規模で協力できること。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
アルスノバコンサート	音楽	1	1				1	9
とちっこかやの木	文学						1	9

富士火災海上保険株式会社 損保

資本金**4** 売上高**4** 経常利益**5** 設立1918年 従業員9000人 予算決

メセナ活動基本方針

芸術文化の振興と社会貢献の一環として、自社余力の範囲で支援していく。これにより、企業イメージの向上と企業文化の確立を地道にすすめていく。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
富士火災トワイライト・コンサート	音楽	1	1・2・4					2	6
富士火災アートギャラリー	美術			1	3			2	1

富士急行株式会社**鉄道**資本金**3** 売上高**2** 経常利益**3** 設立1926年 従業員1078人 予算決

メセナ活動基本方針

創業以来の当社経営理念である「地域とともに発展する富士急行」のもと、

- 1 富士山を中心とした環境保全。
- 2 地域社会の文化の向上。
- 3 社会貢献。
等を推進する。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
コンサート「サウンドコニファー229」への無料招待	音楽	4	4					2	9
ハイランドリゾートサマーコンサート開催	音楽	4	1					2	5・9
ギャラリーートレイン地元小学生の描いた絵を列車内に展示	美術			1	1			2・4	9
社ユネスコ連盟露木賞への寄付	文学							1	1

株式会社富士銀行**銀行**資本金**6** 設立1880年 従業員1万5168人

メセナ活動基本方針

富士銀行の社会貢献活動の重点テーマである「次世代の人づくり」の趣旨を踏まえ、若いアーティストに対する支援・育成を行う。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
成人の日コンサート	音楽	1	1					2・3	1・4・5
FUJI STREET GALLERY	美術・ 工芸			1	1・2・3・ 4			2・4・5	1・5・9

富士ゼロックス株式会社**精密**資本金**4** 売上高**5** 経常利益**5** 設立1962年 従業員1万5000人 ※社会貢献推進部(8人・1990年設置)

メセナ活動基本方針

1 テクノロジーとアートの融合の可能性を追求し、富士ゼロックスらしい文化発信およびアーティストの支援をする。

- ① リソース(固有の技術、機器、サービス、ソフトウェア等)の活用。
 - ② 卓越した芸術的価値の高い文化への支援。
 - ③ 若々しく、チャレンジャブルなアーティストの発掘。
 - ④ 国際的展開と交流をつねに志向。
- 2 長期的な視点から、継続して地道に謙虚に行う。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
ART BY XEROX	美術			1・2・4・ 5	2・5			2・3・4・ 5	1・3・7・ 11

アジアユースオーケストラ	音楽	1	1・2					1・3	1・3・4・5・10・11
新日本フィルハーモニー	音楽	1	1・2					1	2
EUジャパンフェスト委員会	音楽・美術・演劇	1	1・2	1	2	1	1	1	10
NHK交響楽団	音楽	1	1・2					1	2
サイトウキネン財団	音楽	1	1・2					1	1
メトロポリタンオペラ	音楽	3	3					1	2・10
日本交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、関西フィルハーモニー交響楽団等	音楽	1	1・2					1	2・9
二期会オペラ、日本オペラ振興会	音楽	3	3					1	2

富士ソフトABC株式会社

サービス

資本金③ 売上高② 経常利益② 設立1970年 従業員2070人 ※人材開発室(2人・1990年設置) 予算決

メセナ活動基本方針

学生、ならびに一般社会に、ロボットづくりを通じて、技術研究の目標と実際に問題解決する体験の機会を与え、研究意欲の向上と自発的・創造的な研究態度の育成に寄与する。

活動名	分野が音楽			分野が美術			分野が演劇		
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援形態	支援目的
全日本ロボット相撲大会	他							2・3・4	3・4

富士通株式会社

他電機(情報処理機器)

資本金⑥ 売上高⑥ 設立1935年 予算決

メセナ活動基本方針

当社は「国際社会・地域社会との共存共栄をはかり、企業として、個人として国際社会・地域社会に貢献すること」を「企業行動指針」のなかに定めており、芸術文化支援をその一環として位置づけ、実施している。

活動名	分野が音楽			分野が美術			分野が演劇		
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援形態	支援目的
富士通コンサートシリーズリヨン管弦楽団・ハレ管弦楽団	音楽	1	1					1・6	2・5・9
28th Fujitsu Concord Jazz Festival	音楽	1	2					1・6	2・5・9
富士通コンコード・ジャズ・フェスティバル'96	音楽	1	2					1・6	2・5・9
つくばコンサート	音楽	1	1・2					1・6	5・9
富士通コンサート	音楽	1	1・2					1・6	5・9
富士通読売日響コンサート	音楽	1	1					1・6	2・5
富士通九響コンサート	音楽	1	1					1・6	2・9
ピアノコンクール園田高弘賞	音楽	4	1					1・6	1・3・9
第9回世界囲碁選手権富士通杯	他							1・6	10
第4回富士通杯達人戦(将棋)	他							1・6	11
第51期本因坊戦(囲碁)	他							1・6	11
第22期天元戦(囲碁)	他							1・6	11
西日本新聞社美術展	美術			1	1			1・6	5・9

小樽潮まつりへの参加	民文			3	9
函館港まつりへの参加	民文			3	9
函館野外劇への参加	演劇	1	3	3	9

株式会社マイカル

商業

資本金5 売上高6 経常利益5 設立1963年 従業員1万6923人 ※マイカルコーポレートコミュニケーション推進委員会事務局 予算決

メセナ活動基本方針

1 企業理念(MYCAL=若々しく、健康的でより快適な生活の提案)にもとづく、コーポレートコミュニケーション活動の一つとして位置づけている。

2 暮らしのいちばん近くにいる企業として、芸術・文化支援(メセナ)だけでなく、マイカルの「地球にやさしい、人にやさしい」活動として、以下の活動にも力を入れ、地域の方々とのつながりを大切にしている。

- ① 環境保護に関する活動。
- ② 社会福祉に関する活動。
- ③ 海の文化振興に関する活動。
- ④ スポーツ・教育・学術・芸術に関する活動。
- ⑤ 伝統文化・地域文化の振興活動(全国35か所の祭り支援)。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
リゾナーレ高原音楽祭	音楽	1・4・5	1					2・5・6	1
母の日似顔絵コンテスト	美術			1・7	1			1・5	4
徳島阿波踊り	民文							1・6	8・9
土佐よさこい祭り	民文							1・6	8・9
米子がいな祭り	民文							1・6	8・9
博多どんたく	民文							1・6	8・9
小倉100万人祭り	民文							1・6	8・9
大分府内戦紙	民文							1・6	8・9
帯広平原祭	民文							1・6	8・9
秋田竿灯祭	民文							1・6	8・9
燕市民祭り	民文							1・6	8・9
新井祭り	民文							1・6	8・9
糸魚川おまんた祭り	民文							1・6	8・9
千間台祭り	民文							1・6	8・9
沼田祭	民文							1・6	8・9
新座阿波踊り	民文							1・6	8・9
本牧かぼちゃ祭り	民文							1・6	8・9
春日部祭	民文							1・6	8・9
下館総踊り	民文							1・6	8・9
あずみの祭り	民文							1・6	8・9
姫路お城祭	民文							1・6	8・9
東灘区民まつり	民文							1・6	6・9
駒川祭	民文							1・6	8・9
尾道港祭り	民文							1・6	8・9
防府総踊り	民文							1・6	8・9

水島港祭り	民文	1・6	8・9
八代球磨川祭り	民文	1・6	8・9
国分夏祭り	民文	1・6	8・9
小樽潮祭り	民文	1・6	8・9
弘前ねぶた祭り	民文	1・6	8・9
盛岡さんさ踊り	民文	1・6	8・9
青森ねぶた祭り	民文	1・6	8・9
仙台七夕祭り	民文	1・6	8・9
会津秋祭り	民文	1・6	8・9
豊田おいでん祭り	民文	1・6	8・9
西宮市民祭り	民文	1・6	8・9
高岡七夕祭り	民文	1・6	8・9
マイカル環境展	他	2・5	5

株式会社マガジンハウス

出版

資本金² 売上高² 経常利益³ 設立1945年 従業員440人 ※宣伝局(5~6人) 予算決

メセナ活動基本方針

メセナ活動という認識は薄いのですが、世界55か国約900種の雑誌を自由に閲覧していただくことにより、いろいろな世界の情報を提供しております。

また、雑誌の研究をしている方、雑誌デザインの勉強をしている方には多少なりともお役に立っているのではないかと、思っています。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
ワールド・マガジンギャラリー(世界の雑誌を自由に閲覧できる)	他							

前田建設工業株式会社

建設

資本金⁴ 売上高⁴ 経常利益⁴ 設立1946年 従業員4347人

メセナ活動基本方針

- 1 社会貢献活動の一環。
- 2 企業文化の確立。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
リバ・エマージングジャパニーズ・アーキテクツ展	現建						1	1・2・10
第19回ミラノ・トリエンナーレ国際デザイン展	現建						1	1・2・10
妹島和世展	現建						1	1
池原義郎展	現建						1	2

株式会社松坂屋

百貨店

資本金³ 売上高⁴ 経常利益⁴ 設立1910年 従業員5944人 予算決

メセナ活動基本方針

「豊かな生活文化を創造し、地域社会に貢献する」という企業理念にもとづく。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
カトレヤ林お母さんのコーラスフェスティバル	音楽	1	7					2・5	3・9
名古屋フィルハーモニー交響楽団への寄付	音楽	3	1					1	9
名古屋ボストン美術館への寄付	美術			4	6			1	9
松坂屋美術館運営	美術			4	1・2・3・4			2・5	5・9

松下電器産業株式会社

家電

資本金6 売上高6 経常利益7 設立1918年 従業員4万8000人 ※社会文化部(17人・1969年設置) 予算決

メセナ活動基本方針

経営理念「産業人の本分に徹し、社会生活の改善と向上をはかり、世界文化の進展に寄与せんことを期す」にもとづき、本業を通じて社会への貢献をはかると同時に、フィランソロピー活動により企業市民としての責務を果たし、メセナ活動を押しすすめることによって文化の創造・振興に役立つ。

1 メセナ活動の目標——新しい文化の創造と伝統文化の継承。

2 メセナ活動の重点——音楽・美術・演劇の3分野を重点に、①若手芸術家の育成、②創作活動、③優れた作品の鑑賞、④国際交流等に役立つ支援を行う。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
PMF(パシフィック・ミュージック・フェスティバル)'96支援	音楽	1・4	1					1・3・4	1・5・9・10
近畿地区演奏会団体支援(大阪フィルハーモニー他9団体)	音楽	1	1					1	2・5・9
阪神大震災救援コンサート(虹のかなた他3イベント支援)	音楽	1	1					1	2・5・6・9
全日本高等学校ギター・マンドリン音楽振興会支援	音楽	1	1					1	1・5・9
大阪クラシック・デビュタント'96支援	音楽	1	1					1	1・5・9
国際音楽祭コンクール支援(京都フランス音楽アカデミー他3コンクール)	音楽	1	1					1・3・4	1・2・5・9・10
ニューヨーク・シンフォニックアンサンブル公演主催	音楽	1	1・3					1・2・3・4・5	1・2・5・6・9・10
クリスマス・チャリティコンサート	音楽	1	1・7					1・2・3・5	3・5・6・9
グレート・ジャズ・イン・神戸	音楽	1	2・4					1	9・11
第65回日本音楽コンクール	音楽	4	1・2・3					1	1
日本交響楽振興財団運営費賛助	音楽	3	1					1	1・2・4・5・7・9
EUジャパンフェスト'96への支援(アンサンブル金沢、青ひげ公の城公演)	音楽・演劇	1	1			1	3	1	2・5・10
日中友好25周年記念オペラ・ガラコンサート支援	音楽	1	3					1	1・10
アリオン音楽財団('96東京の夏音楽祭支援)	音楽・舞踊・映像・他	1	1・3・4					1	2・5・10

二期会オペラ振興会支援	音楽	1	3				1	2・5	
首都圏地区演奏会団体支援(NHK交響楽 団他3団体)	音楽	1	1				1	2・5・9	
近畿地区演劇団体支援(関西歌舞伎を愛す る会他8団体)	演劇				1	1・2・3・1・ 4	1	1・3・5・ 9	
ヘルー能公演支援	演劇				1	2	1	5・9・10	
日本文化財団活動支援	音楽・ 美術・ 演劇・ 舞踊	1	1	1	1	1	3	1	5・10
バナソニック・グローブ座支援	演劇				1	3	1・2・4・ 5	1・2・5・ 9・10	
首都圏地区演劇団体支援(NINAGAWA COMPANY'他5団体)	演劇				1	3・4	1・4	1・2・5・ 7	
国際演劇支援(日タイ芸術協会他1団体)	演劇				1	3	1	2・5・10	
美術展覧会への支援(国際子供平和壁画展 他13展覧会)	美術・ 映像・ 服テ		1	1・5・6			1・4	1・3・5・ 7・9・10	
ドキュメント2000プロジェクト支援	美術・ 演劇・ 映像		8	1・5・6	6	3	1・3・4・ 5	1・2・5・ 7・9・11	
アートインコグニトDVDソフト制作支援	美術・ 映像		8	6			1・3・5	1・3・5・ 10	
アートドキュメンタープロジェクト支援	美術・ 映像		5	6			1	1・5・7	
首都圏地区現代美術への支援(IZUM- IWAKU実行委員会他2イベント)	美術		1	1・3・4・ 5・6			1・4	1・2・3・ 4・5・7・ 9	
建築アート展トポスの復権支援	美術・ 映像・ 現建		1	1・4・5			1	1・2・5・ 7・10	
文化財保護育成団体への支援(文化財保護 振興財団他8団体)	出捐						1	5・8・9	
映画製作への支援(血の絆他1本)	映像						1	5・9・10	
国際文化協力(アジア民族シンポジウム他1 民文)	民文						1	5・9・10	
企業メセナ協議会への運営費賛助	出捐						1	11	

丸紅株式会社

その他

資本金6 売上高7 経常利益5 設立1949年 従業員6702人

メセナ活動基本方針

社会貢献活動の一環として位置づけている。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
「世界のお巡りさんコンサート」協賛金	音楽	1	7					1	3・10
IFCのNY本部ビルへ絵画を購入・寄贈	美術			2	1			4	2・10
映画「血の絆」協賛金(日本ミャンマー合作映画)	映像							1	2・10
NHK交響楽団賛助金	音楽	3	1					1	2

モスクワ市内再建工事費用	文歴			1	10・11
第8回日本声楽コンクール開催費用	音楽	5	7	1	1
大阪城平成の大改修の募金	文歴			1	9
(ドイツ)日本文化センター設立プロジェクト 協力金	出捐			1	10
第5回「愛の泉」チャリティーコンサート支援 金	音楽	1	7	1	6
大阪フィルハーモニー協会会費	音楽	3	1	1	2
日本交響楽振興財団賛助金	音楽	3	1	1	2
九州交響楽団運営資金	音楽	3	1	1	2
石川県音楽文化振興事業団	音楽	3	1	1	2・9

株式会社ミツバ

自動車

資本金③ 売上高③ 経常利益③ 設立1946年 従業員2700人

メセナ活動基本方針

地元地域を中心とした文化活動を支援。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
桐生音楽文化協会の運営	音楽	1	4					3・4	4・5
財大川美術館BMO会員	美術			2	1・2			1	5・9
財群馬交響楽団法人会員	音楽	3	1					1	1・2・5・9

三井海上火災保険株式会社

損保

資本金④ 売上高⑤ 経常利益③ 設立1918年 従業員9027人 ※社会活動推進部(3人・1996年設置)/財三井海上文化財団 予算決

メセナ活動基本方針

- 地域の文化おこしを支援するために、音楽・郷土芸能の分野において、三井海上文化財団を通じ、地域の活動を助成し、文化の振興および文化の国際交流を活性化し、日本の文化の向上・発展に寄与する。
- 日本フィルハーモニー交響楽団等へ助成を通じ、三井海上としても、文化の向上・発展に寄与する。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
財三井海上文化財団による文化興隆事業	音楽・ 民文・ 他	1	1					1・2・3・6	3・5・9・10
日本フィルハーモニー交響楽団への賛助	音楽	3	1					1	2
新日本フィルハーモニー交響楽団への賛助	音楽	3	1					1	2
「アリオン音楽財団」等の文化団体への寄付	音楽・ 出捐							1	1・2・7・8・9・10

三井物産株式会社

商業

資本金⑥ 売上高⑦ 経常利益⑥ 設立1876年 従業員7962人 予算決

メセナ活動基本方針

三井広報委員会として活動しています。

三井広報委員会は、三井グループ各社がまとめ、さまざまな文化活動および広報活動を通じて、国際交流や地域社会の活性化に貢献するとともに、社会の繁栄と福祉に寄与する三井グループのよりいっそうのイメージの向上をめざします。

1 国際文化交流の推進

三井広報委員会は、国際間の相互理解の促進をはかるため、国内外において主催・協賛する各種イベントを通じて、優れた芸術・文化を広く紹介し、国際文化交流をすすめます。

2 地域文化活動の活性化

三井広報委員会は、日本国内において各地域の主体的参画による芸術・文化活動を後援し、地域社会の活性化に貢献します。

3 広報活動の推進

三井広報委員会は、三井グループ各社の活動について国内外に広く理解と支援を得るため、多様なメディアを通じて、積極的な広報活動を展開します。また、三井グループ各社の広報活動に資するため、さまざまな催事を企画・運営します。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援目的	
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
クローズアップ・オブ・ジャパン	音楽・美術	1	7	1	5		2	10	
三井フェスティバル東京	演劇					1	3	2	10
三井シンボジア・トゥモロウ	他							2	9

三井不動産株式会社

不動産

資本金6 売上高5 経常利益4 設立1941年 従業員1483人 予算決

メセナ活動基本方針

企業と社会のコミュニケーションをはかる重要な企業活動の一環として、主に芸術文化に対する支援活動を実施する。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援目的	
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
隅田川花火大会	民文						1	8	
アリオン音楽財団(東京の夏音楽祭)	音楽・演劇	1	3			1	3	1	1・7

三井不動産販売株式会社

不動産

資本金4 売上高2 経常利益3 設立1969年 従業員1284人 予算決

メセナ活動基本方針

当社では「文化事業」を下記のとおり位置づけている。

- 1 社会貢献活動の一つとして実施。
- 2 企業イメージの向上をはかる。
- 3 社員の社会意識を高める。
- 4 競合他社とのイメージの差別化。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	
日本ファンタジーノベル大賞	文学						2	1・2
住まいの絵画コンテスト	美術			1・6	1		1	4

株式会社三越

百貨店

資本金4 売上高5 経常利益5 設立1904年 従業員1万1132人

メセナ活動基本方針

当社は創業以来の経営理念として、「社会的貢献」を掲げている。また、つねに文化の発信を会社のテーマとして実践してきた。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
三越劇場	演劇					2	3	2	7
三越美術館	美術			4	1			2	7
パリ・エトワール	美術			1				1・5	10
日本伝統工芸展	工芸							1・5	8
院展	美術			1	1			1・5	7
音羽ゆりかご会コンサート	音楽	1	6					5	5
台東区民合唱団第九発表会	音楽	1	1					2	9

三菱地所株式会社

不動産

資本金5 売上高4 経常利益5 設立1937年 従業員2028人 ※社会環境部(7人・1994年設置)

メセナ活動基本方針

社会貢献・文化支援活動

三菱地所は、「快適な生活空間を提供すること」を企業使命として、人々が豊かに暮らし、また働くことのできる街づくりをすすめております。こうしたなかで、街や都市の機能性を追求するだけでなく、ゆとりと安心感をもたらす社会環境の整備や芸術・文化的支援活動にも力をそそいでいます。

これまでに三菱地所は、学術研究・教育・国際交流・国際協力、そして社会福祉など、じつに広範な分野で、企業市民として果たすべき役割を追求し、実践してまいりました。都市災害などに際しては、総合テレオペレーターとしての専門的な見地からさまざまなかたちでの協力・援助を行っております。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
東京・丸の内仲通り彫刻展示	美術			1・4	3			2	2・5・9
各地域・ストリートギャラリー(彫刻展示)仙台・横浜・金沢・名古屋・広島	美術			1・2・4	3			2	2・5・9
NHK交響楽団定期演奏会特別支援	音楽	1	1					1	2
日本フィルハーモニー交響楽団定期演奏会後援	音楽	1・3	1					1	2
横浜ランドマークタワー内ランドマークホール自主催事運営	音楽・美術・演劇・舞踊・映像・グテ	1・2	2	1・4	1・4・5	1・2	3	2	1・2・9
横浜ランドマークタワー内タワーギャラリー自主催事運営	美術			1・4	4			2	1・2・7・9
福岡・天神イムズ内三菱地所アルティウム運営	美術			1・4・5・6	1・3・4・5			2	1・2・3・5・7・9
東京・日比谷シティサンクガーデンイベント(夜能・ピルの谷間コンサート)	音楽・演劇	1	1			1	2	2	2・5・9
横浜ランドマークタワー内ランドマークホール施設開放	音楽・美術・演劇・映像	1	2	1	4	1	3	5	1・2・3・9
新宿・パナソニックグロープ座寄付	演劇					1・2・3	3・4	1	2・9
各地域音楽祭協賛/交響楽団支援	音楽	1	1					1	2・9
仙台泉パークタウンファミリーコンサート実施	音楽	1	1・4					2	5・9

福岡ミュージアムシティ天神協賛	美術		1	1・2・3		1	1・2・9
財スターダンサーズバレエ団	舞踊					1	2
オーケストリオ・チューリッヒ支援	音楽	1	1			2	2・5・9

三菱商事株式会社 **商業**

資本金6 売上高7 経常利益6 設立1954年 従業員8794人 予算決

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
財静嘉堂協力会	美術			5	1・2・3			1・2・3	5
財スターダンサーズバレエ団	舞踊							1	1
財読売日本交響楽団	音楽	3	1					1	7
財新日本フィルハーモニー交響楽団	音楽	3	1					1	7
「第2回アートアンダンテ賞展」協賛	美術			1	1			1	3
財日本フィルハーモニー交響楽団	音楽	3	1					1	7
東京芸術大学オペラプロジェクト支援	音楽	1	3					1	3
「世界のお巡りさんコンサート」協賛	音楽	1	2					1	3・4・10
財日韓文化協会への寄付	他								
「青少年の心を育てる会」10周年記念事業助成	演劇					1	4	1	1・4
アジアの子供絵日記展	美術			1・6	1				4・10・11
アートスフィア自主公演の支援	音楽・演劇・舞踊	1	1・2・3・4・5			1	1・3・4・5	1	1・5・7・9
天王洲アートスフィア劇場の運営	音楽・演劇・舞踊	2	1・2・3・4・5・7			2	1・3・4・5・6	6	9・11
アイラブ静岡写生大会開催	美術			7	1			2・3	4・9

三菱信託銀行株式会社 **銀行**

資本金6 売上高6 経常利益9 設立1927年 従業員6280人 ※総務部社会貢献活動推進室(5人・1992年設置)/財三菱信託芸術文化財団 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 当社の業績に左右されず、継続的なメセナ活動ができるよう、財団法人の展開を中心に行う。
- 2 支援対象は当面音楽芸術とし、専門家に選考してもらうことにより、本業を離れた純粋な活動とする。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
財NHK交響楽団	音楽	3	1					1	2
財二期会オペラ振興会	音楽	3	3					1	2
財スターダンサーズバレエ団	舞踊							1	2
財日本オペレッタ協会	音楽	3	3					1	2
東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団	音楽	3	1					1	2
財東京フィルハーモニー交響楽団	音楽	3	1					1	2
財日本オペラ振興会	音楽	3	3					1	2
財日本フィルハーモニー交響楽団	音楽	3	1					1	2
財東京交響楽団	音楽	3	1					1	2

東京ソリステン

音楽 3 1

1 2

未来工業株式会社**他製造**資本金³ 売上高² 経常利益³ 設立1965年 従業員729人 ※総務部総務課(6人・1975年設置)

メセナ活動基本方針

- 1 地域への還元。
- 2 「豊かな心」をはぐくむ。

メルシャン株式会社**食品**資本金⁴ 売上高³ 経常利益³ 設立1934年 従業員1082人 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 ヨーロッパを中心とした近代美術の紹介。
- 2 地域社会の文化・教育の振興と発展に貢献する。
- 3 ワインの文化の振興と発展に貢献する。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
メルシャン軽井沢美術館の運営	美術		4	1・3・6			2	5・7・9・10
ワイン資料館の運営	文歴・ 博物						2	9・11

持田製薬株式会社**医薬**資本金³ 売上高³ 経常利益⁴ 設立1913年 従業員2299人

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
財日本交響楽振興財団への寄付	音楽	6	1				1	2

株式会社ヤギコーポレーション**繊維**資本金³ 売上高¹ 経常利益³ 設立1967年 従業員170人 ※財ヤギメセナファンデーション 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 社会貢献の持続的活動を考えている。
- 2 その一環として、当面メセナ活動を重点に行っていききたい。
- 3 持続的な活動を行うために、1991年に総額4.5億円の寄付による財団の設立を行い、そこで活動を行っている。
- 4 メセナ活動を通じ、社内での文化向上をはかっていききたい。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
ヤギスクールシアターの主催	演劇				1	4	2	4・5

株式会社ヤクルト本社**食品**資本金⁴ 売上高⁴ 経常利益⁵ 設立1955年 従業員3191人

メセナ活動基本方針

ヤクルトホールを通じて芸術文化の振興をはかる。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
日本フィルハーモニー交響楽団コンサート	音楽	1	1				2	7・9

全日本バレエコンクール	舞踊	1	1
ヤクルトホールの運営	他	2・5	11

株式会社ヤマタネ

倉庫

資本金③ 設立1937年 従業員380人 ※財山種美術財団

メセナ活動基本方針

当社の所属している山種グループには学校法人と美術財団があり、これらの活動を積極的に支援している。

活動名	芸術分野	分野が音楽			分野が美術			分野が演劇			支援形態	支援目的	
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル				
聖心女子大学文化事業	他									1	11		
日本オペラ振興会	音楽	1	3							1			
東京フィルハーモニー	音楽	1	3							1			

ヤマト運輸株式会社

陸運

資本金⑤ 売上高⑤ 経常利益⑤ 設立1919年 従業員6万5973人 予算決

メセナ活動基本方針

- ヤマト運輸は、事業分野以外でもさまざまな活動を通じて企業市民として、豊かな社会の実現に貢献している。
- ヤマト運輸は、地域の一員として信頼される事業活動を行う。
- 音楽宅急便についての基本的な方針は、①地元のオーケストラを使って育成していく、②クラシックコンサートを親子連れで楽しんでもらう、③地元還元事業、地域社会貢献事業として、無料で招待する。

活動名	芸術分野	分野が音楽			分野が美術			分野が演劇			支援形態	支援目的	
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル				
音楽宅急便	音楽	1	1							1・2	1・2・4・5・6・9		

ヤマハ株式会社

他電機

資本金④ 売上高④ 経常利益⑤ 設立1897年 従業員8500人 ※財ヤマハ音楽振興会 予算決

メセナ活動基本方針

- 世界の人々の豊かな人生に貢献する。
- 当社の基盤事業である音楽事業を中心に各事業および、事業外活動を含めて、ヤマハの独自展開策と独自性をベースとしてメセナ活動を行う。

活動名	芸術分野	分野が音楽			分野が美術			分野が演劇			支援形態	支援目的	
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル				
ジュニア・オリジナルコンサート	音楽	1	1・4							2・3	1・9・10		
ミュージッククエスト	音楽	1	4							2・3	4・9・10		
インターナショナルエレクトーンコンクール	音楽	1	1・4							2・3	1・3・4		
ティーンズミュージックフェスティバル	音楽	1	4							2・3	4・9		
浜松国際ピアノコンクール	音楽	2	1							1・3・4	1・2・10		
ヤマハジャズフェスティバル	音楽	1	4							2・3・4	1・2・7		

安田火災海上保険株式会社

損保

資本金⑤ 売上高⑤ 経常利益⑤ 設立1888年 従業員1万3025人 ※広報部文化事業室(4人・1990年設置)/財安田火災美術財団、財安田火災記念財団 予算決

メセナ活動基本方針

当社は経営理念のなかで「社会に奉仕する安田火災」をうたい、さまざまな社会貢献活動を行っているが、その一環としてメセナ活動は主に美術を中心として展開している。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
国民の祝日「海の日」制定記念展覧会「海」	美術		1	1				3・4・5	
ゴッホとその時代展IV「ゴッホと静物画」	美術		1	1				1・2・3・4・5	
レオポルド・コレクションウィーン世紀末展	美術		1	1				1・2・3・4・5	
安田火災美術財団奨励賞の実施	美術		1・6・7	1				1・2・3・4・5	1
安田火災東郷青児美術館大賞の実施	美術		1・7	1				1・2・3・4・5	2
文化の日美術ドキュメンタリー番組の提供	美術		8	1				1	
人形劇場ひまわりホール運営	演劇					1・2・3・4	5	1・2・3・4・5	1・2・3・5・8・9
早稲田大学エジプト研究会支援	文歴							1	5・10
野外彫刻の祭典	美術		1	1				1	5・7・10
ニューヨーク・スクール展	美術		1	1				1	5・7・10

安田生命保険相互会社

生保

売上高⑥ 経常利益⑤ 設立1880年 従業員2万1669人 ※財安田生命社会事業団、財安田生命クオリティオブライフ文化財団 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 始めるまでは慎重に考える。
- 2 始めたら継続する。
- 3 従業員が何らかのかたちで関与する(参画する)。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
安田生命クオリティオブライフ文化財団による活動(助成)	音楽・民文	3・4	1						1・8・9
読売日本交響楽団への協賛	音楽	1	1						2
日本音楽コンクール受賞者発表演奏会を協賛	音楽	1	1						1
NHK短歌学園への協賛	文学								3
鳥塚しげきファミリーコンサート	音楽	1	4						6

矢作建設工業株式会社

建設

資本金③ 売上高③ 経常利益③ 設立1949年 従業員1218人

メセナ活動基本方針

- 1 芸術文化活動支援は企業が積極的に行うべき性質のものではない。
- 2 経営の状況に応じて柔軟に対応していく。
- 3 PRが主目的ならやらないほうがよい(メセナではない)。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
名古屋伝統芸能振興会	民文							1	8・9
名古屋をどり後援会	民文							1	8・9
日本室内楽アカデミー楽友会	音楽	1	1					1	1

名古屋城本丸御殿障壁画修復事業協賛	文歴			1	9
名古屋フィルハーモニー後援会	音楽	1	1	1	9
名古屋フィルハーモニー特別演奏会協賛	音楽	1	1	1	9

株式会社ユアテック

建設

資本金³ 売上高⁴ 経常利益⁵ 設立1944年

メセナ活動基本方針

地域社会との連携・強化をはかるため、積極的に多目的ホールの利用を促進する。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
宮城県おかあさん合唱連盟	音楽	1	5					1	3
「ル・コルビュジェ展」協賛	現建								
「アートプロスプリングコンサート」協賛	音楽	1	2					1	3
「宮城フィルハーモニー」協賛	音楽	3	1					1	9
「山田恵子ソプラノリサイタル」協賛	音楽	1+3	3					1	10
「秋田県芸術文化振興会」寄付	出捐							1	9
「ユアテックプラザ」の開放	他								

雪印乳業株式会社

食品

資本金⁴ 売上高⁵ 経常利益⁵ 設立1925年 従業員7500人 ※広報部 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 (金銭的な)営利を目的としないで、企業イメージの向上、企業文化の確立をめざした活動(事業の)が社会に貢献できる姿をメセナ活動ととらえている。
- 2 とかく芸術・文化活動がメセナ活動の中心ととらえがちであるが、上記の目的であれば広義の文化活動が該当すると考えている。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
劇団オールデイシアター	演劇					1	3	1	3+5
乳関連史料館	博物								

株式会社ヨークベニマル

スーパー

資本金³ 売上高⁴ 経常利益⁵ 設立1947年 従業員1632人 ※総務室渉外法務部(2人)/財ヨークベニマル文化教育事業財団 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 出店地域に関連した貴重な歴史文献の復刻発刊や研究論文集の発刊事業を通した、地域社会に対する貢献活動。
- 2 それぞれの刊行物は、関係市町村や地域の学校・図書館に寄贈するほか、一般希望者にも無料で提供。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
歴史書発刊事業	民文							2	11

株式会社読売新聞社

新聞

資本金² 設立1870年 従業員約7200人 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 新聞発行、出版事業とともに、内外の優れた芸術を国民に提示、またその活動を支援・顕彰することによって、日本の文化向上に貢献する。

- 2 日本の文化事業の国際的展開に寄与する。
 3 財読売日本交響楽団の活動を進展させる。
 4 生涯教育の場である各地の関連文化センターを拠点に、国民の文化水準向上をはかる。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
読売文学賞	文学							2・3・6	1・2・3・7
読売演劇大賞	演劇				5	1・2・3・4・5・6	2・3・6	1・2・7・8	
読売国際マンガ大賞	美術		8	6			2・3・6	1・2・3・10	
読売書法展	書道						2・3・6	1・2・5	
日本秀作美術展	美術		1	1			3・6	2・5・7	
世界児童画展	美術		1・8	1・2			3・6	4・5	
障害者自立読売絵画展	美術		1・8	1			3・6	5・11	
インターネットこども美術館展	美術		1・8	6			3・6	4・5・7	
読売日本交響楽団定期コンサート	音楽	1	1				2・3・6	5	
読売日本交響楽団名曲シリーズ	音楽	1	1				2・3・6	5	
読売日本交響楽団芸術劇場シリーズ	音楽	1	1				2・3・6	5	
日本声楽コンクール	音楽	4	1				3・6	1	
ミュージカル「キャッツ」	演劇					1	4	3・6	5
民謡民舞少年少女大会	音楽	6	5				3・6	4・8	
墨跡と茶道逸品会	書道						3・6	6	
全日本学生書道清書コンクール	書道						3・6	4	
シルクロード美術展	美術		1	1・3・6			3・6	5	
中学生エッセイコンテスト	文学						3・6	10	
全国高等学校選抜オーケストラフェスタ	音楽	1	1・2				3・6	4	

株式会社リクルート

サービス

資本金3 売上高4 経常利益6 設立1960年 従業員5147人 ※総務部総務グループ社会貢献担当(2人・1993年設置)/財江副育英会 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 事業に関連する分野(グラフィックデザインなど)での活動が多い。
 2 「若手(これから世の中にデビューしていく人)の発掘・育成」の観点で取り組んでいる。

活動名	芸術分野	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
		支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル		
「クリエイションギャラリーG8」の運営	美術・グテ		4	6				2・3・4・5	1・2
「ガーディアン・ガーデン」の運営	美術・演劇・映像・工芸・グテ		4	6	2	3		2・3・4・5	1・3

文化財団およびプロジェクト等への寄付・協賛	美術・映像・工芸・グテ・現建	1	7
-----------------------	----------------	---	---

株式会社琉球銀行 **銀行**

資本金**4** 売上高**2** 経常利益**4** 設立1948年 従業員1890人 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 メセナ活動を継続する。
- 2 宣伝広告型の協賛事業とは一線を画する。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
第5回りゅうぎん紅型デザイン公募展	美術			7	6		2	4

ルイ・ヴィトン ジャパン株式会社 **その他**

資本金**2** 売上高**3** 設立1978年 従業員387人 予算決

メセナ活動基本方針

日仏両国文化活動の支援。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
渋沢クローデル賞	文学						2	10

株式会社レナウン **繊維**

資本金**4** 売上高**4** 経常利益**3** 設立1947年 従業員1780人

メセナ活動基本方針

- 1 企業は収益の一部を社会還元すべきと思う。
- 2 メセナにかぎらず、文化・福祉・環境等、社会貢献活動全般を考えたい。
- 3 活動を行うためにも、まず、業績の回復に努めたい。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
三田文学	文学						1	7
劇団未来劇場	演劇				1	3	1	7
高橋靖史カナダ展	美術		1	3			4	1

ローム株式会社 **電機部品**

資本金**5** 売上高**4** 経常利益**5** 設立1958年 従業員2567人 ※メセナ推進室(2人・1991年設置)/財口ームミュージックファンデーション 予算決

メセナ活動基本方針

企業活動を通じて文化の進歩向上に貢献することが当社の基本理念であり、メセナ活動もその考え方をもとに実施している。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
財口ームミュージックファンデーションへの寄付	出捐						1・3	1・2・3・4・5・7・9・10

「京都・国際音楽学生フェスティバル」への協賛	音楽	1	1				1・3	1・3・4・5・9・10
「ローム・リリック・セレクション」コンサートの開催	音楽	1	1				2・3	2・5・9
「スカラ・フィルハーモニー管弦楽団」コンサートへの協賛	音楽	1	1				1	2・5・9
「京都市交響楽団ヨーロッパ公演」への協賛	音楽	1	1				1	2・9・10

ワコー電器株式会社

電機部品

資本金³ 売上高² 経常利益³ 設立1966年 従業員642人 予算決

メセナ活動基本方針

当社は笠岡市で創業し、地域の発展とともに、業容拡大をはかってきた。したがって、社業だけでなくメセナ活動を通じて地域の文化向上に貢献したいと考えている。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
日本フィルハーモニー演奏会	音楽	1	1				2	9
マンドリン演奏会	音楽	1	1	2	4		2	9

株式会社ワコール

繊維

資本金⁴ 売上高⁴ 経常利益⁵ 設立1949年 従業員5000人 ※服飾研究室(8人・1978年設置)/財京都服飾文化研究財団 予算決

メセナ活動基本方針

- 1 “世界の女性に美しくなってもらう”企業理念に則した活動。
- 2 継続すること。
- 3 日本の服飾文化に広く寄与すること。

活動名	分野が音楽		分野が美術		分野が演劇		支援形態	支援目的
	芸術分野	支援内容	ジャンル	支援内容	ジャンル	支援内容		
財京都服飾文化研究財団の運営		出捐					1	5・11

第

3

章

特集

企業の顕彰・コンクール事業

はじめに

前回の白書では「企業の芸術文化施設」を特集してハード面の調査をしたが、「次回はソフト面の調査を」との要望が多かった。そこで、今回の『メセナ白書1997』では、メセナ活動のソフトの一つとして、顕彰・コンクール事業（以下顕彰事業と総称する）を特集に組むこととした。顕彰事業はメセナ活動の一つの方法として活発に行われているにもかかわらず、これまでその実態についての調査がほとんどなかったからである。

本特集では、顕彰事業の実態に迫るとともに、芸術各分野の専門家による評価の調査も実施し、顕彰事業の現状と課題とを検証する。これらを通して、メセナ活動の実をあげるソフトの一つとして、どのような顕彰事業が求められるべきかを考察したい。

企業の回答から

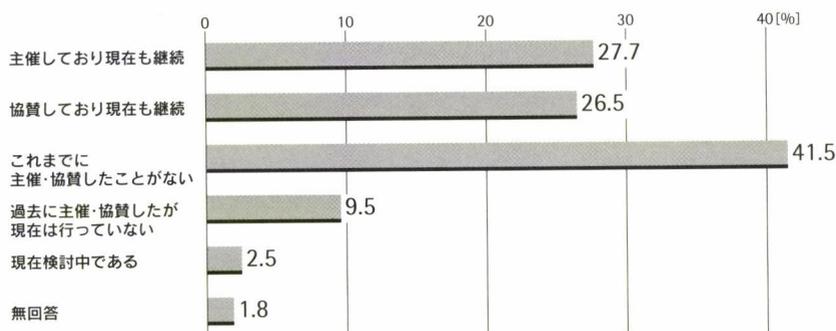
本年度の「メセナ活動実態調査」では、とくに顕彰事業についての調査項目を加え、メセナ活動の実施・未実施にかかわらず全企業に質問した。

[企業調査①]（対象：メセナ活動実態調査全企業）

◇設問：貴社はなんらかの顕彰事業を主催または協賛したことがありますか？

[主催・協賛経験] MA

N=325



本調査によると、回答のあった企業325社中、90社27.7%が顕彰事業を「主催しており現在も継続」、86社26.5%が「協賛しており現在も継続」と回

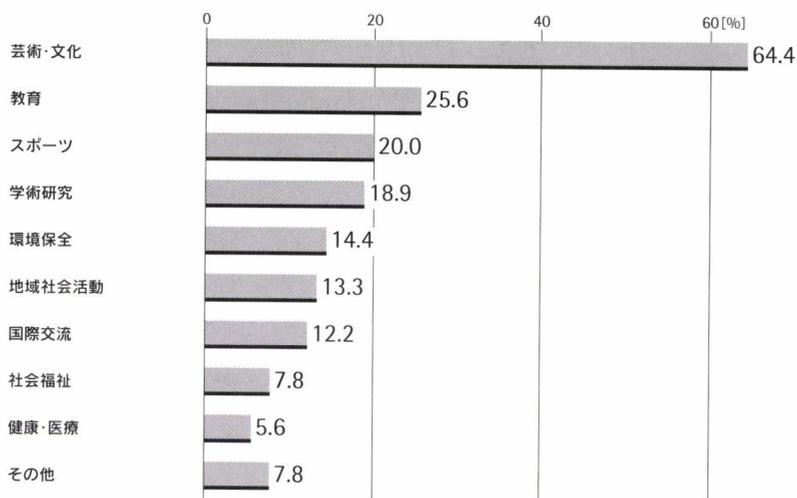
答している [企業調査①]。この設問には複数回答による重複もあるが、主催もしくは協賛している企業は145社であり、うちメセナ活動実施企業は130社となる。全回答企業の70.8% (230社) がメセナ活動を実施していることと比較してみると、約6割の企業が顕彰事業になんらかのかたちで参加していることになる。メセナに関心を持つ企業のなかでは、その方法として顕彰事業が重視されていることがわかる。もっとも実施企業の顕彰事業のすべてがメセナにかかわるものではないが、芸術・文化等メセナの範囲に含まれるものが圧倒的であることには変わりがない [企業調査②]。

[企業調査②] (対象：顕彰事業を主催したことのある企業)

◇設問：貴社が主催している顕彰事業の分野は？

[顕彰事業の分野] MA

N=90



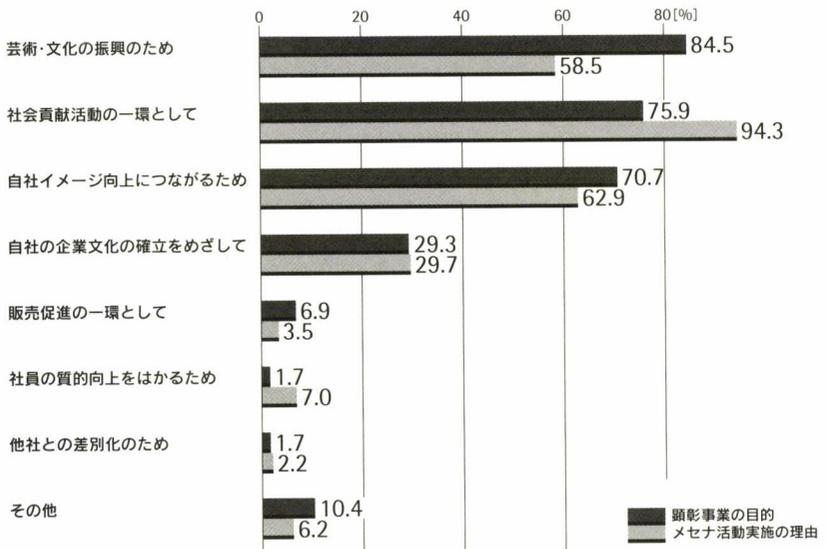
それではなぜそれほど関心を持ち、いかなる目的で実施するのかを問うと、「芸術・文化の振興のため」(84.5%)、「社会貢献活動の一環として」(75.9%)、「自社のイメージ向上につながるため」(70.7%) がきわめて高い [企業調査③]。

[企業調査③] (対象：芸術・文化の顕彰事業を主催したことのある企業)

◇設問：貴社が顕彰事業を主催する目的は？

[顕彰事業の目的] MA

N=58



[参考：メセナ活動実施の理由]

上位三つの答え、すなわち「メセナは世のため人のためにもなりかつ自分のためのもなる」というのは、一般にほとんどすべてのメセナ調査に共通する。また、メセナ活動の本来の趣旨が「芸術・文化の振興のため」である以上、この結果はあまりにもあたりまえすぎるかもしれない。しかし、多少詳細に分析すると、興味深い結果も読みとれる。

メセナ活動全体の調査では、メセナ活動実施の理由で昨年同様「社会貢献活動の一環として」が圧倒的多数(94.3%)で、「芸術・文化の振興のため」(58.7%)を引き離している。これに対して顕彰事業を行う理由では、前述したようにこの順序が入れ替わり、「芸術・文化の振興のため」が第1位を占める。こうしてみると、企業はメセナ活動のなかで、顕彰事業がより直接的にその本来の目的を実現する有効な方法だと認識していることがわかる。

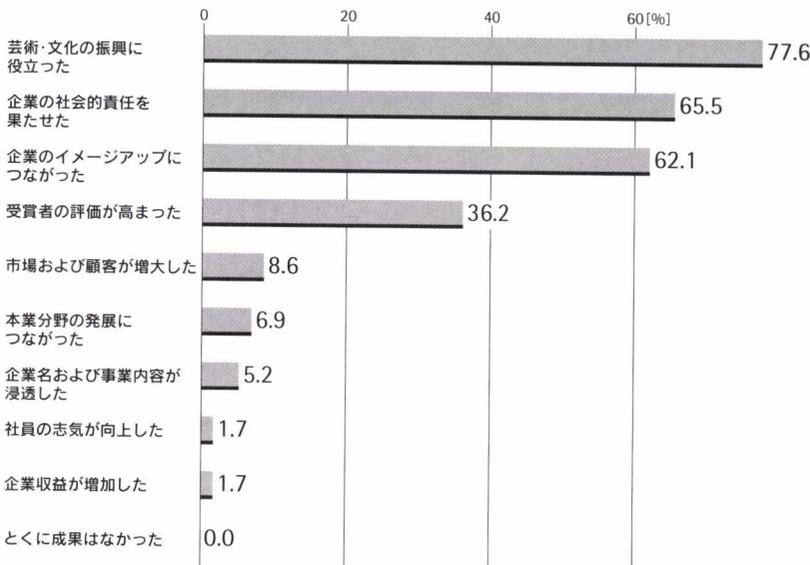
しかも、その結果の評価においても「芸術・文化の振興に役立った」(77.6%)が第1位で、次いで「企業の社会的責任を果たせた」(65.5%)、「企業のイメージアップにつながった」(62.1%)と続き、目標どおりの成果をあげているとの企業の自己評価がうかがえる〔企業調査④〕。したがって、事業の継続には「とくに問題はない」(34.5%)ははずであるが、それでもいっそうの効果を期待すると、「社会の認知度が低い」(32.8%)ことや「報道の取り扱いが少ない」(22.4%)など、努力や成果に比べると世間の関心が低いのではないかと、感じられるのである。そう考えるとたしかに「費用がかかりすぎる」(24.1%)ことも気になってきたりもする〔企業調査⑤〕。

〔企業調査④〕(対象：芸術・文化の顕彰事業を主催したことの企業)

◇設問：貴社の顕彰事業から得られた成果は？

〔顕彰事業の成果〕 MA

N=58

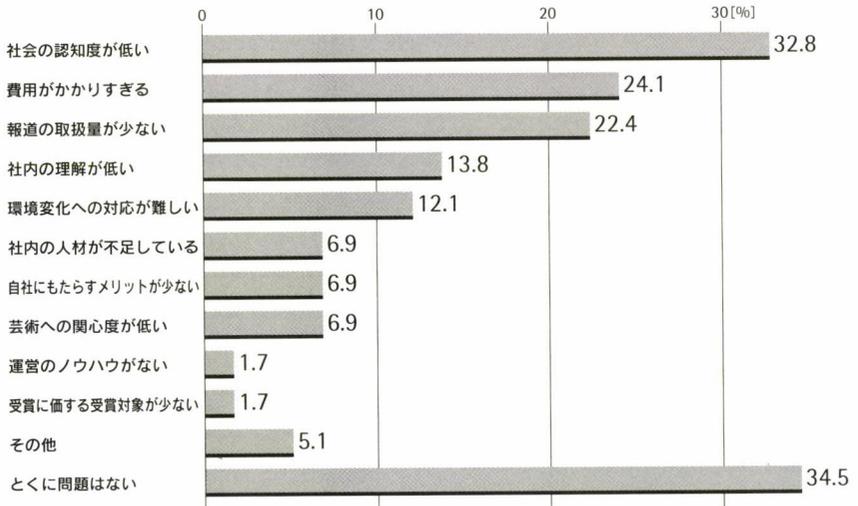


〔企業調査⑤〕（対象：芸術・文化の顕彰事業を主催したことがある企業）

◇設問：顕彰事業を主催する問題点は？

〔顕彰事業の問題点〕 MA

N=58



顕彰事業への各氏の報告から

企業による顕彰活動はメセナの方法として直接的で有効であり、結果も出ているとの企業自身の評価がある。このうえの希望としては、顕彰活動についての世の中のいっそうの認知評価である。

企業の実施する顕彰事業は一般に知られているものをはるかに超えて、多種多彩である。第6節の「企業・企業財団の顕彰・コンクール一覧」からだけでも、さまざまなジャンルにさまざまな顕彰が行われていることを知る。

こうしたなかで、顕彰事業の名称のなかに主催者の社名を含むものが多いのは日本に際だった特徴といえよう。専門家の間で評価の高かった顕彰事業のなかにも、(株)毎日新聞社やサントリー(株)などが、関連財団の事業も含めて、社名を冠にした事業を多く行っている。これは同じく評価の高かった(財)稲盛財団主催の京都賞、第一生命保険(株)協賛のVOCA展など、社名や基金寄付者の個人名を賞に冠しないのと違って点である。

このことは、欧米との比較において、日本の顕彰事業の大きな特徴である

う。「HUGO BOSS」の事例を引いて簡潔で巧みな分析をしている塩谷氏の報告（第3節）によれば、アメリカでは顕彰事業の主体は「企業ではなく、もっぱら非営利団体」であって、企業名を冠することはほとんどないようである。最近では「マーケティング的な見地から」メセナ活動を行う傾向が強まっているとはいえ、一般には名称に企業名を入れることはたいへん危険だと考えられているという。

いっぽう、ヨーロッパにおいても、そもそもメセナ活動における顕彰事業の割合が低く、しかも企業は顕彰事業を主催するのではなく、協賛するのが一般的だと河島氏は報告している（第3節）。なかには「顕彰のような比較的地味なものには、企業メセナがつきにくい」という興味深い報告もある。

このように日本とは大きく違い、欧米では顕彰事業に協賛することで「自社のイメージ向上につながる」とは一般的にあまり考えられていないようである。

企業による自己評価とは別に、公募型の顕彰に限定してのことであるが、現状と課題を分析していただいたのが、第2節の川原氏の報告である。

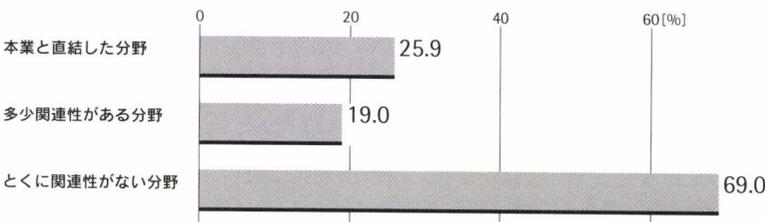
ここではまず企業にとっての顕彰事業の目的を四つに分類している。その詳細は本文に譲るとして、その成果を踏まえたうえで、メセナとしての顕彰事業の企業側からの目的を整理しておきたい。本調査の結果〔企業調査③〕においても、また川原氏の分析でも「企業のイメージ向上」は、やはり最大の関心事である。この期待感があればこそ、企業はかならずしも本業とのかかわりを持たなくとも、積極的にメセナとしての顕彰事業を行うことができるのである〔企業調査⑥〕。

〔企業調査⑥〕（対象：芸術・文化の顕彰事業を主催したことがある企業）

◇設問：貴社が主催する顕彰事業と本業との関連性は？

〔本業との関連性〕 MA

N=58



つぎに興味深いのは、ソフトと人材の開発である。「出版社系が主催する文学賞や、テレビ局系が主催するシナリオコンクール」などは、まさに本業のためのソフトや人材の発掘活動の要素を持っている。したがって本業での商品開発とも考えることができる。しかし、本業と関連しない場合でも、企業が自ら文化施設を運営している場合や、企業情報誌などを発行している場合などは、このソフトと人材の開発が、自社の文化活動（または文化事業）に必要な要素ともいえるのである。

販促活動・市場調査としての役割は、顕彰事業の役割として重要ではあるが、主としてマーケティング戦略の問題であり、メセナを主題とする本稿では割愛する。

専門家による分析から

前述してきたように、企業側の自己評価は高いが、はたして社会一般から期待どおりの評価が得られているのであろうか。今回の特集にあたり、芸術界各分野の専門家を対象に意識調査を行った。

☆芸術分野の顕彰事業に関する専門家への意識調査の概要

- 調査対象……………音楽、美術・デザイン、舞台芸術、映像、文芸、各分野の専門家
- 調査方法……………『分野別人名録1996』（読売年鑑'96別冊）、『舞踊年鑑20』より無作為に抽出した各分野の専門家50名に調査票を送付し、郵便による回収方法で実施
- 回収率……………34.0%（配布数250・回収数85）
- 回答者プロフィール

音楽	美術・デザイン	舞台芸術	映像	文芸
15	21	25	11	13

◎芸術分野の顕彰事業に関する専門家への意識調査の結果

[専門家調査①]

- ◇設問：顕彰事業を行うことは芸術文化の発展に寄与していると思われ
ますか？
- ◇設問：作家やアーティストを奨励するために顕彰事業を行うことは意義
があると思われますか？
- ◇設問：顕彰事業が作家やアーティストの発掘や育成につながると思われ
ますか？

[顕彰事業への評価]

N=85

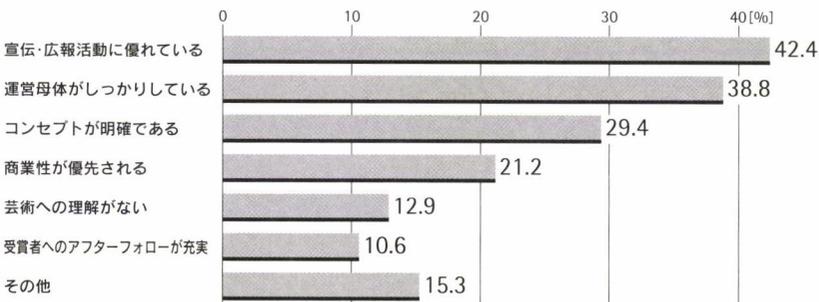


[専門家調査②]

- ◇設問：企業が主催する顕彰事業についてどのようにお考えですか？

[企業主催の顕彰事業の評価] MA

N=85



[専門家調査③]

◇設問：あなたが高く評価する顕彰事業は？

▽3票以上あった事業

票数	事業名	主催	ジャンル
6	京都賞	(財)稲盛財団	全般
5	紀伊國屋演劇賞	(株)紀伊國屋書店	舞台芸術
5	芥川龍之介賞	(財)日本文学振興会	文芸
5	朝日賞	(財)朝日新聞記念財団	全般
5	芸術祭賞	文化庁	全般
5	芸術選奨	文化庁	全般
5	毎日芸術賞	毎日新聞社	全般
4	サントリー音楽賞	(財)サントリー音楽財団	音楽
4	日本音楽コンクール	毎日新聞社・NHK	音楽
4	全国舞踊コンクール	東京新聞	舞台芸術
4	ニッセイ・バックステージ賞	(財)ニッセイ文化財団	舞台芸術
4	サントリー学芸賞	(財)サントリー文化財団	文芸
4	直木三十五賞	(財)日本文学振興会	文芸
3	出光音楽賞	出光興産(株)	音楽
3	VOCA展	第一生命保険(相)	美術・デザイン
3	埼玉県舞踊コンクール	埼玉県舞踊協会	舞台芸術
3	日本映画ペンクラブ賞	日本映画ペンクラブ	映像
3	Bunkamura ドウマゴ文学賞	(株)東急文化村	文芸
3	読売文学賞	読売新聞社	文芸

▽票のあった事業の主催内訳

企業	企業財団	国・自治体	芸術・興業団体	共催・その他	合計
68	47	31	25	14	185
36.8%	25.4%	16.8%	13.5%	7.6%	100%

結論的にいえば、顕彰事業についての専門家の評価は高い。顕彰事業は、「芸術文化の発展に寄与していると思う」人は過半数を超えており、「どちらかといえばそう思う」を加えると、91.7%の人が評価している [専門家調査①]。

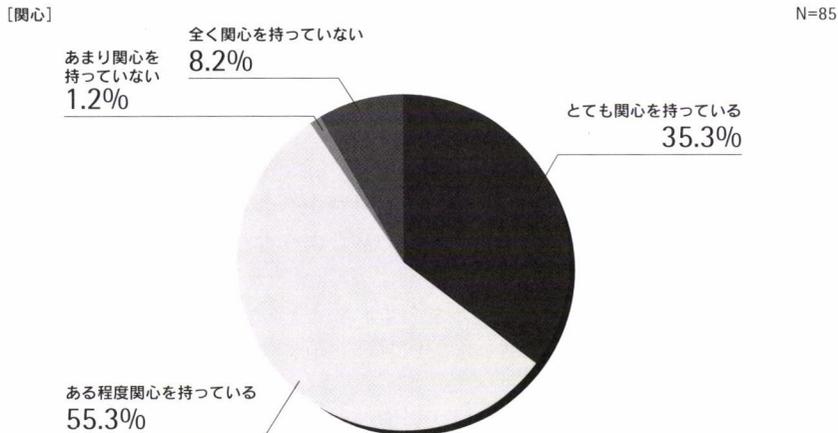
これは企業の活動に限定しての評価ではないが、「企業が主催する」顕彰事業の役割評価もきわめて積極的であり [専門家調査②]、また、評価する事業の具体名を挙げていただいた結果を見ても、企業の活動が上位にランクされている [専門家調査③]。いずれにしても、顕彰が「作家やアーティストを奨励するために意義があり」、「新進の作家やアーティストの発掘や育成につながっている」との評価も高い [専門家調査①]。

ほとんど手放しの絶賛ともいえるが、今回の回答者の85人中70人 (82.4%) が、かつて顕彰事業の審査員を務めたことがあり、顕彰事業への関心も高いことを考えると [専門家調査④]、当然の結果といえるかもしれない。しかしながら、記述式の意見や提案を詳細に分析すると、まだまだ課題も少なくないことがわかる。

そこで以下、記述内容の分析を中心に、あわせて具体的な事業の取材を通じて得た結果をもとにして顕彰事業の意義と課題の検討を行いたい。

[専門家調査④]

◇設問：顕彰事業に関心をお持ちですか？



顕彰事業の意義と課題

顕彰事業の意義と課題を検討する前に、顕彰事業の目標である「芸術文化

の振興」の内容についていささか分析してみる。その手がかりとして専門家の記述回答のなかの互いに矛盾するかに見える意見の検討から始める。

美術A氏 「新人に対する顕彰が少ない点が残念である」

音楽B氏 「現在のシステムでは若手ばかり光が当たり、中堅の活躍の場が少ない」

映像C氏 「功成名遂げた大家の顕彰も結構だが、若くてこれからの活躍が期待される芸術家の顕彰を提案したい」

これに対応して、現在ある顕彰事業を具体的に見ていくと、「新人の発掘」「30歳以下の新進の顕彰」「若手芸術家の発表の場を増やすこと」「次代を担う人の発掘育成」「若い才能とエネルギーを支援」など、若手の発掘支援を掲げる事例がきわめて多い。したがって「中堅の活躍の場が少ない」との意見は現実を反映している。大阪ガス(株)が協賛して(株)アーバネックスが主催している「OMS 戯曲賞」が若手だけでなく、「中堅劇作家への励みと刺激」を含めているのは貴重な例外でさえある。もちろん、実際には中堅芸術家に対する顕彰も少なくはないのだが、「若手ばかり光が当たる」ように見えるのもあながち理由なしとしない。

にもかかわらず「功成名遂げた大家の顕彰も結構だが」という感想がどうして生まれるのであろうか。それは一つには、世界の最もメジャーな賞である「ノーベル賞」に象徴的なように、日本においても著名な賞であればあるほど「功成名遂げた大家の顕彰」としての性格を帯びやすいからである。しかも、これらの賞に概して共通していることが高額な賞金であって、下世話に言えば「もうこれ以上お金を必要としない人だけに大金が支払われる」ということになる。「その賞金を若手に配分したならば、どれほど多くの励ましになるだろうか」という感想がもれるのも無理からぬことである。

そこで、これらのさまざまな感想を要約したような「20代・30代の芸術家を金銭的に励ますプラン」と「40代・50代の芸術家を気分的に励ますプラン」との組み合わせを提案された方もある。顕彰を受け手との関係でより効果的にするには、芸術家の階層と顕彰内容の対応についてセグメンテーションが必要なのではなからうか。

授賞対象となる階層によって、賞への期待も違えば、効果的な施策も違ってくると思われる。もちろんこれは一般的なモデルを想定しているだけであって、中堅に発表の機会を提供する必要がないという意味ではない。ジャンルや目的によって、いっそうきめ細かい多彩な内容が必要であろう。いずれにしても画一的な対応では「芸術文化の振興」は難しいのであって、対象

に合わせたアイデアが必要である。

◇対象芸術家別顕彰制度の考え方

対象	期待値	効果的な施策事例	効果的な資金額・方法
新人	デビューの機会	受賞自体に意味	少額の場合も可
新進	制作・発表の機会	制作費としての賞金 発表の場の提供	ある程度の金額が必要
中堅	より高い評価の機会	権威ある賞の授与	少額の場合も可
大家	業績への名誉の機会	特に権威ある賞の授与	年金制度など

「対象芸術家別顕彰制度の考え方」では、専門的な芸術家を対象に分類した。これ以外にもかならずしも専門家となるわけではないが、今後ますます需要が考えられるのが、一般の愛好家による自己表現の機会を求める行為である。自己表現は他者からの認知評価が不可欠ともいえるもので、顕彰がきわめて有効に機能する。自己表現活動は、高齢化社会においても重要な役割を担うであろう。このように専門芸術家への顕彰も、自己表現活動への顕彰も、それぞれに意味を持っているが、両者の果たすべき役割が違っていることだけは認識しておく必要がある。

さて、芸術文化を社会的に成り立たせるためには、つくり手としての芸術家だけでなく、関連したさまざまな人々との共同作業が必要である。「陽が当たらず後継者が育ちにくい裏方さんに光を当てる」ことを目的とした「ニッセイ・バックステージ賞」のようにユニークな顕彰があるいっぽう、「編集者や評論家への賞を設定せよ」との声も見られた。世の中にはじつに多くのこうした人々の存在があり、これらは広い意味でのアートマネジメントに携わる裏方の人々の励みとなる顕彰といえるであろう。

いっぽう、芸術家にとって世の中で評価されることがその存在を保障する不可欠の要素であり、それが職人ならぬ芸術家の宿命であり、したがって顕彰が有効性をもちうるのである。しかし、裏方にとってはむしろ雇用や仕事の安定が不可欠であって、自分たちがともに仕事をした芸術家が評価されることが、ある意味では裏方への顕彰といえるかもしれない。

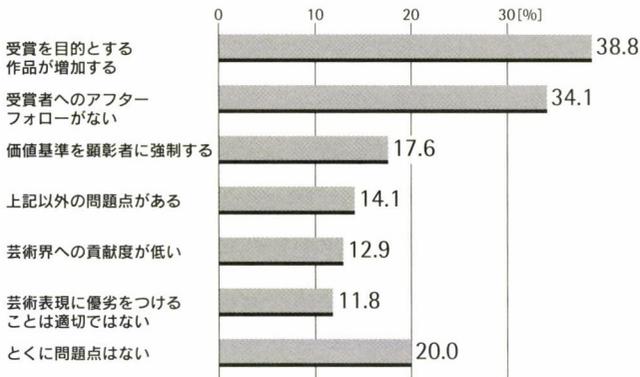
また、マイナーなジャンルへの照明を期待する意見も少なくなかった。現代詩、作曲、子供向きの映画、現代美術、アジアの写真などさまざまな要望があった。賞の性格を明白にし、多彩な特色ある賞が期待されている。

[専門家調査⑤]

◇設問：顕彰事業の問題点は？

[問題点] MA

N=85

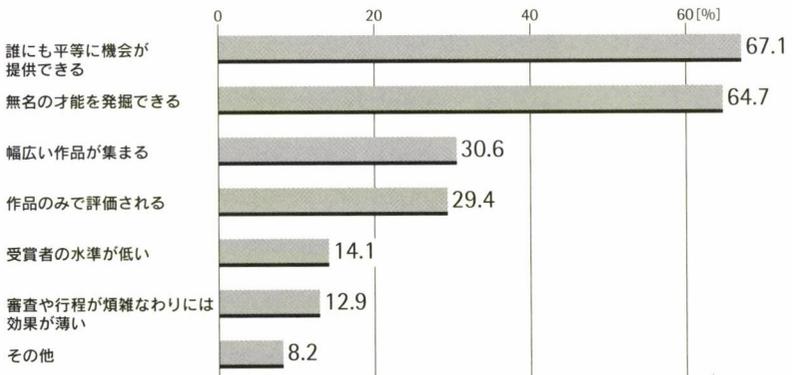


[専門家調査⑥]

◇設問：公募形式による顕彰事業をどのようにお考えですか？

[公募形式への考え] MA

N=85

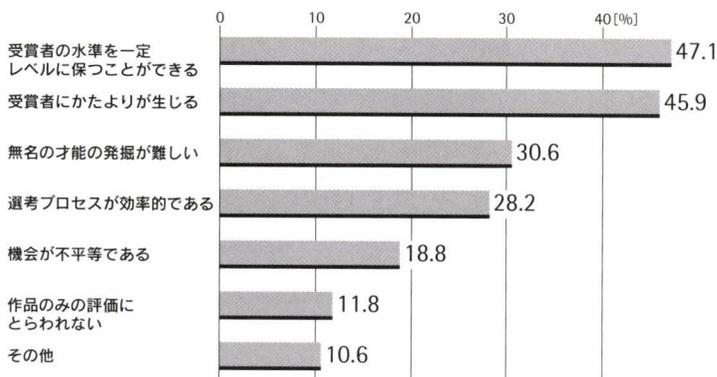


[専門家調査⑦]

◇設問：推薦・非公募形式による顕彰事業をどのようにお考えですか？

[推薦・非公募形式への考え] MA

N=85



顕彰事業の問題点については、「受賞を目的とする作品が増加する」という指摘が最も多かった[専門家調査⑤]。けれども、これは顕彰事業の宿命であって、その賞に価値を見いだす人が多ければ多いほど、人が賞にふさわしい作品をつくらうとすることを誰も止めることはできない。これを避けられるかどうかは、審査をする側が、迎合する応募者を超えて、新たなチャレンジ目標を設定する勇気を発揮できるかどうかにかかっている。

これは顕彰事業の継続にもかかわる問題でもある。顕彰事業を継続するためには「質の維持」が重要だと、主催者へのインタビューでも共通して聞くことができた(第4節)。ある賞が質が高いとみなされるには、その賞の権威が必要だが、権威を獲得するためには受賞者の質の高さが不可欠である。顕彰は、授与者、受賞者が互いの権威を高め合う関係にある。こうして高い権威で継続をはかると、だんだんと受賞者のレベル不足が主催者側の不満となり、仮にこのレベルの維持に成功したとなると、今度は顕彰事業が新たなチャレンジをしなくなり、斬新な新人発掘などできなくなる。このジレンマが顕彰事業にはいつもついてまわる。結局は、その顕彰事業の対象による目的を明確にするとともに、ときによっては方針の再検討も必要であろう。

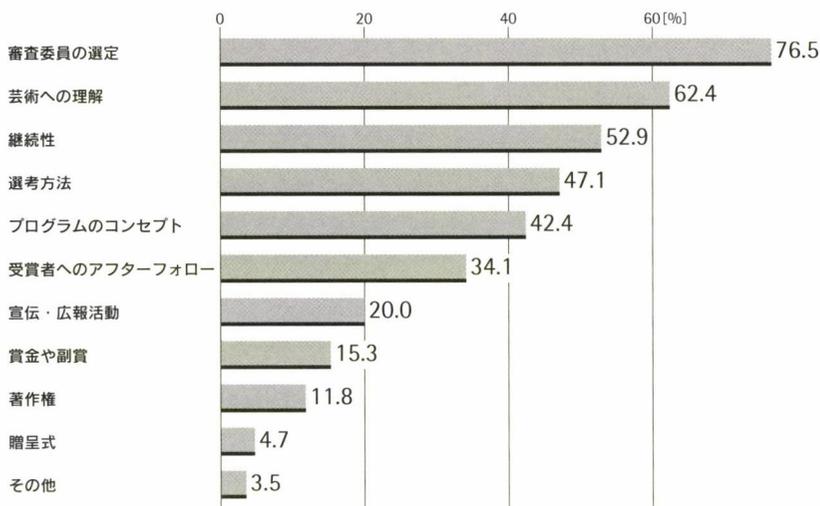
つぎに問題点として挙げられているのは、「受賞者へのアフターフォローがない」点である。これは「賞金よりも発表の機会の提供を」という声に代表される。成果への顕彰とともに、制作する費用を出す賞への期待も高い。最近では、シヤチハタ工業(株)が協賛している「ジャパン・アート・スカラシップ」のように制作展示費として賞金を出している場合や、ガーディアン・ガーデン主催の「^{ひとつぼ}3.3m²展」のように1年間後に個展開催を約束するなど、アフターフォローに特色のある賞も増えてきている。インタビューした主催者からもアフターフォローの重要性に関して力説する声が多かった。専門家のなかには、国際コンクールでの運営面で「ボランティアを含めた参加者へのフォロー」など、きめ細かい注文もあった。賞の目的を明確にし実をあげるためには、これからもさまざまな工夫が必要であろう。

[専門家調査⑧]

◇設問：顕彰事業のポイントは？

[大切なポイント] MA

N=85

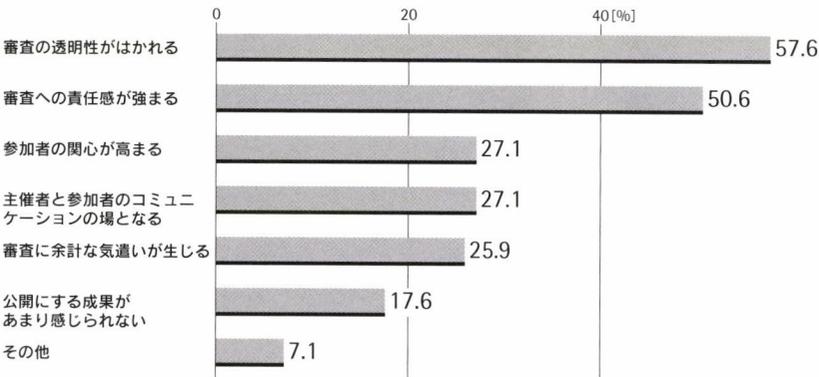


[専門家調査⑨]

◇設問：審査会を公開することについてどのようにお考えですか？

[審査会公開への考え] MA

N=85



顕彰事業における最大のポイントは「審査委員の選定」にある [専門家調査⑧]。これは専門家回答者の76.5%が挙げている。たしかに「どの賞にも同じ審査員が入っている」審査員の「重複」や、いつまでも同じ審査員による「固定化」が目立つようだ。その結果「八方美人的、権威主義的な審査員」が多くなり、「各方面で審査員を務める〇〇官僚」による「自分の弟子や教え子だけを選ぶ業界癒着」との意見まで出る。これを避けるには、任期制の導入や選考委員の選任基準の公表が有効であろう。

さらに、積極的な意見として「審査の透明性をはかり」「審査への責任感を強めるため」にも「審査会の公開」が期待されている [専門家調査⑨]。「審査に余計な気遣いが生じる」との懸念はあるものの、多くの専門家が審査会の公開を支持している。情報公開時代には、芸術文化の世界こそ率先して情報公開がふさわしい。これによって、芸術文化への社会的な関心、理解を深めることができ、まさに顕彰事業のめざすべきものが達成されるのではなかろうか。

顕彰事業はこのようにさまざまな課題を抱えながらも、着実に成果をあげ拡大しているものと考えられる。いっそうの成果をあげるためには、運営に

当たる主催者や関係者が何より「芸術への理解」があることが求められている〔専門家調査⑧〕。なかには「10年くらいかけて芸術にある程度理解のある担当者を養成してから、顕彰事業を企画するようしてもらいたい」との意見もあった。企業のスタッフといえども、ある程度の専門性は当然必要で、これは企業における他の業務となんら異なるものではない。顕彰事業においても「企業自体の文化観を、明確な言葉で示すよう心がけることが大切」である。そして、顕彰事業がひとつのソフトとして実をあげ、メセナ活動が発展し、芸術文化の振興に寄与し続けることを期待したい。

(企業メセナ協議会調査部会)

㈱公募ガイド社・取締役本部長

川原 和博

163

公募の目的は主に四つに分類

- (1)企業イメージアップ。
- (2)販売促進。
- (3)人材発掘。
- (4)市場調査・商品企画政策。

公募ブームといわれて久しい昨今、企業は何のために公募イベントを実施してきたのか——その目的について、まずは簡単に分析しておきたい。

(1)の「企業イメージアップ型」の例としては、サントリー(株)主催の「サントリーミステリー大賞」、鐘紡(株)後援の「読売ヒューマン・ドキュメンタリー大賞」、三井不動産販売(株)主催の「日本ファンタジーノベル大賞」などの文学賞や、アート系では、シヤチハタ工業(株)協賛の「ジャパン・アート・スカラシップ」、キリンビール(株)主催の「キリンコンテンポラリーアワード」、(株)パルコ主催の「アーバナート」などのコンテストが挙げられる。

文学賞では、出版社、テレビ局などとタイアップし、入選作品の出版化や放映化を前提に運営、メディアミックスの手法をうまく利用した成功例といえる。

また、アート系のコンテストは展示会、個展の開催など作品発表のバックアップ体制を整え、いずれも新進の作家、アーティストの発掘・支援を視野に入れた活動を行っている。これらの公募に共通することはまさに“継続は力なり”で、息の長いイベントをめざし、それぞれ独自の企業文化を確立させることで、企業イメージアップの向上をはかっている。

(2)の「販売促進型」は、主に公募によりその企業の製品・サービスを直接消費者にPRするものと、テレビCM、店頭キャンペーンほかセールスプロモーションと連動した型で相乗効果をあげるために実施するものがある。

コニカ(株)の「ママ撮って写真コンテスト」や(株)伊藤園の「おいお茶新俳句大賞」などが代表例で、その他商品キャラクターのネーミング募集や、商品を購入して応募(参加)する、いわゆるクローズド懸賞もこの分野に属する。

(株)伊藤園の場合、俳句の入選作品を商品(缶飲料)のラベルに印刷するというユニークな企画が、消費者(応募者)にインパクトと親近感を与え成功したといえよう。

つぎに(3)の「人材発掘型」だが、これは作家、アーティストの発掘を目的とするものと、リクルート（求人）を目的にしたものとに分類できる。前者の場合、出版社系が主催する文学賞や、テレビ局系が主催するシナリオコンクールなどが典型的なもので、後者は、一般企業が学生を対象に実施する論文やデザインのコンテストなどが挙げられる。これらは、好景気で求人難な時代に実施する企業が増える傾向にあるのが特徴的だ。

いずれにしても公募によって、広く優秀な人材を発掘、採用することが第一の目的なのだ。

(4)の「市場調査・商品企画政策型」は、公募によって消費者の声、市場ニーズをとらえるため、さらには商品開発のヒントにつながるアイデアや知恵を求めるために実施するものである。個人のライフスタイルが多様化し、消費動向がますますつかみにくくなる昨今、この種の公募が増える傾向にあると思われる。

目的とは別に、すべての公募に共通するメリットとして、つぎの二つのポイントが挙げられる。

①パブリシティ効果とローコスト・ハイリターン

②消費者とのツーウェイコミュニケーション

話題性、社会性のある公募イベントは、テレビ、新聞、雑誌などマスメディアで数多くとりあげられ、大きなパブリシティ効果を生む。宣伝費をかけずに比較的ローコストで、全国に向けて広く企業のPR活動が公布できる。

また、公募を通して消費者に企業カラー、企業イメージを浸透させ、より密接な信頼関係を築くことができる。ひいては、消費者とのコミュニケーションをとることで、今後の企業CS（顧客満足）活動の指針をつかむことも可能だ。

このように、企業が実施する公募は、さまざまな目的を得るために有効な手段といえそうだ。

それではここで、メセナの公募イベントの成功例を二つほど具体的に紹介しよう。

まずは、(株)ジャパンエナジーが主催する「JOMO 童話賞」を分析してみる。1970年に始まり今年で28回目を迎える同賞は、現在、企業（マスコミ系は除く）が継続している公募イベントのなかではいちばん歴史がある。

こんにちまで継続している成功の秘訣は、主に二つある。一つは、入選作品集「童話の花束」を制作し、社会福祉施設や母子家庭、幼稚園などに寄贈するなど、あくまでも社会貢献活動の一環としてとらえていること。

二つ目は、応募者（消費者）とのコミュニケーションを深め、企業イメージアップの浸透に努めていること。「童話」というジャンルの親しみやすさから誰もが応募しやすいことと、応募者全員に入選、落選の通知を怠らず、作品集の配布も行っている。じつは、応募者全員に通知を出しているケースは非常に少ないのだ。また1万編を超す全応募作品に最終選考委員がすべて目を通していてもこの賞の特徴といえる。

一般的には荒選、予備選といって一次選考者が作品をふるい落とす場合が多い。

同賞は、こうした目に見えない地道な努力、活動の成果が長年の間に企業と応募者（消費者）に一体感をはぐくみ、さらには企業文化の確立につながっているのである。

つぎに、(株)東急ハンズが主催する「ハンズ大賞」を紹介したい。今年で15回目を数える同賞には、毎年2500点前後の作品が寄せられる。文字どおり手づくり作品なら、ジャンル、素材（危険物はダメ）は何でもOKということで例年、主婦、学生、会社員と幅広い年齢層の人が応募している。当初は商品化も考えてのスタートだったらしいが、いまでは公募展としてすっかり定着した。この賞の特徴として、グランプリ作品100万円をはじめ入賞作品は30点に上り、全賞に賞金がある。入賞のなかには各審査員の賞も設定されていて受賞者には励みにもなる。

また、展示会は東京と大阪の2か所で一般公開され、誰もが作品とふれあうことができる。アイデアや表現力があれば十分アマチュアの人でも入賞できるとあって、毎年出品を楽しみにしている常連者が多い。

公募イベントの継続はどうやら、誰もが参加（応募）しやすい内容と、応募者へのフォローの工夫がポイントのようだ。

社会問題をテーマとした公募とトレンドに連動した公募

社会問題の提起、啓発運動を目的とした公募も数多くある。この10年を振り返ってみると環境問題、エイズ予防啓発、ボランティア関連、道徳・マナーの啓発など、さまざまなテーマを題材にした公募が実施されている。

最近では、地下鉄利用のマナーや、ガムのマナーを喚起したポスターコンクールの実施のほか、環境問題をテーマにした作文コンテストなどが具体的に行われている。この種の公募は、官公庁や業界団体が主催、または企業とマスコミが共催で実施するケースが多い。企業が単独で実施するよりも業界として、あるいはマスコミと連携して行うほうが周知徹底やイメージアップ

をはかるにはどうも効果的なようだ。

もう一つ、その時代の流行、トレンドに連動した公募もあるのでいくつかの例を挙げておこう。10年ほど前、俵万智『サラダ記念日』のベストセラーがキッカケで「OMMG 短歌コンテスト」をはじめ多くの短歌コンテストが実施された。数年前には、Jリーグ誕生によりサッカーチームの名称やマスコット、応援歌の公募がさかんであった。最近では、黛まどかの人気にあやかる俳句や、リストラばやりの不景気な世相を反映した川柳などが公募界にぎわしている。さらには、福井県丸岡町主催の「一筆啓上賞・日本一短い母への手紙」が話題となり、手紙や短文ものコンテストが一気にブームとなった。その背景には、世はまさにインターネットだ、電子メールだなどと、メディア革命を謳歌している風潮のなかで、あらためてアナログの良さ、手紙という温かみのあるコミュニケーションの良さが見直されているのではないか。

1996年はまた規制緩和元年でもあった。酒税法改正で地ビールブームとなり、地ビールのネーミングやラベルデザインの公募がさかんに行われた。景品規制の改正でオープン懸賞の賞金額も100万円から1000万円に跳ね上がった。

今後“地ビールのネーミングで賞金1000万円”などという公募が出現するのかもしれない。

公募は、社会情勢や流行をすばやくテーマにとりいれて機動的に運営できるのだ。

消費者（応募者）の意識改革の時代

キーワードはつぎの三つ。

- (1)物質的欲求から精神的欲求へ。
- (2)自己表現欲求と社会参加意識。
- (3)知的生活・知的趣味志向。

経済成熟社会を迎え、個人のライフスタイル、価値感が多様化するなかで、知的生活や文化活動への参加など精神的欲求を充実させたいという消費者の意識改革が始まっている。

自分を表現する場が欲しい、社会に向けて自分の感じたことを語ってみたいという個人の欲求が高まり、自費出版や素人作品本の発行ブームも生まれている。

ボランティア活動やカルチャーセンター、知的サークル活動に熱心な人が

増えていることから、それらの傾向をうかがえる。

また、インターネットの出現により、従来のメディアにはなかった情報の利用という行為が生まれ、自己表現、自己の存在、自己PRの場が、時間、空間の垣根を超えて実現した。すなわちメディアの構造変化、発達が、消費者の社会参加意識にいつそう弾みをつけたといえそうだ。

そこで公募と消費者（応募者）の接点をとらえると、公募・投稿にかかわることで、①何かを創作できる、②自己表現できる、③社会参加できる、④自分を認めてもらえる、という四つの精神的褒賞を得ることができる。

とくに最近、公募界に女性の進出が目立つのは女性の場合、職場や家庭に“自分を認めてくれる場が少ない”ということが大きな要因だと考えられる。

公募はこうした精神的欲求を比較的容易に満たすことができるのだ。

また昨今は、終身雇用、年功序列制度の崩壊や、高齢化社会を間近に控え、企業人・仕事人からの脱皮が問われている。

個人の人生観、生活観をあらためて見つめ直すには、公募・投稿に浸ることがひとつのチャンス。現に“二足のわらじ”で活躍する作家、アーティストや既婚女性（主婦）の作家、投稿ファンも最近ではなんら珍しくはない。また10代の公募・投稿ファンも確実に増えている。余談ではあるが、いまの教育制度と、一流大学から一流企業へという社会システムのあり方が問われるなか“夢を持って自分のやりたいことにチャレンジする”若い人がますます増えることに期待したい。

いずれにしても、バブル経済の終焉とともに「もの」へのこだわりから「こころ」の充足を求めているのはたしかであり、大げさではなくやがて、1億総作家時代の到来を迎える日も近いのではないか。

バブル期と現在の推移および今後のゆくえ

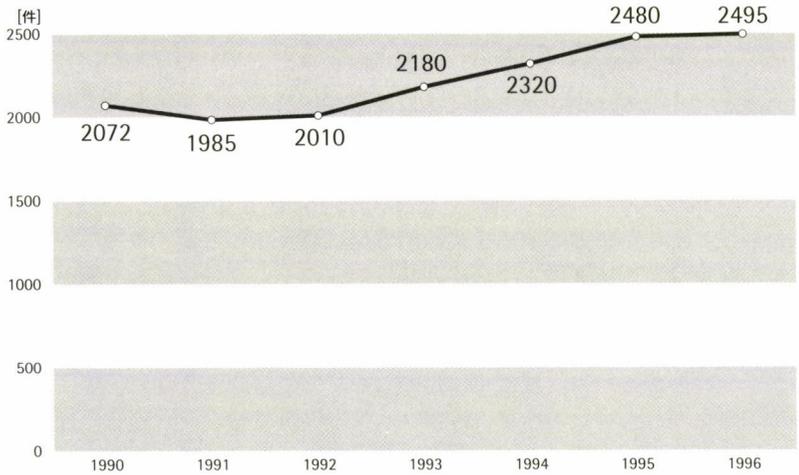
まず図1の公募総件数を見てもらいたい。1990年の2072件から1996年の2495件へと件数にして423件、20%ほど増えている。

これは図2が示すように、企業が実施（主催および単独協賛、後援）した件数は、615件から583件へと若干減少したが、地方自治体が主に地域活性化、地場産業の振興などを目的に実施したケースが増えているからだ。

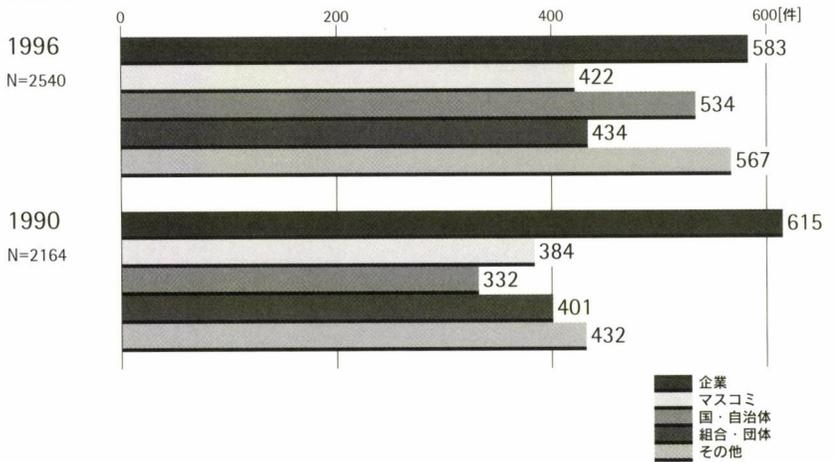
つぎに図3を見ると、企業が実施した公募ジャンルの件数、比率に微妙な変化が生まれていることがわかる。

90年は「文芸」「アート」に続いて「ミスコン」の件数が多かった。これが96年になると「ミスコン」が半減し、代わって「アイデア」の件数が急増

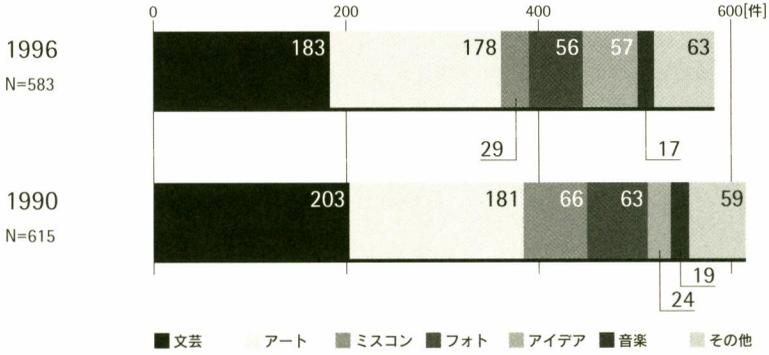
【公募プログラム数】 図1



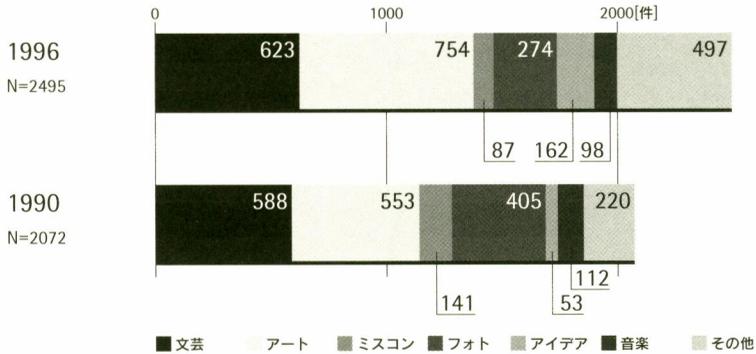
【事業主体】 図2



[ジャンル内訳/企業] 図3-1



[ジャンル内訳/全体] 図3-2



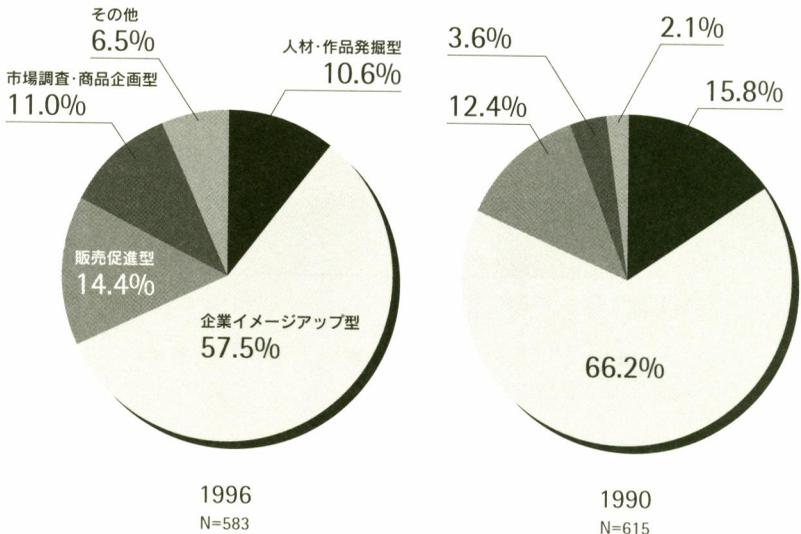
している。

レコード会社やプロダクションとタイアップした企業イメージガールコンテストがバブル期には盛況であったが、96年になるとすっかり影を潜めてしまった。それよりも、市場調査や商品企画政策を目的とした公募を実施し、少しでも実益に結びつけたいというねらいが企業側にある。「アイデア」が増えたのは、こうした企業側の変化のあらわれといえよう。

なお、データでは一般企業とマスコミ（新聞社、出版社、放送局など）を便宜上、分けている。これは、一般企業とマスコミとでは、公募開催の目的、ねらいが異なるケースが多いためである。

元来、企業が主催する公募イベントは文化芸術の支援・振興、企業イメージアップを目的とするものが主流であった。図4からもたしかに「企業イメージアップ型」は、現在も主流ではあるが、その件数は減少傾向にある。本格的な景気回復が進まず、不安定で混沌とした社会情勢・経済状況下で、企業側の文化イベント（公募イベントを含む）に対する消極性が、これらのデータからもかいま見られる。

〔企業主体の開催目的〕 図4



では、これからの公募スタイルはどのように変わっていくのだろうか。前述でもふれたように、消費者のニーズが見えにくい時代を迎え、市場動向をつかむのに躍起になっているのが、こんにちの企業の本音である。純粋な意味でのメセナ型公募イベントはしばらく鳴りを潜め、販売促進や市場調査などを目的とした実利のある公募が増えていくと考えるのが自然。

たとえば、作文コンテストを実施したとしても、テーマが消費者の声を吸い上げるようなものであったり、商品をダイレクトにPRするようなものが増えるであろう。商品アイデアや商品ネーミングの公募から、消費者の好みや動向を探ることもできよう。ジャンル、テーマ、内容が細分化され、応募者（消費者）のターゲットを絞った公募が増えるかもしれない。

もう一つ、インターネットの普及により、公募イベントのPR手段、応募方法、さらには集計方法や選考方法までが変化していくことだろう。

ゲームソフトメーカーの(株)エニックスが主催した「ゲームソフトウェアコンテスト」は、賞金も20万ドルと破格で、実際にアイデアが商品化されるらしい。ちなみに第1回の受賞者は外国人であった。また、東レ(株)でもメセナ活動の一環として「デジタルアートコンテスト」をスタートさせた。このように、インターネット上で応募から作品発表まですべてを行う公募イベントもすでに出現し、公募界の国際化はますます進んでいくに違いない。優秀な人材や作品を世界各国から集めることも身近になる。

また、作品・アイデアや応募者の管理、集計もパソコンで簡素化され、インターネットによる市場調査型公募イベントやモニター募集なども増えていくと思われる。パソコンの高機能化と、双方向性を備えたインターネットが公募界を変ぼうさせる時代がやがて来る。

それにともない公募のスタイル、ジャンル、開催目的はさらに多様化していくことと予想する。

公募の問題点と課題

最後に、公募の問題点と課題について、以下のような項目を挙げてみた。

①選考方法

- ・最終選考前の1次、2次選考で優秀な作品が選にもれてしまう可能性がある。
- ・選考の透明性、オープン化をはかるためには公開審査へ向けた努力はできないものか。

②著作権、知的所有権

- ・主催者と応募者、受賞者との間に発生する著作権および特許、意匠権、商標権など工業所有権の権利関係の明確化、とくに最近は全応募作品の著作権を主催者に譲渡する公募が増えている。
- ③受賞者、応募者へのフォロー
 - ・入選作品の決定後、出版化、映像化、個展の開催などの発表の場がない。受賞者に対してのフォローが行き届いていないものが多い。
- ④当選商法や応募リストを使った強引な勧誘商法
 - ・入選、当選者数を故意に増やし、特典をぶらさげて主催（または協賛）企業の商品やサービスをDMや電話勧誘で強引に売りつけるなどの詐欺的行為。応募者の心理をついた巧妙な手口による当選商法などが目につく。

健全な公募の活性化に向けて、自戒も含めて公募イベントを運営する関係者に、これら四つの課題を提起してみた。④の項目については論外だが、①から③については少しでも改善の方向に進むことを望んでいる。

I. アート界の顕彰・コンクール事業のヨーロッパにおける動向

173

ウォーリック大学文化政策研究センター リサーチ・フェロー

河島 伸子

毎年秋・冬の芸術シーズン、イギリスのテレビ・新聞を飾るニュースの一つに美術におけるターナー賞、文学におけるブッカー賞がある。この二つの賞は、イギリスの文化・芸術部門における最高峰とされており、これらを、誰が、そしてどのような作品が受賞するのか、それがどれほど価値があるのかといったことに関する論議が、受賞決定前後のメディアをにぎわすものである。

さて、このような顕彰・コンクールといった事業が文化芸術にとって持つ最大の意味は、これらが個人芸術家を対象とする、ということである。ヨーロッパは一般に政府による文化支援が発達しており、国や地方自治体レベルでの文化政策はたしかに、個人芸術家への支援策も含まれる。たとえば北欧においては、個人芸術家に対する支援が厚く、ある程度の成果をあげた芸術家に対して生涯にわたる年間所得を国家が保障したりもする。

とはいうものの、どの国においても、公的な支援の大部分は、やはり文化団体・プロジェクトを対象としたものである。したがって個人芸術家が生活費・活動にかかる制作費用を得る手段としては、政府の援助を受けた団体の仕事で給料、フィーをもらったり、あるいは作品を販売することから収入を得ていくのが普通である。

いうまでもないことだが、芸術のジャンル・種類によっては、このような収入を得ることが難しい。たとえば前衛的な現代美術作品が、公共空間や企業の建物に配置するにふさわしいものとはかぎらない。文学のなかでも、詩は小説に比べ、出版のマーケットにのりにくい。また若手の作家にとっては、作品の発表・販売の機会を得ることも容易ではない。

このような状況において、顕彰・コンクール事業は、あくまで固定収入ではないものの、個人の業績・名声の確立に役立ち、またその後の仕事の拡大・発展に貢献する、重要な意義を持つものといえよう。

顕彰・コンクール事業は、ノーベル賞を筆頭にヨーロッパにも数多く、さまざまなものが混在している。これらを概観できるようなデータは残念ながらとくに見当たらない。そのなかで企業メセナが果たす役割ともなると、現状はつかみにくい。が、つい最近イギリスでは、個人芸術家(視覚芸術、美術、

文学のみ)を対象とした顕彰・コンクールのディレクトリーが初めて出版された(Prizes and Awards, Dewi Lewis Publishing, 1997)。また ABSA (イギリスの企業メセナ協議会にあたる)が行ったイギリス企業のスポンサーシップに関する調査(1994/5年版)、および毎年出版されている芸術関係の支援金に関するディレクトリー(The Arts Funding Guide, 1997/98 edition, Directory of Social Change)においても顕彰事業にふれている。そこで以下は、この三つの資料を参考に、主にイギリスにおける企業と顕彰・コンクール事業の関係について見ていきたい。

大きな特徴として、おそらく日本と異なるのは、企業自体が主催する顕彰・コンクール事業は皆無に近い、という点である。イギリスあるいはヨーロッパから見ると、日本はメセナ大国である。芸術・文化に関する事業(ホール経営など)に、各企業が独自に取り組んでいるというのはほとんど信じられない現象にうつる。このような違いには日本における文化政策の未発達や民間の非営利団体に関する法制の不備などが背景にあるかもしれない。いずれにせよ、イギリスのコンクール・ディレクトリーに記されている事業の主体は、まず第一にいわゆる助成財団・公益信託にあたるものである。これらの多くが小規模であること、ある特定個人の業績をたたえるために個人の財産寄付によって設立されていることなど、日本の助成財団・公益信託のディレクトリーを概観した場合と、受ける印象はほとんど同じである。第二の主体は文化関係のサービス団体、業界団体などである。たとえば翻訳家協会や作家連盟のような組織がその基金から次世代の育成を目的とした賞を授与する、という例が頻繁に見られる。第三の主体は、文化関係の公的な支援団体である。イギリスにおける舞台芸術および現代視覚芸術(ただし美術館・博物館・ギャラリー等の運営を除く)への公的支援は芸術評議会(Arts Councils)および地域芸術評議会(Regional Arts Boards)などが中心となっている。これらの団体にとっては先に述べたように文化団体、プロジェクトへの財政的支援が予算のほとんどを占める。資金的規模では小さいものの、個人芸術家に対して比較的多くの賞金やグラントを、キャリア・ディベロップメントに応じてきめ細かく出すシステムを持っている。たとえばすでに発表をしたことのある作家がつぎの作品を書くために集中できるよう(あるいはそのための調査費用として使ってもかまわない)、あるいは写真家が出版発表するための資金援助などを「賞」や「助成金」(この区別はとくに重要ではない)として応募できるようになっている。第四の主体は芸術文化団体そのものである。これは量的には最も少ないが、たとえば美術館が美

術作品コンクールを行い賞を出す、というようなパターンである。BBCなどの放送局、あるいは出版社も新作のコンクールを主催する。もっとも、これらの団体はそもそも作品の委嘱をしなければ活動が不可能なわけであり、これをコンクール方式にすることまである種の支援といえるかどうかには疑問が残る。が、主催団体にとっては新しい才能の発掘手段としてはたいへん便利なものであり、いっぽう若手作家にとってはキャリア・アップにつながる重要な機会である。賞金が大きいものやプレステージの高いものには当然注目が集まる。

いっぽう、企業はこれらの事業を主催ではなく協賛するうえでは重要な存在である。もっとも、企業のスポンサーシップ活動全体において、顕彰事業の占める割合は小さい（ABSA 統計によれば全体の4%ほどである）。スポンサーシップの大部分はコンサート、芝居など、マーケティングなどに利用できる事業に向けられる傾向が強く、顕彰のような比較的地味なものには、企業メセナが支援することは少ない。たとえば冒頭に紹介した、いわば日本の芥川賞にあたるブッカー賞は、ブッカーという企業のスポンサーシップで成り立っているものの、事業主体は公益信託である。

ほかに、企業が支援していることでよく知られる顕彰・コンクール事業には、ロイヤル・コート劇場がパークレイズ銀行の支援で行う若手劇団のコンクール、チャンネル4という放送局がロイズ銀行の支援で行う若手脚本家を対象としたコンクールがある。これらの事業においては賞金もさることながら、むしろ作品の上演の機会、プロの芸術家からの批評や彼らとの共同作業を持つ機会が与えられることに大きな意味がある。また企業の支援のなかには、企業のPR費がかけられるため、作品や作家の名前の露出効果も期待できる場合が多い。あるいは、賞の一部としてさらなる作品の委嘱につながっているものもある。

このように企業が顕彰・コンクール事業において果たす役割は、事業の主体というよりは主に他団体が行うものへの資金的参加が中心である。いずれにしても文化団体や公的文化支援団体が事業の主体になっているものは、もともと芸術家のニーズに応えるプロジェクトとしてつくられている。また、プレステージや社会的話題性が高いものが多い。したがって、これらをメセナする企業にとって、このような資金的援助によるメセナは自らにとって有利であるのみならず、主催団体・芸術家などの関係者誰にとっても利益をもたらすものだとして企業は考えることができる。

ここまでイギリスを中心に述べたが、じつはヨーロッパ規模で応募できるものも数多くあり、国境を超えたヨーロッパの文化政策の一つの特徴を示している。もちろん国籍や在住地に応募要件となる賞は多い。が、たとえば文学においてはイギリスで書かれたもの、というよりは英語で書かれたもの、が対象になることがあり、この場合には、英連邦国、パキスタン、バングラデシュ、アイルランドの国民も応募できる。才能の発掘のためには英語圏を広く対象としてとらえている点は、芸術の国際性を考えるうえで興味深い事例と思われる。

II. アート界の顕彰・コンクール事業のアメリカにおける動向

芸術文化事業研究者／アーキペラゴ社主宰

塩谷 陽子

アメリカにおける企業メセナの顕彰・コンクール事業といえば、まずは「HUGO BOSS プライズ」が思い浮かぶ。ドイツに本社を置く、日本でもよく知られたメンズ・ファッション企業が、世界の現代美術作家のなかから最もインパクトのある活動と画期的な創作を行った者に毎年5万ドルを授与するというものだ。

このプライズが真っ先に思い浮かんだ理由は、これが単に昨年秋にスタートしたばかりの最も記憶に新しい顕彰事業だからという理由だけではなく、少なからずニューヨークの芸術団体の間に物議をかもしただからである。

同プライズの選考対象としてノミネートされた6人の作家たちの展覧会が行われたのは、マンハッタンのグッゲンハイム美術館ソーホー分館だった。最終受賞者の発表の行われたのも同美術館。美術館側が配布したプレス・リリースによれば、同プライズは「グッゲンハイム美術館によって管理」され、「卓越した美術館キュレーター、評論家、美術コレクターから成る選考委員会によって審査される」とある。「卓越した」審査員6名のうち4名は館長を含むグッゲンハイムのキュレーター陣で占められているのだから、いっそ「グッゲンハイム・プライズ」とでも名乗っていればよほどわかりやすいのだが……。

アメリカでは、顕彰・コンクール事業の担い手は企業ではなく、もっぱら非営利団体である。電話帳なみに分厚いゲール出版の「Awards, Honors, Prizes」という顕彰・賞与・表彰事業年鑑を繰ってみれば、その様相は歴然としている。なにせ2000件に上る芸術系顕彰事業^(注1)の列挙のなかから、企業の名前がついて、一目瞭然それとわかるものは、(私の見落としが少なからずあったにせよ)せいぜい、ダンスシューズ・メーカーとして名高いカペッツィオ社の「カペッツィオ・ダンス賞」^(注2)と、ダンスマガジン社の「ダンスマガジン年次賞」^(注3)と(なぜかダンス関係ばかりだ)、カナダダイアン放送の「CBC コンペティション・フォー・ヤング・パフォーマーズ」程度である。

いっぽう、ファウンデーション・センター発行の『Corporate Giving Directory』を眺めてみる。これは、アメリカのトップ企業約1000社とその

企業財団が、メセナに限らず行っている「ギヴィング（社会貢献援助活動）」全般の内容を網羅した分厚い年鑑で、顕彰事業からコミュニティ貢献、従業員のボランティア奨励活動、現物支給、マッチング・グラント、スカラシップ、不動産の貸与など、18の貢献活動に分類されている。

このなかで芸術に冠する「Award（顕彰）」の記載のあるものを拾ってみると、95社。だがいずれの企業のものも、非営利団体が行っている顕彰事業に対してそれを可能ならしめるための金銭援助を行っている、との意味あいであった。これがどういうことか、「ヤング・コンサート・アーティスト」という非営利団体の行っているコンクール制度を例にとりて説明しよう。

この団体は1961年の創立以来、若手のクラシック音楽奏者を国際的にコンクールにかけ、優秀な者にニューヨークとワシントンでのデビュー・コンサート、そして向こう最低3年間のブックイングやレコーディングのためのマネージメント業を無料で行うという褒賞を与えている。この団体の活動を可能にしているのが、いうまでもなく公私種々からの助成金や寄付金。そしてこれらの寄付者リストの中には——96/97年度版を参照すれば——チェイス・マンハッタン銀行の名があり、シティバンクの名があり、IBMやフィリップモリスの名があるというわけだ。

このように、一企業の名が突出して出ず、多企業いっしょくたにリストのなかに埋もれてしまうのが、アメリカでの顕彰事業やコンクール事業の常なのである。

と、ここまで書くと、冒頭の「HUGO BOSS プライズ」がなぜ物議をかもしたのか、その理由が説明しやすくなる。まず、顕彰事業の事業主体が、グッゲンハイム美術館という非営利団体ではなく、あくまでHUGO BOSS社という一営利企業だという点が普通ではないこと。そしてそのことが、非営利団体の軒先に、一営利企業の看板をおおっぴらにぶらさげたことになってしまったという点だ。

よく知られているように、米国の芸術系非営利団体は、スポンサー企業の名前やロゴを「冠」的に大きく表記することをたいへん危険視する。社にすりよると他社からの援助の可能性が減りかねないという実質的な弊害のほかに、非営利団体は「誰の持ちものでもない」という法規上の規定、さらにカネはもらっても魂は売らないという風な芸術に帰属する潔癖さが合体したゆえの、不文律である。

「HUGO BOSS プライズ」の場合、HUGO BOSS社としては、グッゲンハイムほどの美術館と「組む」ことによって、自らの企業名を冠した現代美術

の顕彰事業に初年度からいきなり権威づけをすることができた。しかもプライズ発足を記念して、同美術館2階の展示室を「HUGO BOSS ギャラリー」と名づける余禄も手に入れた。これらのメリットと引き替えに、HUGO BOSS 社がグッゲンハイムに約束した「向こう5年間に500万ドル」の寄付金は、同社にとっては「広告塔代」だ。そして、軒先を貸して広告塔に身を落としたかどで、グッゲンハイムには非難の声があがったというわけである。

それでは、なぜアメリカの企業は自ら単独で顕彰事業を施行しないのだろうか。

一つには、アメリカ流篤志家の風習のせい、という理由が挙げられよう。たとえば、ロックフェラーもスタンダード石油の名を財団につけず、カーネギーもUS スティールの名を用いなかったことを思い起こせばいい。あるいは、「創設者+企業名」の命名になっている「ライラ・ワレス／リーダーズダイジェスト財団」には、内部からも外部からも「篤志活動を企業の宣伝材料にするのは感心できない」との声がツネにあることも思い出してもらいたい。

賞与金額の多い事業として挙げられる「ウェクスナー賞」や「プリツカー賞」を例にとれば、前者は、洋服店一大チェーンのリミテッド社の創設者、レスリー・ウェクスナーが設立したもので、「不断のチャレンジを行うアーティスト」に5万ドルを授与する事業、後者はハイアット・コーポレーション会長、ジェイ・プリツカーが設立したもので、卓越した建築家に10万ドルを授与する事業だ。つまり、たとえ企業の創設者やトップが単独で興した顕彰事業であっても、その顕彰には企業名ではなく個人名を冠することが多く、そうと知らなければ企業との関連はわかりようもない。実際問題、企業の財布とはまったく無縁の顕彰事業であることが普通だ。

いっぽう、1994年10月27日のニューヨーク・タイムズは、つぎのように書いている。

「芸術の殿堂に（企業や個人の）名前を永遠に刻みたかったら、（芸術系非営利団体の）ごちゃまぜの寄付者リストの一員に名を連ねるよりも、自ら顕彰事業を行うほうがずっと簡単なやり方だ。ただし、その顕彰事業の広報活動のみごとにやりおおせた場合に限り、だが。〈中略〉一般的に言って、国際的な大きな賞をあげるという事業には、（広報その他のための）管理運営費用として、賞金金額の4倍のカネがかかるものだ。これがはたして芸術に費やすカネとしてベストな方法だろうか？」

この記述には、「社会貢献活動として顕彰事業に参加しようとするのであれば、自ら顕彰事業を立ちあげるよりも、非営利団体の行う事業のごちゃまぜ寄付者リストの一員になることを選択すべきではなかろうか」、ということが含蓄されている。これこそは、かつてアメリカが「偉大な国」だった頃の、社会貢献度に100%価値基準が置かれていた時代の企業メセナ観であろう。

だが、近年のアメリカは、せちがらくなかったというべきか進化しているというべきか、よりマーケティング的な見地からメセナの対象が判断されることが日増しに多くなってきている。とすれば、企業が主導権を握って非営利団体の軒先とプレステージ性を借りるような「HUGO BOSS プライズ」型の顕彰事業が、今後アメリカではしだいに増えていくのではなかろうか。いっぽう日本は、冠型から貢献型へというのが近年の傾向だ。日本とアメリカは、おそらくはその中間にあるであろう企業メセナの理想郷という点に向かって、両端から逆のベクトルで近づきつつあるのだろう。

注1 MTV社の「MTVアワード」、ビルボード社の「ビルボード・ミュージック・アワード」など、表彰の対象が商業作品のものを除く。

注2 現代ダンスの創作に長年の功績を残した人物1名に1万ドルを授与する。

注3 ダンス、振り付け、舞台美術、舞台音楽、ダンス助成の各分野で優れた業績を残した人物や団体に銀杯を授与する。

■顕彰・コンクール事業を支える主催者として、企業メセナ協議会調査部会にて選出した6社の顕彰事業活動を紹介する。

■選出にあたり、下記の3点を選出基準とした。

1. 本特集の調査にあたり実施した「芸術専門家への意識調査」で専門家より高い評価を受けた。
2. 複数の芸術ジャンルの顕彰・コンクール事業を主催している。
3. 業種が同じ、特徴が類似の企業を避ける。

(検討の末、新聞社・放送局・マスコミ以外の企業・外資系企業・文化施設運営企業・地方の企業から各1社ずつ選出した。)

■なお、データ部掲載の際、受賞者および選考委員の敬称は略した。

業種	新聞
本社所在地	東京都
設立年	1872年
資本金	41億5000万円
従業員数	3975名

株式会社毎日新聞社



今回の専門家調査で最も高い評価を受けた主催者

毎日新聞社の中興の祖である第5代社長の本山彦一氏（1853～1932）は、新聞の独立のためには経営の独立が必要だとして、新聞は商品なりと、「新聞商品論」を唱えたことで知られる。本山社長が1926年の株主総会で述べた言葉「新聞の事業は巨額の費用が必要だが、新聞発行で得た利益を社会に還元するのは公器としての新聞の使命だ」「民主的かつ道義的、平和的な社会の確立に寄与する紙面づくりの根本方針を行動で裏づけながら、積極的に事業を推進、展開する必要がある」が、毎日新聞の基本姿勢となり現在に受け継がれている。

芸術・文化支援事業を行うにあたっての基本方針は、1. 各芸術・文化ジャンルの人材を発掘、顕彰して世に送り出し、なおかつフォローアップする、2. 新聞社も企業である以上、収益のあがる美術展や演奏会、あるいはそれに関連する事業を行っていく、の二つ。非収益事業と収益事業の2本の柱をたてて事業を展開、その数は、北海道から九州まで支局を含めて、約5000件に上る。

顕彰事業に携わってきた歴史も長く、「日本音楽コンクール」「毎日芸術賞」「毎日出版文化賞」はじめ、日本の芸術・文化の発展・向上に寄与した顕彰事業を多数擁している。その社会的使命を終えたとして1997年3月にピリオドが打たれた「安井賞」を除く25件の顕彰事業が継続中である。媒体を持たない企業と活字媒体を持つ新聞社が密接なかたちで連携することで、芸術・文化支援活動をさらに効果的なものに、という試案も社内にはある。

●——— 顕彰事業といえば毎日新聞社、というほどイメージが定着しているのですが、顕彰事業によって会社のイメージアップをはかるといった意図があったのでしょうか？

そういうことではありません。毎日新聞社の事業の歴史は、1885年に日本を襲った大水害にまでさかのぼるんです。全国的に大きな被害が出て、毎日新聞が紙面で救援活動・募金活動を呼びかけた。これが日本の新聞社事業の原点なんですね。そこからスタートした。その延長線上に顕彰事業があるわけです。戦前・戦中を通じて、新聞社の社会的機能というのは、文化・情報の発信基地であり、文化の強力な推進者であることでした。国家は富国強兵に走っていて何もやってくれない、当時、日本一の大新聞社として自分たちが文化の推進役としてがんばらなくては、という自負があったと思います。そのあたりの意識が今日まで脈々と続いてきたということだと私は思います。

●——— なるほど、それで早くから顕彰事業を始められた理由がわかりました。歴史のある賞というのは一人歩きを始めて、継続が難しいといわれますが、御社の場合はほとんど続いていますね。継続していくためのポイントを教えてください。

1949年に創設した「毎日工業技術賞」というのがあって、異形鉄筋とかナイロンとか、当時の日本の先端技術を顕彰してきた。ところが6年前、対象件数が急激に減少しましてね。このまま継続して賞の質の低下に結びついたら、かつての受賞者に申し訳ないということで、社会的使命が終わったと判断し、その時点でやめています。事業というのはスクラップ・アンド・ビルドですから、廃止しなければならないものもあるし、全社挙げて継続しなければいけないものもありますよね。

「毎日芸術賞」の場合などは、この賞をとらないと文化功労賞の対象にならないといった具合に、たしかに賞が一人歩きしてしまってますね。これを継続させるためには、推薦委員なり、諮問委員なり、選考にあたっていただく先生方の質を下げないという作業が、いちば



ん大事でした。「日本音楽コンクール」ではかならず1位を出すということにはなっていない。1位なしの2位、1位、2位なしの3位なんてこともあるんです。レベルを下げないことが最大の眼目です。

●———御社は、財団をつくっていらっしゃいませんか。

だいぶ前に文化庁から、財団をつくるようにという指示はあったんですが先立つもの、ファンドがないとね……。本当は30億なら30億を基本財産にして、きちんと財団をつくってやるのが好ましいんです。ところがいまのような低金利になると果実が少ないわけですから、それもどうかという感じがします。理想としては財団をしっかりしたかたちで持って、不足分を本社や協賛会社などが補って、音楽なら音楽、美術なら美術をやっていくのがいちばんなんです。私どもにはそれができなかったというだけの話です。

●———顕彰事業を行うにあたって、メセナということをどの程度意識していますか？

それはもう、全面的に。顕彰事業は持ち出しばかりで、まったく儲かりませんよね。毎日新聞社では東京本社を中心に顕彰事業を実施していて、年間だいたい4億円近くかかっています。顕彰事業をするっていうことは、優れた人材を発掘すること。問題なのは金銭ではなく、発掘するだけで終わってはいないかということです。ただ1等賞、2等賞と決めて優劣を競うだけなら意味がない。優秀な人を今後いかにして世に送り出していくか、どれだけフォローアップできるかが重要なんです。

「日本音楽コンクール」の場合、受賞者発表演奏会というのを、東京を中心に全国15か所ぐらいでやって、優秀な新人アーティストを多くの人に知ってもらう。それがまず一つですね。しばらくしてその新人が中堅クラスの音楽家に育った時点で、春・秋の2回、東京の銀座で行う「毎日ソリスト」に登場させる、という2段階で位置づけしていこうと考えています。どうやったら大輪の花を咲かせるお手伝いができるかですね、大切なのは。そこらへんを、いま、多角的に検討しています。

●———この部分をいちばん熱く語っていただけて、うれしく思います。



	毎日芸術賞	主催・推薦
ジャンル	全般	
開始年	1959年	
ねらい	毎日音楽賞・毎日演劇賞・毎日美術賞・毎日写真賞を発展的に統合して創設	
照会先	毎日新聞社文化事業部 〒100-51 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 Tel. 03-3212-0321	
	日本音楽コンクール	主催（日本放送協会と共催）・推薦
ジャンル	音楽	
開始年	1912年	
ねらい	卓越した実力を有する音楽家の発掘と楽壇レベルの向上	
照会先	毎日芸術賞と同じ	
	毎日出版文化賞	主催・公募
ジャンル	文芸（出版物）	
開始年	1947年	
ねらい	年間に刊行された出版物のなかからとくに優れたものを選び、著者、編者、訳者、出版社を表彰することを通じて、出版文化の向上に寄与	
照会先	毎日芸術賞と同じ	
	毎日映画コンクール	主催（スポーツニッポン新聞社と共催）・推薦
ジャンル	映画	
開始年	1946年	
ねらい	敗戦後の荒廃した日本に新しい文化を創造するため、日本映画の再建・発展と大衆娯楽としての映画の育成	
照会先	毎日新聞社文化事業部毎日映画コンクール事務局 〒100-51 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 Tel. 03-3212-0187	
	現代日本美術展	主催・公募
ジャンル	美術	
開始年	1954年	
ねらい	日本美術の現在位置と今後の可能性を探る	
照会先	毎日新聞社企画事業部現代日本美術展事務局 〒100-51 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 Tel. 03-3212-0189	

◇現在継続中の顕彰事業の一部を掲載しました。

業種	放送
本社所在地	大阪府
設立年	1951年
資本金	18億円
従業員数	738名

朝日放送株式会社



放送局によるメセナ型顕彰事業の先駆的役割

「芸術家の創造活動のために場を提供することと、作家への支援」をメセナ活動の基本方針として掲げる朝日放送は、ザ・シンフォニーホールとABCギャラリーを中心に、放送メディアを活用して芸術・文化支援の事業を展開している。

ザ・シンフォニーホールは、全国に先駆けて1982年に、大阪に誕生したクラシック専用ホールで、座席数1704席の大ホール。1990年にエー・ビー・シー音楽振興財団が設立され、以後、朝日放送が直営しているホールの事業とは別に、財団によって音楽に関する二つの顕彰事業「ABC 新人コンサート」と「ABC 国際音楽賞」が運営されている。

ABC ギャラリーは近畿日本鉄道(株)から上本町駅前の再開発を機にスペースの無料提供を受けて1985年に開設された。朝日放送では、主に現代美術分野の新進作家に発表の場を提供する目的で、無料でギャラリーの利用を受け入れている。総面積167坪、展示面積108坪、天井高3.4m という広い発表スペースは、作品創造の可能性をさらにひろげるものとして評価される。ABC ギャラリーを拠点に行われる顕彰事業として「ABC 美術コンクール」がある。

顕彰事業としてはもう一つ「テレビ時代劇に新しい風を」と、出版とテレビドラマ化を賞に組み込んだ「時代小説大賞」を設け、新しい才能の発掘に努めている。

●———「時代小説大賞」開始の経緯からうかがいたいと思います。

朝日放送創立40周年記念事業として1990年に創設されました。大正から昭和にかけて、吉川英治や大佛次郎などの優れた作家が、当時の世相を反映した時代小説をつぎつぎと発表しています。戦後においても、五味康祐・柴田練三郎などの作家が、新しい



い感覚の時代小説を生み出しています。いっぽう、テレビドラマといえば、優れた原作によってルーチンワーク化した時代劇の行列。昭和から平成に移ったいま、あつというような新しい時代小説が欲しい、新しい才能を持った作家を発掘して、世に送ってやろうじゃないか、ということになりました。

じつは大賞受賞者の受賞後の作品もテレビドラマ化できると、新しいテレビ時代劇を志向する私たちとしては大成功だと思っていますが、なかなか実現までいきません。放送枠その他の制約もあって、大賞受賞作のドラマ化に追われているのが現状なんです。

●———「ABC 美術コンクール」は現代美術を対象にしていますが、何か理由がありますか？

コンクールの開催担当が朝日放送ですからね。放送というのは新しいものを追求する体質があるところで、伝統的なものよりは、現代美術がいいだろうということに……。

●———コンクール展を終えてからのアフターフォローはどのように？

受賞作は札幌・東京・福岡で巡回展を開き、より多くの美術愛好家に展覽します。巡回展までやるコンクールはあまりないと思います。また、受賞者が個展を開く際にはABCギャラリーを提供したり、作家同士の情報交換の場としてサロン風に利用していただくといったことが、アフターフォローといえるでしょう。

●———大阪で行われるコンクールですが、応募者の地域分布という点はどうですか？

巡回展をやっているせいで名が知られていますから、全国的分布です。しかし、応募数ではやはり、地元の関西を中心とした都市がいちばん多いですね。最近では東京も増えてきました。半面で、札幌・福岡を除いて、地方から

の応募が減っているのが気になります。

●——「ABC 新人コンサート」と「ABC 国際音楽賞」の特色を教えてください。

選ばれた若手音楽家に、世界から注目されているザ・シンフォニーホール
の「舞台」をプレゼントしようということが発端となって「ABC 新人コン
サート」が生まれました。この事業のポイントは、若い優秀な演奏家を将来
に向けて育成するために、数々の発表の場を提供することにあるんですね。
まずオーディションがあって、「新人コンサート」に出演する演奏者を選出
します。そしてその出場者のなかからさらに選ばれた人が、「ABC フレッシュ
コンサート」でプロのオーケストラと共演することになります。また、す
べての合格者には、東京で開かれる「ABC フレッシュ・ガラ」出演の機会
も与えられます。

このユニークな対応が評判になって、年ごとに応募者も増え、最近では海
外に学ぶ留学生が、わざわざオーディションを受けに帰ってくるのです。

●——なるほど。「ABC 国際音楽賞」のほうは？

もとは「ザ・シンフォニーホール国際音楽賞」といって、ザ・シンフォ
ニーホールで演奏したもののなかから選考していたんです。エー・ピー・シー
音楽振興財団が発足して運営が財団に移ってから、1995年事業の公益性を重
視して「ABC 国際音楽賞」と改称し、顕彰の対象も関西一円のすべてのホ
ールで行われたコンサートとなりました。

●——運営上、ご苦労なさっておられること、問題点などがありましたらお
聞かせください。

資金の問題ですね、とくに財団の場合は。基金でスタートしましたが、金
利が極限にまで下がったいま、
企業や個人など多くの賛助会員
から支援していただいています
けれども、金利低下による目減
りをカバーするにはいたって
いません。なかなか解決が難しい
問題ですね。



ABC 新人コンサート 後援（主催：(財)エー・ビー・シー音楽振興財団）・公募	
ジャンル	音楽
開始年	1990年
ねらい	内外の若い音楽家を対象に、演奏の機会を与え、未来を担う音楽家を発掘・育成する
受賞者への アフターフォロー	オーケストラとの共演（ABC フレッシュコンサート） 発表コンサート（ABC フレッシュ・ガラ）
照会先	(財)エー・ビー・シー音楽振興財団 〒531-01 大阪府大阪市北区大淀南2-2-48 朝日放送(株)内 Tel. 06-453-5340
ABC 国際音楽賞 後援（主催：(財)エー・ビー・シー音楽振興財団）・推薦	
ジャンル	音楽
開始年	1996年
ねらい	優れた音楽活動を顕彰し、それを支援することによって、音楽文化の振興発展に寄与する
受賞者への アフターフォロー	受賞記念演奏会 テレビ・ラジオでの放送
照会先	ABC 新人コンサートと同じ
ABC 美術コンクール 主催（(株)近鉄百貨店と共催）・公募	
ジャンル	美術
開始年	1985年（1995年「絵画・イラストコンクール ABC & PI 展」より改称）
ねらい	現代美術作家に活躍と発表の場を提供する
受賞者への アフターフォロー	賞金300万円と記念品 札幌・東京・福岡にて巡回展
照会先	朝日放送事業部 ABC ギャラリー事務局 〒531-01 大阪府大阪市北区大淀南2-2 朝日放送事業局内 Tel. 06-457-5728
時代小説大賞 主催（(株)講談社と共催）・公募	
ジャンル	文芸（時代小説）
開始年	1990年
ねらい	社会のめまぐるしい変化のなかで風化していく時間を心のなかにつなぎとめるべく、おもしろくて、しかも時代を生き生きと伝える時代小説の登竜門として
受賞者への アフターフォロー	賞金1000万円と記念品 受賞作は講談社より刊行、朝日放送によりテレビドラマ化
照会先	講談社文芸図書第二出版部「時代小説」係 〒112-01 東京都文京区音羽2-12-21 Tel. 03-5395-3505

業種	食品
本社所在地	大阪府
創業	1899年
資本金	300億円
従業員数	4714名

サントリー株式会社



企業・芸術文化施設・財団と多角的に顕彰事業を展開

利益三分主義（事業の利益の三分の一は社会へ還元すべし）と、生活文化企業（企業活動自体が深く文化と結びついている独自の企業文化に根ざす）を基本理念に掲げるサントリー株式会社は、早くから社会・文化活動に携わってきた。助サントリー音楽財団・助サントリー文化財団を擁し、その活動は多岐・多数にわたっている。顕彰事業としては「サントリー美術館大賞」「サントリー音楽賞」「芥川作曲賞」「サントリー学芸賞」「サントリー地域文化賞」「サントリーミステリー大賞」「開高健賞」の七つ。

サントリー美術館、サントリーホールなど、発表の場を有することもあって表彰だけの顕彰事業に終わらせず、美術展・演奏会をはじめ出版・テレビ化までを視野に入れたアフターフォローが行われているのが特長である。

審査にも複数の方法がとられる。「芥川作曲賞」では、最終選考に残った数曲をホールで演奏し、選考委員が聴衆の前で論議のうえ選考する公開選考会、「サントリーミステリー大賞」では、選考委員の投票による本賞と読者投票による読者賞の2本だて方式を導入と、賞の内容に応じた方法が考案されている。

長い歴史のある賞、とくに「サントリー音楽賞」では、賞の質を落としたいくないという主催側の意思から、毎回専門の選考委員による議論白熱した選考会が開催されている。賞自体が重みを持ち、登竜門なりステータスになると、選考側にも重責が生じるという局面は、サントリーにかぎらず、歴史のある賞を主催する企業が共通に経験しているものといえよう。

●——七つの顕彰事業のうち、いちばん早いのが「サントリー音楽賞」ですね。

そうです。サントリー株式会社創業70周年記念事業として鳥井音楽財団(1978年サントリー音楽財団に改称)を創立し、音楽賞を設けました。そのときのいちばんメインの事業ですね。せっかく賞を出すのなら、それだ



けではつまらない、演奏家なら演奏してほしいし、作曲家なら新しい作品を演奏にまでもっていききたい。そのほうが活動がよりひろがり、世間にもアピールできる、というように考えています。

それから「芥川作曲賞」について申しますと、作曲家であるとともに音楽の普及・振興に尽くされた芥川也寸志さんの功績をたたえて、1990年に創設したものです。受賞者は作曲を委嘱され、2年後に行われる「芥川作曲賞」の公開選考会の前に新作を演奏してもらえる。つまり、作曲委嘱料をお支払いしたうえ、ホールも用意します、オーケストラも用意します、指揮者も用意します、場合によってはソリストも用意しますというわけですから、これはもう、うれしいですよ、受賞者は。

それに、作曲を委嘱されるということは名誉でもありますね。

●——たいへん充実したアフターフォローですね。発表の場を提供するケースはほかにもありますが、ここまでのフォローはなかなか……。 「サントリー美術館大賞」は、それまでのサントリー美術館が扱ってきたものからだいぶ離れた賞のようですが。

そのとおりです。1961年に開館以来、“生活のなかの美”をテーマに、伝統芸術を主ジャンルに取り組んできたのですが、開館25周年を機に、その間アートやデザインが生活に入り込んでいる現状を検討し、美術館の活動を古今東西に視野をひろげ、彫刻にも工芸にも限定されない立体造形の可能性を探るといふ主旨のもとに、1988年に創設しました。

●——対象はプロとかアマチュアとか限定されていますか？

まったくありません。応募制にしたり、推薦制をとったりと、見直しをしながら進めていますので定かではないのですが、応募の場合だと海外からのものが半数ぐらいに上ります。日本でのとっかかりを得るチャンスという評価はされているようです。この賞も美術館あつての賞ですね、サントリーホールあつての音楽賞と同じで。

●——「サントリーミステリー大賞」は、ほかの賞に比べて内容的にも運営形態の点でも異色ですね。

もともとは大阪の朝日放送さんから、ミステリー賞をつくって、受賞作を単行本にして、テレビドラマ化までしてしまおう、しかも公開審査で、とアイデアの提供がありまして、これはおもしろいということになったわけです。公開審査を提案したのは、この企画に深くかかわっていた開高健さんでした。受賞すれば活字化されて文藝春秋社さんから刊行、テレビドラマ化されて朝日放送さんから放映、そして賞金1000万円。運営はサントリー、朝日放送、文藝春秋の3社でやっています。

●——サントリーさんは二つの財団を持っておられますが、財団が顕彰事業を主催する場合にメリット、デメリットがありますか？ 低金利の際には経済的にきびしいとか。

資金的に困ったときには母体のサントリー株式会社が支えるのは、当然のことだと思っています。公益を目的とする財団が各種の顕彰事業を継続的に
行い、それが将来にわたって芸術・文化の発展につながっていけば、これ以上の喜びはありません。



	サントリー美術館大賞	主催 (サントリー美術館)
ジャンル	美術 (現代造形)	
開始年	1988年	
ねらい	現代に息づく新しい造形芸術の発展を願う	
照会先	サントリー美術館大賞展事務局 〒107 東京都港区元赤坂1-2-3 Tel. 03-3470-1073	
	サントリー音楽賞	協賛 (主催: (財)サントリー音楽財団)・推薦
ジャンル	音楽	
開始年	1969年	
ねらい	日本の洋楽の発展と文化の向上に寄与することを目的として、洋楽の分野で優れた業績をあげた日本人を顕彰	
照会先	(財)サントリー音楽財団 〒107 東京都港区赤坂3-21-4 サントリービル分室 Tel. 03-3589-3694	
	芥川作曲賞	協賛 (主催: (財)サントリー音楽財団)・推薦
ジャンル	音楽	
開始年	1990年	
ねらい	作曲家の故・芥川也寸志氏の功績を記念し、若い作曲家を顕彰	
照会先	サントリー音楽賞と同じ	
	サントリー地域文化賞	協賛 (主催: (財)サントリー文化財団)・推薦
ジャンル	地域文化活動	
開始年	1979年	
ねらい	日本各地の地域文化活動の発展興隆に寄与する	
照会先	(財)サントリー文化財団 〒530 大阪府大阪市北区堂島2-1-5 サントリーアネックス9F Tel. 06-342-6221	
	開高健賞	協賛 (主催: 開高健賞運営委員会・(株)TBSブリタニカ 後援: (財)サントリー文化財団)・公募
ジャンル	文学	
開始年	1990年	
ねらい	開高健氏の文学の遺志を顕彰し、次代に伸張することを願う	
照会先	開高健賞事務局 〒153 東京都目黒区目黒1-24-12 (株)TBSブリタニカ内 Tel. 03-5436-5716	

◇現在継続中の顕彰事業の一部を掲載しました。

業種	石油
本社所在地	東京都
設立年	1961年
資本金	110億円
従業員数	1114名

モービル石油株式会社



歴史ある二つの顕彰事業を主催する外資系企業

100%アメリカ資本のモービル石油は、1893年の日本創業以来、「企業は社会の一員であり、利潤追求だけでなく、地域のために利益の一部を還元しなければならない」「良き企業市民たれ」の理念のもとに、日本文化の発展のために尽力し、日本の社会・文化活動の草分け的存在といわれている。

1. 地味ではあるが地道に活動を続けている重要な分野を支援、2. 単発ではなく、継続性をもってやる、3. 直接的販促活動はしない、4. 従業員による手づくり的プログラム、を活動の柱に、息の長い社会・文化活動を展開してきた。

顕彰事業は、日本の児童文化の発展・向上を願って1966年に創設した「モービル児童文化賞」と、日本の音楽文化の発展・向上を目的に1971年に創設した「モービル音楽賞（洋楽・邦楽の2部門）」の二つ。両賞ともに歴史が長く、受賞者・受賞団体はいまやそうそうたる顔ぶれとなっている。とくに邦楽を対象にした賞が少ないなか、「モービル音楽賞・邦楽部門」は受賞者27名のうちから13名の人間国宝を出すなど、斯界随一の賞となった。

日本固有の文化を大切にしたいと考えるモービル石油では、顕彰事業以外の社会・文化活動として、優れた伝統芸能の継承・発展を目的とした「国立劇場・歌舞伎鑑賞教室」への援助や、日本の音楽を子供たちにと願う「邦楽教育を推進する会」ほか2団体主催の「子ども邦楽まつり」の後援も行っている。

●——1996年で30周年を迎えた「モービル児童文化賞」の創設の経緯をうかがいたいのですが。

日本創業70周年記念事業として、何か特別な文化活動をしましょうということになりましたね。1963年のことです。まだ、日本も貧しい時代で児童文化が普及していない状況でした。そこで、未来の日本を支える大事な児童の情操をはぐくむ童話の分野に光を当てようということになり、「赤馬物語」のタイトルで童話を募集することになったのです。

なぜ「赤馬」かといいますと、モービル石油のシンボルマークだったからです。天翔る赤馬は1925年ソコニー日本支店（モービル石油の前身）で誕生し、以来世界中で愛され、長く親しまれてきた信頼のマークだったからです。全国紙を通じて募集したら、なんと



3575の応募がありました。そのときの審査委員の顔ぶれがすごいのです。川端康成さん、壺井栄さん、坪田譲治さん、筒井啓介さん、藤田圭男さんたちです。この童話募集の反響が予想以上だったことで、児童文化の普及を支援するために、1966年に「モービル文化賞」が創設されたのです。

●——まだ児童文化に目が向けられていない時代に児童文化賞を設けたのは、なぜですか？

地味ながら地道に活動している大事な分野への支援、つまり、日の当たらないところに日を当てましょう、というのが基本方針の一つにありまして、そういう点では、当時は児童文化にしてもクラシック音楽にしても邦楽にしても、本当にマイナーな存在でした。

●——児童文化賞の受賞者を見ると、たいへん広い範囲にわたっていますね。ダークダックスあり、『中学生日記』あり、『まんが日本昔ばなし』あり。これは主催側の意思が反映されたものですか？

いいえ、選考の先生方にすべてお任せしています。同席はしますが、小さい口は出しません。ただ、先生方のほうで、今年はこのジャンルだったから来年はこうと、児童文化全体をカバーできるように考えておられるようです。

●——「モービル音楽賞」も歴史のある賞ですが、1989年から洋楽部門に奨励賞を新設していますが、どういう理由から？

選考の先生方の中で、最近若い有望な人たちが出てきたね、といった話が交わされた結果、とんとんと奨励賞新設の運びになったものです。では邦楽部門にはなぜ奨励賞がないのか、ということになります。邦楽というのは、70歳、80歳の方が現役でバリバリ活躍する世界なんです。邦楽の世界で奨励賞の対象になる年齢といえば、50歳ぐらいになってしまう。これでは奨励賞の意味をなさないというわけですね。主催側としては邦楽部門にも奨励賞を設けたいと思っているのですが……。

●———芸術・文化の振興という面から考えると、邦楽への支援は少ないのが現状なので、洋楽部門の奨励賞にあたるような支援も、ぜひお願いしたいです。

顕彰事業とは別ですが、元小学校教師の茅原芳男氏ほか有志の人たちによって創設された「邦楽教育を推進する会」ほか2団体主催の「子ども邦楽まつり」に、毎年わずかずつながら寄付をさせていただいております。日本人が日本の小学校に入って、音楽教育として受けるのは洋楽、それもほぼ強制的に。これはどう考えてもおかしいと思います。一方的に洋楽を教えるのではなく、せめて洋楽・邦楽の選択肢を与えてほしいですね。



●———これだけ長く顕彰事業を継続してこられる間には、運営面でピンチに直面するようなことは？

一度もありませんでした。1973年の石油危機の際にも、私の聞き及ぶかぎりでは、教育費や広報関係費がカットされることはいっさいありませんでした。その頃は余裕があったんですね。ピンチというなら、石油業界はいまがいちばんピンチといえるでしょう、経済的にも、人的にも。社会・文化活動の担当者は2名、これはいままでもあまり変わりませんが、以前は部内に人数がおりましたから手伝ってもらうことが可能でした。たとえば音楽賞の贈呈式後のレセプションは洋楽・邦楽あわせて300~400人規模。社員による“手づくり”をモットーにしてきましたが、広報部の人員が半減した昨年は受付だけ外部の人を頼むことに。誰もがぎりぎりのフル回転ながら、「みんなが うれしいと うれしい」を合言葉に、活動の継続に努力しています。

	モービル音楽賞	主催・推薦
ジャンル	音楽	
開始年	1971年	
ねらい	深い感動を与え、心を豊かにしてくれる、日本の音楽文化をもっと向上させる	
選考委員	邦楽部門：塚田博、徳丸吉彦、榎本由喜夫 洋楽部門：三善清達、小石忠男、富永壮彦	
選考方法	音楽界をはじめとする各界の権威・有識者のアンケート推薦による	
選考基準	日本の音楽文化の発展・向上に貢献した人または団体（奨励賞は日本を代表する優れた若い音楽家）	
賞の種類	モービル音楽賞（邦楽・洋楽部門）、奨励賞（洋楽部門）	
受賞者	第26回（1996年度）—邦楽部門・竹本駒之助（女流義太夫） 洋楽部門・秋山和慶と東京交響楽団 奨励賞・高橋薫子（ソプラノ） 第25回（1995年度）—邦楽部門・藤井久仁江（地歌 箏曲） 洋楽部門・今井信子（ビオラ） 奨励賞・千住真理子（ヴァイオリン） 第24回（1994年度）—邦楽部門・都一いき（一中節） 洋楽部門・松村禎三（作曲） 奨励賞・錦織健（テノール）	
照会先	モービル石油㈱広報渉外部「モービル音楽賞」事務局 〒100 東京都千代田区大手町1-7-2 Tel. 03-3244-4495	
	モービル児童文化賞	主催・推薦
ジャンル	児童文化	
開始年	1966年	
ねらい	子供たちの豊かな感性をはぐくみ、自由な想像力を伸ばす、児童文化をもっと普及させる	
選考委員	植木浩、羽仁進、三木卓	
選考方法	児童文化界をはじめとする各界の権威者・有識者へのアンケートによる候補者の推薦	
選考基準	日本の児童文化の発展・向上に対する貢献度が長期にわたり高い個人または団体	
受賞者	1996年度・神沢利子（児童文学作家） 1995年度・「まんが日本昔ばなし」（毎日放送アニメ番組） 1994年度・香川県大川郡大内町（人形劇場「とらまる座」、とらまる公園等の児童文化育成）	
照会先	モービル石油㈱広報渉外部「モービル児童文化賞」事務局 〒100 東京都千代田区大手町1-7-2 Tel. 03-3244-4495	

業種	複合文化施設
本社所在地	東京都
設立年	1989年
資本金	4億5000万円
従業員数	300名

株式会社東急文化村



複合文化施設が発信する三つの顕彰事業

物の豊かな時代から心の豊かな時代へ向けて、企業は何をつくり、何を提供できるかを考える東急グループによって、1988年(株)東急文化村が設立された。1989年9月、(株)東急文化村は東急グループが拠点とする渋谷に、複合文化施設 Bunkamura をオープン。1. ジャンルを超えて良質の文化を創造し提供するホール・劇場・映画館・美術館としての「発表の場」、2. あらゆる可能性を応援し育てる、新しい文化の育成のための「創造の場」、3. 人・芸術・物の交流を促進する双方向文化の追求を目的とした「出会いの場」を実現し、さまざまな文化を通して未来をつくることを、設立目的とする。

この設立目的に深くかかわるものとして、Bunkamura では三つの顕彰事業を行っている。世界の若い音楽家を発見・支援・育成するための音楽賞「Bunkamura オーチャードホールアワード」、シアターコクーンでの上演を前提とした戯曲賞「シアターコクーン戯曲賞」、独創的な文学賞「Bunkamura ドゥ マゴ文学賞」の3賞。東急百貨店本店と連結する Bunkamura の諸施設によって直接的・間接的にバックアップされる。

選考基準・選考方法の固定化が難しいジャンルに関しては、前年よりもベターに、つぎの年はさらにベターにの「ベター・アンド・ベター」姿勢で取り組み、見直しと提案が現実に移されている。

●——— 複数の顕彰事業をやっておられますが、文化施設として、最初からあった構想ですか？

はい、そうです。Bunkamura 設立の目的の一つに、新しい可能性への支援・育成というのがあります。顕彰事業をやっていくという方針が、はじめからありました。そうでなくても、オープン前から芸術監督として携わっていた串田和美さんは、日本の演劇界に作家が不足している状況のなか、戯曲賞を設けて新しい可能性を発掘したいという意思を持っていました。東急電鉄が、というより五島記念文化財団が、美術とオペラの二つに的を絞っていて、



毎年奨学金を出しているんですね。そこで、Bunkamura ではまず演劇と音楽をやしましょう、ということで始まりました。音楽・演劇・映像・美術と、それぞれ施設があるのですが、文学についてはブックショップも館内にありますし、そしてパリのカフェ「ドゥ マゴ」の文学賞を見習って、文学賞もぜひやってみましょうということになったのです。

●——— 創設年としては「ドゥ マゴ文学賞」が最も早いですが、「シアターコクーン戯曲賞」は構想としてはオープン前からというわけですね。

オープンが89年の9月3日ですけれども、87年にはすでに構想がありましたね、串田さんのなかには。

●——— そのときすでに、劇場での上演を前提にしたものだったのですか？

そうです。賞を授け賞金をさしあげるというだけではなくて、シアターコクーンという劇場で上演することを前提に作品を選び、商業演劇としては優れている台本でも、シアターコクーンに向かないものは落とす。で、受賞作はプロの演出家の手で上演しようというのは、非常にユニークな発想だと思いましたね。これも串田さんが決めたことですが、選考にあたった演出家のうち、最後に「これがいいなあ、これにしよう」といつってしまった人が演出をするのです。第1回受賞作「NEVER SAY DREAM」は栗山民也さんが演出でした。ところが第2回受賞作「零れる果実」では蜷川幸雄さんと佐藤信さんの2人が「いいね」。結局2人がそれぞれの発想で演出・上演し、経費的には苦しかったものの大きな話題となりました。

●———そういう局面に対応できるということがすごいですね。「ドゥ マゴ文学賞」設立の経緯についてうかがいたいのですが。

パリの老舗カフェ「ドゥ マゴ」と世界でも初めての業務提携をした、「Bunkamura ドゥ マゴ パリ」という店がBunkamuraにあるのがきっかけです。パリの「ドゥ マゴ」の常連客だった作家・画家・ジャーナリスト13人がお金を出し合って、独創的な若い作家に賞を贈ろうと「ドゥ マゴ文学賞」をつくったのは1933年。以来60年以上も続いていますが、カフェから発信する文学賞というのは日本にはないので、その精神を見習おうということに。

●———選考委員が1人というのは、ほかにはないですね。

これは清水専務が発想しました。おひとりに1年間お任せするというのは独創的だと思います。任期は1年。文学的な匂いのする独創的なカフェをつくりたい、そこから発信する文学賞を独自性のある賞にしたいという思いのあらわれだと思います。

●———「Bunkamura オーチャードホールアワード」の選考方式が1997年から変わるのはどういう理由から？

ヨーロッパ4大音楽コンクールの上位入賞者から選ぶという方式を、96年までずっととってきましたが、もっと広い、コンクールを超えた範囲から優れた人を発掘できないか、と協議しまして……正直に申しますとあまりにもお金がかかりすぎ、もう少し経費的に圧縮した状況で賞を続ける方法はないかと模索する側面もありました。97年はニューヨークのジュリアード音楽学校およびパリ国立高等音楽院と提携し、それぞれの主任教授の推薦を受けた人の審査をすることになりました。砂の中からダイヤモンドを探すような作業になるかもしれませんが、可能性があるのではないかと。すでに受賞者は発表しております。

「オーチャードホールアワード」は膨大に費用のかかる事業ですが、受賞後注目され、活躍の場をひろげる人たちを見ると、やっぴいよかつたと社内の誰もが思っていますね。



	Bunkamura オーチャードホールアワード	主催・推薦
ジャンル	音楽	
開始年	1992年	
ねらい	日本において若い才能ある音楽家たちの交流を促進させ、日本の音楽愛好家に新鮮で良質な演奏会を提供する	
選考基準	ヨーロッパの伝統ある4つの国際音楽コンクールおよび事務局と提携し、優秀な音楽家を認定。1997年からはジュリアード音楽学校、パリ国立高等音楽院と提携	
受賞者への アフターフォロー	オーケストラとの共演1回、リサイタル1回の最低2度の演奏会の提供。2万ドル相当を上限にした奨学金あるいは援助	
照会先	東急文化村 〒150 東京都渋谷区道玄坂2-24-1 Tel. 03-3477-3244	
	シアターコクーン戯曲賞	主催・公募
ジャンル	演劇(戯曲)	
開始年	1992年	
ねらい	劇作家と劇場＝上演のための現場との新しいかたちの出会いとなり、より優れた舞台を生むきっかけになること	
選考基準	演出家である5～6名の選考委員が責任を持ってシアターコクーンで上演したいと思える作品	
選考委員	栗山民也(第1回受賞作演出)、蜷川幸雄、佐藤信(第2回受賞作演出)。現在は蜷川幸雄、野田秀樹ほか	
受賞者	第1回・台場辰也、第2回・鈴江俊郎と狩場直史の共作	
受賞者への アフターフォロー	選考委員の演出によるシアターコクーンでの上演 賞金300万円(上演料含む)	
照会先	東急文化村「シアターコクーン戯曲賞」事務局 〒150 東京都渋谷区道玄坂2-23-14 道玄坂225ビル7F Tel. 03-3477-3244	
	Bunkamura ドゥ マゴ文学賞	主催・推薦
ジャンル	文芸(小説・評論・戯曲・詩)	
開始年	1990年	
ねらい	「ドゥ マゴ文学賞」の持つ先進性と独創性を受け継ぎ、権威主義に陥らず、既成の概念にとらわれることなく、つねに新しい才能を発掘する	
選考基準	受賞作は毎年「1人の選考委員」によって選ばれる(選考委員の任期は1年間)	
選考委員	97年・筒井康隆、96年・中村真一郎、95年・城山三郎	
受賞者	97年・町田康、96年・飯島耕一、95年・佐江衆一	
照会先	Bunkamura ドゥ マゴ文学賞事務局 〒150 東京都渋谷区道玄坂2-24-1 Tel. 03-3477-9014	

業種	情報発信ビル
本社所在地	福岡県
設立年	1989年
資本金	1億円
従業員数	39名

株式会社イムズ



複数の顕彰事業を積極的に展開する九州の企業

イムズ（IMS/Inter Media Station）は1989年に福岡市の一等地、天神町にできた情報文化ビルである。市所有の土地を市民のために有効活用するべく福岡市が開いたコンペに、三菱地所と明治生命の“連合”で参加、当選したプランが実現したもので、ファッションからカルチャーまで、たえず新しい情報を発信して、クリエイティブなうねりを九州全域に送り届ける“時代波震源地”をめざしている。

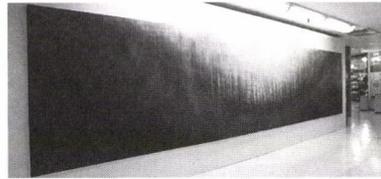
イムズは、1. 地元アーティストたちの発表の場・創造の場づくり、2. 新進アーティストたちのサポート、を基本方針として精力的に芸術・文化支援事業を展開、新しい可能性の掘り起こしに主眼を置く。

毎年秋に開催する“イムズ芸術祭”で行われる顕彰事業「九州コンテンポラリーアートの冒険」「イムズ芝居」「イムズ音楽祭」がイムズ顕彰事業の三本柱で、ほかに顕彰事業としては「福岡コンピュータ・グラフィックス展」の特別協力をしている。

全館にAV機能を張りめぐらせ、可動式床によって空間を自由に演出できるイムズホールや複数のイベントスペース、館内どこからでも全国にテレビ中継が可能なBCルームを備えたイムズビルを、イムズは新聞・雑誌・テレビ・ラジオに続く第5の媒体、“スペースメディア”と呼ぶ。イムズビルを拠点に創立以来8年、徹底して新進作家を対象を絞り込んだ顕彰事業は九州以外にも広がりを見せ、インターネットで応募できるコンピュータ・グラフィックでは、海外からも作品が寄せられている。

●——「九州コンテンポラリーアートの冒険」の特色とポイントをうかがいたいのですが……応募作家と審査員の討論会があるようですね。

それは討論会ということではなくて、応募者が前もって主催側に自分はこれこれのものをつくりたいとプランを示す、まあ、プレゼンテーションですね。そのプランを審査したあと、審査員は



その作品についてどう思っているか、現在の作品の傾向はどうなのか、などの話をする場を設けているんですよ。毎年やっています。

●——それはアーティストの可能性を刺激するという意図で？

そうです、そうです。

●——一般の方の感想をアーティストに届ける仕組みがあるとも……。

100を超える応募があったとき、その全部を展示できませんから、優秀作の12～13点をイムズの空間につくってもらう。そこに感想ノートを置いておくわけです。こういうかたちで生活者とのコミュニケーションをとっています。コンテンポラリーアートはなんといっても“共感”の世界ですから。

●——応募資格に年齢制限を設けていらっしゃいますか？

ええ、40歳まで。私どもは新進アーティストの支援を目的にしておりますから。福岡には若い人たちの発表の場が少ないんですよ。ましてコンテンポラリーアートなんていったら、もっとない。40歳が妥当かどうか問題は残るところですが、そうしないと中堅以上の作家や大学教授なんかに応募してきて、私どもの趣旨と合わなくなる。

●——「イムズ芝居」の特色はどんなところにあるのでしょうか？

ジャンルはやはり現代演劇です。目的は“起こし”です。芝居心を起こしていく、文化を起こしていく……。福岡は文教地区なんですよ、だから学校がたくさんありましてね。人口構成からいっても、京都に次いで2番目に若い人が集まっている所です。音楽にしても芝居にしても、文化の根源を潜在的に持っています。そこを起こしていこうということなんですね。可能性の掘り起こしです。

●——御社では、どの顕彰事業の場合もかならず発表の場を与えておられますね。

それがコンセプトの一つですから。福岡のみならず九州・山口をターゲットにしていますが、このあたりは演劇の歴史はあっても発表の場がない状況だったんです。そんななかで「イムズ芝居」をやり始めた。そのせいかどうか、芝居をやるグループが増えてきました。

●———「イムズ芝居」の運営は、どうかたちで？

実行委員会形式です。スタッフは審査員と私ども営業企画部の人間あわせて6～7人ですね。8年間やってきて、「イムズ芝居」は“芝居の甲子園”といわれるようになってきました。10周年を集大成の年にできるよう、がんばっています。そのあとは、できることならどこかにバトンタッチしてもらって、ほかのジャンルの起こしをやりたい。つねに新しいジャンルを起こしていきたいんですね。一企業で何もかもというのは無理ですから、バトンタッチをしてもらって、つぎの起こしをやる、そうでないと起こしきれない。

●———「イムズ音楽祭」は最初ジャズフェスタでスタートされましたね。

はい。途中でやりかたを変更しました。いま、ジャズ系が見直されていますが、それでもジャズでは切り口が狭すぎる。応募者も限定されます。切り口の狭いところに登竜門をつくっても意味がないんですね。対象を音楽全体にひろげてしまって、“楽しむ”をキーワードに、演奏者も楽しむ、聴く側も楽しむ。

それともう一つ、「イムズ音楽祭」ではバイオリンでもピアノでもキーボードでもギターでも何でもいいんですが、一線級のアーティストを招いてクリニックを行っています。クリニックでアーティストの目になかった人がいれば、翌日、一緒にライブをやる。アーティストとのジョイントです。このジョイントができればいいなと思っていましたが、96年は第1回ということもあって、そこまでのレベルの人は出ませんでした。今後に期待を持ちたいです。



	九州コンテンポラリーアートの冒険	主催 (西日本新聞社と共催)・公募
ジャンル	美術・映像 (コンテンポラリーアート)	
開始年	1989年	
ねらい	九州・山口県で活動する新進アーティストの発表の場の提供とコンテンポラリーアートの普及	
応募資格	九州・山口県在住および同出身 (外国人は居住3か月以上) の40歳未満のアーティスト	
照会先	「九州コンテンポラリーアートの冒険」実行委員会 〒810 福岡県福岡市中央区天神1-7-11 (株)イムズ内 Tel. 092-733-2016	

	イムズ芝居	主催・公募
ジャンル	演劇 (現代演劇)	
開始年	1989年	
ねらい	九州・山口県で活動する若い劇団の発掘と発表の場の提供	
選考基準	オリジナリティがあって、時代性にあった作品 とくに若い世代が見ておもしろいと思えること	
照会先	イムズ芝居事務局 〒810 福岡県福岡市中央区渡辺通り5-14-9 (株)プランニング秀巧社内 Tel. 092-751-1470	

	イムズ音楽祭	主催 (FM 福岡と共催)・公募
ジャンル	音楽	
開始年	1996年	
ねらい	若いミュージシャンの発掘と発表の場の提供	
選考委員	1996年 (総合プロデューサー) — 斎藤ノブ	
照会先	「イムズ音楽祭」事務局 〒810 福岡県福岡市中央区渡辺通り2-1-82 電気ビル別館6F FM 福岡内 Tel. 092-781-6181	

	福岡コンピュータ・グラフィックス展	特別協力 (主催:福岡 CG デザイン協会)・公募
ジャンル	デザイン・映像 (コンピュータ・グラフィックス)	
開始年	1991年	
ねらい	高度に発達した情報通信網を駆使し、国内外から作品を募集し九州から発信する	
協力内容	運営のサポート (作品の受付・発表の場の提供等) 映像部門の受賞者にイムズ賞を贈呈	
照会先	福岡 CG デザイン協会事務局 〒810 福岡県福岡市中央区白金1-12-22-103 Tel. 092-526-5003	

■企業メセナ協議会調査部会にて選出した企業が主催あるいは協賛する顕彰・コンクールプログラムを紹介する。

■選出にあたり、下記の5点を選出基準とした。

1. 本特集の調査にあたり実施した「芸術専門家への意識調査」で専門家の高い評価を受けたプログラム。
2. 継続年数の長いプログラム（日外アソシエーツ(株)発行の『音楽・芸術賞事典90/95』『美術・デザイン賞事典』『最新文学賞事典89/93』より）。
3. 応募作品数の多いプログラム（(株)公募ガイド社提供のデータより）。
4. 芸術文化施設主催のプログラム（『メセナ白書1996』の特集より）。
5. 当協議会主催の「メセナ大賞」受賞プログラム。
（前述の「顕彰・コンクール事業を支える主催者」で紹介したプログラムは選出から除外した。）

■なお、掲載の際、受賞者および選考委員等の敬称は略した。

parco art projects アーバナート

| 公募

あらゆるジャンルのビジュアル表現を対象とした公募展を通じ、新鋭作家の発掘と育成をめざす。

ジャンル	ビジュアル全般
開始年〔西暦〕	1992年
主催	㈱パルコ



本プログラム開始の経緯 1980年にスタートし、80年代を通して若手アーティストの登竜門として機能してきた平面作品の公募展「日本グラフィック展」と、立体作品の公募として1985年にスタートした「オブジェTOKYO展」を発展・統合させ、あらゆるジャンルのビジュアル表現を対象としたコンペティションとして、1992年に開始した。

本プログラムのねらい 視覚造形全般をテーマとしたコンペティションで、既成の技術、方法、目的などにこだわることなく、自由な思うままの表現を募集。あらゆる意味で、現在のな感性と意識を持った新鋭作家の発掘と育成を目的としており、若者たちのクリエイティブシーンの活性化をはかっている。

本プログラムの特色 美術、デザイン、写真、映像、イラストレーション、デジタル画像などビジュアル全般を対象とし、プロ、アマ、問わずに応募を呼びかけるフリーな公募企画。ノンカテゴリーで新しい才能を発掘する。シンガポールを含む全国のパルコで告知し、10店舗で作品を受け付け、各地方ごとに集めて審査するというシステムで全国的に展開している。受賞作家の企画展なども実施。

賞の種類 大賞 パルコ賞 優秀賞 ほか
〔各賞の名称〕

受賞者へのアフターフォロー ●企画展開催

本プログラムに関する照会先 ㈱パルコ 広報部
〒150 東京都渋谷区宇田川町15-1
Tel. 03-3477-5710

AXIAアーティスト・オーディション

公募

作品の音楽性だけを評価の対象にしたミュージシャンのためのオーディション。

ジャンル	音楽（新人発掘）
開始年〔西暦〕	1982年
主催	AXIAアーティスト・オーディション事務局
協賛	AXIA、(株)リットーミュージック



本プログラムの開始の経緯 「ギター・マガジン」「キーボード・マガジン」等の音楽雑誌を刊行するリットーミュージックが、読者サービスとして1982年に「オリジナル・テープ・コンテスト」を開始。その後1988年に富士写真フイルム・グループの協賛を得て、「AXIAミュージック・オーディション」として再スタート。現在の名称は1994年から使用。

本プログラムのねらい 既成の音楽ジャンルにとらわれない新しい音楽の創造をめざすミュージシャンに、作品発表やチャレンジの場を提供し、同時に新しい音楽のあり方を探求する。

本プログラムの特色 「良い音楽は良い」をモットーに、応募者の年齢や国籍、音楽ジャンル、形態等にかかわらず、純粋に作品の音楽性そのものだけを評価の対象にしている。そのため、審査は終始送られてきたテープだけを対象にし、ライブ審査等はいっさい行わない。またボーカル入り楽曲部門のほかインストゥルメンタル部門を用意することで、楽曲のみを制作している人にもチャンスを与えている。専用のホームページもある (<http://www.rittor-music.co.jp/indies/axia/>)。

賞の種類 グランプリ AXIA賞 A部門優秀賞
〔各賞の名称〕 B部門優秀賞 1万人審査賞 リットーミュージック賞

受賞者へのアフターフォロー ●記念CDの作成
 ●レコード・メーカー、音楽事務所等へのプレゼンテーション

本プログラムに関する照会先 AXIAアーティスト・オーディション事務局
 〒102 東京都千代田区三番町20
 Tel. 03-5213-6298

朝日賞

推薦

第1回以来の朝日賞受賞者は367人と24団体。在野の人や団体にも光を当ててきた。

ジャンル	全般
開始年〔西暦〕	1929年
主催	財朝日新聞文化財団



本プログラム開始の経緯 朝日新聞社の創刊50周年記念事業の一つとして1929年に創設。広く文化の各方面にわたって功績者を調査して顕彰する制度は、当時、欧米ではすでに珍しいものではなかったが、日本では学士院による学士院賞以外には目立ったものがなかった。この点に留意し、日本文化の向上をめざして設定された。

本プログラムのねらい 1929年元日の社告には、「その年度年度におけるわが国文化の貢献者一たたとえば科学、芸術、スポーツ、航空その他各方面に偉大なる功績ある人々を求めて、これを贈呈する（要旨）」とある。その後、社会福祉部門、スポーツ部門が、朝日社会福祉賞、朝日スポーツ賞として独立したが、それらを含め、賞の目的は変わっていない。

本プログラムの特色 朝日賞の候補者推薦は、広く全国の大学、学会、研究機関の責任者をはじめとする3000人を超える各界の有識者に依頼。集まった候補者の業績を朝日新聞社の取材網をフルに動員して調査し、社内での数次に及ぶ選考会で絞り込みをかけたうえで、朝日新聞文化財団朝日賞選考委員会が受賞者を決定する。

賞の種類 朝日賞
〔各賞の名称〕 関係賞として 朝日賞スポーツ特別賞 朝日スポーツ賞 朝日社会福祉賞

受賞者への
アフターフォロー

**本プログラムに
関する照会先** 朝日新聞社 文化企画局文化メセナ部
〒104-11 東京都中央区築地5-3-2
Tel. 03-5540-7453

出光音楽賞

推薦

テレビとリンクした音楽賞を積極的に推進する。

ジャンル	音楽
開始年〔西暦〕	1990年
主催	出光興産(株)
後援	テレビ朝日



本プログラム開始の経緯 「出光音楽賞」は出光興産提供のテレビ番組「題名のない音楽会」の放送25周年を記念して1990年に制定された音楽賞。

本プログラムのねらい 主にクラシックの音楽活動を対象に、育成という観点から意欲、素質、将来性などに重きを置き、原則として30歳以下の新進の音楽家を顕彰している。さらに、1995年には「出光音楽賞」が5周年を迎えたのを機に、新たに「出光音楽大賞」を創設した。こちらは年齢制限を設けず、きわめて顕著にして斬新な業績をあげた音楽家に贈られる。

本プログラムの特色 「出光音楽賞」、「出光音楽大賞」とも、いずれの賞についても選考は、各分野を代表する選考委員で行われる。また、受賞者は例年どおり「題名のない音楽会」（テレビ朝日系列毎週日曜日午前9時～9時30分に放送）で紹介される。なお、賞金として「出光音楽賞」には300万円、「出光音楽大賞」には500万円を贈っている。

賞の種類 出光音楽賞 出光音楽大賞
[各賞の名称]

受賞者へのアフターフォロー ●テレビにて受賞者を紹介（テレビ朝日「題名のない音楽会」にて）
 ●受賞者を集めコンサートを実施する場合もある（5周年を記念して1995年に実施）

本プログラムに関する照会先 出光興産(株) 総務部 広報課 Tel. 03-3213-3115
 テレビ朝日制作局 Tel. 03-3405-3611

伊藤園お〜いお茶新俳句大賞

公募

若い世代中心に、時代に合った「俳句文芸」の普及に貢献する。



ジャンル	文芸（俳句）
開始年〔西暦〕	1989年
主催	㈱伊藤園

本プログラム開始の経緯 伊藤園は、1985年に日本の伝統的な飲み物である緑茶の缶飲料化に初めて成功し、発売を始めた。その発売5周年記念の話題づくりとして、缶のパッケージを市民のコミュニケーションメディアとして開放することを考え、大衆文芸の象徴である「俳句」をテーマにしてコンクールを開始した。

本プログラムのねらい 缶のパッケージに俳句を載せて販売するユニークさが若者うけることを前提に、伝統文化離れが叫ばれる若い世代にも、その素晴らしさを再認識してもらいたいとの考えから始めた。そして、この「誰もが参加できる俳句コンクール」を長期的に実施し、多くの人々の文芸活動を側面から支援することで、社会に貢献したいと考えている。

本プログラムの特色 季語や定型にこだわらず**5・7・5**のリズム感で自由に俳句をつくろうと呼びかけ、入賞句が「お〜いお茶」のパッケージで発表されることもあり応募が年々増加。今年度の第8回では国内はじめ世界**40**か国から**53**万句以上の応募があり、創作作品の公募としては日本最大規模。応募者も熟練者初心者問わず幼児からお年寄りまでと多彩。教育の現場などでも活用され、俳句大衆化とともに生涯学習の意味でも貢献している。

賞の種類〔各賞の名称〕 文部大臣賞（1名、副賞**50**万円ほか）、大賞（部門別合計**8**名、副賞**20**万円ほか）、優秀賞（部門別合計**55**名、副賞**5**万円ほか）。そのほかに審査員奨励賞、後援団体奨励賞、ユニーク賞、秀逸があり、合計**300**名が入賞。

受賞者へのアフターフォロー ●過去の入選入賞者とのDMなどによる定期的なコミュニケーション（年2回）
●その他、上位入賞者の発表パーティー招待、書籍の出版など

**本プログラムに
関する照会先** ㈱伊藤園 マーケティング部
〒102 東京都渋谷区本町3-47-10
Tel. 03-5371-7177

岩手日報文学賞

公募

啄木、賢治の優れた文学研究の顕彰。

ジャンル 文学

開始年〔西暦〕 1985年

主催 岩手日報社

本プログラムの開始の経緯 岩手日報創刊110周年を記念した文学賞。啄木賞、賢治賞、随筆賞の3賞から成る。

本プログラムのねらい 岩手県が生んだ歌人・石川啄木と、詩人・宮沢賢治を顕彰し、2人の文学研究をいっそう深めてもらうために設定。随筆は、岩手県内で随筆を書く機運を盛り上げ、作品向上をはかること。なお、啄木賞、賢治賞は自・他薦を問わない。随筆は県内在住者が対象。

本プログラムの特色 文学賞の啄木賞、賢治賞、随筆賞の受賞者に正賞として、盛岡市出身の彫刻家舟越保武制作のブロンズ像、「エリカ」を贈っている。

賞の種類 石川啄木賞 宮沢賢治賞 随筆賞
〔各賞の名称〕

受賞者へのアフターフォロー ●啄木賞、賢治賞受賞者には研究の進展や話題があった場合に寄稿を依頼している。
●随筆賞は、「みちのく随想」のレギュラーメンバーとして年に1回の寄稿を依頼している。

本プログラムに関する照会先 岩手日報社 学芸部
〒020 岩手県盛岡市内丸3-7
Tel. 019-653-4111

扇町ミュージアムスクエア戯曲賞 (OMS戯曲賞)

公募

関西の若手・中堅劇作家への励みと刺激となるプログラム。



ジャンル	戯曲
開始年〔西暦〕	1994年
主催	㈱アーバネックス 扇町ミュージアムスクエア
協賛	大阪ガス㈱

本プログラム開始の経緯 1993年3月より、扇町ミュージアムスクエア10周年事業をスタート。単にお祭りに終わらせることなく、あとに残るものになりたいという思いから、1年半にわたり数々の企画を実施した。その中核となったのが「扇町ミュージアムスクエア戯曲賞」の創設であった。

本プログラムのねらい 従来より実施されている演劇にかかわる賞は、東京中心の選考であり、加えて「テアトロ・イン・キャビン戯曲賞」が1992年に終了したため、関西の劇作家の顕彰の機会は乏しくなる一方であった。そのような状況下、次代を担う新たな劇作家の発掘と同時に、すでに評価のある中堅劇作家への刺激を意図し、この賞を創設した。

本プログラムの特色 関西に在住または関西を主たる活躍の場とする劇作家からの応募作品を対象としており、①前年に書き下ろしのうえ上演された作品のみが対象、②選評、選考経過と受賞作品を掲載した本を扇町ミュージアムスクエアから出版、③大賞受賞作品は扇町ミュージアムスクエアのプロデュースにより翌年度に再演、という特色を備えている。賞の意義を広くアピールするという姿勢において、顕彰したら終わりというタイプの賞とは一線を画している。

賞の種類 大賞 佳作（各1作品）
〔各賞の名称〕

受賞者へのアフターフォロー ●大賞受賞作品を扇町ミュージアムスクエアのプロデュースにより翌年度に再演
●毎回受賞作品を選評選考経過とともに掲載した本を出版

**本プログラムに
関する照会先** 扇町ミュージアムスクエア
〒530 大阪府大阪市北区神山町1-11
Tel. 06-361-0088

紀伊國屋演劇賞

推薦

数多くの演劇人を生んだ伝統ある賞。

ジャンル	演劇（現代演劇）
開始年〔西暦〕	1966年
主催	株紀伊國屋書店



本プログラム開始の経緯 1964年に紀伊國屋ホールを開設し、現代日本における文化・芸術の交流の場として役立つことを念願としてきたが、さらに新しい芸術創造の進展に寄与するために1966年に同賞を設定した。

本プログラムのねらい 現代演劇の各ジャンルに対して賞を贈り、演劇界発展に寄与するとともに、各ジャンルの新人の発掘をつねに心がけている。

本プログラムの特色 1993年より、紀伊國屋演劇賞を永続させる目的で社内に演劇振興基金を設けた。

賞の種類 団体賞 個人賞
〔各賞の名称〕

**受賞者への
 アフターフォロー**

**本プログラムに
 関する照会先** 株紀伊國屋書店 事業部事業課
 〒160 東京都新宿区新宿3-17-7
 Tel. 03-3354-0141

京都賞

推薦

“人をたたえる” 京都賞。

ジャンル	全般
開始年〔西暦〕	1985年
主催	財稲盛財団



本プログラム開始の経緯 京セラ株の創立25周年を機に創立者稲盛和夫氏のかねてよりの「人の為、世の為に役立つことをなすことが、人間として最高の行為である」という人生観を具現化すべく、私財約200億円を醸出して稲盛財団を設立し、人類の進歩、発展にいささかでも貢献したいと考え、京都賞を創設した。

本プログラムのねらい 科学技術と人類精神の調和的発展を願い、現代の「知」と「芸術」の創造的活動に積極的に貢献したく、先端技術や基礎科学ならびに精神科学・表現芸術の部門で著しい貢献をした人々をたたえ、国際的に権威ある賞として育成していく方針である。

本プログラムの特色 京都賞3部門で毎年授賞対象分野を設定して、各部門に1賞合計3賞が贈られる国際賞である。受賞者には金メダル、賞状および1賞当たり賞金5000万円合計1億5000万円が贈られる。偉大な業績はもとより、人柄にも目を向けて受賞者を審査選考している。また一般市民の啓発に役立つように、京都に来て授賞式のみならず記念講演会やワークショップで講演することが授賞条件となっている。

賞の種類 京都賞—先端技術部門 基礎科学部門 精神科学・表現芸術部門
〔各賞の名称〕

受賞者へのアフターフォロー

- 記録年本・ニュースレターの送付
- 毎年の受賞者の決定通知
- 毎年の京都賞授賞式への招待状送付

本プログラムに関する照会先 財稲盛財団 広報課
 〒600 京都府京都市下京区四条通り室町東入ル 函谷鉾町88
 Tel. 075-255-2688

キリン コンテンポラリー・アワード

公募

原石は出会いで光る。

ジャンル	全般
開始年〔西暦〕	1990年
主催	キリンビール(株)



本プログラムの開始の経緯 1987年に複合文化ビル「キリンプラザ大阪」を創設し、現代芸術を中心とするユニークなイベントを開催してきた。現代芸術のよりいっそうの活性化をめざすため、若い才能あるアーティストの発掘・支援・育成を目的として、1990年に「キリンプラザ大阪コンテンポラリーアワード」として出発。1993年に名称を変更し現在にいたる。

本プログラムのねらい 若い才能を応援し、若いアーティストが台頭することで、アート界全体も活性化し、アートを通して社会にたえず新しい価値感を提供していく。

本プログラムの特色 ジャンルを問わず、また既成の概念ではとらえきれないようなアート作品の応募を期待。応募はすべてビデオテープに収録。これは、プレゼンテーションの力もあわせて見るためである。受賞者にはキリンプラザ大阪やキリンアートスペース原宿での作品発表の場を提供するなど、受賞後の活動を支援していくのが大きな特色。

賞の種類 最優秀作品賞 優秀賞 奨励賞
[各賞の名称]

受賞者へのアフターフォロー ●最優秀作品賞 次年度かならず個展開催
 ●その他の賞 適宜グループ展や個展の開催 公演等の開催 受賞後の活動全般への支援

本プログラムに関する照会先 キリンビール(株) 広報部 社会貢献室
 〒104 東京都中央区新川2-10-1
 Tel. 03-5540-3451

ジャパン・アート・スカラシップ

公募

若手アーティストの発掘・育成を目的とした空間アートのコンテスト。



ジャンル	インスタレーション
開始年〔西暦〕	1990年
主催	ジャパン・アート・スカラシップ実行委員会
協賛	シヤチハタ工業㈱

本プログラムの開始の経緯 シヤチハタ工業は、文化的道具としての文具を扱っていることから、「生活文化価値創造企業」をめざしている。そのため、時代の求める新しい価値を創造し、生活文化の向上に貢献していきたいと考えている。その方針のもと、可能な範囲で文化活動への支援を行い、新しい文化を育てていく一つの方法としてスタートさせた。

本プログラムのねらい 素晴らしい感性と構想を持ちながらも、経済的な理由などで作品化する機会に恵まれない若手アーティストを、継続的に支援していく方法として生み出された新しいアートのコンテストである。

本プログラムの特色 東京・青山スパイラルガーデンのアトリウムという特定の空間（直径13m、高さ15m）を意識した制作・展示のプランを募集し、グランプリ受賞者には制作展示費として1000万円が援助されるというもので、完成した作品はスパイラルガーデンに展示される。

賞の種類 グランプリ
〔各賞の名称〕

受賞者へのアフターフォロー ●受賞作品の制作展示費の支援
●完成作品の展示会の開催

本プログラムに関する照会先 ジャパン・アート・スカラシップ実行委員会 事務局
〒107 東京都港区南青山5-6-23 スパイラル内
Tel. 03-3499-3922

JOMO 童話賞

公募

あなたのこころの世界を、童話にしてみませんか。

ジャンル	創作童話募集
開始年〔西暦〕	1970年
主催	(株)ジャパンエナジー

本プログラムの開始の経緯 共同石油時代の1970年9月に、企業テーマ「こころのかようおつきあい」「こころのふれあい」の趣旨にあった企業イメージアップの一環として、この企画が始まった。なお、企業合併により石油関連ブランド名「JOMO」をタイトルとした。

本プログラムのねらい 入賞作品集「童話の花束」は福祉施設や母子家庭・幼稚園等に寄贈するなど、同社の営業面とは完全に切り離れた、企業文化活動の一環として位置づけている。

本プログラムの特色 400字詰原稿用紙5枚以内という短編であり、誰もが応募しやすい、童話作品制作の登竜門的な存在となっている。応募者全員に入賞作品集「童話の花束」を贈呈する。

賞の種類 一般の部／最優秀賞 優秀賞 佳作 努力賞
〔各賞の名称〕 児童の部／児童賞 努力賞

受賞者へのアフターフォロー ●授賞式・パーティーに招待
 ●選考委員である俳優の岸田今日子による入賞作品の朗読テープの贈呈

本プログラムに関する照会先 (株)ジャパンエナジー 総務部広報担当
 〒105 東京都港区虎ノ門2-10-1
 Tel. 03-5573-6105

新日鉄音楽賞

推薦

若手クラシック演奏家にチャンス。

7回 新日鉄音楽賞 授賞パーティー

ジャンル	クラシック音楽
開始年〔西暦〕	1990年
主催	新日本製鐵株、財新日鐵文化財団



本プログラム開始の経緯 新日鉄音楽賞は、1990年4月、新日本製鐵創立20周年と同社提供のラジオ番組「新日鉄コンサート」（ニッポン放送制作・全国11局ネット）放送35周年を記念して、将来を囑望される若手クラシック演奏家ならびに音楽文化の発展に携わる方々にささやかなりとも役立ちたいと念願し創立した音楽賞。

本プログラムのねらい 新日本製鐵はかねてより学術・芸術・スポーツ等の振興を通じて社会との交流を深めてきた。とくに音楽分野では「新日鉄コンサート」さらに1995年4月にオープンした「紀尾井ホール」そして「新日鉄音楽賞」によりまさに三位一体のものとして活動を展開し、今後とも音楽文化振興を通じた文化芸術活動への支援をいっそう進めていく。

本プログラムの特色 新日鉄音楽賞は、将来を期待される優れたアーティストを対象とし技術だけでなく音楽性・将来性を重視し広い範囲から選出、その年の最優秀者1人に贈るフレッシュアーティスト賞と、クラシック音楽の演奏家に限定することなく、幅広いジャンルのなかから、わが国の音楽文化の発展に大きな貢献を果たしてきた方に贈られる特別賞から成り、フレッシュアーティスト賞受賞者には新日本フィルとの受賞記念コンサートの機会が与えられる。

賞の種類 フレッシュアーティスト賞 特別賞
〔各賞の名称〕

受賞者へのアフターフォロー ●フレッシュアーティスト賞受賞者には新日本フィルハーモニー交響楽団との共演による受賞記念コンサートを開催

本プログラムに関する照会先 新日本製鐵株 秘書部広報センター
 〒100-71 東京都千代田区大手町2-6-3
 Tel. 03-3275-5015

全国舞踊コンクール

公募

すべての舞踊部門を網羅した歴史ある舞踊コンクール。

ジャンル	舞踊（邦舞、クラシックバレエ、現代舞踊、創作舞踊、児童舞踊）
開始年〔西暦〕	1939年
主催	東京新聞
協賛	日本舞踊協会、日本バレエ協会、現代舞踊協会、全日本児童舞踊協会



本プログラムの開始の経緯 東京新聞の前身、都新聞（新聞統制令により1942年国民新聞と合併、東京新聞となる）は舞踊界と密接な関係にあった。当時すでに音楽コンクールが行われており、同社としては舞踊を通じての芸術文化の発展をとの考えから舞踊界に働きかけ実現した。

本プログラムのねらい 日本の舞踊芸術発展向上のため、次代を担う舞踊家の発掘育成を目的とする。とくに底辺の拡大には意をそそいでおり、優秀な舞踊家の育成を通じ指導層の強化もねらっている。

本プログラムの特色 多くのコンクールが行われているなかで最も歴史が古く、これまでに国内、国外で活躍している多くの舞踊家を生み出した。またすべての舞踊部門を網羅したコンクールは世界に例がなく、参加には何の制限も設けられていない。

賞の種類
[各賞の名称] コンクール賞、文部大臣奨励賞、東京都知事賞、各舞踊協会賞、石井漢賞、高田せい子記念賞、指導者大賞、平岡斗南夫賞、平多正於賞、河藤たつる記念団体奨励賞、童心賞、みやこ賞、ルフトハンザドイツ航空賞、バレエ奨励賞

受賞者へのアフターフォロー ●秋に「上位入賞者によるアンコール公演」を開催、3位までの入賞者、入賞団体を広く紹介している。

本プログラムに関する照会先 東京新聞事業局舞踊コンクール係
 〒100 東京都千代田区内幸町2-1-4
 Tel. 03-3595-4834

日伊声楽コンクール

公募

参加者のなかから欧米一流オペラ劇場に出演できる歌手が多く生まれている。

ジャンル	声楽コンクール
開始年〔西暦〕	1965年
主催	読売新聞社 日伊音楽協会
協賛	



本プログラム開始の経緯 日伊音楽協会は、日伊両国間の音楽交流により理解と協力をはかることを目的として1964年に設立された。イタリアが歌とオペラの国であるため会員のほとんどが声楽家であり、必然的に声楽に関連した事業がいろいろと検討された結果、当時少なかったコンクールの実施が選ばれた。そして、文化の国際交流に意欲を持つ読売新聞社の全面的協力を得て出発することとなった。

本プログラムのねらい 創設当初はまだ日本人歌手のレベルは欧米の歌手に比してかなりの差があった。歌やオペラの本場といわれるイタリアに留学して良い勉強をしてもらい、その成果を日本に持ち帰ってわが国オペラ界の発展に寄与してほしいというのが初期のねらいであり、かなりレベルの上がった今日でも、その必要性は決して弱まっていない。

本プログラムの特色 日伊両国間の音楽的交流が根本にあるため、文字どおり声楽家のコンクールであり、内容的には日本人がイタリアの歌、オペラ・アリアを歌い競うことに特色がある。すなわち参加者は日本人に限り、演奏する曲はイタリアの歌、イタリア・オペラのアリアのみに制約されている。そして1位入賞者にはイタリアに留学するチャンスが与えられている。1997年までに33回実施。

賞の種類〔各賞の名称〕 外務大臣賞 文部大臣奨励賞 読売新聞社賞 日伊音楽協会賞 イタリア文化会館賞 日伊協会賞 アリタリア航空賞 藤原義江賞 奥田良三賞

受賞者へのアフターフォロー ●入賞者コンサートへの出演

**本プログラムに
関する照会先** 日伊音楽協会 事務局
〒106 東京都港区西麻布4-16-13西麻布28森ビル8F
財団法人日本オペラ振興会内
Tel. 03-5466-3185

ニッセイ・バックステージ賞

推薦

この賞を「裏方さん」の励みや目標に育てていきたい。

ジャンル	舞台芸術
開始年〔西暦〕	1995年
主催	財ニッセイ文化振興財団



本プログラム開始の経緯 ニッセイ文化振興財団は永年にわたる日生劇場の運営を通じて、「舞台芸術は総合芸術であり、多くの分野の人材の結束と能力発揮により成立する」と考えている。しかし表舞台に立つ演技者・演奏家は評価される機会が多い反面、舞台の基礎を支える技術者=広い意味の「裏方さん」はなかなか注目されにくいのが現状であり、本プログラムを開始した。

本プログラムのねらい 本賞創設の原点は、「みごとな舞台は、この道一筋に黙々と精進努力をされている裏方さんたちなくしては実現できない」という認識のもと、とかく陽が当たらず後継者が育ちにくい裏方さんに光を当て、永年のご苦労に報いたいという舞台芸術関係者の熱い思いを、ニッセイ文化振興財団がその一部でも具現したいと考えた点にある。

本プログラムの特色 本賞は、舞台芸術の「裏方さん」に新しい息吹を送り、優れた舞台づくりと才能豊かな人材の育成のための一助になればと願い、ふだんは黒衣に徹し、決して舞台上に姿を見せない裏方さんを「主役」としている。受賞者には賞金だけでなく、70歳以降毎年50万円の年金を終身支払うのが特色。母体企業の事業も活用した、ユニークな賞である。

賞の種類 ニッセイ・バックステージ賞
〔各賞の名称〕

受賞者へのアフターフォロー ●受賞者へ、70歳支払い開始年金額50万円を終身支給

本プログラムに関する照会先 財ニッセイ文化振興財団 事務局
 〒100 東京都千代田区有楽町1-1-1
 Tel. 03-3503-3111

日本テレビシナリオ登竜門

公募

もっとも応募数の多いシナリオコンクール。



ジャンル	シナリオ
開始年〔西暦〕	1995年
主催	日本テレビ放送網株

本プログラムの開始の経緯 読売文学賞「戯曲賞」が対象作品を映像作品のシナリオにまでひろげて「戯曲・シナリオ賞」になったことにともない、テレビドラマのシナリオ新人作家公募部門として、1995年より新設した。

本プログラムのねらい テレビドラマの制作において非常に重要なパーツである脚本家の発掘をねらいとする。受賞者と日本テレビのスタッフが共同作業を行い、日本テレビのドラマを書けるパートナーとして育成していく。

本プログラムの特色 日本テレビのプロデューサー、ディレクターが直接全応募作品の選考にあたるなど、日本テレビの社員による手づくりの賞である。選考においては、若手社員の意見が十分にくみいれられ、未完成でも、魅力あるもの、フレッシュな感性があふれるものが求められる。なお、大賞作には賞金500万円、優秀賞作には賞金100万円が贈られる。

賞の種類 大賞 優秀賞
〔各賞の名称〕

受賞者へのアフターフォロー ●プロデューサーとの共同作業により、受賞作品のドラマ化を実現する。
●深夜の時間帯のドラマのシナリオを書く機会を与える。

本プログラムに関する照会先 日本テレビシナリオ登竜門 事務局
〒102-40 東京都千代田区二番町14
Tel. 03-5275-1111

日本ファンタジーノベル大賞

公募

日本における「ファンタジーノベル」という分野を確立！

ジャンル	文学
開始年〔西暦〕	1988年
主催	三井不動産販売(株) 読売新聞社
後援	株新潮社



本プログラムの開始の経緯 日本ファンタジーノベル大賞は、三井不動産販売「創立20周年記念事業」の一環として創設された。同社の主要な顧客である「都市生活ファミリー」層に、近代化にともなって失われつつある夢、冒険、ロマンを思い出してもらいたい、との願いを込めた。

本プログラムのねらい 子供のためのメルヘンではなく、大人も子供も楽しめるファンタジーノベルという新たな世界（ジャンル）の開拓に挑戦する。その結果、「夢の世界」を描ける、才能ある新人作家にチャンスの場を提供する。成人式を迎えた若い同社とともに、21世紀に向かって成長していく賞にしたいと考えている。

本プログラムの特色 第1回受賞作「後宮小説」の酒見賢一、第2回受賞作「楽園」の鈴木光司、第3回受賞作「バルタザールの遍歴」の佐藤亜紀など、数々の作家を輩出している。第6回受賞作「鉄塔 武蔵野線」は映画化され、1997年夏に東京・大阪などでロードショー公開された。1997年で第9回を迎え、質の高い文学賞として定着してきた。受賞作は新潮社が単行本として発行。選考委員は、荒俣宏、安野光雅、井上ひさし、矢川澄子、椎名誠。

賞の種類 大賞（賞金500万円と記念品） 優秀賞（賞金250万円と記念品）
〔各賞の名称〕

受賞者へのアフターフォロー ●授賞式への招待
●受賞作品を単行本として発行

本プログラムに関する照会先 三井不動産販売(株) 広報室
〒163-04 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル
Tel. 03-5381-4062

ぴあフィルムフェスティバル (PFF)

公募

若い才能とエネルギーを応援。

ジャンル	映画
開始年〔西暦〕	1977年
主催	ぴあ(株)
協賛	WOWOW日本衛星放送 (株)ジャストシステム NTTDoCoMo



本プログラム開始の経緯 ぴあフィルムフェスティバルは東映大泉撮影所にて1977年に行われたイベント「第1回ぴあ展」(映像部門)の一企画としてスタート。情報誌「ぴあ」を通じて公募した作品をぴあスタッフが審査し、オールナイトで上映、これがぴあフィルムフェスティバルの幕開けとなり、1997年で20周年を迎える。

本プログラムのねらい ぴあフィルムフェスティバルは、映画の新しい才能の発見と育成をめざしスタートした、情報誌「ぴあ」の主催する映画の未来に向けてのムーブメントである。インディペンデント映画のづくり手を広く世界に紹介するとともに、内外の知られざる秀作を上映している。つくること、見せることの可能性をつねに追いかけている。

本プログラムの特色 ぴあフィルムフェスティバルの大きな位置を占めるのがコンペティション部門「PFFアワード」である。過去19回で集まった作品は8mm、16mm、ビデオなど合わせて8299本。入選作品は320本にもなる。森田芳光監督、塚本晋也監督、橋口亮輔監督、矢口史靖監督など日本映画を支える多くの監督がPFFの入選を経て活躍している。また入選作品は毎年12月に日比谷シャンテにて上映され、その後各地で上映される。

賞の種類 「PFFアワード」 グランプリ 準グランプリ 審査員特別賞 WOWOW賞 ジャストシステム賞 シャンテ賞

受賞者へのアフターフォロー ●受賞者のなかから将来最も期待されるフィルムメーカーに、オリジナル長編映画の製作を依頼する「PFFスカラシップ」を実施

本プログラムに関する照会先 ぴあ(株) 広報部
〒102 東京都千代田区三番町5-19
Tel. 03-3265-1836

「3.3m²展」

公募

ただ作品だけをつくり続ける人たちにしか価値のない、賞金も賞品も出ないコンペティション。

ジャンル	グラフィックアート 写真
開始年〔西暦〕	1992年
主催	ガーディアン・ガーデン



本プログラム開始の経緯 ガーディアン・ガーデンは若手表現者に対し表現の場を提供することで、彼らのステップアップを応援しようと設立され、その一環として、「3.3m²展」はスタートした。多くの人にチャンスを与えようと、最初は3.3m²という限られたスペースで作品を発表してもらい、さらに優れた人には個展開催を提供している。

本プログラムのねらい 作品一点一点の優劣を競う公募展ではなく、作家個人の資質、制作活動に対する姿勢を評価しようという考え方をベースにしている。そのため、応募にあたっては出品作品のみならず、過去の制作活動をまとめたポートフォリオを提出してもらい、それを全審査員がチェックし、応募者全員にアドバイスをフィードバックしている。

本プログラムの特色 「3.3m²展」は、ガーディアン・ガーデンでの個展開催を最終目標とした公募展である。ポートフォリオによる1次審査に通過した十数名がそれぞれ3.3m²のスペースの中で作品を構成し、発表。会期中には出品者と審査員が直接対話をする2次審査会を公開で開催し、グランプリには1年間後に個展開催が約束される。

賞の種類 グラフィックアート/入選（十数名）、グランプリ（1名）
〔各賞の名称〕 写真/入選（十数名）、グランプリ（1名）

受賞者へのアフターフォロー ●グランプリ受賞者にガーディアン・ガーデンの1フロアを個展開会場として提供
 ●入選者を中心に、作品を掲載した『ガーディアン・ガーデン作家ファイル』を作成し、リクルート社内外に配付、作家に仕事の紹介を無償で実施
 ●入選者のなかから、国内外の大学・大学院進学者を対象に、奨学金を給付

本プログラムに関する照会先 ガーディアン・ガーデン
 (株)リクルート リクルートクリエイティブセンター運営
 〒104 東京都中央区銀座8-8-18 ギンザ・ガーディアン・ガーデンビルB1
 Tel. 03-5568-8818

VOCA展「現代美術の展望 ——新しい平面の作家たち」

推薦

The Vision of Contemporary Art

若手美術作家の育成、支援。

ジャンル	美術
開始年〔西暦〕	1994年
主催	ヴォーカ 〔VOCA展〕実行委員会 財日本美術協会 上野の森美術館
協賛	第一生命保険㈱



**本プログラム
開始の経緯** 第一生命の社会貢献活動の専任部署である社会文化事業室が発足したことを機に音楽、演劇に加え、新規メセナ事業として、未着手であった美術に取り組むことになった。外部の美術専門家との検討のなかで、日本企業の美術に対する取り組みが遅れていることや、若手美術作家への支援が手薄であることから、現在のVOCA展の基本となる構想ができた。

**本プログラムの
ねらい** 国際的にも通用する将来性のある若手美術作家を全国から広く求め、紹介することがこの展覧会のねらいである。若手美術作家を支援することが、若手美術作家の励みとなり、ひいては日本の現代美術の発展につながるものと期待している。若手美術作家の発表の場を増やすことと、現代美術の鑑賞者を増やすこともねらいとしている。

**本プログラムの
特色** 40歳以下の作家を対象とし、作品は美術の原点ともいべき平面に限定している。日頃より親身で公平な立場で作家たちと接触している全国の学芸員や研究者、ジャーナリストに推薦された作家に展覧会への参加を依頼し、出品された全作品を展示する。VOCA賞、VOCA奨励賞受賞作品は第一生命が所蔵し、同ギャラリーで一般に公開する。ただし本展の主眼は、賞の選定よりも幅広く現代美術を追求していくことにある。

賞の種類 VOCA賞 VOCA奨励賞
〔各賞の名称〕

**受賞者への
アフターフォロー** ●第一生命南ギャラリーでの個展開催（ギャラリーの無償提供等）

**本プログラムに
関する照会先** 第一生命保険㈱ 広報部 社会文化事業室
〒100 東京都千代田区有楽町1-13-1
Tel. 03-5221-3242

安田火災美術財団奨励賞展

公募

公募団体をベースにしたわが国唯一の新進作家のコンペティション。

ジャンル	絵画と彫刻
開始年〔西暦〕	1977年
主催	財安田火災美術財団



本プログラムの開始の経緯 安田火災美術財団（美術館）の設立・開館は1976年のことであるが、翌年度の事業計画で新進作家に対する育成援助として「安田火災美術財団奨励賞」を創設した。自主運営による公募展は行わず、公募展を開催している美術団体に賞の選考を委任し、賞状・賞金を授与する方法をとっている。

本プログラムのねらい 新進作家の創作意欲を刺激し、日本美術界に清新の気を注入して、世界に伍する美術水準を期待する意図を持つものである。各公募団体が本賞を受賞した作家の新作を安田火災東郷青児美術館に集め展示し、各団体の代表作家に競わせるという「安田火災美術財団奨励賞展」も毎年開催し、1996年で第15回を迎えた。

本プログラムの特色 二つの段階に分けることができる。第一段階は各公募展での代表作品（絵画・彫刻）の選出であり、第二段階は、その作家の新作による他流試合ともいうべき「奨励賞展」における競い合いである。そこでは優秀賞、秀作賞が選出される。これらの賞に選ばれることはたいへん名誉なことであり、画歴に刻まれる。現在実績を有し社会的に貢献度の高いと考えられる30の公募団体が対象である（彫刻の展示は隔年）。

賞の種類 安田火災美術財団奨励賞（展） 優秀賞 秀作賞
[各賞の名称]

受賞者へのアフターフォロー ●個展、グループ展等の開催
 ●各公募団体における推挙

本プログラムに 財安田火災美術財団
関する照会先 〒160 東京都新宿区西新宿1-26
 Tel. 03-3349-4747

- アート界における企業および企業財団が主催あるいは協賛するプログラム名をジャンルごとの一覧にて掲載する。
- アートのジャンルは本特集の対象である「音楽」「美術・デザイン」「舞台芸術」「映像」「文芸」とし、複数のジャンルにまたがるプログラムは「全般」とした。
- ここで掲載するプログラムは、第1章の「メセナ活動実態調査」、第4章の「企業財団のメセナ活動調査」にて回答のあったプログラムである。また、前述の「顕彰・コンクール事業を支える主催者」「顕彰・コンクールプログラム紹介」で紹介したプログラムも掲載した。

音楽

㈱アサヒビール芸術文化財団	アサヒビール音楽賞	主催
出光興産㈱	出光音楽賞	主催
㈱イムズ	イムズ音楽祭	主催
㈱エー・ピー・シー音楽振興財団	ABC 国際音楽賞	主催
㈱エー・ピー・シー音楽振興財団	ABC 新人コンサートオーディション	主催
エッソ石油㈱	全日本ピアノ指導者協会ヤングピアニストコンペティション	協賛
㈱エネルギー文化・スポーツ財団	エネルギー音楽賞	主催
㈱音楽鑑賞教育振興会	音楽鑑賞教育振興論文文募集	主催
㈱音楽教育振興財団	音楽教育振興賞	主催
鐘紡㈱	ピアノデュオ作品による国際作曲コンクール	協賛
㈱カンセイ	大宮市児童音楽コンクール	協賛
キリンビール㈱	国際音楽祭ヤングプラハ	協賛
㈱キリン福祉財団	こどもの国キリン賞吹奏楽コンテスト	主催
㈱五島記念文化財団	五島記念文化賞	主催
㈱サントリー音楽財団	芥川作曲賞	主催
㈱サントリー音楽財団	サントリー音楽賞	主催
三洋電機㈱	しずかホールヴィオラコンクール	協賛
㈱資生堂	日仏声楽コンクール	協賛
清水建設㈱	サイトウ・キネンフェスティバル・イン・松本	協賛
清水建設㈱	ザルツブルグ・イースター・フェスティバル	協賛
㈱JEUZIA	京都ピアノコンクール	主催
新日本製鐵㈱	新日鉄音楽賞	主催
中部日本放送㈱	ウィーン音楽コンクールインジャパン	主催
㈱東急文化村	Bunkamura オーチャードホール・アワード	主催
㈱東京オペラシティ文化財団	ネクスト・ミレニアム作曲賞	主催
㈱東京放送	東京音楽祭	主催
トヨタ自動車㈱	音楽の友社賞 (副賞—トヨタ音楽賞)	協賛
東日本旅客鉄道㈱	ビティナピアノコンクール	協賛
㈱フォーバル	フォーバル・スカラシップ ストラディバリウス・コンクール	主催
㈱マイカル	リゾナーレ高原音楽祭	主催
㈱毎日新聞社	音楽教育振興賞	主催
㈱毎日新聞社	全日本学生音楽コンクール	主催
㈱毎日新聞社	日本音楽コンクール	主催
㈱毎日新聞社	毎日ファミリーソング大賞	主催
丸紅㈱	日本声楽コンクール	協賛
㈱三菱信託芸術文化財団	三菱信託音楽賞	主催
モービル石油㈱	モービル音楽賞	主催
ヤマハ㈱	インターナショナルエレクトーンコンクール	主催
ヤマハ㈱	ティーンズミュージックフェスティバル	主催
ヤマハ㈱	ミュージック・クエスト	主催
㈱ヤマハ音楽振興会	ミュージック・クエスト	主催
㈱読売新聞社	日伊声楽コンコルソ	主催
㈱リットーミュージック	AXIA アーティストオーディション	協賛

美術・デザイン

旭硝子㈱	ガラスアート展	主催
㈱アサヒビール芸術文化財団	来てみれば JAPAN	主催
朝日放送㈱	ABC 美術コンクール	主催
イズミヤ㈱	みんなの美術館	主催

伊藤忠商事株	環境フォトコンテスト	協賛
株イムズ	九州コンテンポラリーアートの冒険	主催
財エネルギー文化・スポーツ財団	エネルギー美術賞	主催
鹿島建設株	鹿島彫刻コンクール	主催
関西電力株	美浜美術展	主催
麒麟ビール株	ピアパーク北陸庭園彫刻コンクール	主催
株講談社	講談社漫画賞	主催
財五島記念文化財団	五島記念文化賞	主催
サントリー株	サントリー美術館大賞	主催
三洋電機株	毎日 DAS 学生デザイン賞「洋々賞」	協賛
JTB	JTB 旅行写真賞	主催
株資生堂	女流画家協会展・資生堂賞	協賛
シャチハタ工業株	ジャパン・アート・スカラシップ	協賛
昭和シェル石油株	昭和シェル石油現代美術賞	主催
住友生命保険株	全日本子ども絵画コンクール	主催
株ゼンリン	オリジナル地図コンクール	主催
第一生命保険株	VOCA 展	協賛
大和証券株	読書感想画コンクール	協賛
財たましん地域文化財団	たましん財団賞	主催
財中信美術奨励基金	京都美術文化賞	主催
株 TYK	TYK 絵画大賞	協賛
東京ガス株	陶芸コンクール	主催
東し株	デジタルクリエイションアワーズ東レデジタルアートコンテスト	主催
凸版印刷株	プリンツ21 版画グランプリ	協賛
凸版印刷株	読書感想画中央コンクール	協賛
株ドミー	母の日作品展	主催
トヨタ自動車株	プリンツ21 グランプリ展	協賛
日動火災海上保険株	昭和会展「日動火災賞」	協賛
日本アイ・ピー・エム株	IBM びわこ現代絵画展	主催
日本アイ・ピー・エム株	上野の森美術館大賞展	協賛
日本航空株	ブードクリコフォトコンテスト	協賛
日本電気株	NEC マルチメディアアート大賞	主催
財日本美術協会	二科展	協賛
財野間奉公会	相模原市児童・生徒図画展	主催
株バルコ	アーバナート	主催
財美育文化協会	世界児童画展	主催
東日本旅客鉄道株	毎日写真コンテスト	協賛
財美術工藝振興佐藤基金	淡水翁賞	主催
フィリップ モリス株	フィリップモリスアートアワード	主催
株富士銀行	富士銀行ストリートギャラリー展示作品公募	主催
財ベルナル・ビュフェ美術館	ビュフェ美術館主催絵画展	主催
北海道ガス株	現代版画ビエンナーレ展	協賛
株マイカル	母の日似顔絵コンテスト	協賛
株毎日新聞社	現代日本彫刻展	主催
株毎日新聞社	現代日本美術展	主催
株毎日新聞社	女流陶芸公募展	主催
株毎日新聞社	土門拳賞	主催
株毎日新聞社	日本国際美術展	主催
株毎日新聞社	日本陶芸展	主催
株毎日新聞社	毎日・DAS 学生デザイン賞コンペ	主催
株毎日新聞社	毎日デザイン賞	主催
三井不動産販売株	住まいの絵画コンテスト	協賛
三菱商事株	アイラブ静岡写生大会	主催

財安田火災美術財団	安田火災東郷青児美術館大賞	主催
財安田火災美術財団	安田火災美術財団奨励賞	主催
財ユニオン造形文化財団	ユニオン造形デザイン賞	主催
株式会社読売新聞社	読売国際マンガ大賞	主催
株式会社リクルート (ガーディアン・ガーデン)	3.3m ² 展	主催
株式会社琉球銀行	りゅうざん紅型デザイン公募展	主催

舞台芸術

株式会社アーバネックス (扇町ミュージアムスクエア)	扇町ミュージアムスクエア戯曲賞	主催
株式会社イムズ	イムズ芝居	主催
大阪ガス株式会社	扇町ミュージアムスクエア戯曲賞	協賛
株式会社伊國屋書店	伊藤薫朔賞	協賛
株式会社伊國屋書店	紀伊國屋演劇賞	主催
株式会社森生堂	ローザンヌ国際バレエコンクール	協賛
株式会社東急文化村	シアターコクーン戯曲賞	主催
トヨタ自動車株式会社	シアターコクーン戯曲賞	協賛
財ニッセイ文化振興財団	ニッセイ・バックステージ賞	主催
日本アイ・ピー・エム株式会社	アジア・パシフィック・国際バレエコンクール	協賛
日本アイ・ピー・エム株式会社	全日本バレエ・コンクール	協賛
日本火災海上保険株式会社	日本バレエ協会コンクール	協賛
財ポーラ伝統文化振興財団	伝統文化ポーラ賞	主催
株式会社ヤクルト本社	全日本バレエコンクール	協賛
株式会社読売新聞社	読売演劇大賞	主催
株式会社リクルート (ガーディアン・ガーデン)	ガーディアン・ガーデン演劇フェスティバル	主催

映像

株式会社西友	サンダンス・インスティテュート・ジューン・ラボ奨学金	主催
日本テレビ放送網株式会社	日本テレビシナリオ登竜門	主催
株式会社びあ株	びあフィルムフェスティバル	主催
株式会社毎日新聞社	ビデオポエム・コンテスト	主催
株式会社毎日新聞社	毎日映画コンクール	主催

文芸

株式会社あさひ銀行	彩の国・あさひ銀行埼玉文学賞	協賛
株式会社朝日新聞社	大佛次郎賞	主催
朝日放送株式会社	時代小説大賞	主催
財石川文化事業財団	路傍の石文学賞・幼年文学賞	主催
株式会社伊藤園	伊藤園おーいお茶 新俳句大賞	主催
財伊藤忠記念財団	子ども文庫功労賞	主催
株式会社イトーヨーカ堂	高校生懸賞作文	主催
株式会社イトーヨーカ堂	小さな童話大賞	協賛
株式会社岩手日報社	岩手日報文学賞	主催
鐘紡株式会社	カネボウミセス童話大賞	協賛
鐘紡株式会社	ヒューマンドキュメンタリー大賞カネボウスベシャル	協賛
九州電力株式会社	お茶の間論文募集	主催
九州電力株式会社	作文募集	主催
九州電力株式会社	論文募集	主催

財キリン福祉財団	キリンファミリー賞	主催
株講談社	講談社エッセイ賞	主催
株講談社	講談社ノンフィクション賞	主催
株講談社	講談社出版文化賞	主催
株講談社	時代小説大賞	主催
株講談社	野間アフリカ出版賞	主催
株講談社	野間文芸翻訳賞	主催
株埼玉新聞社	彩の国・あさひ銀行埼玉文学賞	主催
サントリー㈱	サントリーミステリー大賞	主催
サントリー㈱	開高健賞	協賛
財サントリー文化財団	サントリー学芸賞	主催
三和酒類㈱	いいちこ文学賞	主催
JTB	JTB 紀行文学大賞	主催
JTB	JTB 旅行文化賞	主催
株資生堂	「いのちの輝き」作詩大賞	協賛
株資生堂	現代詩花椿賞	主催
株ジャパンエナジー	JOMO 童話賞	主催
積水化学工業㈱	朝日作文コンクール	主催
中部電力㈱	未来の夢作文コンクール	主催
株東急文化村	Bunkamura ドゥ マゴ文学賞	主催
東邦ガス㈱	詩「虹のことば」	主催
日産自動車㈱	国際アンデルセン賞	協賛
日産自動車㈱	日産童話と絵本のグランプリ	主催
日本航空㈱	世界こどもハイコンテスト	主催
日本電信電話㈱	NTT ふれあいトーク大賞	主催
日本電信電話㈱	小川未明文学賞	協賛
財野間奉公会	野間児童芸賞・新人賞	主催
財野間奉公会	野間文芸賞・新人賞	主催
東日本旅客鉄道㈱	産経児童出版文化賞	協賛
東日本旅客鉄道㈱	読売小中学生作文コンクール	協賛
富士急行㈱	社ユネスコ連盟露木賞	協賛
株毎日新聞社	「小さな童話」大賞	主催
株毎日新聞社	毎日児童小説	主催
株毎日新聞社	毎日童話新人賞	主催
三井不動産販売㈱	日本ファンタジーノベル大賞	主催
株読売新聞社	読売文学賞	主催
株読売新聞社	日本ファンタジーノベル大賞	主催
ルイ・ヴィトン・ジャパン㈱	澁沢クロード賞	主催

全般

財朝日新聞文化財団	朝日賞	主催
財井植記念会	井植文化賞	主催
財昭盛財団	京都賞	主催
キリンビール㈱	キリン コンテンポラリー・アワード	主催
株佐賀銀行	新人賞	協賛
財三銀ふるさと文化財団	三銀ふるさと三重文化賞	主催
財サントリー文化財団	サントリー地域文化賞	主催
財道銀文化財団	道銀芸術文化奨励賞	主催
財徳島新聞社社会文化事業団	徳島新聞社賞(文化賞)	協賛
財日本美術協会	高松宮殿下記念世界文化賞	主催
フィリップ モリス㈱	高松宮殿下記念世界文化賞	協賛

株富士プロジェクト	松尾芸能賞	協賛
株毎日新聞社	毎日芸術賞	主催
朝明治村	明治村賞	主催
モービル石油株	モービル児童文化賞	主催
朝よんでん文化振興財団	よんでん芸術文化・奨励賞	主催

第

章

4

国・地方自治体・財団等のメセナ活動

1. はじめに

総理府が1996年11月に実施した『文化に関する世論調査』の結果によると、日常生活のなかで優れた芸術文化を鑑賞したり、自ら文化活動を行ったりすることに関して、「大切だ」と考えている人は9割強（92.0%）にも上っている（図1）。

また、文化を振興していくことは、文化に対する投資や支出によって、経済や社会など他の分野の活動にも影響を与え、それらの活性化や発展にもつながるとする意見に関しては、「そう思う」と回答した人が約8割（79.2%）となっている。（図2）。

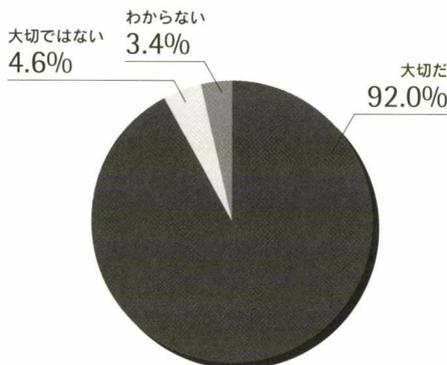
さらに、文化は国や社会の基盤の一つであり、したがって文化を振興することが、国や地方公共団体の基本的な課題の一つであるという意見についても、「そう思う」と答えた人の割合が約8割（79.4%）となっている（図3）。

このような調査結果を見るかぎりでは、芸術文化の支援に関しては、国民の間にすでに幅広い合意が形成されているように思われる。

そこで本稿においては、この「芸術文化支援」というテーマに関して、国および地方自治体による取り組みの現状を概観するとともに、その課題・問題点を抽出し、21世紀へ向けての方向性を展望してみたい。

〔文化活動は大切か〕 図1

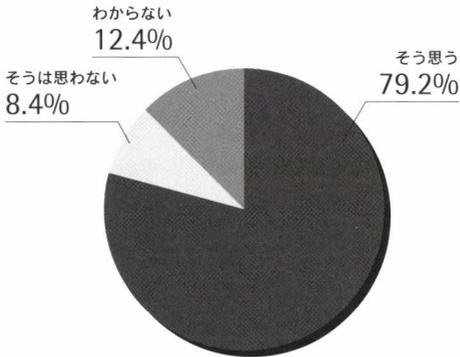
N=3668



〔文化振興は他の分野に影響を与えるか〕 図2

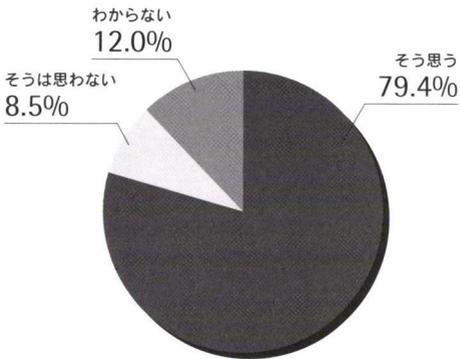
N=3668

237



〔文化振興は国や地方自治体の基本的課題の一つか〕 図3

N=3668



2. 国による芸術文化支援とその課題

創設30周年を迎える文化庁

日本の文化政策を中心となって推進している文化庁が創設されたのは、明治100年にあたる1968年であり、来年（1998年）で設立30周年という大きな

節目を迎えることになる。

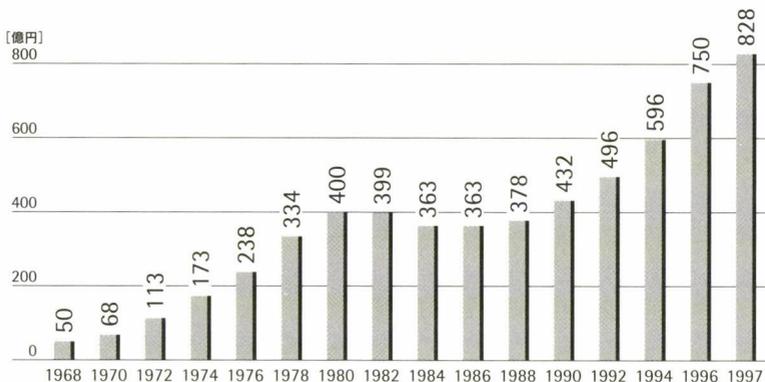
この文化庁の予算の推移を見てみると、80年代には微減傾向にあるものの、70年代および90年代には大幅に増加していることがわかる（図4）。なお、文化庁による芸術文化支援は、この一般会計予算だけではなく、1990年に創設された「芸術文化振興基金」の運用益によっても、芸術文化活動に対する幅広い助成が行われている。

そして、文化庁の今後の施策の方向性に関しては、文化庁内に設置されている「文化政策推進会議」（注）により、『新しい文化立国をめざして—文化振興のための当面の重点施策について—』（95年7月）として、以下の6項目を重点とする施策の提言がなされている。

注 1989年に文化庁長官の私的諮問機関として設置された。文化庁からの諮問等を受け、文化政策の全般的事項に関し審議・検討を行い、各種の提言・報告を提示している。

- ①創造的な芸術活動の活性化。
- ②伝統文化の継承・発展。
- ③地域文化・生活文化の振興。
- ④文化を支える人材の養成・確保。
- ⑤文化による国際貢献と文化発信。
- ⑥文化発信のための基盤整備。

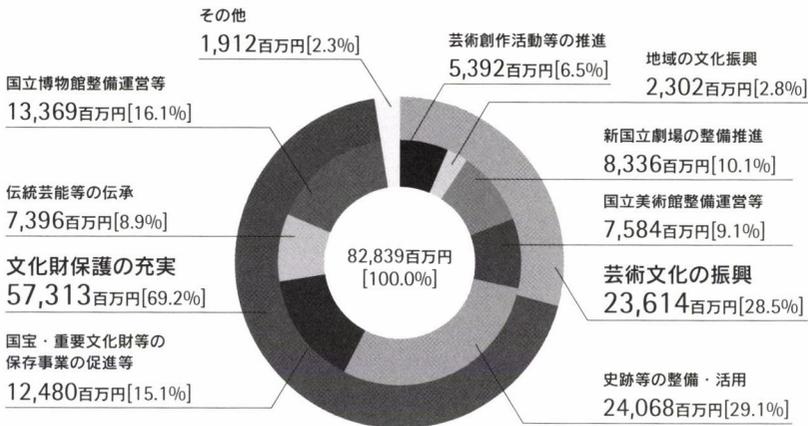
〔文化庁予算の推移〕 図4



1997年度の文化庁予算

この文化庁の1997年度予算は総額約828億円であり、国の一般会計予算(約77兆3900億円)に占める割合は0.1%となっている。この文化庁予算を分野別に見たものが下のグラフ(図5)であり、「芸術文化の振興」に関するものが28.5%であるのに対して、「文化財保護の充実」は約7割を占めており、文化財中心の予算配分となっている。

〔平成9年度文化庁予算／分野別〕 図5



新国立劇場の開場

1997年度の文化庁の事業のなかで最も注目されるのが、「新国立劇場」の開場(10月10日に開場予定)であろう。

わが国で初めての国立オペラ劇場でもあるこの新国立劇場の大きな特徴としては、現代舞台芸術(オペラ、バレエ、演劇等)の自主公演を中心とした劇場である、という点が挙げられる。従来の公立ホールの実状は、自主公演とは言いつつも実際には「持ち込み企画」の買い取りが多いという実態から考えると、一歩も二歩も進んだ事業運営であると考えられる。

しかし、この自主公演の実施に関しては、以下のようにさまざまな課題も挙げられている。

まず第一に、新国立劇場の運営に関しては、制作・上演などの年間の事業費約36億円のうち、約6億円について民間企業から資金援助を求めるとい

計画となっている。しかし、芸術文化支援というものは、さまざまな価値観を有する主体が多様な形態で行っていくのが健全であるという意見があるなかで、民間の資金を新国立劇場に一極集中させてしまうことにより、日本全体の芸術文化支援のあり方にあまり好ましくない影響を与える懸念もある。

また、新国立劇場での公演については、国民が気軽に鑑賞できるような料金設定を望む声もあるが、この場合、公演料金の相場そのものを下げってしまう懸念もあることから、民間セクターが企画・実施する公演との差額についてなんらかの調整措置が必要であろう。

さらに、新国立劇場の貸館料金についても、民間の劇場と比較して安価に設定されているため、民業圧迫を懸念する声が上がっている。たとえば「民間の劇場やホールを対象施設として、公演の利用者（芸術団体等）に劇場使用料の一定額を補助する」といった助成の仕組み等も検討が必要であろう。

その他、舞台芸術とはオペラだけを指すわけではないので、予算面においてオペラ偏重にならないような運営も求められている。

以上のような課題・問題点をなるべく早期に解決し、新国立劇場は、一部でささやかれている「税金の無駄遣い」という批判論をかわしていく必要に迫られているといえよう。

そのうえで“新”“国立”というネーミングにふさわしく、現代日本のパフォーマンス・アーツの最良の成果を発信すると同時に、オペラなどのように、西欧諸国の長い歴史と伝統のなかで確立された芸術分野だけではなく、日本独自の新しい総合舞台芸術を創造し、日本国内での評価が世界水準での評価＝「グローバル・スタンダード」となるような運営をめざすべきであろう。



文化庁以外の省庁による芸術文化支援

なお、芸術文化の支援に関しては、文化庁だけではなく、国土庁、通産省、建設省、自治省等さまざまな省庁所管の行政分野においても実施されている。

国土庁においては、芸術文化を核とした地域のアイデンティティを形成・育成し、それを地域の活性化につなげていくため、95年度に『芸術のかおる里づくりの推進に関する調査』を実施している。そして96年度より農村地域へのアドバイザーの派遣やワークショップの開催などの事業を展開している。

また、通産産業省は、芸術文化（パフォーミング・アーツ）が「産業」としても重要な位置づけが期待されているとの認識のもと、「感性産業に関する調査研究」（94年5月）において、エンターティメント・ビジネスの振興のための提言を行っている。また、劇場等の文化施設に対する低利融資（アーバン・コンプレックス・ビルディング整備事業）も実施している。

建設省は、96年6月に「文化を守り育む地域づくり・まちづくりの基本方針（通称：文化大綱）」を発表している。これは、まちや地域への愛着と誇りを持っていつまでも住み続けたいと思うような、また、誰もがふたたび訪れたいと思うような文化の香り高い地域づくり・まちづくりを進めていくことが建設行政の責務である、という考えにもとづいたものである。

そして、自治省においては、地方公共団体が自主的・主体的に実施する地域づくり事業を対象とした「ふるさとづくり事業」が実施されている。この事業では、市町村または都道府県が実施するハード事業（美術館、コンサートホールを含む）について、地方債および地方交付税による財源措置が講じられているほか、市町村が実施するソフト事業（音楽、演劇、美術等の文化イベントを含む）について、地方交付税措置が講じられている。

このように各省庁において多様な取り組みがみられるのは、「芸術文化は（国が）支援すべきものである」という基本的な考え方が、文化庁にとどまらず各省庁に広がった結果であるとみることができる。そして今後とも「生涯学習とアート」「医療・福祉とアート」「産業振興とアート」「観光振興とアート」「まちづくりとアート」「国際交流とアート」など、アートを通じてさまざまな社会的ニーズを満足させていくため、文化以外の政策分野との連携、すなわち各省庁との連携をよりいっそう強化していくことが期待される。

なお、1997年7月に「行政改革会議」（会長：橋本首相）において、省庁再編の軸となる17分野の政策課題を挙げたうえ、中央官庁再編の指針が公表されたが、そのなかに「芸術」または「アート」というキーワードはまったく登場していない。この事実は、楽観的に考えれば、すべての政策課題にお

いて、芸術や文化に関する視点が内部化されている、と見ることもできるが、芸術文化の振興そのものは国家的課題ではない、という見解が表明された事実を関係者は厳粛に受け止める必要があろう。

3. 地方自治体による芸術文化支援とその課題

地方自治体による芸術文化関連予算の推移

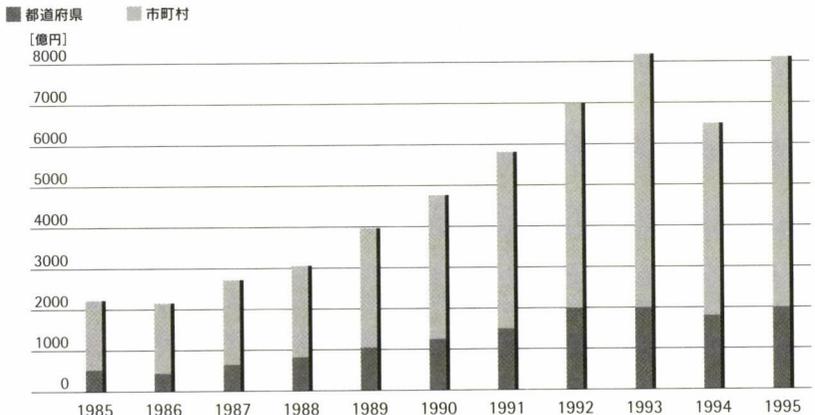
次いで、地域の住民により身近な行政サービスを提供する立場にある地方自治体の芸術文化支援に目を転じたい。

地方自治体による芸術文化支援に関する経費の推移を見ると全般に増加傾向にあり、とくに市町村の芸術文化関係費の増加が顕著であることがわかる。また、一般会計以外に、地方自治体が設立した文化振興基金や文化振興財団の存在があり、各自治体から多額の補助金が出ているので、これらの基金や財団も実質的には地方自治体の芸術文化予算の一部とみなしてよいだろう。

このように芸術文化関連予算が増加した背景としては、道路、上下水道、学校建築等の基盤整備にかかる需要が一巡し、財政面で芸術文化を支援するゆとりが生じたことが主要な要因として挙げられている。

ただし、21世紀に向けて財政事情がよりいっそう厳しさを増すと予測されるなかで、このような予算面での数量的なバロメーターだけ用いて芸術文化施策の拡大を分析したり、単に予算面での拡充に努力を傾注するだけでは、あまり意味のあるアプローチとはいえない。

[地方自治体の文化予算(文化財保護経費を除く)の推移] 図6



4. 展望——明日の芸術文化支援

今年（1997年）の5月に「地方自治法」は施行からちょうど50年を迎えた。そしていま、地方分権化が推進されるなかで、国と自治体の関係も「主従・上下から対等・協力へ」と変化し、かつて「3割自治」と揶揄された地方自治のあり方そのものが変化していくことが期待されている。そして、当然のことながら、このことは地方自治体や国の芸術文化行政のあり方にも大きな影響を及ぼすことになることが予想されるため、いま、まさに芸術文化施策の総点検が必要となっているといえよう。

そこで、本稿の総括として、とくに地方自治体による芸術文化支援のあり方に着目して、その課題と21世紀の展望について整理してみたい。なお、課題の整理にあたっては、『メセナ白書1996』において伊藤裕夫氏が提起した、明日の芸術文化支援へ向けての三つの課題、すなわち「何のための芸術文化支援か」「誰に対しての芸術文化支援か」「どのようなかたちでの芸術文化支援か」にならうこととする。

①何のための芸術文化支援か＝目標設定の必要性

現状の地方自治体の芸術文化支援においては、「何のための芸術文化支援か」という施策の目標（ゴール）が残念ながら明確化されていないケースが多い。たとえば、地域アイデンティティを形成するという目標と地域在住のアーティストを育成するという目標はまったく異なる性質のものであるが、その差異を明確に意識せずに、またはそもそも施策目標が設定されずに、さまざまな芸術文化の支援施策が実施されているのが現状である。

しかし、目標を設定することにより、施策の目標（将来の夢）と現実との差が明確化し、目標達成に対する地域住民の合意形成を容易にするだけでなく、施策実施にあたっての地域住民の主体的かつ積極的な参画も期待できるものと考えられる。

また、目標設定により、これが政策判断の基準となることから、事業実施にあたっての意志決定のスピードが速まり、さらに事業が数年にわたる場合においても施策展開における自己修正機能が期待できる。

このような理由から、今後の地方自治体において、芸術文化支援を進めていくためには、まず第一に芸術文化の支援によって達成したいと考える目標を明確に設定する必要があるといえる。

そして、目標設定にあたっては、地域社会におけるニーズを把握したうえ

で、そのニーズを実現するための費用対効果の視点から、適切な手法かどうか、適正なコストかどうか等、十分な議論が必要である。

さらに、さまざまな支援施策や支援事業の実施後には、それらの施策が本当に役に立ったのか、目標に照らして施策の成功／失敗を検証するべきである。このような施策の結果に対する事後評価のためには、芸術文化の社会的な効用についての透明性の高い評価システムづくりが喫緊の課題であろう。

なお、この際には、地域住民が判断できるように結果を公表することが必要である。一般に、日本においては、源泉徴収の制度が確立されているがゆえに納税者意識が低いといわれているが、今後は、税金が有効に使われているかどうかを住民自身が税金の使途を監視していくという姿勢が必要であろう。

② 誰に対しての芸術文化支援か＝住民主体の支援の必要性

さて、かつて、文化ホールが全国各地においてブームのごとく建設された時期に“ハコモノ行政批判”や“多目的ホール批判”がわき起こったが、この問題を切り口として、「誰に対しての芸術文化支援か」という問題を検討してみたい。

この“ハコモノ行政批判”において、ハードよりも芸術文化のソフトに対して優先的に予算を配分することが必要という主張がなされたが、この意見にはたしかに至極もつともな響きがあった。しかし、この指摘のとおり、ただ単にソフト重視の施策を展開した場合、今度は全国各地でさまざまな文化イベントが行われてはいるものの、観客動員数が極端に少ないという事態が生じ、一転して“イベント行政批判”がわき起こったのではないだろうか。

このことは、芸術文化の支援のあり方について、以下の二つの点を示唆している。

一つは、そもそも観客や聴衆がいなければ文化事業は成立しないのであるから、芸術文化の支援においては、一見遠回りなようであるが、地域住民を対象とした観客養成（マーケットの醸成）こそがじつは最も重要な課題だということである。

そして、もう一つはより重要な点であるが、単なる行政批判からは何も生まれてこないし、そのような施策を黙認していた地域住民自身の責任も最終的には問われることにもなる、ということである。

つまり、これからの芸術文化の支援は、全面的な行政頼みではなく、単なる“行政批判”を超え、地域住民による自発的で多様性のある支援のあり方

が求められているといえよう。そして、地域住民は単なる行政サービスの享受者としてではなく、むしろ地域社会を豊かなものにしていく活動の主体となるべきであろう。もちろん、ここでいう“地域住民”とは、一部の芸術愛好家のようなインナーサークルを意味するのではなく、幅広い層の住民のことを意味している。

この場合、地方自治体は「地域住民がクライアントであり、かつスポンサーでもある」という前提を再確認する必要がある。そのうえで、芸術文化支援をリードする地域の指導者の育成や団体等の運営ノウハウの提供等、地域住民とのコラボレーション（協同）に徹するべきであろう。

このような施策を通じて、どのような芸術文化を支援していくのかを自分たちの権利と責任において判断することのできる、成熟した市民社会をつくることこそ、じつは芸術文化支援の王道なのではないだろうか。さらにいえば、行政依存の現在の日本の社会的土壌を変革し、行政に頼りすぎない地域住民を増やしていくことが、地方自治の究極の目的の一つなのかもしれない。

このように考えてみると、今後の芸術文化行政のあり方は、現在の住民と行政との関係をコペルニクス的に転換し、地方自治のあり方そのものを変えていく一つの試金石ともなりうると期待される。

③どのようなかたちでの芸術文化支援か＝競争原理の必要性

現在の社会経済環境においては、芸術文化団体やアーティストの活動がきかんになればなるほど、活動の資金が不足するという皮肉な現象が生じてしまう。そこで、このような背景のもと、芸術文化団体やアーティストの経済的自立を支援するような施策の必要性から、現在、文化庁により「アーツプラン21」という、特定の団体に対する複数年にわたる重点的支援の施策が実施されている。

しかし、日本の社会・経済を取り巻くシステムに制度疲労が生じ、大きな構造改革を迎えようとしている現時点において、芸術文化の世界だけが、かつての日本の産業政策のような「護送船団方式」のもと、財源配分や利益調整を続けていくわけにはいかないのではないか。

また、芸術文化に限った話ではないが、いたずらに補助金を与えることは、補助がない分野の衰退を招く懸念があり、さらに、補助を受けている特定少数の芸術文化団体の既得権益となってしまう懸念すらある。

そこで、「赤字を補填するのが文化行政」という乱暴な議論ではなく、芸術団体やアーティストも、補助金に安易に依存する体質を改善していくよう、

「機会の平等／結果の不平等」を原則とした、競争原理を導入した支援施策が必要であろう。よくいわれることであるが、健全な競争原理がないところにはクリエイティビティもない、というわけである。

具体的には、芸術はすべからくありがたいものという「芸術至上主義」を前提として助成をするのではなく、今後の芸術文化支援は、芸術文化全体やアーティストが自らの社会的価値をひろげていくための支援に内容を転換していく必要がある。

この場合、アーティストは芸術文化の社会的な認知度や芸術の社会的意義を明確にしていく必要があるが、このことは決してアート（アーティスト）が社会に迎合することを意味していない。

そして、このような競争原理を機能させるためには、行政が単一的・直接的に支援に取り組むのではなく、支援のためのファンドについては可能なかぎり複数化し、また支援の方法も多様化しているほうが良いと考えられる。そして、公的セクターは、民間セクターの芸術文化活動を幅広く支援することによって、間接的に芸術文化を支援すべきであろう。

5. おわりに

21世紀の国際社会における芸術文化の役割

いま、目前に迫る2001年は21世紀の幕開けの年であり、千年単位での大きな歴史的転換点でもある。そこで、この21世紀の芸術文化支援について検討するためには、21世紀の世界像を視野に入れておかねばならない。

日本の社会経済環境は、前述したとおり、内部においては大きな構造改革が進展しているが、外部に目を転じてみると、人やモノ、情報等の移動において国境の垣根が低くなり、よりいっそうのグローバル化が進展していることがわかる。そして、たとえばアジア諸国については、21世紀には、EU（欧州連合）のような相互補完の関係にある連合体になるという想定もあるが、その場合、単に経済面での交流だけではなく、芸術文化面等の多様な交流がよりいっそう重要になってくるであろう。とくに、相手の価値観を認めたいうで、自分の主張を行うというコミュニケーションの手法として、アートはきわめて優れた特性を発揮すると期待される。

そもそも、わが国は古来より海外からの文化をとりいれて、独自の日本文化をつくりあげてきた歴史があるが、現在の芸術文化の国際交流に関しては、欧米を中心とした海外からの“輸入”は増加しているものの、“輸出”に関しては、チャンネルが少ないこともあり、紹介される分野が伝統芸能等にかた

よっているという傾向がある。

そこで、今後の日本の芸術文化の情報発信については、伝統芸能だけではなく、今日の芸術文化についても海外へ向けて積極的に情報発信していく必要があるといえる。こうした“外向け”の施策こそ、国が担うべき分野であると考えられるため、これからは日本の芸術文化をより積極的に海外に紹介・発信していく「アート・セールス」と、そのためのビジョンを示していく必要があろう。

そして、日本が国際社会の一員として尊敬される存在となるためにも、今後、21世紀においては、世界中の人々を惹きつけ、感動を与えるようなソフトとしての芸術文化を創造・発信し、アジアの、ひいては世界全体の文化的価値の増大に貢献する、という段階に到達しているのではないだろうか。

財団法人助成財団センター情報処理委員
財団法人トヨタ財団プログラム・オフィサー

久須美 雅昭

これまで毎年のメセナ白書ではアンケート調査にもとづき、企業財団・公益信託の芸術文化支援の動向が紹介されてきた。今回は（財）助成財団センターの協力のもとに、助成財団全体の最新動向とも比べながら企業財団の芸術文化事業もしくはその支援の状況を見ていくことにしたい。なお、公益信託については今回調査への回答がなかったため、ここでは企業財団に対象を限定する。また、芸術文化事業もしくはその支援を行う企業財団という呼び方はいささか長いので、以下の文中では便宜的にメセナ系財団と呼ぶことにする。

アンケート調査の概要

企業メセナ協議会では本年5月に、日本の企業財団のなかで芸術文化に関連のある団体、計135団体を対象に調査票を郵送し、このうち88財団より回答を得た。「企業財団」の定義はかならずしも一通りではないが、メセナ白書では企業オーナー個人が拠出している財団も企業財団とみなしており、最も広義の企業財団の定義を採用している。ちなみに、助成財団センターでは単独企業が基金を拠出した場合と、さらに系列複数企業もしくは業界複数企業が拠出した場合までを企業財団と定義している。個人が単独で基金拠出した場合、もしくは家族、同族など個人複数が拠出した場合は個人財団と定義し、個人と企業が分担して拠出しているケースについては中間形態としてどちらにも分類していない。

また、白書では「芸術文化」という場合の文化概念を、文化研究や博物館事業などにまでひろげてとらえているため、回答を得た財団のなかには「アートサポート」というメセナの中核概念からは多少ずれたものも含まれている。とくに多目的財団の場合、芸術文化関係の助成も結果として含まれることがあるという程度で、これらを芸術文化支援を主目的とするメセナ系財団と同列に括るにはいささか無理があることもあらかじめ指摘しておきたい。

1993年度以来、5回の白書のなかで回答数は、29、40、72、81、88と徐々に増えてきている。ただし、残念ながらこれはメセナ系財団自体が増えてきたということではない。また、過去5回の調査で少なくとも一度はメセナ白書に掲載された財団の数は107件あり、そのうち19件が今回調査から脱落し

ていることになる。しかもその多くは明らかにメセナ系財団である。この点で今回の調査結果は、定量分析や経年比較などを行うにはまだ十分なデータ密度とはいえないようである。前述した概念規定の問題ともあわせて今後調査精度の改善が期待される。

助成型と事業型とハイブリッド型

さて、88財団の回答結果にもとづきメセナ系財団の概況を見ていこう。

メセナ系財団のグループとしての特徴は、そのなかに助成財団、事業財団、両者のハイブリッド（混合）型の財団がほぼ均等に含まれていることである。「助成財団」、「事業財団」という概念は一般にはなんとなく通用しているが、とくに法律的な根拠があるわけでもなく、個々の財団を分類する明確な基準は存在しない。助成財団センターによる定義などで、ほぼ認知を得ている枠組みは表1のようなものである。

[助成財団と事業財団の区別] 表1

定義	特徴
助成財団 助成・奨学・表彰を主な事業目的とする財団	<ul style="list-style-type: none"> ◎収入は基金からの利子に依存する割合が大きい。 ◎事務局人員は2・3名と少ない。 ◎財団総数約1万3000件のうち、約800件(6%)程度と数は少ない。
事業財団 美術館や博物館あるいは研究所の運営など、みずから事業を行う財団(このほかに、行政が外郭団体として設立し、行政の下請けなどで「調査・研究・普及・啓発」等を行うものもかなりの数にのぼると思われる)	<ul style="list-style-type: none"> ◎収入は基金からの利子のほかに、事業収入が占める割合が大きい。 ◎施設運営を行うタイプでは職員数が多い。 ◎財団総数の9割以上を占める。

今回のメセナ系財団の調査票では、プログラムごとに、それが助成、奨学、顕彰、自主事業のどれに該当するかが分類記載されている。自主事業のみの場合は事業財団とみなし、助成、奨学、顕彰のいずれかの場合は助成財団とみなすことができるのだが、実際には自主事業と助成等を両方行っているケースが多く、それぞれの金額配分を見てもどちらが主とはいいきれない。そこでこれらのケースを新たにハイブリッド財団と定義することにした。また、顕彰事業についてはこれ自体が奨励助成的なもの自主イベント的なものに二分される。したがって、自主事業と顕彰事業をあわせて行う財団のいくつ

かは、ハイブリッドとせずにあえて事業財団とみなすことにした。

88財団を前述の三つのタイプに分類した結果が表2である。ハイブリッド型が31%と、決して少数派ではないことがわかる。従来、助成財団センターでは分析枠組みとして助成財団と事業財団という二分法をとってきたが、ハイブリッド型を含めた三分法を考えたほうが財団の活動をより実態に即してとらえることができるのかもしれない。

表2では主務官庁別による区分も示した。主務官庁が国の中央省庁である場合は、全国法人と呼ばれ活動区域も全国にまたがるものが多い。いっぽう、都道府県庁や教育委員会が所管する場合は、地方法人と呼ばれ活動区域も県内に限定されるものが多い。この両者の別について見ると、助成財団、ハイブリッド財団では全国法人が多く、事業財団では地方法人の数が勝っている。全国法人53件中43件が文部省ないし文化庁の所管であった。

[助成財団・事業財団・ハイブリッド財団の分類] 表2

タイプ	件数	比率	主務官庁別による区分	
			全国法人	地方法人
助成財団	36	41%	26	10
ハイブリッド財団	27	31%	17	10
事業財団	25	28%	10	15
合計	88	100%	53	35

事業財団とハイブリッド財団を合わせた52件について自主事業の内容を分析したところ、独自の施設を持つところと持たないところに大別されることがわかった。施設を持つのは52件中23件で、その内訳は美術館13、博物館5、劇場・ホール等4、図書館1である。これらの場合、自主事業の内容はこうした施設運営そのものであったり、あるいは企画展示など施設運営に付随するものであることが多い。施設を持たない財団ではコンサート等のイベント主催型のものが52件中25件で、その他出版・制作などが4件であった。表3に財団のタイプと自主事業の内容とをマトリックスで示す。今回の調査票では独自施設の有無について直接質問しているわけではないので、この表はあくまで参考であるが、メセナ系財団の類型を考える手がかりにはなるだろう。

[財団のタイプと自主事業の内容別財団数] 表3

タイプ	自主事業の内容		合計
	施設運営型	イベント・制作など非施設型	
ハイブリッド財団	6	21	27
事業財団	17	8	25
合計	23	29	52

資産総額・総事業費・設立動向

今回調査で資産総額の記載があった83財団のうち、最大は出光美術館の809億7000万円であった。美術品も資産計上されているものと思われるが、突出した数字である。2位以下ではトヨタ財団、住友財団、日本生命財団がいずれも100億円台で続くが、これらはいわゆる多目的財団である。資産総額100億円を超えるものではほかにセゾン文化財団、大和文化財保存会がある。

総事業費については記載のあった84財団で、最大はニッセイ文化振興財団の12億7000万円であった。主に日生劇場の運営費と思われる。2位が明治村の8億7000万円、3位がソニー音楽芸術振興会の8億3000万円であった。総事業費では10位までが全国法人で、地方法人では11位のひろしま美術館が3億5000万円で最大であった。

今回の調査ではプログラムごとの年間支出を合計した芸術文化事業費合計も調査項目にはあったが、記載もれなども多いため統計としては使わないことにした。

資産総額と総事業費を各5階層に区分し、それぞれの階層に属する財団数を示したのが表4—1～表4—4である。助成財団センターが1997年1月に公表した571件の助成財団のデータと並べてみた。

資産総額で見れば、メセナ系財団も助成財団も過半数が10億円以下の規模で、100億円を超えるものが一桁の比率であることなど、分布の構造はほぼ同じである。ところが、総事業費ないし助成事業費（厳密には両者はちがうが）で見ると、メセナ系財団ではわずかではあるが規模の大きいほうに全体の分布がシフトしていることがわかる。

[資産規模別財団数／メセナ系財団]

表4-1

資産規模	財団数	%	助成財団	ハイブリッド財団	事業財団
～5億円	28	34	11	8	9
5～10億円	15	18	7	5	3
10～30億円	22	27	9	9	4
30～100億円	13	16	6	3	4
100億円～	5	6	3	1	1
合計	83	100	36	26	21

区分は以上、未滿。記載なしの5財団を除く

[資産規模別財団数／助成財団]

表4-2

財団数	%
170	30
143	25
169	30
69	12
20	4
571	100

[総事業費規模別財団数／メセナ系財団]

表4-3

総事業費 (助成等事業)規模	財団数	%	助成財団	ハイブリッド財団	事業財団
～0.25億円	21	25	10	6	5
0.25～0.50億円	18	21	9	4	5
0.50～1.50億円	17	20	8	7	2
1.50～5.00億円	20	24	7	5	8
5.00億円～	8	10	2	4	2
合計	84	100	36	26	22

区分は以上、未滿。記載なしの4財団を除く

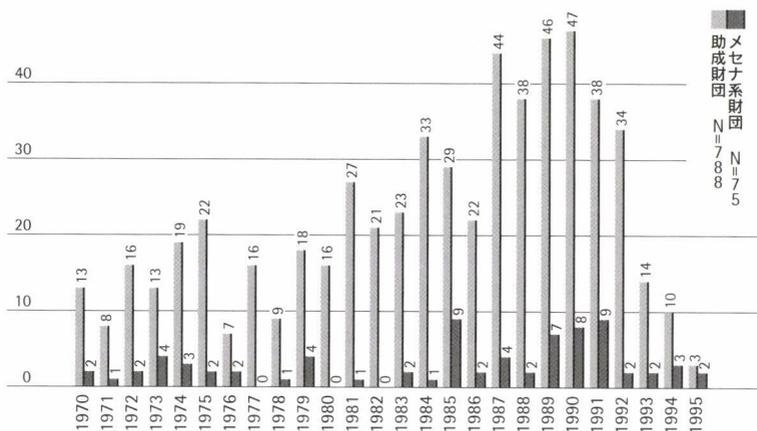
[助成等事業規模別財団数／助成財団]

表4-4

財団数	%
268	47
131	23
121	21
40	7
11	2
571	100

つぎにメセナ系財団の1970年以降の設立状況を、助成財団（母数788件）との比較で見たのが図1である。

〔1970年以降の財団設立状況〕図1



助成財団の設立は1990年をピークに毎年急速に数が減少している。メセナ系財団では89、90、91年の3年間と92年以降では明らかな落差が見える。さらに助成財団センターのデータで、1989年から95年にかけての連続調査データがある179財団について助成事業費の推移を見た結果では、92年の253億円をピークとして95年の206億円まで連続下降を続けていることがわかっている。『メセナ白書1996』でも「歴史的低金利」という記述があるが、メセナ系財団にとって90年代はあいかわらず冬の時代ということができよう。

低金利時代の財団

こうしたなかで、各財団がどのように影響を受け、またどう対処しているかを今回のアンケートで聞いてみた。

まず、「近年の低金利状況に直面して、貴財団では財政面での影響を受けましたか」という問いでは、表5のような結果となった。じつに97%は影響を認めている。影響を受けなかった3財団のうち、1財団はこれから影響が出るとし、残り2財団は今後も影響なしとしているが、これらは基金の利子

への依存度が小さい財団と考えられる。

[低金利の状況に直面して] 表5

N=88

1	大きく影響を受けた	58財団	66%
2	若干の影響を受けた	27財団	31%
3	影響を受けなかった	3財団	3%

2番目の「1996年度において、貴財団では親企業からどのような支援を受けていますか」という問いでは、表6のような結果を得た。

[親企業からの支援内容] 表6 MA

N=88

1	基金の積み増し	23財団	26%
2	事業費、運営費の拠出	58財団	66%
3	人材の派遣・出向	57財団	65%
4	事務所の貸与	38財団	43%
5	機器材の提供	24財団	27%
6	その他の支援	16財団	18%
7	何も支援を受けていない	4財団	5%

何も支援を受けていないというのは4財団（問1では影響を受けたという財団）で、その他はなんらかの支援を受けている。支援の内容はやはりフローが中心であるが、基金の積み増しが26%もあったのは心強い。反面、この低金利では基金の積み増しも焼け石に水のようなところがあり、今後さらに持続的な支援は必要とされるであろう。

- ……………ここに掲載した財団の活動は、日本の企業財団のなかで芸術文化との関連のある団体、計135団体を対象に調査票を郵送し、回収したものである。回答をいただいた企業財団を五十音順に掲載した。
- ……………団体名の下に**■**は設立年月、**■**は主たる出捐者、**■**は主務官庁、**■**は資産総額、**■**は財団全体の総事業費、**■**は代表者名を示している。
- ……………掲載した事業は1996年度のものである。プログラム名は、助成金を提供した個別の事業名や自主事業として行っている個々の小さな事業名を1件1件記述するのではなく、たとえば「○○セミナーシリーズの開催」や「音楽活動への助成」のように、大枠のプログラム名を記入してもらった。
- ……………芸術分野の欄では、“音楽” “美術” “舞台（演劇／舞踊）” “映像” “文学” “民俗（民俗芸能）” “文化財”、以上のジャンルに該当している場合は、その項目を表記した。国際芸術交流に関連するプログラムとして“国際”を設け、以上に該当しないプログラムは“その他”と表記した。
- ……………分類の欄では、そのプログラム名の性質を、“助成” “奨学” “顕彰” “自主（自主事業）”に分類した。
- ……………件数の欄では、“助成” “奨学” “顕彰” のいずれかに該当する場合、その件数（または人数）を掲載した。
- ……………掲載したプログラムは各財団の判断によるメセナ活動であるが、芸術文化と関連の薄いスポーツや科学技術などのプログラムは一覧から削除した。

財団法人愛銀教育文化財団

〒460 愛知県名古屋市中区栄3-14-12 愛知銀行本店内 ☎052-262-9601

1 1990年4月 2 株式会社愛知銀行 3 愛知県教育委員会 4 4億8792万円 5 1422万円 6 小出眞市

芸術文化事業方針

愛知県内の各地域における教育・文化活動に対して援助を行い、教育・文化の振興に寄与することを目的とする。

- 1 地域における教育・文化活動にかかわる個人および団体への助成。
- 2 高校生の文化および体育活動への援助。
- 3 その他、機関誌“あゆち”の刊行。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
音楽活動への助成	音楽	助成	5	190
郷土史研究への助成	民俗	助成	3	120
美術工芸活動への助成	美術	助成	1	30
演劇活動への助成	舞台	助成	3	110
社会教育活動への助成	その他	助成	4	130
高校生の文化活動等への助成	音楽・舞台	助成	2	150
文芸活動への助成	文学	助成	1	30
総計				760

財団法人赤澤記念財団

〒769-26 香川県大川郡大内町三本松567 ☎0879-25-2221

1 1986年8月 2 帝國製薬株式会社 3 香川県教育委員会 4 3億6500万円 5 2327万円 6 赤澤庄三

芸術文化事業方針

香川県（郷土）の文化（芸術）発展に寄与することを目的とする。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
図書出版（歴史）	その他	助成	1	30
図書出版（講演会集）	その他	助成	1	1800
顕彰事業	その他	顕彰	1	30
総計				1860

財団法人朝日新聞文化財団

〒100 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町センタービル13階 ☎03-3213-5885

1 1992年5月 2 株式会社朝日新聞社 3 文部省（文化庁） 4 10億円 5 8488万円 6 松下宗之

芸術文化事業方針

当財団は、芸術の諸活動に対する助成ならびに若手芸術家の創作発表の場を広げるために助成を行うとともに、文化・学術等に貢献した者に対する顕彰等を行い、もってわが国の文化の向上発展に寄与することを目的としている。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
助成活動	音楽・美術	助成	28	4820
朝日賞	文学・その他	顕彰	6	1200
アサヒ・フェローシップ	美術・その他	奨学	2	910
企業の社会貢献度調査	その他	自主		900
総計				7830

財団法人アサヒビール芸術文化財団

〒130 東京都墨田区吾妻橋1-23-1 ☎03-5608-5202

1 1989年3月 2 アサヒビール株式会社 3 文部省(文化庁) 4 6億1800万円 5 4860万円 6 樋口廣太郎

芸術文化事業方針

設立目的

美術・音楽を中心とした芸術文化活動を助成し、かつその国際交流を支援するとともに美術館を運営して、わが国の文化の向上発展に寄与することを目的とする。

事業

- 1 国公私立の美術館・博物館が開催する美術展覧会への助成。
- 2 オペラ、オーケストラ等音楽を中心とした舞台芸術の公演への助成。
- 3 美術・音楽にかかわる日本人学生の海外研修への助成。
- 4 美術・音楽を専攻する外国人留学生への助成。
- 5 美術館の運営。
- 6 その他目的を達成するために必要な事業。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
美術展	美術	助成	4	350
音楽会	音楽	助成	12	1230
日本人の海外研修帰国発表会	音楽・美術	奨学	2	60
外国人留学生スカラシップ	音楽・美術	奨学	15	2160
外国人留学生美術展	美術	奨学	1	850
その他	美術	自主		210
総計				4860

財団法人あさひ・ひむか文化財団

〒882 宮崎県延岡市旭町6-4100 ☎0982-22-2054

1 1985年11月 2 旭化成工業株式会社 3 宮崎県 4 5億円 5 1600万円 6 米川滋

芸術文化事業方針

- 1 音楽・芸術・演劇等の芸術文化に関する行事の開催。
- 2 地域社会の幅広い文化活動の振興および後援に関する事業。
- 3 郷土文化への親しみ・理解の促進に寄与する事業。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
芸術文化に関する事業	音楽	自主		
地域文化活動に関する事業	音楽	自主		

財団法人あしぎん国際交流財団

〒320 栃木県宇都宮市桜4-1-25 ☎028-626-0400

1 1985年 2 株式会社足利銀行 3 外務省 4 2億1489万円 5 635万円 6 向江久夫

芸術文化事業方針

- 1 国際相互理解促進のための人的交流に関する事業およびその助成。
- 2 海外の文化・社会および経済等の情報収集ならびにその紹介、普及。
- 3 外国人受け入れ体制整備のための事業およびその助成。
- 4 前各号の事業に関する啓蒙および広報活動。
- 5 この財団の目的を達成するために必要な事業。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
留学生への助成	国際	助成	8	400
各種研修生への助成	国際	助成	2	149

国際交流協会等への助成	国際	助成	1	20
国際文化交流事業への助成	国際	助成	1	10
総計				579

財団法人アフィニス文化財団

〒105 東京都港区愛宕1-1-11 虎ノ門八東ビル6階 ☎03-3431-4211

1 1988年3月 2 日本たばこ産業株式会社 3 文部省（文化庁） 4 53億9000万円 5 1億6849万円 6 長岡寛

芸術文化事業方針

「クラシック音楽の普及活動」「音楽家の研鑽に対する援助」「芸術文化の調査研究」を三本柱とした事業を行い、とりわけわが国のプロ・オーケストラの発展向上に資する活動を行う。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
プロ・オーケストラが主催する演奏会等への助成	音楽	助成	24	8700
楽団員の海外研修に対する助成	音楽	助成	4	1543
「第7回アフィニスセミナー」の開催	音楽	自主		4470
芸術文化の調査研究に対する助成	音楽	助成	3	570
「アフィニス・サウンド・レポート」の発行	音楽	自主		374
「アフィニス・アンサンブル・セレクション」の開催	音楽	自主		586
総計				16243

財団法人井植記念会

〒655 兵庫県神戸市垂水区青山台1-21-1 ☎078-751-5216

1 1969年11月 2 井植歳男 3 兵庫県教育委員会 4 9億8255万円 5 2699万円 6 井植貞雄

芸術文化事業方針

教育・学術および文化に関する各種事業を行い、もって学術勤労および社会善行の奨励ならびに文化の振興、および社会福祉の増進に寄与する。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
井植文化賞の表彰		顕彰	1	400
垂水生活文化協会への助成（コンサート）	音楽	助成	2	52
総計				452

財団法人石川文化事業財団

〒101 東京都千代田区神田駿河台1-6 ☎03-3294-2266

1 1941年9月 2 石川武美 3 文部省 4 52億6463万円 5 2億2830万円 6 石川晴彦

芸術文化事業方針

山本有三記念、路傍の石文学賞、幼少年文学賞、郷土文化賞の顕彰。

- 1 路傍の石文学賞は、「路傍の石」「真実一路」などの作品で知られる作家の山本有三氏が、生涯深い関心を持ち、力を注いできた「青少年の育成」という遺志を顕す賞であり、「青少年の読書に適する優秀な文学作品の作者」に贈られる。
- 2 路傍の石幼少年文学賞は、幼児から小学3年生くらいまでの読者を対象に「幼少年の読書に適する優秀な文学作品の作者」に贈られる。
- 3 郷土文化賞は、生涯郷土を愛し続けた作家山本有三氏の賞であり、郷土の文化育成や環境改善など「優れた文化事業を行っている団体・個人」に贈られる。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
路傍の石文学賞	文学	顕彰	1	

郷土文化賞	民俗・文化財	顕彰	2
路傍の石幼少年文学賞	文学	顕彰	1
総計			1230

財団法人逸翁美術館

〒563 大阪府池田市建石町7-17 ☎0727-51-3865

1 1957年7月 2 阪急電鉄株式会社 3 文部省 6 小林公平

芸術文化事業方針

当館は、小林一三（阪急東宝グループの創始者、雅号「逸翁」）のコレクションを収蔵し、その旧邸「雅俗山荘」を展示の場として、美術館事業を行っている。

美術工芸品および庭園を含む施設の公開によって、茶道美術を中心とする日本文化を味わっていただく場とするとともに、一都市一美術館という逸翁の遺志を生かすことを旨としている。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
展覧会の開催	美術・文化財	自主		
講演会の実施	美術	自主		
館蔵美術品の貸出	美術・文化財	自主		

財団法人出光美術館

〒100 東京都千代田区丸の内3-1-1 ☎03-3213-9402

1 1972年9月 2 出光興産株式会社 3 文部省(文化庁) 4 809億7167万円 5 4億1000万円 6 出光昭介

芸術文化事業方針

優れた美術品を後世に伝える一助をなす。展覧会を通じての社会教育の助成と海外に対する日本文化の紹介。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
美術館運営(展覧会開催)	美術	自主		

財団法人伊藤忠記念財団

〒173 東京都板橋区大谷口2-3-6 ☎03-3974-2531

1 1974年9月 2 伊藤忠商事株式会社 3 総務庁青少年対策本部 4 47億9000万円 5 1億5800万円 6 戸崎誠喜

芸術文化事業方針

青少年の健全育成を目的とし、四つの助成事業と表彰、施設提供事業を行っている。内容は、青少年問題を取り上げ有識者の方に研究していただく調査研究事業、子ども文庫助成事業、海外・日本留学助成事業、子ども文庫功労賞、そして東京小中学生センターという社会教育施設を運営、プログラムサービスや野外教育活動を推進し、ボランティアリーダーの養成を行っている。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
子ども文庫助成事業	舞台・映像・文学	助成	30	3000
子ども文庫功労賞	文学	顕彰	2	200
総計				3200

財団法人岩谷直治記念財団

〒100 東京都千代田区永田町2-10-2 TBRビル712 ☎03-3580-2251

1 1973年11月 2 岩谷直治(岩谷産業株式会社代表取締役会長) 3 科学技術庁 4 7億8741万円 5 9771万円 6 岩谷徹郎

芸術文化事業方針

当財団の芸術文化事業助成も11年目になるが、今後の考え方はつぎのとおり。

- 1 助成の継続を第一に考える。
- 2 科学技術分野で行っている海外研修・留学助成を音楽の分野まで拡大したい。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
日本音楽コンクール	音楽	助成	1	1000
北東アジア文化遺産写真展	美術	助成	1	20
総計				1020

財団法人植野アジア芸術文化振興財団

〒659 兵庫県芦屋市奥池町12-1 ☎0797-38-0021

1 1983年10月 2 植野藤次郎 3 兵庫県教育委員会 4 30億3851万円 5 2500万円 6 植野藤次郎

芸術文化事業方針

- 1 エンバ中国近代美術館の維持運営。
- 2 当財団が建設して1994年に寄付した水上町立植野記念美術館の受託運営。
- 3 近來の低金利で利子収入が大幅に減少しており、17年間続けた「エンバ美術コンクール」、4年間行った「景德鎮陶磁美術コンクール」などは中止し、もっと低コストで国際的芸術交流の可能な方法を模索中。
- 4 地震によって損傷した収蔵品の修復。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
美術展覧会の開催	美術	自主		800
小学生のための夏期陶芸教室	美術	助成	1	50
総計				850

財団法人エー・ピー・シー音楽振興財団

〒531-01 大阪府大阪市北区大淀南2-2-48 朝日放送内 ☎06-453-5340

1 1990年9月 2 朝日放送株式会社 3 文部省(文化庁) 4 4億5200万円 5 5928万円 6 藤井桑正

芸術文化事業方針

音楽文化の振興・育成を趣旨に「より良い音楽をより良い環境で多くの人々に」をモットーに設立された。とくに若手音楽家の発掘・育成支援に力を入れている。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
第6回ABC新人コンサートオーディション	音楽	自主		3091
ABC国際音楽賞	音楽	顕彰	1	1751
ザ・シンフォニーホールユースオーケストラへの助成	音楽	助成	1	100
日本のオペラシリーズへの助成	音楽	助成	1	200
総計				5142

財団法人エネルギー文化・スポーツ財団

〒730 広島県広島市中区小町4-33 中国電力内 ☎082-542-3639

1 1994年10月 2 中国電力株式会社ほか関係17社 3 文部省 4 18億9300万円 5 4384万円 6 多田公照

芸術文化事業方針

中国地域在住の団体または個人による美術・音楽・伝統文化・スポーツの活動に対して、助成および顕彰を行うことにより、地域の文化・スポーツの振興と発展に寄与する。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
中国地域在住者による美術の展示発表活動	美術	助成	15	635

中国地域在住者による音楽の公演活動	音楽	助成	25	1090
中国地域在住者による伝統文化の活動	民俗・文化財	助成	12	675
エネルギー美術賞	美術	顕彰	1	50
エネルギー音楽賞	音楽	顕彰	1	50
エネルギー伝統文化賞	民俗・文化財	顕彰	1	50
財団ニュース「えねるぎあ」の第2号発刊		自主		236
総計				2786

財団法人大分放送文化振興財団

〒870 大分県大分市今津留3-1-1 大分放送内 ☎0975-58-1111

11989年9月 2株式会社大分放送 3大分県教育委員会 45371万円 5250万円 6七蔵司真一

芸術文化事業方針

大分県内における教育・文化・芸術および学術の振興をはかり、もって大分県の文化の発展および育成に寄与することを目的とする。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
大分交響楽団の活動について	音楽	助成	1	50
大分県民演劇の活動について	舞台	助成	1	50
県民オペラ30周年・メモリアルオペラコンサートの活動について	音楽	助成	1	50
国民文化祭に向けて大分マンドリン・オーケストラの活動について	音楽	助成	1	30
総計				180

財団法人大桑教育文化振興財団

〒641 和歌山県和歌山市中島184-3 ☎0734-25-3394

11993年9月 2大桑勇(株式会社チェーンストア オークワ代表取締役会長) 3和歌山県教育委員会 42億795万円 53136万円 6大桑勇

芸術文化事業方針

和歌山県指定無形文化財保持団体、およびその他芸術文化団体を支援する。この分野の事業費は300万円である。なお、当財団の事業は大学生に対する奨学金の給付と、教育・文化振興のための援助と寄贈の二つの柱から成り立っている。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
文化団体助成	音楽・美術・民俗・文化財	助成	6	300
総計				300

財団法人大阪日本民芸館

〒565 大阪府吹田市千里万博公園10-5 ☎06-877-1971

11971年3月 2日本生命保険相互会社をはじめとする関西系企業全23社 3大阪府教育委員会 47億6850万円 54828万円 6森本省三

芸術文化事業方針

民芸の保存、普及ならびに発達をはかり、もって大阪府下の教育文化の発展に寄与することを目的とし、つぎの事業を行う。

- 1 民芸に関する施設の管理運営および民芸品の公開展示。
- 2 民芸品および民芸に関する資料の収集整理ならびに調査研究。

- 3 民芸に関する普及啓蒙活動の推進。
- 4 民芸に関する印刷物の刊行。
- 5 民芸に関する関係団体との連絡協力。
- 6 その他目的を達成するために必要な事業。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
展示「バーナード・リーチとその仲間達」	美術	自主		
展示没後二十周年「絞り作家一片野元彦の歩んだ道」	美術	自主		
展示「金城次郎と沖縄の工人達」	美術	自主		
総計				3184

財団法人音楽鑑賞教育振興会

〒153 東京都目黒区目黒1-4-1 ☎03-3495-6885

1 1972年4月 2 松本望 3 文部省 4 24億円 5 9670万円 6 松本誠也

芸術文化事業方針

主として、小、中、高等学校における音楽教育の向上をはかるために、とくに鑑賞教育について、指導法、教材(音楽)研究、開発制作、演奏会の後援、コンサートチケットの斡旋、音楽教師のための講習会、研修会の開催、後援(講師、機材、教材提供)などを行っている。また月刊誌「音楽鑑賞教育」を通じて、音楽、音楽鑑賞についての資質の向上に役立つようにしているが、これらの活動は一般向けとして、生涯学習としても行っている。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
音楽鑑賞教育振興論文作文募集	音楽	顕彰	4	1900
出版(「音楽鑑賞教育」等を発行)	音楽	自主		2800
鑑賞教室開催	音楽	自主		100
賛助活動(コンサート、音楽教育研究会等を賛助)	音楽	自主		880
夏期講習会(音楽教育指導法合宿研修会開催)	音楽	自主		330
普及活動(音楽教育指導法講習会等を後援)	音楽	自主		1600
総計				7610

財団法人音楽教育振興財団

〒164 東京都中野区中野2-7-6 ☎03-5385-7738

1 1991年2月 2 三浦規 3 文部省 4 3億円 5 1190万円 6 三浦規

芸術文化事業方針

高等学校、中学校、小学校、幼稚園等における音楽教育に功績のあった指導者、研究者またはそれらの団体にに対する顕彰および音楽教育の発展に役立つ諸活動に対する助成等を通じて、音楽文化の発展に寄与することを目的とする。助成については地域における音楽教育の振興、音楽教育の国際化等、音楽教育に役立つ諸活動も含む。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
音楽教育振興賞(顕彰部門)	音楽	顕彰	4	700
音楽教育振興賞(助成部門)	音楽	助成	2	300
総計				1000

財団法人花王芸術・科学財団

〒103 東京都中央区日本橋茅場町1-14-10 ☎03-3660-7055・7056

1 1990年10月 2 花王株式会社 3 文部省(文化庁) 4 25億円 5 4720万円 6 常盤文克

芸術文化事業方針

財団全体としては、「人間性あふれる文化の創造」のために、下記を基本的な枠組みとし、21世紀を拓く新しい取り組みに着手します。

- 1 人間性を豊かにする芸術文化の創造。
- 2 人間社会に真に役立つ科学技術の創造。
- 3 文・理を融合した総合的な課題解決。

うち、芸術文化(支援)事業については、従来同様「美術・音楽を中心に芸術文化活動を助成し、かつ、これらの分野にかかわる国際芸術文化交流を支援することにより、わが国の文化の向上発展に寄与する」とこととしています。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
芸術文化活動への助成事業	音楽・美術・国際	助成	56	4310
総計				4310

財団法人北野生涯教育振興会

〒153 東京都目黒区五本木1-12-16 ☎03-3711-1111

1 1975年6月 2 北野隆春 3 文部省 4 8億592万円 5 2871万円 6 北野隆興

芸術文化事業方針

一般人を対象に民俗、美術を中心とした文化への参加、きっかけづくり。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
彫刻奨学金	美術	奨学	10	312
美術めぐり	美術	自主		133
城めぐり	文化財	自主		280
伝承学習	民俗	自主		79
総計				804

財団法人京都服飾文化研究財団

〒601 京都府京都市南区吉祥院中島町29 ☎075-321-8011

1 1978年4月 2 株式会社ワコール 3 文部省(文化庁) 4 19億17万円 5 2億1084万円 6 塚本幸一

芸術文化事業方針

世界の各時代の衣服・装身具等の収集・保存・公開を行い、これらの資料にもとづく衣服と文化の関連について調査研究を行うとともに、生活と芸術のなかで服飾文化の占める存在意義についての深い理解を助長し、あわせて大衆の美意識の高揚をはかり、もってわが国の芸術文化の普及向上に寄与する。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
「JAPONISME ET MODE」展(パリ)	美術・国際	自主		10348
「モードのジャポニズム」東京展	美術・その他	自主		21237
総計				31585

財団法人紀陽文化財団

〒640 和歌山県和歌山市本町1-35 紀陽銀行内 ☎0734-26-7133

1 1995年8月 2 株式会社紀陽銀行 3 和歌山県教育委員会 4 1億5000万円 5 1000万円 6 西達司

芸術文化事業方針

音楽・美術等、芸術を通して文化の向上をはかり、心豊かな地域づくりに寄与することを目的とする。この目的を達成するために、つぎの事業を行う。

- 1 芸術文化に関する事業の実施。
- 2 芸術文化活動に対する支援。
- 3 芸術文化の鑑賞機会の提供。
- 4 その他、上記の目的を達成するために必要な事業。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
紀陽クラシックコンサート	音楽	自主		
美術鑑賞の支援	美術			
総計				1000

財団法人キリン福祉財団

〒104 東京都中央区新川2-10-1 キリンビル本社ビル内 ☎03-5540-3522

1 1981年7月 2 キリンビール株式会社 3 厚生省 4 53億554万円 5 1億5124万円 6 本山英世

芸術文化事業方針

障害者および老人の福祉向上、ならびに青少年の健全育成に関する諸活動に対し援助を行い、社会福祉の発展および青少年の育成・充実に寄与することを目的としています。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
こどもの国における行事への援助	音楽	助成	1	555
こどもの城における行事への援助	舞台・文化財	助成	2	900
児童福祉文化普及事業への援助	舞台・文化財	助成	2	1250
「キリンファミリー賞」作品募集・表彰事業	文学	顕彰	1	450
人形劇制作事業への援助	舞台	助成	1	50
ビデオ制作事業への援助	映像	助成	1	200
総計				3405

財団法人熊本放送文化振興財団

〒860 熊本県熊本市山崎町30 株熊本放送内 ☎096-328-5500

1 1983年4月 2 株式会社熊本放送 3 熊本県教育委員会 4 1億1000万円 5 231万円 6 小堀富夫

芸術文化事業方針

熊本県内における教育・文化および学術に関する研究および振興の事業を行うものに対して、経済的援助を行うことにより、文化の振興に寄与することを目的とする。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
音楽活動への助成	音楽	助成	2	75
文化活動への助成	音楽・美術・舞台・文化財	助成	5	125
総計				200

財団法人五島記念文化財団

〒150 東京都渋谷区道玄坂1-21-2 新南平台東急ビル5階 ☎03-3477-6671

1 1990年3月 2 東急グループ（東急電鉄、東急百貨店、東急不動産、東急建設、東急バス） 3 文部省（文化庁） 4 11億2363万円 5 6234万円 6 横田二郎

芸術文化事業方針

優れた人材の発掘と育成を通じて、真に豊かな社会実現のお役に立ちたいという故五島会長（前東急電鉄会長）の遺志に添い、芸術文化の分野での有能な新人、および地域において創造的で優れた芸術文化活動を行っている方々の顕彰、助成を目的とする。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
オペラ公演への助成	音楽	助成	9	1200
オペラ新人賞	音楽	顕彰	3	150
美術新人賞	美術	顕彰	2	100

オペラ新人賞受賞者海外研修	音楽	助成	6	1800
美術新人賞受賞者海外研修	美術	助成	4	1200
オペラ新人賞受賞者研修成果発表	音楽	助成	1	346
美術新人賞受賞者研修成果発表	美術	助成	1	371
総計				5167

財団法人佐賀銀行文化財団

〒840 佐賀県佐賀市唐人2-7-20 ☎0952-25-1620

1 1990年12月 2 株式会社佐賀銀行 3 佐賀県教育委員会 4 3億円 5 1832万円 6 指山弘義

芸術文化事業方針

美術・音楽・演劇等を通して文化の向上をはかり、より豊かな地域社会づくりに寄与することを目的とする。
プログラム名

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
コンサートの開催	音楽	自主		594
ミュージカルの開催	舞台	自主		724
地域芸術活動への助成	音楽	助成	1	300
若手芸術家への支援	音楽・文学	助成	2	214
総計				1832

財団法人佐藤国際文化育英財団

〒160 東京都新宿区西新宿3-2-2 ☎03-3342-0492

1 1990年3月 2 佐藤行雄 3 文部省 4 18億9339万円 5 5765万円 6 佐藤行雄

芸術文化事業方針

美術に関する創造および調査研究活動に対する助成、美術を専攻する学生への奨学金援助・美術館の運営などを目的とする。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
奨学金支給事業	美術・国際	奨学	34	1632
総計				1632

財団法人三銀ふるさと文化財団

〒515 三重県松阪市京町510 第三銀行内 ☎0598-25-0363

1 1990年1月 2 株式会社第三銀行 3 三重県教育委員会 4 1億102万円 5 438万円 6 北田榮作

芸術文化事業方針

三重県の文化振興、地域文化の育成、県民文化の高揚とらうおのいのあるふるさとづくりに資するため、芸術文化支援活動を行う。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
定期コンサート	音楽	自主		284
三銀ふるさと三重文化賞		顕彰	2	80
総計				364

財団法人サントリー音楽財団

〒107 東京都港区赤坂3-21-4 サントリービル分室 ☎03-3589-3694

1 1969年12月 2 サントリー株式会社 3 文部省(文化庁) 4 2億560万円 5 1億5000万円 6 佐治敬三

芸術文化事業方針

洋楽の普及振興のための事業、洋楽の分野における優秀な音楽家への顕彰を行い、もって洋楽界の水準の向上に資し、わが国の音楽文化の発展に寄与することを目標とする。この目標を達成するため、

- 1 洋楽の普及振興のためのコンサートの開催。
 - 2 音楽に関する出版物の刊行。
 - 3 邦人作曲活動の奨励、援助。
 - 4 音楽団体の洋楽普及振興活動への助成。
 - 5 サントリー音楽賞、芥川作曲賞の授与。
- などの事業を行っている。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
各種コンサートの開催	音楽	自主		
音楽賞の贈呈	音楽	顕彰	2	
音楽に関する出版物の刊行	音楽	自主		
邦人作品を含むコンサートの助成	音楽	助成	20	
作曲委嘱(邦人作曲家を対象とする)	音楽	助成	1	
総計				15000

財団法人サントリー文化財団

〒530 大阪府大阪市北区堂島2-1-5 サントリーアネックス9階 ☎06-342-6221

1 1979年2月 2 サントリー株式会社 3 文部省 4 16億2120万円 5 1億6500万円 6 鳥井信一郎

芸術文化事業方針

社会と文化に関する国際的、学際的な研究の発展をめざし、これらの分野における独創的な研究の助成および有能な人材の育成を行い、日本と世界の学術文化の発展に寄与する。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
研究助成	その他	助成	21	
出版助成	その他	助成	11	
サントリー学芸賞	その他	顕彰	7	
サントリー地域文化賞	その他	顕彰	6	
総計				16500

財団法人四国民家博物館

〒761-01 香川県高松市屋島中町91 ☎0878-43-3111

1 1975年11月 2 カトーレック株式会社 3 香川県教育委員会 4 2億5660万円 5 3億617万円 6 加藤達雄

芸術文化事業方針

文化財の有効利用ということで、文化財をふさわしいものに無料で使っていただく(歌舞伎舞台、ギャラリー、民家等)。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
日本の伝統行事(どんど焼き、七夕、重陽の節句)	民俗	自主		10
森の演奏会	音楽	自主		10
子供歌舞伎	舞台	自主		13
ギャラリー展示	美術	助成	16	15
総計				48

財団法人十八銀行社会開発振興基金

〒850 長崎県長崎市銅座町1-11 十八銀行経済文化部内 ☎0958-24-1818

1 1969年10月 2 株式会社十八銀行 3 長崎県教育委員会 4 7億219万円 5 1465万円 6 野崎元治

芸術文化事業方針

長崎県内地域における教育・科学・文化等の振興をはかるため、必要な助成を行い、もって地域社会の開発に資することを目的とする。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
学校・地方公共団体等の楽器・視聴覚機器の購入	音楽・映像	助成	9	350
学校・各種研究団体の図書購入・研究誌発行費	文学・民俗・文化財	助成	4	170
文化財・民俗・歴史等の研究団体の活動費	文学・民俗・文化財・その他	助成	5	125
音楽・演劇・演奏家団体への公演活動費	音楽・舞台・映像	助成	3	210
国際交流団体・地域留学生交流団体の活動	文学・国際・その他	助成	2	35
国際芸術交流の活動	舞台・国際	助成	1	50
総計				1200

財団法人松竹大谷図書館

〒104 東京都中央区築地1-13-5 松竹会館2階 ☎03-5550-1694

1 1956年12月 2 松竹株式会社 3 東京都教育委員会 4 3億2090万円 5 3746万円 6 大谷信義

芸術文化事業方針

社会文化の向上発展に寄与することを目的として、松竹大谷図書館を維持経営し、演劇・映画等に関する調査研究を行う。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
松竹大谷図書館の管理・運営	舞台・映像	自主		

財団法人新日鐵文化財団

〒102 東京都千代田区紀尾井町6-5 紀尾井ホール ☎03-5276-4500

1 1994年11月 2 新日本製鐵株式会社 3 文部省(文化庁) 4 14億6500万円 5 5億200万円 6 齋藤裕

芸術文化事業方針

- 1 音楽家の育成。
- 2 演奏会等の開催。
- 3 優れた音楽活動に対する支援。
- 4 音楽ホールの管理・運営。
- 5 その他目的を達成するために必要な事業。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
音楽家の育成	音楽	奨学	40	9400
演奏会等の開催	音楽	自主		22200
優れた音楽活動に対する支援	音楽	助成	70	4000
音楽ホールの管理・運営	音楽	自主		14600
総計				50200

財団法人親和銀行ふるさと振興基金

〒857 長崎県佐世保市島瀬10-12 ☎0956-23-3606

1 1989年9月 2 株式会社親和銀行 3 長崎県商工労働政策課 4 5億952万円 5 2559万円 6 田添秀夫

芸術文化事業方針

親和銀行の企業理念である「地域社会への貢献」を、よりいっそう推進し、地域の産業・文化を振興するため

に、長崎県内の優れた町おこし活動、県産品の開発、学校教育活動、学術研究活動などに助成を行っていくことと、書籍刊行による地域文化の向上に資することを方針としている。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
町おこし活動	音楽・民俗・文化財	助成	8	320
学校教育活動	音楽・映像・その他	助成	9	350
学術研究活動	民俗・その他	助成	3	130
総計				800

財団法人末永文化振興財団

〒812 福岡県福岡市博多区博多駅東2-10-16 寿軒ビル ☎092-411-2612

1 1985年4月 2 末永文子、末永直行 3 福岡県教育委員会 4 5億5172万円 5 2000万円 6 安川寛

芸術文化事業方針

A 音楽練習場の提供

- 九州交響楽団の本拠として、事務室などを定期的に提供し、練習場を優先的に提供するとともに、市民との交流を支援する。
- 各種団体のオーケストラ、合唱、オペラ、その他の音楽や演劇の練習場として開放し、助成する。
- 福岡音楽学院の協力を得て、音楽教育の振興をはかる。

B 絵画展示場の提供

- 郷土芸術家に絵画、彫刻などの展示場を提供する。

C 国際交流の推進

- 福岡YMCA学園にホール・教室・図書館を優先的に提供し、語学教育を通して国際交流を支援する。
- 九州日仏学園にホール・教室を優先的に提供し、その事業（フランス文化推進・普及）を支援する。
- 各種国際交流団体に会場を提供し、隣接する福岡YMCAとともに、多様な国際理解や交流の場をつくる。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
音楽活動への支援（九州交響楽団の練習場としてホール提供）	音楽	自主		
音楽活動への助成	音楽	助成	30	
国際交流の促進と支援	国際	助成	5	
絵画展示場の提供と美術館の運営	美術	自主		
総計				500

財団法人杉本美術館

〒450 愛知県名古屋市中村区名駅1-2-4 ☎052-581-2904

1 1986年11月 2 名古屋鉄道株式会社 3 愛知県教育委員会 4 37億6513万円 5 2億5201万円 6 梶井健一

芸術文化事業方針

杉本健吉の新平家物語・聖徳太子傳の一連の作品はもとより、中心テーマである大和風物・牡丹・海外スケッチ等画業のほとんどすべての作品の寄贈を受けるとともに、ほかにゆかりのある美術資料を収集して、美術館を設置し、広く一般に公開することにより、当地方はもとより、ひいてはわが国文化の高揚と、社会教育の振興に寄与せんとするものである。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
常設展（代表作展）	美術	自主		123
企画展	美術	自主		89
総計				212

財団法人住友財団

〒105 東京都港区芝大門1-12-16 住友芝大門ビル2号館 ☎03-5473-0161

1 1991年9月 2 住友グループ20社 3 総理府 4 120億4658万円 5 3億4037万円 6 永井道雄

芸術文化事業方針

国際間の相互理解の基盤として、自国および他国の文化に対する認識を深めるには、文化財に接することが最適の方法の一つです。また「心の豊かさ」を考えると、文化財は心豊かな生活の源となるとともに新たな文化の創造の基礎となるものです。これらの点から、文化財を保存してつぎの世代に継承していくことは、いまの世代の責務と考えます。

日本においても諸外国においても、文化財の維持・修復にはかならずしも十分に手が尽くされているという状況にはありません。住友財団は、文化財を保護し後世に伝える一助として、文化財(美術工芸品、海外は遺跡を含む)の維持・修復事業と、その事前調査(海外のみ)を対象とする事業を行っています。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
文化財維持・修復事業に対する助成	文化財	助成	20	4769
海外の文化財維持・修復事業に対する助成	文化財・国際	助成	7	2190
総計				6959

財団法人駿府博物館

〒420 静岡県静岡市紺屋町15-4 ☎054-252-0111

1 1970年12月 2 株式会社静岡新聞社、SBS静岡放送 3 静岡県教育委員会 4 2億193万円 5 1578万円 6 光木徹

芸術文化事業方針

当財団は、博物館法第1章第3条に規定された、登録博物館で、主たる事業は、展覧会の開催、博物館資料の収集保管、調査研究、普及活動で、「助成」「奨学」「顕彰」については行わないし、当法人定款(寄付行為)にも規定されておりません。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
美術展覧会	美術	自主		992
総計				992

財団法人セゾン文化財団

〒104 東京都中央区京橋1-6-13 アサコ京橋ビル5階 ☎03-3535-5566

1 1987年7月 2 堤清二 3 文部省(文化庁) 4 107億2319万円 5 3億1442万円 6 堤清二

芸術文化事業方針

- 1 現代の革新的な舞台芸術(演劇・舞踊)に対する支援を中心とする。
- 2 若手から中堅にいたる芸術家・団体を継続的に助成する。
- 3 創造環境の改善、国際交流の促進に寄与するプログラムへの助成にも重点を置く。
- 4 金銭的支援にとどまらず、スペースおよび情報の提供等総合的支援を指向。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
現代演劇・舞踊助成(創造環境整備活動)	舞台	助成	18	1800
現代演劇・舞踊助成(アートマネージメント留学・研修)	舞台・国際	奨学	2	750
現代演劇・舞踊助成(芸術創造活動i)	舞台	助成	3	1200
現代演劇・舞踊助成(芸術創造活動ii)	舞台	助成	6	5200
現代演劇・舞踊助成(国際交流公演活動)	舞台・国際	助成	7	950
現代演劇・舞踊助成(国際共同創造活動)	舞台・国際	助成	7	1150
特別助成	音楽・文学・国際	助成	6	1739
自主制作事業	音楽・舞台・国際	自主		12163

財団法人ソニー音楽芸術振興会

〒102 東京都千代田区五番町5-1 JS市ヶ谷ビル7階 ☎03-3261-9831

1 1984年11月 2 ソニー株式会社、株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント 3 文部省(文化庁)

4 13億8215万円 5 8億3455万円 6 大賀典雄

芸術文化事業方針

音楽、オペラ、舞踊等の芸術の普及向上をはかるため、国際交流の促進、創造開発の活発化、新進芸術家の育成等に努め、わが国の文化の発展に寄与すること。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
国際的フェスティバル・コンクール等の開催および協力	音楽	自主		
音楽、オペラ、舞踊等の創造開発および協力	音楽・舞台	自主		
芸術家の研鑽に対する助成	音楽	助成	3	
その他、目的を達成するために必要な事業	音楽	自主		

総計 83455

財団法人大同生命国際文化基金

〒550 大阪府大阪市西区江戸堀1-2-1 ☎06-447-6357

1 1985年3月 2 大同生命保険相互会社 3 外務省 4 17億491万円 5 1億5453万円 6 近藤祐三

芸術文化事業方針

わが国と諸外国との文化交流の実施あるいは助成を行うことを通じて、国際相互理解の促進をはかり、わが国とくに関西地域の国際化に貢献する。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
大同生命地域研究賞	文学・その他	顕彰	4	1122
アジアの現代文芸翻訳出版	文学	自主		550
オックスフォード大学出版局との提携による翻訳出版	文学・国際	助成	3	191
国際相互理解促進のための事業協力・助成	美術・その他	助成	10	694

総計 2557

財団法人第百生命フレンドシップ財団

〒182 東京都調布市国領町4-34-1 ☎0424-89-8191

1 1989年12月 2 第百生命保険相互会社 3 文部省 4 3億円 5 4253万円 6 小林啓次郎

芸術文化事業方針

地域の草の根団体に対する「生涯学習活動助成」により、生涯学習の振興をはかる。1団体20万円を毎年150団体に助成。

多様な活動分野を助成対象にしているので、音楽、美術、演劇、映像、文学、民俗、文化財、国際など多岐にわたっている。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
地域の草の根団体が日頃の活動を地域社会へ発表する開催事業または刊行・制作事業	音楽・美術・舞台・映像・文学・民俗・文化財・国際	助成	68	1360

総計 1360

財団法人たましん地域文化財団

〒186 東京都国立市中1-9-52 多摩中央信用金庫国立支店ビル ☎0425-74-1360

11991年4月 2多摩中央信用金庫 3東京都教育委員会 43億8591万円 55453万円 6中嶋榮治

芸術文化事業方針

東京都多摩地域の文化資料(歴史・民俗・美術など)の収集・調査・研究・出版も含めた情報の提供、収集した資料も含めての展示公開などの各種事業を通じ、地域文化の形成に貢献することを願っている。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
たましん歴史・美術館における企画展示	美術	自主		1676
御岳美術館(分館)における常設展示	美術	自主		560
多摩地域の歴史・民俗などの調査研究と歴史資料室 機関誌「多摩のあゆみ」発行	民俗・文化財・その他	自主		1849
多摩地域の歴史・美術などに関する講演・見学会・ 教室	美術・その他	自主		27
多摩地域の歴史・民俗などの研究団体、保存団体への 助成	民俗・その他	助成	3	60
たましん財団賞	美術	顕彰	1	20
多摩歴史叢書5「新編武蔵風土記稿索引(多摩の部)」 刊行	その他	自主		488
総計				4680

財団法人中信美術奨励基金

〒600 京都府京都市下京区四条通室町東入函谷鉦町91 京都中央信用金庫内 ☎075-223-8385

11987年4月 2京都中央信用金庫 3京都府教育委員会 44億5500万円 51850万円 6道端進

芸術文化事業方針

京都府下における美術の創作活動を奨励し、伝統的文化の継承発展、ならびに京都市民の精神文化向上に寄与すること。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
京都美術文化賞贈呈	美術	顕彰	3	600
京都美術文化賞受賞記念展	美術	助成		515
「美術京都」出版	美術	助成		302
総計				1417

財団法人彫刻の森美術館

〒250-04 神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平 ☎0460-2-1161

11969年 2フジサンケイ・グループ 3文化庁 51億7350万円 6植田新也

芸術文化事業方針

彫刻の森美術館は、1969年に環境芸術としての現代彫刻の振興をはかり、日本の芸術文化に新たな活力を注入したいという願いから創設されました。箱根の雄大な自然のなかの7万m²の敷地に、彫刻のための野外展示場と四つの室内展示場を持ち、気軽に芸術作品に親しめる美術館となることを目的としています。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
陶彫展	美術	自主		
オーストラリア現代美術展	美術	自主		
第14回上野の森美術館大賞展・秀作展	美術	自主		
第22回日本新工芸展	美術	自主		
第17回現代女流美術展	美術	自主		

東京ソリステン	音楽	自主
夜のアートファンタジー	映像	自主
ウィークエンド・イベント	音楽	自主
総計		17350

財団法人東京オペラシティ文化財団

〒163-14 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー3階 ☎03-5353-0770

1 1995年12月 2 日本生命保険相互会社、NTT都市開発株式会社、株式会社小田急百貨店、第一生命保険相互会社、山鉄商株式会社、相互物産株式会社 3 文部省（文化庁） 4 9億1000万円 5 7000万円 6 小林玉夫

芸術文化事業方針

当財団は、東京オペラシティと呼ばれる大規模な、賑わいのある文化ゾーンの施設のうち、コンサートホール、アートミュージアムを拠点に、音楽、美術を中心とした幅広い文化事業を実施します。

また、新国立劇場など他の施設と連携をとり、お互いに補完・影響し合い、全体として調和のとれた、質の高い芸術・文化を提供し、また、長期的な視点から、若手芸術家の発掘・育成などにも取り組みます。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
第2回シンポジウム開催「偶然を指揮する者」	音楽・映像	自主		
作曲賞コンクールへの応募作品の第1次審査	音楽	顕彰	1	
難波田展示室開設「第1回自選戦後作品展」「第2回初期作品集」	美術	自主		
総計				7000

財団法人道銀文化財団

〒060 北海道札幌市中央区大通西4丁目 北海道銀行本店 ☎011-233-1029

1 1991年3月 2 株式会社北海道銀行 3 北海道教育庁 4 3億円 5 800万円 6 堀寛

芸術文化事業方針

行政、各種文化団体等とともに民間企業もまた、北海道の地域文化をさらに発展、向上させて、優れた芸術文化の創造を奨励するとともに、広く道民の芸術鑑賞の機会を与えることを目的に活動している。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
「北海道演劇名鑑」の編集	舞台	自主		140
さっぽろ市民コンサート	音楽	自主		30
第10回ライラックコンサート	音楽	自主		290
美術鑑賞会	美術	自主		60
第6回道銀芸術文化奨励賞	音楽・舞台	顕彰	2	160
音楽、美術、演劇、文学、4団体への連携支援事業	音楽・美術・舞台・文学	助成	4	120
総計				800

財団法人東芝国際交流財団

〒105-01 東京都港区芝浦1-1-1 東芝ビル3C-4 ☎03-3457-2733・8468

1 1989年4月 2 株式会社東芝 3 通産省 4 30億2000万円 5 8660万円 6 佐藤文夫

芸術文化事業方針

国際交流を進め対日理解の促進をはかること、国際社会への貢献をはかることを前提にして、科学・技術面とともに芸術面に重点を置く。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
--------	------	----	----	---------

海外の大学・美術館の日本研究活動（芸術文化）行事助成	舞台・映像・文学・民俗・国際	助成	6
美術館・博物館の行事、展示物の案内、図録の作成助成	美術・文化財	助成	8
国内グループの海外公演の助成	音楽・舞台	助成	4

財団法人東邦銀行文化財団

〒960 福島県福島市大町3-25 ☎0245-23-5882

1 1993年4月 2 株式会社東邦銀行 3 福島県教育委員会 4 3億754万円 5 1億899万円 6 内池佐太郎

芸術文化事業方針

福島県民の文化活動を支援し、より豊かな地域文化の創造と文化の振興を願い、21世紀を担う人材の育成に寄与したい。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
地域文化活動団体への助成	音楽・美術・文学・民俗	助成	27	330
(前年度助成の県民創作オペラ) ビデオ	映像	助成	1	50
こけし館（原郷のこけし群西田記念館）管理運営	その他	自主		8848
機関誌「カルチュラル」の発刊（年2回）	その他	自主		240
総計				9468

財団法人東洋信託文化財団

〒100 東京都千代田区丸の内1-4-3 ☎03-3218-0611

1 1989年11月 2 東洋信託銀行株式会社 3 文部省（文化庁） 4 9億8840万円 5 3100万円 6 妹背光雄

芸術文化事業方針

地域における継続的な文化活動に助成

- アマチュアの音楽団体が開催する公演。
- アマチュアの演劇団体が開催する公演。
- 伝統芸能の伝承と保存のための公演。
- 美術館等が企画開催する美術展。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
音楽活動に対する助成	音楽	助成	16	750
演劇活動に対する助成	舞台	助成	7	350
伝統芸能に対する助成	民俗	助成	17	800
美術展に対する助成	美術	助成	7	600
総計				2500

財団法人徳島新聞社会文化事業団

〒770-72 徳島県徳島市中徳島町2-5-2 ☎0886-55-7365

1 1973年3月 2 徳島新聞社 3 徳島県 4 13億9458万円 5 5442万円 6 坂田雄幸

芸術文化事業方針

地方文化の向上をはかることを目的とした事業と各団体への助成を行う。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
徳島新聞社賞（文化賞）		顕彰	1	300
徳島新聞助成金	音楽・美術・民俗	助成	7	741

障害者芸術祭、エナジー96	美術	自主	510
チャリティ絵画展示即売展	美術	自主	516
総計			2067

財団法人トヨタ財団

〒163-04 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル37階 ☎03-3344-1701

1 1974年10月 2 トヨタ自動車株式会社 3 総理府 4 1154億円 5 6億8900万円 6 豊田英二

芸術文化事業方針

- 1 当財団は、助成財団であり、芸術文化事業への助成も、助成活動の対象の範囲には含まれる。
- 2 当財団は、研究助成を中心としており、芸術文化の領域でも研究的性格のものは対象となりうる(研究助成プログラム)。
- 3 当財団は、東南アジアで現地の人々の手によって行われる文化的な事業や研究への助成を行っている(国際助成)。
- 4 当財団は、日本と東南アジアの文学などの翻訳を通した相互理解への助成を行っている(「隣人をよく知ろう」プログラム)。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
国際助成	国際	助成	59	7260
「隣人をよく知ろう」プログラム	文学	助成	11	1690
総計				8950

財団法人長島文化財団

〒890 鹿児島県鹿児島市与次郎1-7-15 ☎099-250-5400

1 1985年3月 2 長島公佑(長島商事株式会社代表取締役) 3 鹿児島県教育委員会 4 56億5862万円 5 7343万円 6 長島公佑

芸術文化事業方針

鹿児島県における教育振興、地域文化および学術の振興に寄与すること。

- 1 地域文化の向上のため、歴史、美術工芸および自然に関する資料の収集、保存、研究および展示に必要な事業。
- 2 地域の歴史、文化および熱帯植物その他地域の自然に関する学術研究に対する助成金の給付、ならびに地域の教育文化の振興にかかわる活動に対する奨励金の給付。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
長島美術館の管理・運営	美術	自主		
助成事業	その他	助成	3	50
奨学金事業	その他	奨学	22	558
総計				608

財団法人ニッセイ文化振興財団

〒100 東京都千代田区有楽町1-1-1 ☎03-3503-3111

1 1973年11月 2 日本生命保険相互会社 3 文部省 4 13億5698万円 5 12億7400万円 6 小林玉夫

芸術文化事業方針

本財団は、広く国民の情操を養い教養を高めるため、優れた舞台芸術を提供するとともにその向上をはかり、もってわが国の芸術文化の振興に寄与することを目的とする。

上記目的を達成するためにつぎの事業を行う。

- 1 児童向けおよび一般向け舞台芸術等の開催。
- 2 児童向けおよび一般向け舞台芸術の公演に対する援助。
- 3 児童向けおよび一般向け舞台芸術作品の創作の奨励。

- 4 舞台芸術に関する研究会、講演会等の開催。
- 5 海外舞台芸術の招聘および援助。
- 6 舞台芸術分野における功労者等の表彰。
- 7 その他上記目的を達成するために必要な事業。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
こどものためのミュージカル・プレイ「ニッセイ名作劇場」(第34回)の主催および感想文集の発行	舞台	自主		
青少年のための「日生劇場オペラ教室」の主催	舞台・国際	自主		
第5回「日生劇場国際児童フェスティバル」の主催	音楽・舞台・国際	自主		
「ニッセイ・オペラ・シリーズ'97」の主催	音楽	自主		
「ニッセイ・ミュージック・コンサート」の主催	音楽	自主		
海外の優れた舞台芸術の招聘	音楽・舞台・国際	自主		
「ニッセイ・バックステージ賞」の贈賞	舞台	顕彰		
「日生劇場舞台フォーラム'97」の開催	舞台	自主		

財団法人日本生命財団

〒541 大阪府大阪市中央区今橋3-1-7 日本生命今橋ビル ☎06-204-4011

1 1979年7月 2 日本生命保険相互会社 3 総理府 4 120億580万円 5 5億5683万円 6 小林幹司

芸術文化事業方針

芸術文化面においては、つぎの3点を目標に1979年より助成活動を行っております。

- 1 地方・地域重視の視点から、博物館が展示する歴史・自然・民俗などの郷土遺産を学術的・体系的に解説した案内書の出版に助成し、地域文化の振興、青少年の文化教育に資する。
- 2 日本の文化史・生活史あるいは人間の生活環境・自然環境などの分野において市販性に乏しいが、学術的・専門的見地から公開が強く要請されている学術的専門書の出版に資する。
- 3 児童・少年自らが、郷土芸能伝承活動や音楽活動・図書館活動などの地域活動を実践することにより、創造力に富んだ情操豊かな子供たちに成長することに資する。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
博物館総合案内出版助成	民俗・文化財・その他	助成	3	2208
学術書出版助成	民俗・文化財・その他	助成	11	2779
児童・少年の健全育成助成	音楽・美術・舞台・文学・民俗・文化財・その他	助成	110	7000
総計				11987

財団法人日本テレビ放送網文化事業団

〒160 東京都新宿区新宿6-27-8 新宿スカイメナービル4階 ☎03-3205-6201

1 1976年11月 2 日本テレビ放送網株式会社 3 文部省 4 15億円 5 4500万円 6 小林與三次

芸術文化事業方針

日本テレビの社会貢献事業として広範な文化芸術活動のなかから放送事業に関連のある分野での文化活動を実施。

- 1 日本語学習ビデオ教材の製作。
- 2 世界児童画展の主催。
- 3 語学研究機関への助成。
- 4 音楽・芸術(演劇)への助成。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
--------	------	----	----	---------

第27回世界児童画展／東京中央展および42都道府県展	美術・国際	自主		3000
劇団OIE公演	舞台	助成	1	100
アムステルダム・コンサートへポー管弦楽団東京公演	音楽	助成	1	700
読売日本交響楽団特別公演	音楽	助成	1	100
総計				3900

財団法人日本美術協会

〒105 東京都港区西新橋1-11-3 虎ノ門アサヒビル6階 ☎03-5251-2245

1 1887年 2 企業よりの寄付金 3 文部省（文化庁） 4 14億3279万円 5 5億5246万円 6 瀬島龍三

芸術文化事業方針

芸術・文化の振興こそが人類の平和と繁栄に最も資することを確信し、美術館事業においては、若手美術家の育成と芸術活動の奨励に力をそそぐ。また、財団創立100年を記念して創設した「世界文化賞」は、芸術文化の発展、普及、向上に顕著な貢献をした世界の芸術家を顕彰。同賞は人類共通の「芸術・文化の広場」で、国際協調と相互理解、人的交流をめざす。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
第7回「高松宮殿下記念世界文化賞」	音楽・美術・舞台・映像・その他	顕彰	5	30734
第13回「上野の森美術館大賞展」	美術	助成	14	4353
「VOCA展-96」	美術	助成	5	2330
二科展	美術	顕彰	1	10
第8回「日本の自然を描く展」	美術	自主		6042
日本の美術50年展	美術	自主		1545
第2回ニューヨーク近代美術館展	美術・国際	自主		1216
有栖川・高松宮ゆかりの名品展	美術	自主		3328
長谷川潔・岡鹿之助展	美術	自主		2246
研究会・講演会・セミナー・アートスクール・その他	美術	自主		3436
総計				55246

財団法人野間奉公会

〒112 東京都文京区音羽2-12-21 講談社ビル ☎03-5395-3721

1 1939年10月 2 株式会社講談社 3 文部省 4 34億円 5 1億7400万円 6 野間佐和子

芸術文化事業方針

文芸に対する奨励および表彰。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
野間文芸賞・同新人賞	文学	顕彰	3	700
野間児童文芸賞・同新人賞	文学	顕彰	3	400
相模原市児童・生徒図画展	美術	顕彰	1	200
総計				1300

財団法人野村国際文化財団

〒103 東京都中央区日本橋1-9-1 ☎03-3271-2330

1 1990年5月 2 野村證券株式会社 3 文部省（文化庁） 4 40億6000万円 5 2億2355万円 6 田淵義久

芸術文化事業方針

国際社会における真の相互理解の実現のために、音楽・美術分野における人材育成活動および国際交流活動に対しての助成を行います。

- 1 音楽などの分野における若手芸術家の育成活動に対する助成。
- 2 芸術文化の国際交流を目的とする講演会、展覧会、シンポジウムの開催などに対する助成。
- 3 社会科学および人文科学の分野を専攻する外国人留学生に対する奨学金の交付。
- 4 その他、目的を達成するために必要な事業。

上記4項目について、いずれも原則として明確な教育・育成プログラムを基本にした活動であることを前提とします。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
パシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)に対する助成	音楽・国際	助成	1	
若手芸術家に対する展示場の無料提供およびパンフレット等の制作援助	美術	助成	15	
外国人留学生に対する奨学金交付	国際・その他	奨学	20	
現代音楽普及のためのCD製作への援助	音楽	助成	2	
敦煌研究院の研究者受け入れ事業への助成	美術・文化財・国際	助成	4	
ローザンヌ国際バレエコンクール交流団体への助成	国際・その他	助成	1	
各種音楽会、展覧会への助成、海外演奏活動のサポート	音楽・美術・国際・その他	助成	10	
東京芸術大学資料館への寄付	美術・その他	助成	1	
総計				22355

財団法人八十二文化財団

〒380 長野県長野市岡田178-13 八十二別館内 ☎026-224-0511

1 1985年3月 2 株式会社八十二銀行 3 長野県教育委員会 4 2億円 5 2億3047万円 6 小林春男

芸術文化事業方針

基本的スタンス

- 1 伝統文化を後世に伝える。
- 2 自然環境を守る。
- 3 人材を育成する。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
文化講演会の開催	その他	自主		
教養講座の開催	美術・映像・文学・その他	自主		
コンサートの開催	音楽	自主		
ギャラリー企画展の開催	美術	自主		
出版事業	その他	自主		
総計				23047

財団法人美育文化協会

〒103 東京都中央区日本橋小網町11-5 ☎03-3662-5321

1 1970年8月 2 へんてる株式会社 3 文部省 4 1億円 5 3358万円 6 岩間英太郎

芸術文化事業方針

- 1 世界児童画展の年度開催。世界各国(本年度84か国・地域)より児童生徒の絵画作品を募集。優秀作品を選定し、日本(昨年40か所)および海外(昨年17か所)で展覧会を開催。
- 2 美術教育誌「美育文化」月刊発行。対象：美術教育関係者。部数6000部。月額850円。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
第27回「世界児童画展」開催	美術	自主		910
月刊誌「美育文化」発行	美術	自主		1900
総計				2810

財団法人東日本鉄道文化財団

〒100 東京都千代田区丸の内1-6-5 JRビル ☎03-3213-3017

1 1992年3月 2 東日本旅客鉄道株式会社 3 運輸省 4 60億円 5 6億3500万円 6 住田正二

芸術文化事業方針

- 1 鉄道を通じた地域文化の振興。
 - 2 鉄道経営・鉄道技術に関する調査・研究の促進。
 - 3 鉄道にかかわる国際文化交流活動の推進。
- を事業の三つの柱とし、人間性豊かな鉄道文化・交通文化の醸成に寄与することを目的として活動している。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
東京ステーションギャラリーの運営と展覧会の開催	美術	自主		
地方文化事業支援	民俗	助成	6	
ときょうエキコンの開催	音楽	自主		
みちのくエキコンの開催	音楽	自主		
英文雑誌の発行	国際	自主		
交通研究者への調査・研究助成	その他	助成	23	
海外鉄道研修生受け入れ	国際	自主		

財団法人美術工藝振興佐藤基金

〒248 神奈川県鎌倉市浄明寺5-9-39 ☎03-3881-1590 (連絡先)

1 1979年5月 2 千住金属工業株式会社、佐藤金属株式会社、佐藤千壽 3 文部省(文化庁) 4 7億1000万円 5 1892万円 6 佐藤千壽

芸術文化事業方針

美術工芸の調査研究および創作活動を奨励・助成するとともに、美術工芸品および資料を収集公開してこれらの研究に資し、もってわが国文化の発展に寄与する。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
創作活動および調査研究に対する助成	美術	助成	2	155
外国人受容に対する助成	美術	助成	2	408
講演会等	美術	自主		92
若手金工家の育成	美術	顕彰	3	100
展示会	美術	自主		509
総計				1264

財団法人ひろしま美術館

〒730 広島県広島市中区基町3-2 ☎082-223-2530

1 1974年4月 2 株式会社広島銀行、広島市 3 広島県教育委員会 4 23億8386万円 5 3億4834万円 6 橋口収

芸術文化事業方針

当財団は、1978年広島銀行の創業100周年記念事業として、「地域への密着と奉仕を強力に推進する」同行の経営の基本理念にもとづき設立されたものであり、国内屈指のコレクションを有する常設展示や、年4～5回の特別展の開催等により、今後とも地域社会の芸術・文化の向上に資する方針である。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
生誕100年ラルティエグ写真展	美術	自主		1300
印象派の先駆者ブーダン展	美術	自主		1900
未来都市の考古学	美術	自主		2800
ヴィクトル・ユゴーの世界展	美術	自主		1900
総計				7900

財団法人福岡文化財団

〒812 福岡県福岡市博多区博多駅前3-1-1 ☎092-472-1676

1 1985年6月 2 株式会社福岡シティ銀行 3 福岡県教育委員会 4 6億5000万円 5 2412万円 6 四島司

芸術文化事業方針

地域社会に対して美術・音楽・演劇等芸術の各分野で美的、知的な精神的価値を通して、より豊かな社会づくりに寄与することを目標としています。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
プロムナードコンサート	音楽	自主		350
シルクロード写真展および写真集発行	美術・その他	自主		220
ミュージカル「赤毛のアン」支援	舞台	助成	1	1050
アジア国際美術展などの助成	美術	助成	3	350
チベット展（主催西日本新聞社）支援	美術	助成	1	150
イタリヤ音楽祭支援	音楽	助成	1	92
文化講演会など	その他	助成	3	200
総計				2412

財団法人福武学術文化振興財団

〒206 東京都多摩市落合1-34 ☎0423-56-0810

1 1985年6月 2 株式会社ベネッセコーポレーション 3 文部省 4 3億700万円 5 1990万円 6 福武総一郎

芸術文化事業方針

当財団の寄付行為には、目的として学術研究に対する助成を行い、あわせて学術・文化に関する知識の普及啓発に努め、もってわが国の学術の振興および文化の発展に寄与するとあり、その事業の一つとして学術文化に関する国際的な講演会・展覧会等の開催およびその援助をにかけている。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
研究助成	民俗・文化財・国際	助成	19	1400
学会・研究専会の開催に対する助成	民俗・文化財・国際	助成	6	175
国際交流に対する助成	文化財・国際	助成	1	150
講演会	文学	自主		60
総計				1785

財団法人平和堂財団

〒522 滋賀県彦根市小泉町31 ☎0749-23-4575

1 1989年3月 2 夏原平次郎(株式会社平和堂代表取締役会長) 3 滋賀県教育委員会 4 2億6925万円 5 3472万円 6 夏原平次郎

芸術文化事業方針

- 1 滋賀県の文化・芸術の振興に寄与する文化事業活動に対する助成。
- 2 滋賀県内、滋賀県出身の新進芸術家の活動に対する助成および育英。
以上を通じて、滋賀県の文化・芸術の振興に寄与する。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
海外留学生助成(芸術部門)	音楽	奨学	1	120
郷土図書寄贈(製作助成および寄贈)	文学	助成	1	94
文化・芸術公演助成	音楽・美術・民俗	助成	4	200
新進芸術家活動助成	音楽・美術	助成	5	100
新進芸術家美術展・演奏会の開催	音楽・美術	自主		329
総計				843

財団法人ベルナル・ビュフェ美術館

〒411 静岡県駿東郡長泉町駿河平 ☎0559-86-1300

1 1973年11月 2 株式会社スルガ銀行 3 静岡県教育委員会 6 岡野光喜

芸術文化事業方針

フランス現代画の巨匠ベルナル・ビュフェ(1928～)の作品を公開展示することによって、文化の向上に寄与する。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
ベルナル・ビュフェ美術館の運営	美術	自主		
絵画展	美術	顕彰		

財団法人ポーラ伝統文化振興財団

〒104 東京都中央区銀座1-7-7 ポーラビル3階 ☎03-3561-7408

1 1979年12月 2 株式会社ポーラ化粧品本舗、ポーラ化成工業株式会社、有限会社忍総業、有限会社ポーラ興産 3 文部省(文化庁) 5 6000万円 6 安藤憲

芸術文化事業方針

わが国の優れた伝統工芸・技術、伝統芸能、民俗芸能および民俗行事等の伝統的文化を映像として記録し、その公開、頒布を行い、あわせて関係資料の収集、保存および伝統文化に関する普及を行うとともに、伝統文化の後継者に対する奨励および助成等を行って、その保存振興をはかり、もってわが国の文化の向上、発展に寄与することを目的とする。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
伝統文化ポーラ賞の贈呈	舞台・民俗・その他	顕彰	7	360
出版	舞台	助成	1	100
文化講演会	その他	助成	4	230
伝統文化記録映画の上映	舞台・映像・民俗・文化財	自主		230
伝統文化記録映画の制作	映像・文化財	自主		1600
総計				2520

財団法人三井海上文化財団

〒101-11 東京都千代田区神田駿河台3-9 ☎03-3259-4131

1 1988年10月 2 三井海上火災保険株式会社 3 文部省(文化庁) 4 6億8504万円 5 5800万円 6 松

方康

芸術文化事業方針

地域の文化おこしを支援するために、音楽・郷土芸能の分野において、地域の文化活動を助成することによって、文化の振興および文化の国際交流を活性化し、わが国文化の向上、発展に寄与することを目的とする。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
地域住民のためのコンサートの開催	音楽	助成	30	3700
国際交流活動に対する助成	音楽・民俗・国際	助成	25	2000
全国高等学校総合文化祭「東京公演」に対する助成	音楽・民俗	助成	1	100
総計				5800

財団法人三菱信託芸術文化財団

〒103 東京都中央区日本橋2-2-4 日本橋永楽ビル内 ☎03-3281-0604

1 1987年12月 2 三菱信託銀行株式会社 3 文部省(文化庁) 4 21億5781万円 5 1億3816万円 6 林宏

芸術文化事業方針

わが国のプロのオペラ、オーケストラ、その他の音楽団体が主催する公演等のうち、一定の芸術的水準を有し、経済的支援を要すると認められたものへの助成を行う。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
三菱信託音楽賞	音楽	顕彰	1	500
音楽芸術公演活動への助成	音楽	助成	40	5800
総計				6300

財団法人みどり銀行文化振興財団

〒651 兵庫県神戸市中央区生田町1-4-3 ☎078-231-5160

1 1991年10月 2 兵庫県教育委員会 3 43億2296万円 4 1580万円 5 米田准三

芸術文化事業方針

- 阪神・淡路大震災の被災地における「心の復興」につながる事業を実施する。
- 兵庫県下各地域の振興に寄与する。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
イベント開催事業(文化部門)	音楽・舞台	自主		335
助成事業(文化部門)	音楽・美術・舞台	助成	14	460
普及および啓蒙事業	その他	自主		11
総計				806

財団法人明治村

〒484 愛知県犬山市内山1 ☎0568-67-0314

1 1962年7月 2 名古屋鉄道株式会社 3 文部省 4 56億8113万円 5 8億7000万円 6 梶井健一

芸術文化事業方針

日本の隆盛期であった明治時代の各種資料を収集管理して、広く一般に公開するとともに、明治の新しい精神に立脚した社会教育の振興により、国民大衆に歴史の指針を与え、その一般教養の充実をはかることにより、社会文化の向上に寄与することを目的とする。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
第22回明治村賞		顕彰	1	100
第30回明治村茶会	美術	自主		2500
特別展		自主		1000

ミュージアムコンサート	音楽	自主	80
総計			3680

財団法人ヤギメセナファンデーション

〒920 石川県金沢市問屋町2-80 ヤギコーポレーション内 ☎0762-37-1122

1 1991年3月 2 株式会社ヤギコーポレーション 3 石川県教育委員会 4 4億7461万円 5 879万円 6 本陣靖司

芸術文化事業方針

- 1 芸術文化に関する行事の開催等に対する助成。
- 2 国際文化交流に対する助成。
- 3 大学、高校および専門学校における産業デザイン教育に対する助成。
- 4 その他この法人の目的を達成するために必要な事業。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
ヤギスクールシアター	舞台	自主		879
総計				879

財団法人安田火災美術財団

〒160 東京都新宿区西新宿1-26-1 ☎03-3349-3080

1 1976年6月 2 安田火災海上保険株式会社 3 文部省(文化庁) 4 12億7113万円 5 2億8166万円 6 後藤康男

芸術文化事業方針

- 1 展覧会の内容および展示品の多様化を進め、多くの人々に親しまれる美術館として観客層の幅をひろげて入館者の増加をはかる。
- 2 優れた美術家の表彰ならびに助成によって美術界の発展に寄与するよう支援事業を推進する。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
安田火災美術財団奨励賞	美術	助成	30	
安田火災東郷青児美術館大賞	美術	顕彰	1	
安田火災東郷青児美術館の運営・管理	美術	自主		
総計				28166

財団法人安田生命クオリティ オブ ライフ文化財団

〒160 東京都新宿区西新宿1-9-8 ☎03-3349-6194

1 1991年6月 2 安田生命保険相互会社 3 文部省 4 15億4000万円 5 8431万円 6 大島雄次

芸術文化事業方針

当財団は、音楽における人材育成ならびに地域の伝統文化の継承、とくに後継者育成に対する助成等を行い、もって国民生活の質的向上ならびにわが国文化の発展に寄与することを目的としています。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
日本音楽コンクール開催助成	音楽	助成	1	550
海外音楽コンクール参加費用助成	音楽	助成	4	180
海外音楽研修生費用助成	音楽	助成	16	3510
音楽学生奨学金	音楽	奨学	23	920
地域の伝統文化継承のための助成	民俗	助成	47	2800
総計				7960

財団法人山種美術財団

〒103 東京都中央区日本橋兜町7-12 ☎03-3664-6749

1 1965年1月 2 山崎種二 3 文部省 4 89億7600万円 5 3億6385万円 6 山崎富治

芸術文化事業方針

山種美術館は、昨年、開館30周年を無事成功させ、本年度よりは、新たな展開に努力します。本年度は、隔年で行われます第14回山種美術館賞展を皮切りに、秋の特別展「美人画誕生」を主力とし、8回の展覧会を開催します。

とくに、前期より地下鉄SFカードの図柄に当館所蔵の作品が採用され、あわせて当館作成の大ポスターが地下鉄全線駅に貼り出され、大きな宣伝効果を発揮しましたが、この「美人画の誕生」展でも同様の企画が立案されております。

また、移動展も、千葉そごう美術館はじめ3か所において開催を予定しています。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
30周年記念特別展「三人の巨匠たち―御舟・古径・土牛」ほか	美術	自主		18849
総計				18849

財団法人大和文華館

〒631 奈良県奈良市学園南1-11-6 ☎0742-45-0544

1 1960年10月 2 近畿日本鉄道株式会社 3 大阪府教育委員会 6 金森茂一郎

芸術文化事業方針

大和文華館は日本美術および関係諸文化に関する資料を収集し、その研究および鑑賞を奨励し、国民の教養と新文化の創成に資するとともに世界の文運に寄与し、人類の平和と親睦とに貢献するをもって目的とする。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
陳列品解説	美術	自主		
日曜美術講座	美術	自主		
美術論文集発行	美術	自主		500
文化財展覧会	美術	自主		1420
総計				1920

財団法人大和文化財保存会

〒630 奈良県奈良市登大路町8 奈良県教育委員会事務局文化財保存課内 ☎0742-24-3902

1 1960年9月 2 近畿日本鉄道株式会社 3 奈良県教育委員会 4 144億1995万円 5 2309万円 6 金森茂一郎

芸術文化事業方針

奈良県下における国宝、その他の諸文化財の保存に関する事業を促進助成し、もって国民文化の向上に寄与することを目的とする。

- 1 国宝、重要文化財、その他の有形文化財および記念物の修理、復旧ならびにこれらの維持管理に必要な事項につき、所有者、管理責任者または管理団体に対する援助。
- 2 その他目的を達成するために必要と認められる事業。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
文化財保険加入推進助成	文化財	助成	59	65
指定文化財修理援助	文化財	助成	10	1784
未指定(指定候補)文化財修理援助	文化財	助成	1	200
文化財調査事業	文化財	自主		250
総計				2299

財団法人ヤマハ音楽振興会

〒153 東京都目黒区下目黒3-24-22 ☎03-3713-1351

1 1966年8月 2 ヤマハ株式会社 3 文部省 4 2億円 5 江口秀人

芸術文化事業方針

- 1 音楽教育活動。
- 2 総合的な音楽力・指導力を持つ指導者の養成。
- 3 音楽普及活動・各種音楽コンテスト・コンサートの実施。
- 4 出版・制作活動。

以上四つを活動の柱として21世紀の豊かな音楽文化を創造していくための事業をすすめています。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
ユニセフチャリティオリジナルコンサート	音楽・国際	自主		
ティーンズミュージックフェスティバル	音楽	自主		
ミュージック・クエスト	音楽・国際	自主		
インターナショナルエレクトーンコンクール	音楽・国際	自主		
音楽を学ぶ学生のための奨学金	音楽	奨学	34	

財団法人ユニオン造形文化財団

〒550 大阪府大阪市西区南堀江2-13-22 ☎06-532-8764

1 1994年5月 2 株式会社ユニオン 3 文部省(文化庁) 4 4億円 5 2929万円 6 立野純三

芸術文化事業方針

空間造形デザイン文化の振興と向上をはかるため、調査研究および国際交流に対する助成を行うとともに、空間造形デザインにかかわる人材養成および顕彰を行い、もってわが国芸術文化の発展に寄与することを目的とする。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
空間造形デザインに関する調査研究	美術	助成	8	1450
空間造形デザインに関する国際交流	美術・国際	助成	3	300
空間造形デザイン分野で活躍する若手芸術家の在在外研修に対する助成	美術	奨学	2	480
空間造形デザイン分野で優れた創作活動の顕彰	美術	顕彰	2	200
その他事業	美術	助成	1	150
総計				2580

財団法人ヨークベニマル文化教育事業財団

〒963 福島県郡山市朝日2-18-2 株式会社ヨークベニマル総務室内 ☎0249-24-3111

1 1985年 2 株式会社ヨークベニマル 3 福島県 4 2億6600万円 5 4500万円 6 大高善二郎

芸術文化事業方針

目的

文化ならびに教育活動の推進を通し、福島県内に住む青年の国際性を養成すること。

概要

- 1 毎年、福島県下の公私立高校生を海外研修に派遣（ホームステイ）。
- 2 数年おきに、カナダ、マニトバ州の青年を福島県に招待（ホームステイ）。
- 3 その他。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
第12回アメリカ・カナダ海外研修派遣事業	国際	自主		2200
総計				2200

財団法人よんでん文化振興財団

〒760 香川県高松市丸の内2-5 ☎0878-23-5511

1 1991年10月 2 四国電力株式会社 3 文部省(文化庁) 4 10億2300万円 5 3830万円 6 山本博

芸術文化事業方針

四国地域を対象として、音楽・美術を中心とした芸術活動を主催および助成することにより、優れた芸術文化の鑑賞機会を提供するほか、顕彰・奨学援助なども行い、地域文化の振興に寄与する。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
主催事業	音楽・美術	自主		1060
音楽活動への助成	音楽	助成	20	1060
美術活動への助成	美術	助成	6	190
奨学援助	音楽・美術	奨学	18	1140
顕彰	音楽・美術	顕彰	3	340
総計				3790

財団法人ローム ミュージック ファンデーション

〒615 京都府京都市右京区西院西中水町1 ☎075-311-7710

1 1991年2月 2 佐藤研一郎、ローム株式会社ほか 3 文部省(文化庁) 4 25億4684万円 5 1億447万円 6 佐藤研一郎

芸術文化事業方針

音楽活動に対する助成をはかるとともに、音楽を専攻する学生に対する奨学援助等を行い、もってわが国の文化の向上、発展に寄与する。

プログラム名	芸術分野	分類	件数	事業費(万円)
音楽活動助成	音楽	助成	30	2460
音楽セミナーの開催	音楽	自主		1763
国際交流助成	音楽・国際	助成	14	1150
京都・国際音楽学生フェスティバル'96の開催	音楽・国際	自主		1438
音楽研究助成	音楽	助成	5	270
音楽在外研究援助	音楽	助成	6	1600
奨学援助	音楽	奨学	22	1560
総計				10447

第

章

5

メセナ大賞'96

1 授賞趣旨と受賞企業の紹介

創造性、独創性、質の高さを求める

288

「メセナ大賞」は、優れたメセナ活動を表彰することによって、企業メセナのいっそうの充実と、世論の関心を深めることを目的として1991年に企業メセナ協議会が創設したものである。

「メセナ大賞'96」は、1995年度内（1995年4月1日～1996年3月31日）に日本に所在する企業および企業財団によって行われた、貢献度の高いメセナ活動を顕彰した。

総合的に優れた活動には「メセナ大賞」を授与するのをはじめ、大賞に匹敵するほど優れた活動には「審査委員特別賞」、芸術家の育成に貢献した活動には「メセナ育成賞」、企画面で優れた活動には「メセナ企画賞」、国際文化交流に寄与した活動には「メセナ国際賞」、中小企業による優れた活動には「メセナ奨励賞」、地域文化の振興に寄与した活動には「メセナ地域賞」、芸術文化の普及に貢献した活動には「メセナ普及賞」をそれぞれ授与する。

下記の選考基準および審査委員によって、「メセナ大賞'96」の受賞企業が決定された。

[選考基準]

- ・創造性、独創性、質の高さ
- ・芸術文化を通じて社会に与えるインパクトや貢献度
- ・継続性や社員参加の度合い など

[審査委員]

- ・植木 浩 前東京国立近代美術館館長
- ・小池 一子 佐賀町エキジビット・スペース主宰
- ・高橋 アキ ピアニスト
- ・筑紫 哲也 ジャーナリスト／ニュースキャスター
- ・辻 邦生 小説家
- ・蜷川 幸雄 演出家
- ・松岡 紀雄 神奈川大学教授
- ・諸井 誠 作曲家／彩の国さいたま芸術劇場館長
- ・福原 義春 (社)企業メセナ協議会理事長

[五十音順]

選考経過

社団法人企業メセナ協議会専務理事

根本 長兵衛

今回の応募は例年よりも多彩な内容だった。メセナ事業の範囲と方法が多様化しているとともに、応募資格にうたっている企業・企業財団の枠をはみだす団体からの応募も増えた。メセナ運動の全国的なひろがり浸透ぶりを示すものといえよう。第6回の今回は全国から182案件が142の団体から寄せられ、その4割が初めての応募者からである。

「多事争論」の論議が続き、各賞を決めるのはなかなか難航した。しかし、結果を見ると、それぞれの賞にふさわしい事業が選ばれたと確信しうものだった。

大賞のアサヒビール(株)はメセナ活動に対する基本理念と組織を明確にした、社をあげての取り組みが評価された。キヤノン(株)のアートラボは新しいアート誕生への期待が込められて審査委員特別賞に決まった。(株)毎日新聞社の日本音楽コンクールは戦時中も休まず継続し、音楽の普及向上と新人育成に大きな貢献をしてきた事業である。(株)ヨークベニマルと(財)八十二文化財団は地域に根ざした発想豊かな素晴らしい活動を展開していることが評価された。凸版印刷(株)と大日本印刷(株)の活動は双方とも自社の本業と直結しているように見えながら、採算を度外視したメセナの好例である。被災者に生きる勇気や希望を与えるのは芸術活動だと考え、「アート・エイド・神戸」を率先して始めた(株)海文堂書店の活動は深い共感を呼び受賞が決まった。

全応募案件の内容は多岐にわたっていたが、いくつかの特徴をつぎに列挙する。①何十年という長期継続のメセナ活動、②集団的メセナともいべき協力体制を組んで事業を推進する活動、③規模の大きな国際的メセナ活動、④豊かな発想・企画による事業、⑤施設や制度をつくり、有名・無名の芸術家に提供している事業、⑥青少年の芸術育成・支援活動、⑦企業活動の延長ながら、採算は度外視して行っている事業、⑧文化の裾野を広げる事業、⑨地域の文化を支援・育成する事業、⑩企業や従業員自体の文化を育てるメセナ活動。さらに市民ボランティア型のメセナにも顕著な増加傾向が見られた。

今後も、より多様多彩な事業が全国から集まることが期待される。

大賞

業種	食料品
本社所在地	東京都
創立年	1949年
資本金	1307億円
従業員数	4404名

アサヒビール株式会社

Asahi Breweries, Ltd.



ロビーコンサートを中心とする社会に開かれた 未来文化創造型メセナ活動

1954年から外国のアーティストを招いて毎月2回コンサートを開始するなど、同社のメセナ活動には長い伝統があるが、創業100周年、東京墨田区に本部ビルを建設したのを機に、全社横断の企業文化委員会と専任部署企業文化部を創設し、新たに明確な方針を打ち立てた。以後、①社有施設から地域への斬新な文化の発信・提供、②若手アーティストの発掘と支援、③世界の優れた芸術の紹介を三本柱とした多彩で独創的なメセナ活動を、幅広い社員参加による文化活動のかたちをとって、積極的に展開している。このように、同社の傑出したメセナ活動への総合的な取り組み、とくに未来に向けての芸術文化創造支援、地域文化発信をめざす取り組みが高く評価され、受賞となった。

メセナ活動は企業の大切な構成要素

1989年、創業100周年記念に隅田川のほとりに建設された本部ビルと隣接の屋上に金色の巨大な炎のオブジェをいただくフラムドールが、自社の営業基地としてだけではなく、東京の新しい川の手文化の発信基地となればとの考えから、また、「メセナ活動は企業を構成する一要素だ」という社の方針にもとづいて、地域に密着した個性的な文化活動を展開している。

本部ビルのロビーでは気鋭の音楽家を中心とした斬新なロビーコンサート

を、会議室では時代の精神を切り拓く文化講座を定期的で開催し、社員参加により行っている。同様のものを各地の支社や工場でも開催している。これらの活動は社有施設を使つてつねに新しい文化価値情報を発信したい、地域文化の発展に寄与したいという願いのもとにすすめており、社員の声を反映しつつ、企業文化部が全社の旗振り役を務めている。芸術文化の専門家のアドバイスは得つつも、あくまで社員が主体的に企画運営を行うというかたちで展開されている。メセナ活動を推進することにより、自らの企業文化度の向上もめざしているのである。

ほかには、音楽、美術、ダンス等のさまざまなジャンルの挑戦的な新進アーティストの発掘支援や、ミラノスカラ座やオルセー美術館の支援などとともに、フラムドール内のアートのスペース・スクエアAの運営、また、財団活動として海外からの芸術留学生へのスカラシップや音楽会、美術展への助成などを継続的に行っている。

このように、例年経常利益の2～3%のメセナ予算を継続して確保し、年間主催行事を約50件、協賛約70件、財団助成約30件を継続実施している。

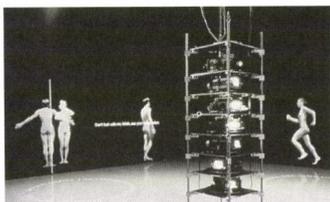


審査委員
特別賞

業種	カメラ・精密機器・ OA機器
本社所在地	東京都
創立年	1937年
資本金	1427億円
従業員数	20261名

キヤノン株式会社

Canon Inc.



「アートラボ」の企画・運営

「アートラボ」とは、デジタル技術を用いたままではないアート作品を創造するため、同社のコンピュータ・エンジニアとアーティストとの共同作業（コラボレーション）により、構想から展覧会のプレゼンテーションまでを行う世界に類を見ないスタイルのプロジェクトである。

この自社の技術と人材を生かした、新しいアートを制作するメセナ活動は、アート界に新風を吹き込み、これからのアート界のアーティストへの育成にもつながったといえる。企画の先鋭性やアイデアの斬新性が高く評価され、今後の活動への期待も大きいことから、今回の審査委員特別賞の受賞となった。

新たなアートを創造するマルチメディア実験工房

「映像・情報分野で培ったキヤノン独自のデジタル技術をアートに展開させたい」。芸術と科学の融合による可能性を、より深く洞察し、実践するために構想されたアートラボ。1991年4月より同社の文化支援活動の柱として始まったプロジェクトは、社会・文化支援センター文化支援推進課が事務局となり、今日まで活動全体の企画・運営を行っている。

アートラボ企画展として、毎年コラボレーションによる展覧会を行い、開催後には日英併記のカatalogを発行している。アートラボの作品は内外の評価も高く、ニューヨーク近代美術館やデンマーク・ルイジアナ美術館など、

海外の著名な美術館から招待され出品している。

また、1995年からアートラボ・プロスペクト展がスタートした。これはアートラボのオリジナル制作にとらわれず、多様化するマルチメディアの可能性を拓いていく斬新なアート作品、才能を幅広く一般に紹介していくプログラムである。

上記の展覧会以外にも、機器のサポートやレクチャーを随時開催するなど、積極的な活動を続けている。

今後はインターネット上にアート・プロジェクトやアーカイブを展開し、通常の展覧会とともに活動の幅をひろげていくという。デジタルネットワークが急速な発展を遂げるなか、企業の技術と芸術との融合によって新たなアート領域の創造をめざすマルチメディア実験工房のこれからの活動が楽しみである。



育成賞

業種	新聞
本社所在地	東京都
創立年	1872年
資本金	42億円
従業員数	3975名

株式会社毎日新聞社

The Mainichi Newspapers

第64回 日本音楽コンクール表彰式



「第64回日本音楽コンクール」(主催 毎日新聞社・日本放送協会)の開催と長年にわたる同コンクールの運営

楽壇への登竜門として日本最高の権威と水準で知られる「日本音楽コンクール」は1932年に始まり、以来毎年1回開催され1996年で65年になる。この間、数多くの有為な新人音楽家を発見し、日本のみならず世界の楽壇へ送り出してきた。毎日新聞社は創設以来、戦時中も休むことなくコンクールを開催し続け、1949年の第18回からは日本放送協会との共同主催のかたちをとりながら、音楽文化の発展、普及、向上に多大な役割を果たしてきた。同社のコンクールを通しての、長期間にわたる音楽界への、とくに若手音楽家育成への貢献が高く評価され、受賞となった。

コンクールでの成功が、国際的な活動と評価につながる

現在国内外で活躍する邦人演奏家の大部分が日本音楽コンクールの出身者といっても過言でないほど、日本で最も長い歴史と実績を誇り、また応募部門の多さと高い水準、そして公正な審査などで世界楽壇の注目を浴びている。1932年に旧時事新報社の主催で「卓越せる実力を有する音楽家の推薦」「楽壇レベルの向上」を目的として開始され、第6回からは毎日新聞社(時事新報社が同社に合併されたため)が主催となった。第18回から日本放送協会との共催となり、規模が拡張し機構が充実され、日本音楽コンクール委員会というかたちで運営されている。入賞者は新聞、放送ならびに発表演奏会によって広く世に紹介され、さらに世界楽壇への登場へと前途が開かれている。

企画賞

業種	スーパーマーケット チェーン
本社所在地	福島県郡山市
創立年	1948年
資本金	99億円
従業員数	1700名

株式会社ヨークベニマル

York-Benimaru Co., Ltd.

295



絶版になった地域歴史書の復刻・発刊事業

スーパーマーケットの地域貢献といえば一般的に地域への寄付等が多いなか、株式会社ヨークベニマルは、新たな地域に出店するたび、その地域に関連した貴重な歴史的文献の復刻という発想豊かな事業を行ってきた。

発行した刊行物は、関係する県、市町村、学校、図書館等に寄贈するほか、一般希望者にも無料で提供している。

地方文化発展の確実な基礎となる文化的役割、質の高い独創性ある企画という点が高く評価され、今回のメセナ企画賞の受賞となった。

地域史研究に対する文化貢献活動

新店舗出店地域の人々の郷土理解に対する一助となることを願い、文化貢献活動として何が適しているかを模索するなか、「もっと形に残るものを」と社員が提案したのがきっかけでこの事業が始まった。

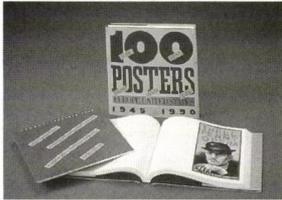
1992年11月以来、本社のある福島県をはじめ、宮城県、栃木県、山形県各地ですでに絶版になった質の高い歴史的文献を掘り起こしては、それを現代仮名づかいに直して復刻させてきた。現代の研究者が書き下ろした論文集も一部ある。1996年3月末には13冊に上り、それぞれ発行部数は2000部前後で、いずれも郷土史家をはじめ研究者などからの評価は高い。一般の方からも希望は多く、同社は今後もこの事業を継続していく方針である。

国際賞

業種	印刷業
本社所在地	東京都
創立年	1900年
資本金	1049億円
従業員数	13766名

凸版印刷株式会社

Toppan Printing Co., Ltd.



「欧米のポスター100」復刻事業

戦後日本のポスターは欧米のポスターに大きな影響を受けて開花したとの認識に立ち、その感謝の思いを込めて、創立95周年を機に、1945年から1990年に制作されたアメリカとヨーロッパの代表的なポスター100点を選定し復刻した。復刻された世界各国のポスターは、日本で紹介したあと、歴史的・文化的資料として保存、国内・海外200の美術館、教育機関等に寄贈し、広く世界に鑑賞の機会を確立しており、国際的な文化交流の一助となっていることが高く評価され、今回の受賞となった。

ポスター文化への貢献

日本の戦後ポスターは欧米からの影響を受けて開花した。それはグラフィックデザインにとどまらず、芸術性や思想性、社会性を含めた「ポスター文化」全般にわたるものであった。多くのポスターの印刷を手がけてきた同社は、1991年に「日本のポスター100」収集と復刻事業を実施し、さらに今回欧米グラフィックデザイン界に対する感謝の念を含んだ事業として、本事業に取り組んだ。ポスターの選定は、アメリカのミルトン・グレイザー氏、ニューヨークタイムズのスティーブン・ヘラー氏、そしてフランスのアラン・ヴェイユ氏が、全体の監修は亀倉雄策氏が行った。世界の代表的なポスターを復刻し、世界各国の美術館等へ寄贈し広く鑑賞の機会を設けたことは、日本の国際文化交流にとってたいへん意義深いことである。

奨励賞

業種	書籍販売・ 画廊経営
本社所在地	神戸市
創立年	1914年
資本金	800万円
従業員数	35名

株式会社海文堂書店

Kaibundo Books & Gallery Co., Ltd.

297



「アート・エイド・神戸（阪神大震災文化復興）」の実施

阪神大震災の被災地にあった従業員35名の書店が緊急事態のなかで始めた「芸術文化で震災復興をめざす活動」は、規模こそは大きくないが、時宜を得た企画であり、神戸の芸術文化復興に果たした役割は大きく、すべての審査委員から高い評価を受けた。

自社が被害を受けたにもかかわらず、「被災者に生きる勇気や希望を与える芸術活動を早く立ち上げる」ために、先頭になっての積極的な活動は賞賛に値し、今回のメセナ奨励賞の受賞となった。

阪神大震災で被害を受けた芸術家の救済と神戸の文化を再生

神戸の文化を自らの手で守るという決意と芸術家自身も神戸の復興のために力を結集するという二重の意味で命名された「アート・エイド・神戸」。これは阪神大震災で大きな被害を受けた芸術関係者に緊急支援を行うとともに、閉塞状況から再開した芸術活動に対して助成支援をする活動である。

震災直後、震災前から文学・美術・音楽の普及・育成にかかわってきた同社が緊急出動として始め、1995年2月アート・エイド・神戸実行委員会発足。同社が事務局となり、社長の島田氏が事務局長を務め、スタッフや事務機等を提供するなど、中心となって活動してきた。芸術家個人や活動への支援、美術展・コンサート・詩朗読会を主催するなど、被災者に芸術の力による励ましと勇気と心の癒しを与え続けている。

地域賞

所在地	長野市
創立年	1985年
資産総額	2億円
親会社	株八十二銀行

財団法人八十二文化財団

Hachijuni Culture Foundation



心の豊かさを求めて—八十二文化財団10年のあゆみ—

「伝統文化の継承」「自然環境の保護」「人材の育成」を三本柱に、地元長野県の「地域の文化情報センター」をめざしてきた10年間の同文化財団の活動は、地道ではあるが、地域社会・文化に密着した堅実な内容で、まさに「地域とともにあゆんできた10年」だといえる。とりわけ、発行・出版物は充実しており、読みやすい機関誌やわかりやすい調査報告書は多くの人々に親しまれてきた。

芸術・文化の普及活動を通じて地域の振興に寄与してきた功績が高く評価され、メセナ地域賞の受賞となった。

八十二銀行が設立した地域の文化情報センター

1985年の設立から、長野県内の芸術・文化に関する調査ならびに資料、情報の収集を行い、その成果を広く県民に公開してきた。1993年にはマルチメディアに対する「新文化情報システム」を構築。同財団のコミュニケーションスペース「スペース82」「ライブラリー82」に設置された一般開放用のパソコンは誰もが気軽に利用している。

芸術・文化の普及啓蒙活動を通じて地域の振興と豊かであるおいのある生活づくりに寄与することを基本理念に、郷土にまつわる調査研究、雑誌や報告書等の発行や資料集の出版、ロビーコンサートや教養講座等の催し物の開催、「ギャラリー82」をはじめとするコミュニケーションスペースの提供と、「地域」を大切にされた広範囲な活動を手がけている。

普及賞

業種	印刷業
本社所在地	東京都
創立年	1876年
資本金	1052億円
従業員数	14514名

大日本印刷株式会社

Dai Nippon Printing Co., Ltd.

299



「ギンザ・グラフィック・ギャラリー」10周年企画の実施

ギンザ・グラフィック・ギャラリーは開設10周年の記念企画として、戦後50年の節目を踏まえて「日本のグラフィックデザインの流れ」をテーマにレクチャーを含めた特別企画展の開催と記念出版物の刊行を行った。この企画は同ギャラリーがこの10年に開催した118回の企画展などの集大成として日本のブックデザインやモダンタイポグラフィなどの歴史的な評価・研究の未開拓分野をとりあげ、「日本のグラフィックデザイン戦後史」の総括を行った点で、企業の枠を超えて芸術文化の普及に尽くした実績が高く評価され、今回の受賞となった。

グラフィックデザインの情報センターをめざして

同ギャラリーは大日本印刷が印刷企業としてかわりの深いグラフィックデザインの社会的機能や役割を優れた作品を通して広く紹介し、その向上に寄与することを目的に1986年3月にグラフィックデザイン専門ギャラリーのパイオニアとして設立した。企画展は月1回、年間12回開催しているが、すべての企画は印刷とかかわりのある手づくりの自主企画で、着実と継続を基本として同社の費用で運営している。出展作家によるレクチャーも参加者が多く、質疑応答も活発に行われている。これまでの来場者は34万人を超え、10周年の企画展だけでも2万1000人が来場している。また活動の成果として、「ggg ブックス」の刊行やインターネットでの情報提供などを行っている。

2

応募企業および企業財団とその活動

31都道府県より142団体の応募

[五十音順]

300

株アートネイチャー（東京都）	「加藤楸邨記念館」の運営
財愛銀教育文化財団（愛知県）	教育・文化活動に対する助成ならびに援助活動
旭硝子株（東京都）	公募展「東京ガラスアート展'95」の実施
朝日生命保険㈱（東京都）	「全国児童生徒徒絵画・かきぞめコンクール」の実施、 「新都心プロムナードギャラリー」の運営など
アサヒビール株（東京都）	ロビーコンサートを中心とする社会に開かれた未来文化創造型メセナ活動、「アサヒビール大山崎山荘美術館」開館
朝日放送株（大阪府）	「ザ・シンフォニーホール」の運営と事業活動
財アフィニス文化財団（東京都）	「第7回アフィニス夏の音楽祭」（セミナー）の開催
財尼信地域振興財団（兵庫県）	オペラ公演に対する支援および地域文化支援
出光興産株（東京都）	「第6回出光音楽賞」の実施
財稲盛財団（京都府）	「京都賞（精神科学・表現芸術部門）」の顕彰
株伊予銀行（愛媛県）	伊予銀行地域文化活動助成制度の実施
株インターナカツ（高知県）	映画「優勝—Renaissance—」の製作
株宇佐美組（岐阜県）	「地球交響楽ガイアシンフォニー第二番」上映会の開催
永和信用金庫（大阪府）	文化（歴史）展示および出版活動
株エフエム東京（東京都）	「TOKYO FM 少年合唱団」の12年間の育成・運営活動
大川創業株（大阪府）	関西フィルハーモニー管弦楽団に対する資金・物的・場所的援助
財大阪日本民芸館（日本生命保険㈱ほか関西系企業全16社）（大阪府）	開館25周年「収蔵品展」および特別展「棟方志功展」の開催
大田まちづくり芸術支援協会（東京都）	「PIO（大田区産業会館）コンサート」の開催、洗足池太鼓橋竣工記念演奏の集い「春宵の響」の開催
オペラサロン・トナカイ（東京都）	若手アーティスト育成とオペラ文化の普及活動
オリエンタルパイオ株（東京都）	「オリエンタルフィルハーモニー」に対する全面的助成
財音楽教育振興財団/株トーオン（東京都）	音楽教育振興賞の顕彰と音楽教育活動への助成
株海文堂書店（兵庫県）	「アート・エイド・神戸（阪神大震災文化復興）」の実施、公益信託亀井純子文化基金の運営
鹿島建設株（東京都）	「第4回KAJIMA 彫刻コンクール」の実施
株煥乎堂（群馬県）	「煥乎堂シネマ165の会」の開催
株北川鉄工所（広島県）	府中市文化センターにおける「キタガワアザレアコンサート」の開催
株紀伊國屋書店（東京都）	石川洋講演「歩いたあとに一輪の花を咲かせたい」ビデオ製作および頒布
岐阜信用金庫（岐阜県）	演奏会「ウイーン東京アンサンブル」と「夢のハーモニー'95」の開催
キヤノン株（東京都）	「アートラボ」の企画・運営、「UNEP 世界環境フォトコンテスト」の実施、「写真新世紀」の活動
協和発酵工業株（東京都）	第8回朝日ヤングセッション安藤忠雄講演会「自由に生きる」開催および講演録出版（贈呈）

キリンビール株 (東京都)	「キリンコンテンポラリーアワード'95」の実施、「キリンプラザ大阪」の運営など
近畿日本ツーリスト株 (東京都)	「旅の文化研究所」による公募研究助成、出版事業、研修、教育事業
株久保工務店 (東京都)	タウン誌「KANDA ルネッサンス」の出版、神田に彫刻を置く運動、「神田学会」の開催
株京葉銀行 (千葉県)	「若い芽のαコンサート」への協賛
健康食品株 (大阪府)	ケンシヨク「食」資料室の運営
五稜郭タワー株 (北海道)	「市民創作函館野外劇」の全社をあげての支援など
財佐賀銀行文化財団 (佐賀県)	新人賞 (美術・音楽) の贈呈および受賞者の「5人展」の開催
相模鉄道株 (神奈川県)	「相鉄ギャラリー」の運営と「相鉄奨励展」の開催
株さくら銀行 (東京都)	「貨幣資料室」「さくら銀行京都文化財展示室」の運営、「プロムナードコンサート」の開催
札幌信用金庫 (北海道)	「さっしんほのほのエッセイ賞」の実施
サントリー株 (大阪府)	「第12回サントリー」1万人の第九コンサート」の協賛
三洋関東設備機器株/株オギハラ (群馬県)	群馬県マンドリン協会および群馬県マンドリンフェスティバルへの支援
三洋電機株 (大阪府)	「大阪シンフォニカー」の演奏活動支援
JTB (東京都)	「杜の賑い」の開催、「JTB 紀行文学大賞」などの実施
株四国新聞社/西日本放送株 (香川県)	「丸亀平井美術館」の運営
株資生堂 (東京都)	「資生堂ギャラリー」75年の運営と「資生堂ギャラリー一七十五年史」の発行
下関信用金庫 (山口県)	「美と安らぎのある街づくり」第1期事業 (彫刻作品群4点と文学碑3点の設置)
「JAZZ メセナ野辺地」 (青森県)	「HOT ジャズ IN 野辺地」の開催
株しゅんこう (兵庫県)	「和紙ちぎり絵」の芸術文化活動に対する資金、人的、物的援助
真生印刷株 (大阪府)	「第6回花と緑で世界を結ぶ児童・生徒絵画コンクール」の実施
財新日鐵文化財団 (東京都)	「紀尾井ホール」の運営および音楽支援活動
巢鴨信用金庫 (東京都)	「第5回わんぱく絵画コンクール」の実施
株住友銀行 (大阪府)	「第5回住友銀行スプリングコンサートークラシックっておすかしくないんだ!! 三枝成彰の「音楽の時間」」の実施
住友生命保険㈱ (大阪府)	「住友生命全日本子ども絵画コンクール」と「全国縦断チャリティコンサート (通算500回)」の実施
株西友 (東京都)	「サンダンス・フィルム・フェスティバル・イン・トーキョー'95」の開催
株西友/株ファミリーマート (東京都)	「中国新輝芸術団」の公演への協賛、台湾オペラ「明華園歌劇場」「千年狐の純愛物語」の公演への協賛
積水化学工業株 (大阪府)	ミュージカル劇団 (ミクル劇団) の育成・支援活動
株セシール (香川県)	遠藤周作原作「深い河」の映画化のプロデュース

財セゾン文化財団（東京都）	芸術財団に対する複数年の運営助成
株増進会出版社（静岡県）	「ふるさとで語る折々のうた」の開催、写真集「朝比奈隆」の出版とコンサートの協賛など
財ソニー音楽芸術振興会（東京都）	「全日本大学オーケストラ大会・第10回記念神戸大会」の開催、「0才まえのコンサート」（第53回～第59回）の開催
第一生命保険 ^株 （東京都）	ザルツブルク・モーツァルト住家復元事業への支援、「VOCA 展'96」の実施、「第一生命ギャラリー」の運営など
ダイキン工業株/ダイキン工業現代美術支援財団（大阪府）	美術館支援活動
株大光銀行（新潟県）	長岡交響楽団の活動への支援
株太鼓センター（京都府）	青少年をはじめとする国民への和太鼓普及活動および阪神大震災被災者支援活動
大日本印刷株（東京都）	「ギンザ・グラフィック・ギャラリー」10周年企画の実施
在日タイムラー・ベンツグループ（東京都）	タイムラー・ベンツグループ アート・スコープ'95/ガスコーニュ・ジャパニーズ・アート・スカラシップの実施
街タイヨー・ムジーク・ジャパン（神奈川県）	トツカ・ピアノ・メソッドの普及推進活動
田窪恭治一サン・ヴィゴール・ド・ミュール礼拝堂プロジェクト支援委員会（東京都）	「田窪恭治一サン・ヴィゴール・ド・ミュール礼拝堂プロジェクト」の実施
田崎真珠株（兵庫県）	「第2回神戸クラシック・エイド」の実施
財たましん地域文化財団（東京都）	郷土誌「多摩のあゆみ」の刊行、「たましんギャラリー」「たましん歴史・美術館」の運営などの地域文化事業
淡海自動車工業株（滋賀県）	「プラームスホール」の10年間の運営と活動、「プラームスホール賞」の創設
株千葉銀行（千葉県）	「ちばざんアートギャラリー」におけるギャラリー活動
月星化成株（福岡県）	「第9回つきほし創作館」（童話・写真・絵画）の公募・展示の実施
株坪井利三郎商店（愛知県）	「鬼かわらコンクール」の実施
津和野信用金庫（島根県）	「第4回つわのしんさん音楽サロン—弦楽四重奏の夕べ」の開催
TOA 株（兵庫県）	「ジーベックホール」を中心とした音文化啓蒙活動
T-BRAIN CLUB（株東芝マーケティングコンサルタント）（東京都）	「第3回インターカレッジテクノアートワークス」の開催
田苑栗源酒造株（鹿児島県）	「田苑酒蔵サロンコンサート」の開催
株電通（東京都）	「電通ギャラリー」の年間活動
東急広報委員会（東京都）	「Tokyu "Thanks from the Heart" Concert'95」の実施
東京オペニオンズ（14社で構成）（東京都）	「東京オペニオンズフェスティバル」の開催
東京ガス都市開発株（東京都）	「パークタワー・アートプログラム」の実施
東京電力株（東京都）	科学情報誌「ILLUME（イリューム）」の発行

株東芝（東京都）	従業員有志による「東芝フィルハーモニー管弦楽団」の米国公演
TOTO（東陶機器株）（福岡県）	「ギャラリー・間」の活動、「奈良／TOTO 世界建築トリエンナーレ（公募部門）1995」の開催など
財東洋信託文化財団（東京都）	地域における音楽・演劇・伝統芸能・美術展の文化活動の助成
同和火災海上保険株（大阪府）	「ザ・フェニックスホール」の建設と運営
鳥取瓦斯株（鳥取県）	「鳥取ランバル会」（「モスクワ放送交響楽団」演奏会の開催）への支援
凸版印刷株（東京都）	「欧米のポスター100」復刻事業、「プリント2」グランプリ展」の協賛、「読書感想画中央コンクール」の協賛など
トヨタ自動車株（愛知県）	「トヨタ・コミュニティ・コンサート」の開催、「トヨタアフター5 コンチェルトービジネスマン・OLの演奏会」の開催など
トヨタ西東京カローラ株（東京都）	社内コミュニティホール「グランプラス」における定期コンサートの開催
函日鋼記念病院（株日本製鋼所）（北海道）	芸能文化イベントの公演および絵画展等の開催
財日航財団（東京都）	「アジア・アートフォーラム95」の開催
日産自動車株（東京都）	「第12回ニッサン童話と絵本のグランプリ」の運営、「ニッサンゆかいな絵本と童話展」の開催
日清食品株（東京都）	「現代陶芸めん鉢大賞」の公募および展覧会の主催
日本アイ・ビー・エム株（東京都）	「日本 IBM バレエ特別奨学金」制度の設置、「IBM びわこ現代絵画展'96（第15回）」の実施など
日本オリベッティ株（東京都）	25年にわたる総合文化誌「SPAZIO」の出版
日本航空株（東京都）	「JAL ステージススペシャル東寺音舞台」の実施
日本室内楽アカデミー楽友会（中部主要企業—日本ガイシ株ほか137社）（愛知県）	10年にわたる音楽演奏活動の支援
日本たばこ産業株（東京都）	生命誌研究館におけるサイエンスオペラやコンサートの開催
財日本テレビ放送網文化事業団／財美育文化協会（東京都）	「第26回世界児童画展」の企画・運営
日本電気株（東京都）	世界的に著名なオーケストラを継続的に支援
日本電信電話株（東京都）	「第11回 NTT 全国タウン誌フェスティバル」の実施
根室信用金庫／財根室しんきんふるさと振興基金（北海道）	「ふるさとのうた」歌詞募集・CD 製作と同振興基金による地域文化支援活動
ハウステンボス株（長崎県）	文化施設（13の美術館・博物館）の運営
馬車道商店街協同組合（神奈川県）	「馬車道を描く日曜画家展」の開催
財八十二文化財団（長野県）	心の豊かさを求めて—八十二文化財団10年のあゆみ—
八光信用金庫（大阪府）	公立ホール事業支援ならびに地域文化創造参加活動
阪急電鉄株（大阪府）	宝塚ファミリーランド・デンマークチポリガーデン提携記念「第14回童話コンクール」の実施
財東日本鉄道文化財団（東京都）	佐渡新能への支援

日立プラント建設株（東京都）	地域に密着した芸術文化活動支援（手づくりコンサートの開催、大塚阿波踊り大会支援）
姫路経営者協会（兵庫県）	親子のふれあいのための事業と中学生のプラスバンド育成のための事業
財ひろしん文化財団（広島県）	「ひろしま平和能楽祭」と「青少年のための能楽鑑賞教室」の開催
株福岡シティ銀行（福岡県）	「博多に強くなろう」「北九州に強くなろう」シリーズの発行・配布
財福岡文化財団（福岡県）	「プロムナード・コンサート」の開催
富士火災海上保険株（大阪府）	「富士火災アーツスペース」の運営
株フジカワ画廊（大阪府）	公的展覧会への作品貸し出しおよび出品協力
株富士銀行（東京都）	「'96成人の日コンサート」への特別協賛
プロクター・アンド・ギャンブル・ファー・イースト・インク（兵庫県）	「タウンギャラリー」と「P&G ギャラリー」の新設
株ベネッセコーポレーション（岡山県）	「ベネッセハウス直島コンテンポラリーアートミュージアム」の運営
北海道放送株（北海道）	「HBC ジュニアオーケストラ」と「HBC 少年少女合唱団」の30年を超える育成活動
株毎日新聞社（東京都）	「第64回日本音楽コンクール」（主催毎日新聞社・日本放送協会）の開催と長年にわたる同コンクールの運営
株丸井今井（北海道）	「第3回さっぽろ国際現代版画ビエンナーレ展」の実施
三浦藤沢信用金庫（神奈川県）	「第9回市民コーラスと歌手のつどい」の開催
株三越（東京都）	バリ「三越エトワール」の文化交流活動
三菱地所株（東京都）	「横浜 JAZZ PROMENADE'95」への支援
財三菱信託芸術文化財団（東京都）	音楽芸術活動への継続的助成（公演への助成、三菱信託音楽賞の実施）
ミュージックランチ（やまなみ土曜コンサート）支援 63企業【取りまとめ株伊東製作所】（富山県）	富山県立新川文化ホールロビーでの「やまなみ土曜コンサート」の開催
未来工業株（岐阜県）	「鬼太鼓座」公演の実施
メルシャン株（東京都）	「メルシャン軽井沢美術館」の運営
モービル石油株（東京都）	「第30回モービル児童文化賞」の実施および30年記念ビデオの作成
財ヤギメセナファンデーション（石川県）	ヤギスクールシアターミュージカル「Let's ウエディング」の開催
安田火災海上保険株（東京都）	財安田火災美術財団の活動（美術館の運営、顕彰事業など）、「安田火災人形劇場ひまわりホール」の運営
財山形しあわせ銀行教育振興基金（山形県）	「第13回くらしの文集」の刊行
財山種美術財団（東京都）	山種美術館30年にわたる美術館の運営および1995年度における特別展を中心とする展覧会活動
ヤマト運輸株（東京都）	「音楽宅急便 “おしゃべり好きなコンサート”」の開催
株ヨークベニマル（福島県）	絶版になった地域歴史書の復刻・発刊事業

吉忠株（京都府）	京都市交響楽団員87名に演奏会用コスチューム贈呈、「京響ポップス・シネマティック・ロマン」コンサートの開催
株ライカ（大阪府）	「第5回・第6回 ART-EX（アーテックス）」の運営などの協力
株リクルート（東京都）	「クリエイションギャラリー G8」の10年間の運営と活動、「ガーディアン・ガーデン」の5年間の運営と活動
株リコー／日本電信電話株（東京都）	リコー将棋部の WWW による将棋の普及活動
理想科学工業株／財理想教育財団（東京都）	新孔版画コンクールの実施、「手づくりの絵はがき」コンクール実施

第

6

章



メセナ・データ



- ここには、1996年4月から1997年3月にかけて新聞、雑誌、書籍などで扱われたメセナ関連記事等を収録した。ただし、厳密な意味でのメセナだけではなく、フィランソロピー、企業文化などメセナとも関連が深いと判断されたもの、政府・自治体の芸術文化政策、芸術文化施設に関するものなども収録している。
- 収録は各月別に分けてあり、さらにそのなかで、「論文・評論」、「解説」、「対談・座談会」、「インタビュー」、「コラム」、「報道」、「特集」、「単行本」、の順に収録、「連載」、「専門誌」は月別とせず、最後に収録した。
- 雑誌の場合は混乱を避けるため、実際には前月に発行されても、1月号は1月の項に記載した。また、年報は12月に収録した。
- 各項目内の配列は、発行日付順とした。なお、月刊誌は配列の最後にした。
- 単行本の項には、会議記録、講演要旨、小冊子資料なども含まれている。

1996年4月

309

論文・評論	市民本位のNPO法制定を急げ(日本経済新聞「社説」96.4.9) 芸術振興:演者と同時に観客の育成を(熊本日日新聞「社説」96.4.15)
解説	若手監督、ひときわ精彩:製作費支援の輪広がる(日本経済新聞96.4.5) 美術館の“社会開放”促す:インターネットでアート(日本経済新聞「文化」96.4.13) NPO、東阪での論文出版(日本経済新聞「ウェブ」96.4.14) 震災のガレキ アートに再生(日本経済新聞「話題探検」96.4.14) 「メセナ」市民主体で(北海道新聞96.4.19) パブリックアート熱の陰でさまざまな問題点が浮上(毎日新聞96.4.19) 内戦後のルワンダ:邦人が“音楽NGO”(読売新聞96.4.20) 変容する文化の社(読売新聞「うえの再生紀」96.4.23) 芸術家支援の組織相次ぐ:インターネット(日本経済新聞96.4.23) 佐賀県メセナも他県と連絡へ:全国レベルの連絡会が発足(西日本新聞「東京インフォメーション」96.4.26)
インタビュー	音楽で社会人の輪、社内の協力不可欠:トヨタ自動車広報部社会文化室 菅野隆志氏(日経産業新聞「この人と5分間」96.4.5)
コラム	オークションでの処分反論出す、評価は上々:米美術館、所蔵品増えず(読売新聞「海外の文化」96.4.3) 「佐治敬三の美感遊創」(毎日新聞96.4.4) 自作の油絵:テーマは山、1年1作—サントリー会長佐治敬三氏(日本経済新聞「ヒトしな」96.4.5) 子ども組のルネサンス(日本経済新聞「百科専科」96.4.7) 黒人バレエ団の存在を無視(産業経済新聞「海外アート通信」96.4.9) 構造の美しさに魅せられて:NEC社長金子尚志氏(日本経済新聞「あの人消息この人」96.4.9) 絵画・写真・句集の個展を開いているサントリー会長佐治敬三氏(産業経済新聞「人」96.4.10) 大山崎山荘美術館を開設:アサヒビール(産業経済新聞96.4.14) フィランソロピーの情報整理(日本経済新聞「百科専科」96.4.14) 韓国・芸術通事業、「支援不足」と不満(朝日新聞「海外文化」96.4.16) バイエルン国立歌劇場が補助金を使わず(毎日新聞「海外ロータリー」96.4.18) 侮れないぞ!坪シヨップ:芸術家に会う(毎日新聞「人気を見に行く」96.4.18) サード・セクター事典の時代(日本経済新聞「百科専科」96.4.21) オペラハウスの改修進む:ハノイ(日本経済新聞「トピックス」96.4.23) キリンアートスペース原宿:滝のエネルギー壁面に(読売新聞「みゅうじあむ訪問」96.4.24) 世界の建築美術館めぐり(日本経済新聞「百科専科」96.4.28)
報道	「ボレロ」の「ラベルの家」老朽化:崩壊の危機、修復資金集まらず(産業経済新聞96.4.2) メセナで山村活性化:住建美術館あす着工(中国新聞96.4.2) デジタルデザイン:インターネットで個展(日本経済新聞96.4.3) 東京文化都市ビジョン:施設整備や人材育成(日本経済新聞96.4.3) 工業と芸術の都市PR:川崎市の映画学校(日本経済新聞96.4.4) 福岡に専用の常設劇場が完成:劇団四季(日本経済新聞96.4.4) ピオラ演奏家集めコンクール開催へ:兵庫県津名町(日本経済新聞96.4.9) 軽やかに「エキコン」復活:JF東京駅(読売新聞96.4.10) 「出光音楽賞」決まる(音楽舞踊新聞96.4.11) 建設に動き出した「ナショナル・ギャラリー」(新美術新聞96.4.11) 市政基本計画を策定、音楽コンクール、緑道活用:小平市(日本経済新聞96.4.12) 若手演奏家を支援:フォーバル(流通サービス新聞96.4.16) GISに美術館併設:小阪商店、多角化・集客狙う(日本経済新聞96.4.17) 聴衆にアピールできるピアニスト育てよう:浜松で国際アカデミー(朝日新聞96.4.18) 三菱電機:映画製作の人材支援基金を設立(毎日新聞96.4.18)

	<p>財テク失敗し巨額損失:日本近代文学館(毎日新聞96.4.19) 日産が社会活動紹介のバンフ(産業経済新聞96.4.20) 四季が福岡新劇場:「アジア」視野に入れ拠点(朝日新聞96.4.20) AIJ事業、埼玉で活発に(日本経済新聞96.4.20) 現代ダンス、けいご場を提供(日本経済新聞96.4.25) 美術館を創設:キタック(新潟日報96.4.27) 地方のアーティスト発掘:ソニー・ミュージック(日本経済新聞96.4.29) 95年首都圏の文化イベント:びあ(日本工業新聞96.4.30) 金曜は夜間開館ライトアップも:埼玉県立近代美術館(毎日新聞96.4.30) 第27回(1995年度)サントリー音楽賞決定(音楽芸術96.4)</p>
単行本	文化イベントデータファイル年間1995(株びあ総研96.4.1)
1996年5月	
論文・評論	<p>市民活動を真に支える法を(朝日新聞96.5.1) 文化財登録制度の導入:戦後建築の保存活用に道(朝日新聞96.5.1) 公立劇場発展のために:私は「人事異動」賛成派(読売新聞96.5.8) NPO法案は国会で:気になる自民の後ろ向き姿勢(日本経済新聞「風見鶏」96.5.20) NPO法案で露呈した政治の無責任(日本経済新聞「社説」96.5.27) NPO法制定の動向と市民活動団体(社会教育96.5)</p>
解説	<p>着実な歩み際立つ個性:東京の“老舗”私立美術館(日本経済新聞「文化」96.5.4) 元気な地方発文化情報誌:劇場PR誌、本格雑誌に(日本経済新聞96.5.7) 文化界巻き込むNPO法案①:芸術団体「なりたい」(日本経済新聞「文化」96.5.10) 文化界巻き込むNPO法案②:「非営利」「公益性」に戸惑い(日本経済新聞「文化」96.5.11) 特殊法人も公開の対象に:美術界の爆弾(朝日新聞「情報を市民に」第3部欧州編(1)96.5.14) 美術館運営、支えは会員:友の会(朝日新聞「ルポ英国の自治3」96.5.15) 特定15団体へ助成金10億:文化庁の「アーツプラン21」(読売新聞96.5.17) 遊び心で海辺再生:天保山ハーバービレッジ(日本経済新聞「NIKKEI X」96.5.18) 〈学校〉が(美術館)になる:住民巻き込み多彩なイベント(毎日新聞「アートの景色'96美術」96.5.20) 新しい社会へのカギ握る:NPO法案に熱い視線(電通報96.5.27) 街作り、都市問題絡め「総合的な設計」重要に:アートのありか巡る問題(読売新聞「とれんど in美術」96.5.29) NPOと連携で社会貢献活動(イグザミナ96.5) ザ・フェニックスホール(音楽の友「ホール探訪」96.5) 駅が美術館になる!? 恒例となったM in Mプロジェクト(美術手帖「tiptoe BT」96.5)</p>
対談・座談会	<p>改めて問う、企業の社会貢献(月刊keidanren96.5) 静かなる改革—市民社会への道すじ「企業の社会貢献」担当者、大いに語る(月刊keidanren96.5)</p>
コラム	<p>企業の文化スポットを一覧(日本経済新聞「百科専科」96.5.5) 大山崎山荘美術館の館長に就任した樋口廣太郎氏(産業経済新聞96.5.9) 企業の社会貢献(東京新聞「放射線」96.5.11) 企業カレンダーから写真集(日本経済新聞「百科専科」96.5.11) 工業団地で無料コンサート—柴田浩一氏(日本経済新聞「ひと悠々」96.5.12) メセナの新潮流を一覧に(日本経済新聞「百科専科」96.5.19) 呉越同舟で運営に参加:福岡市立劇場(読売新聞「フロッキー」96.5.27)</p>
報道	<p>「東京駅コン」二百回(朝日新聞96.5.1) 舞台支える裏方の優れた技術者表彰:ニッセイ文化振興財団(日本経済新聞96.5.8) 美術・音楽56件に4310万円助成:花王芸術文化財団(産業経済新聞96.5.11) 映画人育成基金作り、NYに学生派遣へ:三菱電機グループ(産業経済新聞96.5.14) アーツプラン21、助成団体を決定:文化庁(日本経済新聞96.5.17) 巨大木造船を劇場に:横浜で来夏開設めざす(日本経済新聞96.5.18)</p>

	「幻の音色」が復活:ビール会社アマ、プロ問わず公募(朝日新聞96.5.23) 音楽・演劇・スポーツイベント、過去最高の件数記録:びあ(流通サービス新聞96.5.28) ロシア向け船積み、学校にピアノ155台寄贈:みちのく銀行(日刊工業新聞96.5.31) 五島記念文化財団の「五島記念文化賞」と「オペラ公演助成金」(音楽芸術96.5) 東芝グループによるオーケストラの米国公演(音楽芸術96.5)
特集	芸術文化団体におけるNPO法の意義(社会民主96.5) 生きている美術館(美術手帖96.5)
単行本	銀座物語・福原義春と資生堂文化(島森路子96.5.10) 「旦那」と遊びと日本文化(岩淵潤子96.5.30) 自由—交換(ブルデュ&ハーケ96.5.30)
1996年6月	
論文・評論	相続で美術品物納も案:国立美術館の収蔵品充実策(産業経済新聞96.6.14) 企業のメセナ活動と音楽(宮城学院女子大学研究論文集96.6)
解説	東京の中劇場競争の時代へ(読売新聞96.6.1) 劇場系列化、値下げ阻む:映画館入場料、世界で突出(日本経済新聞「値段のナゾ」96.6.3) 新風吹き込む「キャナルシティ博多」:アジア市場視野の映画・演劇都市に(毎日新聞「芸能時評」96.6.11) 公立美術館は画商のお得意様:名画、高額で次々購入(朝日新聞96.6.17) コンサートホール、「タクト」振るう若手プロデューサー(日本経済新聞「NIKKEI X」96.6.22) 老舗の街にアートが“活”:麻布十番(日本経済新聞「NIKKEI X」96.6.29) 地下鉄の試写会、アート展が大盛況(日経イベント96.6)
コラム	新国立劇場、明確な運営方針を(産業経済新聞96.6.1) 文化支援は何のため(産業経済新聞96.6.2) 日仏文化交流を促進:塚本幸一氏(日本経済新聞「あの人消息この人」96.6.2) マグリット一枚では……(毎日新聞「ダブルクリック」96.6.4) 英国最大の観光代表団を率いて来日した英国民文化相—バージニア・ボトムリー氏(毎日新聞「ひと」96.6.6) 思いこみ、勘違い(産業経済新聞「芸術直言」96.6.14) 高齢化社会と地域戦略①:文化の資源化(電通報96.6.17) オペラ興行の収支は(産業経済新聞「芸術直言」96.6.21) グループ座、「冠」残し新体制に(日本経済新聞「文化往来」96.6.22) 音楽家の任務は重大(毎日新聞「ひとと模様」96.6.24) 芸術家を守るパトロンのような……(産業経済新聞「私の夢の美術館」96.6.30) アサヒビール大山崎山荘美術館がオープン(イグザミナ96.6) 創刊125年に向け力強いメセナへの取組を示す毎日新聞のCC(宣伝会議96.6)
報道	「文化貢献」果たし涙:米で佐波氏(毎日新聞96.6.2) マルチメディア:著作権を一元管理(読売新聞96.6.3) NPO法案迷走続く:国会提出見送り(朝日新聞96.6.16) 文化活動を評価:メセナ群馬(上毛新聞96.6.22) 「芸術家村」構想:文化庁が素案(読売新聞96.6.25) アマ合唱団設立:サッポロ、団員を公募(日本経済新聞96.6.26) ガソリンスタンドとの複合化によるトリック・リーミュージアムがオープン(梯エス・デー) (レジャー産業資料「レジャー産業企業NOW」96.6)
特集	日仏文化サミット'96第一日:情報革命で広がる世界、新たな文化創造の時代(朝日新聞96.6.11) 日仏文化サミット'96第二日:情報化に可能性と課題、現実体験の大切さ提言(朝日新聞96.6.12)
単行本	社会貢献白書1996—企業と社会のパートナーシップ(社経団連連合会96.6.28) 東京都における文化環境及び文化活動に関する調査(東京都生活文化局コミュニティ文化

部96.6)
 REGIONAL DEVELOPMENT (三和総合研究所96.6)

1996年7月	
論文・評論	議論呼ぶ「パブリックアート」(毎日新聞96.7.1) “使わせず”利用率低い公共施設(産業経済新聞「正論」96.7.16) ダウンサイジングの波:米国NPO(日本経済新聞96.7.20)
解説	コンサートの舞台裏:もうからなくてもいい?(日本経済新聞「NIKKEI X」96.7.20) 演劇、地方から変革の風:崩れる東京一極集中(日本経済新聞「文化」96.7.27) “人の役割”の大切さを痛感:7年目を迎えた企業メセナ協議会(電通報96.7.29) 影落とす予算不足:アビニョン演劇祭50年目(日本経済新聞96.7.30) 現代美術国際フェア事情:今年のバーゼルの「アート」から(毎日新聞96.7.30) 改めて「企業メセナ」を考える(エネルギーフォーラム96.7) サントリーホール(音楽の友「ホール探訪」96.7)
対談・座談会	社会貢献活動、企業が手本に(日刊工業新聞96.7.18)
インタビュー	社会貢献は企業の責務—朝日生命保険若原泰之氏(毎日新聞「会長さん」96.7.9)
コラム	演劇の「自由」とは(産業経済新聞「芸術直言」96.7.5) 浸透する企業の社会貢献(日本工業新聞「フェアおびにおん」96.7.8) 社会貢献の現況(読売新聞「編集手帳」96.7.13) セ・リーグ上回る観客(児童演劇④)(日本経済新聞「百科専科」96.7.14) 汗と涙の舞台裏(児童演劇④)(日本経済新聞「百科専科」96.7.21) 賞と独断(朝日新聞「窓 論説委員室から」96.7.23) 音大生の不安(産業経済新聞「窓」96.7.28) 台所赤字、高まる期待(児童演劇⑤)(日本経済新聞「百科専科」96.7.28) ダンス・カンパニー財政危機:ニューヨーク(日本経済新聞「トピックス」96.7.30)
報道	「文化経済学会福岡大会」開く:NPO活動をテーマに(電通報96.7.1) ボランティア支援商品導入:岡山、広島(読売新聞「山陽新聞」96.7.6) SLや映画も重文に:文化庁協力者会議が報告書(読売新聞96.7.9) 英、オランダの2氏が受賞:INAXヨーロッパデザイン賞(読売新聞96.7.9) 文化財、「生活」「技術」も対象:保護、近代まで拡大(日本経済新聞96.7.9) オーケストラ団員の室内楽演奏:アフィニス文化財団が支援へ(毎日新聞96.7.18) 臨海副都心、パブリック・アート事情(美術手帖96.7)
特集	高松宮殿下記念世界文化賞第8回受賞者:人々に感動を与える偉大な芸術の創造者(産業経済新聞96.7.5) 芸術文化団体における非営利組織の社会的役割(テアトロ96.7)
単行本	メセナに関するアンケート調査結果(埼玉県コミュニティ協議会メセナ委員会96.7)
1996年8月	
論文・評論	パブリック・アートの模索:「制作と社会」に根源的問いかけ(読売新聞「文化」96.8.1)
解説	経営理念に基づいて社会貢献活動(富士ゼロックス、松下電器、キリンビール)(PRニュース96.8.1) 趣味生かし美術館を支える:関西電力(毎日新聞「知ってますか」96.8.10) パブリックアートの民主主義(毎日新聞「アートの景色」96.8.15) 企業の新しい文化支援:「贈与」脱し、社会との接点に(朝日新聞「単眼複眼」96.8.26) 95年音楽イベント実績、チケット高騰のオーケストラが減少(日経イベント96.8)
インタビュー	高めたい“企業市民”意識:経団連1%クラブ会長 若原泰之氏に聞く(日刊工業新聞96.8.7) あくまで自前のミュージカルを:バンドイ(読売新聞「土曜芸能」96.8.31)
コラム	サントリー音楽賞の賞金佐治さん的一声で二百万増(音楽舞踊新聞96.8.1) 企業所蔵の美術品を鑑賞(日本工業新聞「知って得る」96.8.1) 芸術根付かせる企業メセナ(日本経済新聞「文化往来」96.8.2)

	メセナ、いまや「ご都合主義」(日本経済新聞「EYE」96.8.5) 社会貢献白書1996:「企業市民」意識高まり根付く社会貢献活動(日経産業新聞「ビジネスマンフォーラム」本196.8.9) 隣が隣を知る国際研究:財団ネットワーク(日本経済新聞「百科専科」96.8.11) 堅実メセナの“実のある音楽”(毎日新聞96.8.12) トヨタ、低予算で効果的メセナ(日本経済新聞「文化往来」96.8.14) 紀伊國屋サザンシアターに期待(日本経済新聞「文化往来」96.8.28)
報道	「アート広重」オープン:東海銀行(産業経済新聞96.8.4) 街ごと美術館:地域住民らが企画(読売新聞96.8.10) 結論先送りばかりの与党:NPO法案もまともらず(読売新聞「異見小見」96.8.11) 文化は成長産業:新規事業促進を提言(毎日新聞96.8.12) 日本の援助で礼拝堂復活(産業経済新聞96.8.13) 文化庁と建設省芸術家村づくりなど協力(日本経済新聞96.8.14) 小中高生対象に舞台芸術の教室:文化庁が概算要求(日本経済新聞96.8.24) 1996年度(第26回)モービル音楽賞受賞者決定(音楽芸術96.8)
特集	北海道に根づく教育音楽祭(THE21 96.8)
1996年9月	
論文・評論	芸術が企業社会に「搾取」される姿を告発:村上陽一郎評「自由—交換」(毎日新聞96.9.2) 企業の社会貢献活動についての一考察—地域活性化の視点から(季刊自治体学研究96.9)
解説	市民の美術館のはすなのに……:“お役所経営”方針見えず(日本経済新聞96.9.1) 大山崎山荘に文豪の足跡(日本経済新聞「文化」96.9.6) 楽しめる博物館へ:体験型を重視・民間と連携・学会を設立(朝日新聞96.9.8) 心を映す“体感博物館”(読売新聞96.9.10) グッチはパトロン:美術展、音楽会、絵画修復に大金(日本経済新聞96.9.11) 博物館ボランティア、兵庫県が養成(日本経済新聞96.9.29)
対談・座談会	「主張する」企業メセナを(日本経済新聞96.9.29)
インタビュー	社会貢献活動を推進:ジャスコ社長室長、羽間和彦氏(日本工業新聞96.9.17) 地域密着のメセナを:水谷千加古INAX社長(四国新聞96.9.20) 「子ども劇場」運動30年を支える(上):高比良正司氏(毎日新聞96.9.24) 「子ども劇場」運動30年を支える(下):高比良正司氏(毎日新聞96.9.25) NPOへの企業意識の遅れにぼやき:朝日生命会長、若原泰之氏(朝日新聞96.9.28)
コラム	ビジネスからメセナに転換:西友(織研新聞「め・て・みみ」96.9.14)
報道	入場料900円の演奏会:「メセナの神髄コンサート・パートII」京都・東京で(読売新聞96.9.4) 入場料900円—流奏者の室内楽:企業メセナコンサート(朝日新聞96.9.6) アート情報のFAXサービス化:社企業メセナ協議会(新美術新聞96.9.11) アートを学ぶ音楽講座開催へ:社企業メセナ協議会(電通報96.9.16) キリンコンテンツボラリー・アワード'96最優秀作品賞(日本経済新聞96.9.17) コンサートを開催:東急グループ4750組を招待(流通サービス新聞96.9.17) 西友、映画製作から撤退:美術館はコスト管理強化(日本経済新聞96.9.18) NPOと企業・自治体が出会う場に:11月にも東京にセンター(朝日新聞96.9.22) 「紀伊國屋サザンシアター」来月オープン(朝日新聞96.9.24) メセナ協議会あすから「音楽講座」開設(産業経済新聞96.9.25) 震災救済基金コンサート支援:ジャスコ(流通サービス新聞96.9.25) 「ミュージアム」の未来形? 岡崎市美術館博物館オープン(美術手帖96.9)
特集	わが町へ貢献する企業(中日新聞「連携と交流」96.9.19)
単行本	企業の社会貢献度1996(朝日新聞文化財団96.9.5) 1996年テレビ公開講座 時代が見える21・トヤマ—豊かさ、快適さを考える—(国立高岡短期大学96.9.25) 行政と民間非営利団体(NPO)—東京のNPOをめぐる—(東京都96.9)

1996年10月	
解説	「市民活動促進法案」を選挙の争点に(日本経済新聞「社説」96.10.15) 試験練たメセナの行方(日本経済新聞「社説」96.10.30) オーチャードホール(音楽の友「ホール探訪」96.10) 検閲問題で浮かび上がる日本の美術文化政策(社会民主96.10)
対談・座談会	「企業の社会貢献度1996」の読み方(THE21 96.10) これからの芸術・文化政策とは(社会民主96.10)
インタビュー	地元と世界の橋渡し役に(日本経済新聞96.10.6)
コラム	スイスの財団が機内誌生かしたメセナ(日本経済新聞「文化往来」96.10.12) 信濃路・美術館ふたつ 心うつ出会い(社会教育96.10)
報道	薬屋さん文化発信に貢献(北日本新聞96.10.3) 講談社創業80周年で贈る:平原小鳥巣分校に図書104冊(佐賀新聞、10.8) 新宿に紀伊國屋第2の劇場:「サザンシアター」開場(読売新聞96.10.8) トヨタ 障害者の芸術活動支援(日本工業新聞96.10.9) 相次ぎボランティア雑誌:企業・市民の連携狙う(日経流通新聞96.10.10) 企業の新しい社会貢献:ネット・メセナです(朝日新聞96.10.16) 活動推進へ懇話会設立:企業メセナ支援で横浜市中区(日刊建設工業新聞96.10.16) メセナ推進団体民間企業と設立:横浜市中区(日本経済新聞96.10.17) ストラティバリウス榎本大進に無償貸与:フォーバル財団(日本経済新聞96.10.24) 構想10年、メセナ実現:鈴鹿の自動車販売会社(伊勢新聞96.10.27) メセナ白書の最新版:減少の傾向に歯止め(読売新聞96.10.27) 芸術文化施設に焦点:社会的役割に高い評価(電通報96.10.28) バイオリンの名器無償貸与:日本音楽財団が国際音コン優勝者に(毎日新聞96.10.28) 若手芸術家ら支援へ助成事業を一般公募:ポーラ化粧品など(日本経済新聞96.10.29) 「星と森の詩美術館」オープン(東京新聞96.10.30) 田中氏ら3人に:「ニッセイ・バックステージ賞」(毎日新聞96.10.30)
特集	新しい文化立国をめざして—文化政策の現状と課題(社会民主96.10)
単行本	台頭する非営利セクター(レスター・M・サラモン/H・K・アンハイアー—96.10.3)
1996年11月	
解説	「メセナ」に衆知を集めてみたら(神奈川新聞「社説」96.11.3) 企業財団の運命は…:昔メセナ 今リストラ(日経産業新聞96.11.10) 「賞は企業のメセナだ」:ツムラ・ジャズボーカル賞“継続”に(東京新聞「SCRAMBLE TV&芸能」96.11.19) クラシック再生の予感:熱気に団員も感激(読売新聞96.11.24)
コラム	洗練の度を加える音楽メセナ(日本経済新聞「文化往来」96.11.9) メセナ活動見直しを(織研新聞96.11.14) オーケストラ団員の演奏技術向上を支援(読売新聞「手帳」96.11.21)
報道	社会貢献の活動実績公表へ:パチンコ業界、がんばってます(日本工業新聞96.11.1) 芸術雑誌:読めば納得会社の理念(朝日新聞96.11.2) NPOに強力な支援の輪:拠点の「センター」発足へ 企業・行政との橋渡し(読売新聞96.11.4) 全国唯一の「手づくりメセナ」:「市民による市民のための」(神奈川新聞96.11.13) 芸術文化活動を支援:全国3番目山梨メセナ協会発足(朝日新聞96.11.18) NPO調査報告書好調な売れ行き:都が発行、1500部増刷(日本経済新聞96.11.19) ボランティア休暇制度:国家公務員に来年導入(読売新聞96.11.20) 国内NPOのセンター発足:非営利活動ネット化(朝日新聞96.11.23) 社会貢献バックアップ:各企業、さまざまな制度(産業経済新聞96.11.24) 東京都 美術取得基金を廃止:バブル崩壊、ツケ回る(毎日新聞96.11.24) 企業メセナの方向性示す:「芸術とパトロン」でハスケル氏ら講演(電通報96.11.25)

	箱根に新たな観光施設 ガラスのミュージアム(レジャー産業資料「情報欄」96.11) 富山市芸術文化ホール11月1日グランドオープン(レジャー産業資料「情報欄」96.11) 96年度Bunkamuraオーチャードホールアワード受賞者決定(音楽芸術96.11)
特集	NGOと企業 連携を:NPO法成立に期待(日本経済新聞「地球環境経済人サミット特集」96.11.8) 地域貢献「お笑いを一席」:金融冬の時代 異彩放つ八光信金(読売新聞96.11.17) 「NPOへ」人材育成の風:交渉力、企画力……企業と同じ(朝日新聞96.11.19) 都市とアートの真相—パブリック・アートが変わる!—(美術手帖96.11)
単行本	コミュニティ財団のすべて(財大阪コミュニティ財団96.11.11)
1996年12月	
解説	大分みらい信用金庫、町づくりを積極的に支援(日本工業新聞96.12.18) 街そのものが展示の舞台:現代美術がもっと身近に(産業経済新聞96.12.29)
インタビュー	山梨メセナ協会会長高野孫左衛門氏に聞く:新しい才能発掘し支援、地域文化の意識高める(山梨日日新聞96.12.14)
コラム	最悪期脱した企業メセナ(日本経済新聞「文化往来」96.12.4) 現代の作曲家に光あて10年(日本経済新聞「文化往来」96.12.5) フィランソビー大研究(日本経済新聞「百科専科」96.12.15) 世界のNPOを分類すれば……(日本経済新聞「百科専科」96.12.22)
報道	芸術・文化活動に資金援助します:芸術文化振興基金(にっぽんNOW96.12.2) 企業・行政との連携へ:記念フォーラム開く「NPOセンター」発足(電通報96.12.2) パイオリアル無料公演6年目:サントリーホール(朝日新聞96.12.6) アサヒビールにメセナ大賞'96(朝日新聞96.12.6) メセナ育成賞に毎日新聞社(毎日新聞96.12.6) 地道な活動—八十二文化財団:メセナ地域賞を受賞(信濃毎日新聞96.12.6) 県内初「メセナ企画賞」受賞:ヨークベニマルの歴史書復刻(福島民友新聞96.12.6) 大王製紙が来年札幌に作家渡辺淳一氏の文学館建設(日刊工業新聞96.12.10) NPO法案:寄付金優遇税制が次の課題(朝日新聞96.12.11) 市民団体“管理”に反発:NPO法案緊急報告会、十分な議論を要望(朝日新聞96.12.12) 企業の社会貢献活動法など探る:福島でセミナー(福島民報96.12.14) 大賞はアサヒビール「メセナ大賞'96」で贈賞式(電通報96.12.16) アーティスト発掘で連携(日本経済新聞96.12.23) 社会貢献奏でる:企業も地域の一員、より豊かな生活と文化を創造(夕刊フジ96.12.27) 全国16番目のトリックアート美術館(レジャー産業資料「情報欄」96.12) クラシック音楽専用の長岡リリックホール(長岡芸術文化ホール)開館(レジャー産業資料「情報欄」96.12) ホテル・オークラが音楽賞(音楽芸術96.12) フォーバルスカラシップ ストラディヴァリウス・コンクール(音楽芸術96.12) 第2回「ニッセイ・バックステージ賞」(音楽芸術96.12) 住友不動産販売主催「第38回クリスマス・ステップ・コンサート」に無料招待(音楽芸術96.12)
単行本	社会と語る企業(ソーシャルコミュニケーションは、魅力ある企業を創る)(岡田芳郎96.12.10)
1997年1月	
論文・評論	市民の社会参加促すNPO法紹介を期待(読売新聞「メディア時評」97.1.5) 社会貢献活動:少額でもチエと工夫で(日本工業新聞「意見提言」97.1.20)
解説	問われるメセナの精神(北海タイムス「社説」97.1.9) 公的サービス担うNPOの制度化急げ—非営利の民間事業体、官の過剰介入排除し低コスト社会に—(日経ビジネス97.1.13) NPO法案に強い不満:行政関与の色濃く記載ない税制優遇(朝日新聞97.1.21)

コラム	<p>大型の音楽ホール東京で開設ラッシュ:記念公演は多彩、運営に課題(読売新聞「手帳」97.1.1)</p> <p>アート支援は地道に息長く(朝日新聞「人間往来」97.1.9)</p> <p>メセナに税は似合いません:日本はメセナ活動を免税にすべき(読売新聞「顔」97.1.11)</p> <p>人間ネットワークのプロとは(日本経済新聞「百科専科」97.1.26)</p> <p>企業メセナとJリーグ運動(山梨日日新聞97.1.27)</p> <p>貢献活動に遠慮は無用(日本工業新聞97.1.29)</p> <p>全国各地へ文化を配達するクロネコヤマトのCCC(宣伝会議97.1)</p>
報道	<p>'96メセナ大賞にアサヒビール株(新美術新聞97.1.1)</p> <p>演劇文化を核に街活性化:舞台芸術振興会が会報発行(産業経済新聞97.1.10)</p> <p>海天堂にメセナ奨励賞:社員挙げて献身的に活動(神戸新聞97.1.11)</p> <p>親子で楽しむ「音楽教室」:東電が下町4区で企画(産業経済新聞97.1.14)</p> <p>社会貢献の実例紹介:県広報研究会(新潟日報97.1.18)</p> <p>アフィニス文化財団室内楽の対象枠拡大(日本経済新聞97.1.24)</p> <p>NPO法案に団体反発(読売新聞「生活スコープ」97.1.25)</p> <p>PRより文化紹介多様な企業博物館(産業経済新聞97.1.27)</p> <p>若手美術家応援します:県立美術館と住友信託銀行甲府支店(朝日新聞97.1.29)</p> <p>売り上げの一部オーケストラへ:「モンブラン」万年筆・ボールペン(日本経済新聞97.1.31)</p> <p>'96年メセナ大賞にアサヒビール株が受賞(音楽芸術97.1)</p>
特集	企業市民:FB中小企業が社会貢献(織研新聞97.1.9)
単行本	<p>芸術経営学を学ぶ人のために(佐々木晃彦97.1.10)</p> <p>文化経済学への招待(佐々木晃彦97.1.20)</p> <p>トヨタアートマネジメント講座 演劇講座同時代の演劇と社会報告集(北海道演劇財団97.1.20)</p> <p>第7次東京都文化懇談会答申 都市文化の創造をめざして(東京都97.1.22)</p>
1997年2月	
解説	<p>パブリックアート雑踏に埋もれ幸せ?(朝日新聞97.2.6)</p> <p>公共ホールの生きる道:世界へ文化発信の努力を(読売新聞97.2.10)</p> <p>東京・春の演劇祭:若手劇団をバックアップ(読売新聞97.2.14)</p> <p>パブリックアートを住民の手に:行政主導、蓄積残さぬ日本型(朝日新聞97.2.18)</p> <p>デジタルと芸術を融合:デジタル美術館ICC(読売新聞97.2.19)</p> <p>劇場を育てる愛情に期待(産業経済新聞97.2.22)</p> <p>NPO法案来月審議スタート:市民団体に法人格、今国会成立の機運(読売新聞97.2.28)</p>
インタビュー	<p>「巨大船」は東京の象徴?:東京国際フォーラム(朝日新聞97.2.1)</p> <p>被災者が直面する困難、自分の問題と訴えたい:「アート・エイド・神戸」事務局長島田誠氏(朝日新聞97.2.4)</p>
コラム	<p>音楽有情と企業メセナ(日本海新聞97.2.4)</p> <p>企業文化でネットワーク(日本経済新聞「百科専科」97.2.9)</p> <p>新国立劇場、ソフト面にも予算(日本経済新聞「文化往来」97.2.20)</p> <p>社会貢献にも市場原理の流れ(エネルギーフォーラム97.2)</p>
報道	<p>メセナ活動の減少に歯止め:95年度支出額、4年ぶり増加(神奈川新聞97.2.2)</p> <p>芸術文化支援や社会貢献:メセナ 企業に定着(産業経済新聞97.2.3)</p> <p>鹿銀、文化財団設立へ(南日本新聞97.2.3)</p> <p>ショーウィンドーをギャラリーに:若手芸術家へ開放、富士銀が作品公募(日本工業新聞97.2.4)</p> <p>地域雑誌発行を支援:朝日ソーラー、企業メセナの一環(日刊工業新聞97.2.6)</p> <p>情報共有が力を生む:PR研究会開く「企業フィランソピーとNPO」(電通報97.2.10)</p> <p>メセナや社会貢献活動向上へ:開かれた企業目指す(秋田魁新報97.2.12)</p> <p>メセナ活動が定着:95年度支出額、4年ぶり3.8%増(経団連調べ)(上毛新聞97.2.12)</p> <p>「メセナ」減少歯止め、開かれた企業思想広まる(千葉日報97.2.12)</p>

	<p>「芸術見本市」25日から：舞台活動の紹介やセミナー、海外の12団体も参加(毎日新聞97.2.12)</p> <p>新日鐵音楽賞：ピオラの川本氏、調律師の鶴田氏(産業経済新聞97.2.13)</p> <p>社会貢献度で取引先選定を：さくら総研、企業ボランティア推進へ提言(神戸新聞97.2.13)</p> <p>カードで社会貢献：オリコと全信連(流通サービス新聞97.2.14)</p> <p>フィランソロピー協会支援の国際カード：オリコが発行(日本工業新聞97.2.20)</p> <p>新川文化ホールに活気：音楽活動メセナ発足(北日本新聞97.2.26)</p> <p>新国立劇場が完成(読売新聞97.2.27)</p> <p>東京国際フォーラム：旧都庁跡地に誕生した総合文化・情報空間(レジャー産業資料「VIEWS OF THIS MONTH」97.2)</p> <p>能舞台と展示室を設けた名古屋能楽堂が開館(レジャー産業資料「情報欄」97.2)</p> <p>第7回新日鐵音楽賞発表(音楽芸術97.2)</p>
単行本	<p>地域のカとアートエネルギー(橋本敏子97.2.5)</p> <p>NPOと芸術文化「PAN地域ネットワーク」96 IN さっぽろ」の記録 芸術・文化団体の法人格の現状調査報告(芸術文化振興連絡会議「PAN」97.2.12)</p>
1997年3月	
論文・評論	<p>企業と骨太な大人の関係を：急速に高まるNPOへの関心(電通報「文化」97.3.10)</p> <p>パブリックアートのビジネス化：自治体・企業を巻き込んで(朝日新聞「芸芸 批評の広場」97.3.15)</p>
解説	NPO法は修正して成立を(朝日新聞97.3.6)
対談・座談会	<p>地域づくりとミュージアム(レジャー産業資料97.3)</p> <p>フィランソロピーで築く日米民間交流(月刊keidanren97.3)</p>
コラム	<p>文化ボランティアの時代へ(日本経済新聞「百科専科」97.3.2)</p> <p>社会貢献運動の新段階(織研新聞「波」97.3.10)</p> <p>メセナで社会とアートの橋渡し(日本経済新聞「文化往来」97.3.18)</p> <p>企業人大学(毎日新聞「憂楽帳」97.3.29)</p>
報道	<p>総理府調査 音楽、絵画……文化活動：実践するより鑑賞(産業経済新聞97.3.2)</p> <p>「文化活動が大切」9割：総理府が世論調査(日本経済新聞97.3.2)</p> <p>「東芝グランドコンサート」盛況：名演奏にブラボー連呼(産業経済新聞97.3.3)</p> <p>ベルリン・フィル格安で楽しめず：トヨタ60周年記念で招へい(中日新聞「名古屋」97.3.3)</p> <p>企業メセナでトヨタ：世界最高級 室内オケ編成(毎日新聞97.3.4)</p> <p>N響地方でも定期公演(産業経済新聞97.3.5)</p> <p>メセナ第1弾開演：15・16日、中区の懇話会が演奏会(神奈川新聞97.3.7)</p> <p>市民観劇団体に法人税：「非営利文化活動への悪学」2団体異議申し立て(毎日新聞97.3.7)</p> <p>ハイテク日本、聴覚障害者に「音」贈る(朝日新聞97.3.9)</p> <p>美術資料取得基金条例の廃止を可決：都議会(日本経済新聞97.3.12)</p> <p>アーティストに演奏の場提供：ひらまつ(日本経済新聞97.3.14)</p> <p>クラシックを格安に：自治体や企業が支援(日本経済新聞97.3.21)</p> <p>都市の芸術家を考える：「メセナ」フォーラム(神戸新聞97.3.22)</p> <p>紀伊國屋演劇賞が決定(テアトロ97.3)</p> <p>現代美術の専門研究機関が北九州市にオープン(レジャー産業資料「情報欄」97.3)</p> <p>ホテルを核に美術館含む複合ビルが99年秋オープン(レジャー産業資料「情報欄」97.3)</p>
特集	<p>劇場新時代5 アートマネジメント：「需要」増す芸術の社会還元(朝日新聞97.3.5)</p> <p>演劇に思い入れメセナは使命持論：未来工業社長 山田昭男氏(日経産業新聞「トップの素顔」97.3.7)</p> <p>メセナ大賞'96に輝いたアサヒビール文化創造型メセナ活動(宣伝会議97.3)</p>
単行本	<p>日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要 創刊号(JMMA日本ミュージアム・マネジメント学会97.3.8)</p> <p>芸術文化行政と地域社会—レジデントシアターへのデザイン(衛紀生97.3.21)</p>

会議報告書 地域の映画祭・映画上映を考える(国際交流基金97.3.31)
 横浜市芸術文化マスタープラン 21世紀横浜の芸術文化を創造するために—提言—(横浜市
 芸術文化マスタープラン策定検討委員会97.3)
 音楽機器産業における技術高度化のためのマネジメント関連調査研究報告書(社日本機械
 工業連合会、社日本クラシック音楽マネジメント協会97.3)

連載

「劇場のいま」(産業経済新聞)

- 96.5.28 横浜「ふね劇場を」市民が運動
 5.29 ラ・ベニシュ・オペラ「小さな船」が冒険の場
 5.30 「はじめにソフト」福岡の試み
 6. 4 福岡に九州の「拠点」期待:四季が常設劇場
 6. 5 新日フィルが「フランチャイズ」にトリフォニーホール
 6. 6 NYの水たまり「パブリック・シアター」
 6.11 橋の下にある「アンカレッジ」:新しい公共アート追求
 6.12 専門局として10月放送開始:シアターテレビジョン
 6.13 価格面での競争始まる:新国立劇場の使用料金決定
 6.18 英ハレ管弦楽団:ユニーク運営で新ホールに
 6.19 民間が育てた「小屋」:本多劇場
 7. 2 グローブ座が新体制:「自主制作は続ける」

「リレー対談:NPO法案を考える」(日本経済新聞)

- 96.5.19 「市民が主役」原点忘れずに:堂本曉子
 5.26 民法改正視野に間口広く:富金原俊二
 6. 2 市民の意欲生かす社会に:イーデス・ハンソン
 6. 9 「ボランティア・経済」誕生:金子郁容
 6.19 運営支える仕組み整備を:伊藤裕夫

「劇場新時代:全国各地の動きから」(朝日新聞)

- 97.2.25 ラッシュー公共ホール、10年で7割増
 2.26 フランチャイズ—「オーケストラの家」実現
 2.27 地方オペラ—力作増え他都市で公演も
 3. 4 ネットワーク—地方が手を結び共同開催
 3. 5 アートマネジメント—「需要」増す芸術の社会還元
 3.11 オルガン—個性を生かして知恵比べ
 3.12 公共劇団—専属プロ俳優で舞台作り
 3.18 門限10時—深夜は利用者が自主管理
 3.19 現場の声—演者や住民の視点大切に

「実業家がつくった美術館」(「石垣」)

- 96.4 「プリチストン美術館」
 5 「根津美術館」
 6 「湯木美術館」
 7 「大倉集古館」
 8 「静嘉堂文庫美術館」
 9 「白鶴美術館」
 10 「ニューオータニ美術館」
 11 「北野美術館」
 12 「畠山記念館」
 97.1 「太田記念美術館」
 2 「松岡美術館」
 3 「安田火災東郷青児美術館」

「企業・団体の文化・社会活動」(「経済広報」)

- 96.4 「GAS MUSEUM」がす資料館:東京ガス株式会社
 5 「ふれ愛の翼」:日本航空株式会社
 6 「桜公園鹿島メッセ」:住友金属株式会社
 7 「黒部川電気記念館」:関西電力株式会社
 8 「ミサワ パウハウスコレクション」:ミサワホーム株式会社
 9 「パナソニック・メセナコンサート」:松下電器産業株式会社
 10 「川村記念美術館」:大日本インキ化学工業株式会社
 11 「かまくら工房」:株式会社資生堂
 12 「ジーベックホール」:TOA株式会社
 97.1 「イシヤ・チョコレートファクトリー」:石屋製菓株式会社
 2 「音楽宅急便"おしゃべり好きなコンサート"」:ヤマト運輸株式会社
 3 「T-BRAIN CLUB」:株式会社東芝

「企業文化」(「ブレーン」)

- 96.4 味わいある独自の文化を打ち出す日動火災
 5 ドメインにふさわしい個性的な第一生命の文化活動
 6 近隣住民、身障者、社員への愛情が伝わるNECのスーパータワーコンサート
 7 創業者の「利益三分主義」の哲学が生むサントリーの社会還元活動
 8 経営資産としての企業文化を示す資生堂のイベント
 9 駅空間活用と地域文化振興に注力する「JR東日本の文化事業
 10 “翔んだ”ところに視点を定めたキリンビールの企業文化
 11 きめ細かく、実質的で、長期に取り組むトヨタの文化支援活動
 12 情報をハイテク・ハイタッチで商品化したサンシャイン・ナンジャタウン
 97.1 企業文化のシンボリックな発信地 フジタヴァンテとフジタアーバンオアシス
 2 企業の枠を越え日本文化を豊かに——日航財団の創造的活動
 3 「双方向」コミュニケーションをテーマとするアサヒビールの活動

専門誌

- 「経済広報」月刊 財団法人経済広報センター
 「芸団協」月刊 社団法人日本芸能実演家団体協議会
 「公益法人」月刊 財団法人公益法人協会
 「地域創造」財団法人地域創造
 「地域創造レター」月刊 財団法人地域創造
 「フィランソロビー」月刊 社団法人日本フィランソロビー協会
 「文化経済学会」季刊 文化経済学会
 「文化庁月報」月刊 文化庁
 「メセナ」季刊 社団法人企業メセナ協議会

2

メセナ年表

メセナ関連セミナー開催、施設のオープンなど

320

1996年

4月	7	「大山崎山荘美術館」開館(京都、アサヒビール)
	16	デジタルアーカイブ推進協議会発足(東京)
	30	「とうきょうエキコン」200回を迎える(東京、JR 東日本東京駅ほか)
5月	16	文化庁「アーツプラン21」特定15団体助成決定
	19	「福岡シティ劇場」(劇団四季常設専用劇場)オープン(福岡)
6月	1	アート・マネジメント講座開講(横浜、よこはまメセナ研究会)～7/11
	3	「日仏文化サミット」開催(東京、朝日新聞社)～4
	4	「全国音楽ホールフォーラム」開催(高岡、全国音楽ホールネットワーク協議会)～5
	12	アート・マネジメント・トレーニング・プログラム(東京、CAN)～17
	12	国際メセナ会議開催(ニューヨーク、BCA)～13
	13	文化経済学会福岡年次大会開催(福岡、文化経済学会)～15
	28	「社会貢献白書1996」発行(東京、経済団体連合会)
	30	トヨタ・アートマネジメント講座開講(岡山、講座実行委員会)～8/25
7月	1	バナソニック・グローバル座新体制でスタート(東京)
	11	「まちづくりと環境芸術セミナー'96」開催(東京、産業経済新聞社ほか)
	19	「第1回全国オペラフォーラム」開催(日立、日立市科学文化情報財団)～21
8月	6	アート・マネジメント研修会開催(札幌、全国公立文化施設協会ほか)～8
	8	「東京オペラシティ」竣工(東京)
9月	6	トヨタ・アートマネジメント講座(札幌、北海道演劇財団)～25
	26	「アートをまなぶ 音楽講座」10回シリーズ開講(東京、企業メセナ協議会)～12/17
	28	「アート・マネジメント講座III」開講(京都、京都造形芸術大学ほか)～11/16
10月	4	シンポジウム「市民との対話の可能性」(福岡、パブリックアート・フォーラム)～5
	10	「紀伊國屋サザンシアター」オープン(東京、紀伊國屋書店)
	17	中区メセナ活動推進懇話会発足(横浜)
	17	第7回全国文化の見えるまちづくり政策研究フォーラム(札幌、北海道)～18
	17	トヨタ・アートマネジメント講座(福岡、講座実行委員会)～19
	22	「'96秋のセミナー」開催(東京、芸団協ほか)～12/16
24	「メセナ白書1996」発行	
11月	5	「地域創造」発刊(東京、財地域創造)
	8	講演会「地域と劇場—創造と教育をめぐって」(静岡、文化経済学会)
	17	山梨メセナ協会発足(山梨)
	21	国際メセナ会議開催(ソウル、韓国企業メセナ協議会)～23
22	NPO センター発足(東京)	
12月	6	「メセナ大賞'96」贈呈式(東京、企業メセナ協議会)
	24	第7次東京都文化懇談会答申「都市文化の創造をめざして」

1997年

1月	10	「東京国際フォーラム」オープン(東京)
	31	「アジアにおけるメセナ・国際交流ネットワーク組織」設立作業委員会開催(オーストラリア)～2/1
2月	8	「世界劇場会議国際フォーラム'97」開催(名古屋、世界劇場会議国際フォーラム'97 実行委員会)～9
	10	NPO 基礎講座(東京ほか、NPO センター)～3/26
	25	「芸術見本市」開催(東京、芸団協ほか)～27
	25	アート・マネジメント研修会開催(東京、全国公立文化施設協会)～27
	26	演劇専門劇場「大阪松竹座」オープン(大阪、松竹)
	27	アジア地域博物館フォーラム開催(東京、国際交流基金アジアセンターほか)～28
	27	「新国立劇場」竣工(東京)
	3月	13

- 13 シンポジウム「都市と文化」(東京、日本経済新聞社ほか)
22 トヨタ・アートマネジメント講座(神戸、神戸アートビレッジセンター)～30
25 文化フォーラム「もっと知りたい!メセナって何?」(神戸、CAP)



1
世界のメセナ機関

2
地方のメセナ組織

3
企業メセナ協議会1996年の活動状況

4
1996年度助成認定活動

5
回答企業および企業財団名一覧

6
企業メセナ協議会会員リスト

Australia
オーストラリア

The Asialink Centre
Level 45, 55 Collins Street
Melbourne Vic 3000
Tel. 61-3-9207-3050
Fax. 61-3-9207-3001

Denmark
デンマーク

Forum for Erhverv Kultur
Folbe Bernadottes Allé 45
2100 Copenhagen Ö
Tel. 45-33-48-88-89
Fax. 45-33-48-88-89

Austria
オーストリア

Wirtschaft für Kunst
Austrian Business Committee for the
Arts
Kärntner Strasse 8/6
Vienna 1010
Tel. 43-1-512-7800
Fax. 43-1-513-8956

European Union
ヨーロッパ連合

Comité Européen pour
le Rapprochement de l'Economie et de
la Culture (CEREC)
The European Committee for Business,
Arts and Culture
60 rue de la Concorde
1050 Brussels
Tel. 32-2-512-6145
Fax. 32-2-512-5571

(Flemish-Speaking) Belgium
ベルギーフラマン語圏

Stichting voor Kunstpromotie
Foundation for the Promotion of the
Arts
Handelskaai 14
1000 Brussels
Tel. 32-2-219-4080
Fax. 32-2-219-0462

France
フランス

Association pour le Développement du
Mécénat Industriel et Commercial
(ADMICAL)
Association for the Development of
Industrial and Commercial Cultural
Support
16, rue Girardon
Paris 75018
Tel. 33-1-42-55-20-01
Fax. 33-1-42-55-71-32

(French-Speaking) Belgium
ベルギー仏語圏

Fondation Prométhéa
60 rue de la Concorde
1050 Brussels
Tel. 32-2-513-7827
Fax. 32-2-502-2657

Germany
ドイツ

Kulturstiftung Haus Europa
Maecenata Management GmbH
Barer Strasse 44
80779 Munich
Tel. 49-89-28-4452
Fax. 49-89-28-3774

Canada
カナダ

Council for Business and the Arts in
Canada (CBAC)
165 University Avenue, Suite 705
Toronto M5H 3B8 Ontario
Tel. 1-416-869-3016
Fax. 1-416-869-0435

Greece
ギリシャ

Association for the Support of Cultural
Activities (OMEPO)
69 Kifissias Avenue, 115-23 Athens
Tel. 30-1-648-0984
Fax. 30-1-648-2819

<p>Hong Kong, China 香港(中国)</p> <p>Business for Arts (BFA) 23/F, Shui On Centre 6-8 Harbour Road Wanchai Tel. 852-2802-3008 Fax. 852-2824-1784</p>	<p>The Netherlands オランダ</p> <p>Genootschap voor Reclame Sectie Sponsors voor Kunst Dutch Advertising Association for Arts Sponsorship P. O. Box 9877 1006 AM Amsterdam Tel. 31-20-669-9777 Fax. 31-20-669-3738</p>
<p>Ireland アイルランド</p> <p>The Business Council for the Arts (Cothú) 64 Lower Mount Street, Dublin 2 Tel. 353-1-676-6966 Fax. 353-1-676-6997</p>	<p>Russia ロシア</p> <p>International Association for Culture Promotion Str. Arbat, 35, off. 652 121835 Moscow Tel. 7-095-248-2389 Fax. 7-095-248-3470</p>
<p>Israel イスラエル</p> <p>Business for the Arts (ALMA) The Opera Tower 1 Allenby Street, Tel Aviv 63321 Tel. 972-3-510-7382 Fax. 972-3-510-7380</p>	<p>Singapore シンガポール</p> <p>National Arts Council Community Support and Public Affairs 460 Alexandra Road #35-00, PSA Building Singapore 1511 Tel. 65-2700722 Fax. 65-2736880</p>
<p>Italy イタリア</p> <p>Fitzcarraldo s. r. l. Corso Mediterraneo 94 10129 Torino Tel. 39-11-568-3365 Fax. 39-11-503-361</p>	<p>Spain スペイン</p> <p>Asociación Española para el Desarrollo del Mecenazgo Empresarial (AEDME) Diagonal 520, 2º, 4º Barcelona 08006 Tel. 34-3-200-8325 Fax. 34-3-202-2789</p>
<p>Korea 韓国</p> <p>Korean Business Council for the Arts (KBCA) Dong-Ah Life Insurance Building 17th Floor 33, Da-Dong, Chung-Ku Seoul 100-180 Tel. 82-2-773-2860 Fax. 82-2-773-2863</p>	<p>Sweden スウェーデン</p> <p>Föreningen Kultur och Näringsliv Swedish Association for Business Sponsorship of the Arts P. O. Box 5403 S-114 84 Stockholm Tel. 46-8-666-6460 Fax. 46-8-660-7051</p>

United Kingdom

イギリス

Association for Business Sponsorship
of the Arts (ABSA)

Nutmeg House

60 Gainsford Street

Butlers Wharf

London SE1 2NY

Tel. 44-1-71-378-8143

Fax. 44-1-71-407-7527

United States of America

アメリカ合衆国

Arts & Business Council, Inc.

121 West 27th Street, Suite 702

New York, NY 10001-6207

Tel. 1-212-727-7146

Fax. 1-212-727-3873

Business Committee for the Arts, Inc.

[BCA]

1775 Broadway, Suite 510

New York, NY 10019-1942

Tel. 1-212-664-0600

Fax. 1-212-956-5980

2

地方のメセナ組織

天田まちづくり芸術支援協会
理事長・田中常雄

〒144 東京都大田区西蒲田7-18-4
Tel. 03-3734-1521 Fax. 03-3734-1532

社団法人松本芸術文化協会
会長・宮地良彦

〒390 長野県松本市大手4-7-14
Tel. Fax. 0263-32-1670

社団法人企業メセナ群馬
会長・小関 博

〒371 群馬県前橋市上小出町1-16-9
Tel. Fax. 0272-33-1750

メセナ八幡浜
会長・堀田喜一郎

〒796 愛媛県八幡浜市本町1 八幡浜市民図書館内
Tel. 0894-22-0917 Fax. 0894-22-3609

湖風会
会長・小口 剛

〒393 長野県諏訪郡下諏訪町高木8955
Tel. 0266-28-6472
Fax. 0266-28-8178、0266-73-0474

山口メセナ倶楽部
会長・池部 豊

〒753 山口県山口市中市町1-10 山口商工会議所内
Tel. 0839-25-2300 Fax. 0839-21-1555

佐賀県企業メセナ協議会
代表世話人・村岡安廣、杉山順一

〒840-70 佐賀県佐賀市城内1-1-59
佐賀県企画局生活文化課内(担当 島内)
Tel. 0952-25-7340 Fax. 0952-25-7327

よこはまメセナ研究会
会長・小林 進

〒224 神奈川県横浜市都筑区すみれが丘26-22
Tel. Fax. 045-591-1536
郵便物
〒221 神奈川県横浜市神奈川区鶴尾町2-24-2
かながわ県民活動サポートセンター内
LC No.19「よこはまメセナ研究会」

伊達メセナ協会
会長・岩本英男

〒052 北海道伊達市松ヶ枝町34-1
Tel. 0142-22-1515 Fax. 0142-22-1155

河内長野メセナ研究会
担当窓口・妻島 宏

〒586 大阪府河内長野市西代町12-46
財河内長野市文化振興財団内
Tel. 0721-56-6100 Fax. 0721-56-6111

東海メセナ研究会
会長・下斗米 隆

〒460 愛知県名古屋市中区丸の内3-15-15
ダイアパレス丸の内302
Tel. 052-961-5028 Fax. 052-961-7528

甲府メセナ協会
会長・高野孫左工門

〒400 山梨県甲府市賈川1-4-27
山梨県立美術館 副館長 堀内克一(専務理事)
Tel. 0552-28-3322 Fax. 0552-28-3324

中区メセナ活動推進懇話会

事務局長・竹森正樹

〒231 神奈川県横浜市中区若葉町2-29

シンフジコヲト4F マサキオオフィス

Tel. 045-243-2013 Fax. 045-243-2014

JAZZメセナ野辺地

代表・船橋 玲

〒039-31 青森県上北郡野辺地町坊ノ塚1-3

船橋損害保険事務所

Tel. 0175-64-1185 Fax. 0175-64-2764

1996年4月～1997年3月 活動年表

1996年

4月	18	メセナセミナー入門編 講師：北川恵、加藤種男氏（大阪・アサヒビール大阪支社）
	19	アート・フィールド視察研修—アサヒビール大山崎山荘美術館と長沢英俊「京の町屋」展
	20	『メセナ』24号〈特集：NPOって何？ アート界への影響を考える〉発行
5月	13	メセナセミナー入門編 講師：柿崎孝夫、島田京子氏（東京・朝日スクエア）
6月	7	1996年度第1回助成選考委員会開催
	12～	国際会議〈国際メセナ会議〉（米国・ニューヨーク）
	13	
	17	理事会・総会 特別講演「東京国際フォーラムの概要と今後の運用」講師：榎木信一氏（東京・経団連会館）
	20	アート・フィールド視察研修—ファール立川
28	セミナー〈ケーススタディ 住友生命〉といずみホール見学 講師：井上小太郎氏（大阪・住友生命城見ビル）	
7月	12	セミナー〈ケーススタディ キリンビール〉とキリンアーツスペース見学 講師：伊藤義久氏（東京・キリンビール原宿本社）
	20	『メセナ』25号〈特集：アート界を揺るがすインターネット〉発行
	29	1996年度第2回助成選考委員会開催
9月	9	若手担当向けアート基礎講座「曾根裕氏によるアートセミナー」講師：曾根裕氏（東京・東京芸術劇場）
	11	メセナ大賞'96第1回審査委員会開催
	26	セミナー〈アートをまなぶ・音楽講座〉「歌の発明」講師：茂木潔子氏（東京・国際交流基金国際会議場）
10月	3	セミナー〈アートをまなぶ・音楽講座〉「現代における楽器の発明」講師：小沼純一、御喜美江氏（東京・国際交流基金国際会議場）
	4	1996年度第3回助成選考委員会開催
		アート・フィールド視察研修—東京国際フォーラム
	7	メセナ大賞'96第2回審査委員会開催
		セミナー〈ケーススタディ 三洋電機〉講師：藤江順一氏（大阪・プラザホテル）
	15	セミナー〈アートをまなぶ・音楽講座〉「伝統と創造」講師：木戸敏郎氏（東京・国際交流基金国際会議場）
	20	『メセナ』26号〈特集：企業の芸術文化施設を考える〉発行
	21	『メセナ白書1996』記者発表
24	『メセナ白書1996』〈特集：企業の芸術文化施設〉発行	
31	セミナー〈アートをまなぶ・音楽講座〉「ジャンルを越えるアート」講師：藤本幸雄氏（東京・国際交流基金国際会議場）	
11月	5	セミナー〈アートをまなぶ・音楽講座〉「音楽の役割と終焉」講師：小沼純一氏（東京・国際交流基金国際会議場）
	11	セミナー〈ケーススタディ 日本生命〉とオペラ教室「夕鶴」鑑賞 講師：竹下俊一氏（東京・日本生命日比谷ビル）

	19	セミナー〈アートをまなぶ・音楽講座〉「音楽の消費構造」講師：小沼純一氏（東京・国際交流基金国際会議場）
	21～	国際会議〈韓国メセナ会議〉（韓国・ソウル）
	23	
	27	セミナー〈アートをまなぶ・音楽講座〉特別講演「音楽芝居の可能性」講師：ハイナー・ゲッベルス氏（東京・ドイツ文化センター）
<hr/>		
12月	2	1996年度第4回助成選考委員会開催
	4	メセナ大賞'96記者発表
	5	セミナー〈アートをまなぶ・音楽講座〉「ポリフォニーの社会性」講師：今福龍太氏（東京・国際交流基金国際会議場）
	6	メセナ大賞'96贈呈式（東京・朝日ホール）
	12	セミナー〈アートをまなぶ・音楽講座〉「フェミニズム音楽論」講師：小林緑氏（東京・国際交流基金国際会議場）
	13	理事会（東京・朝日スクエア）
	17	セミナー〈アートをまなぶ・音楽講座〉「奏法の多様化」講師：佐藤紀雄氏（東京・国際交流基金国際会議場）
<hr/>		
1997年		
1月	20	『メセナ』27号（特集：ビジネスマンのための現代アート講座）発行
	24	1996年度第5回助成選考委員会開催
	31～	国際会議〈アジアにおけるメセナ国際交流ネットワーク組織作業委員会〉（オーストラリア・メルボルン）
	2月1	
<hr/>		
2月	21	セミナー〈ケーススタディ フィリップモリス〉講師：瀬川道子氏（東京・フィリップモリス本社）
<hr/>		
3月	21	1996年度第6回助成選考委員会開催
	26	理事会・総会 特別講演「アサヒビール株式会社のメセナ活動」講師：樋口廣太郎氏（東京・朝日スクエア）

社団法人企業メセナ協議会は、1994年2月、文化庁より特定公益増進法人の認定を受け、同年4月より芸術文化活動への助成事業を開始しました。

この助成事業は、助成選考委員会の認定を受けた芸術活動に対し、企業等が協議会経由で寄付をするという「スルー方式」をとっています。この「スルー方式」を利用した寄付者は納税の際、特定公益増進法人へ寄付したのものとして税制上優遇されます。

1996年度は109件の芸術活動を助成対象として認定いたしました。また、その助成認定事業に対し、1996年度中に543社（法人／個人含む）よりご寄付いただきましたので、あわせてご報告申し上げます。

1996年度助成認定活動一覧

※（ ）内は助成認定対象団体

助成認定の対象となる活動

- ①芸術家／芸術団体の国内外における公演および展覧会等
- ②芸術家／芸術団体の年間活動
- ③その他、芸術文化の振興にかかわる諸活動

第1回助成認定活動(1996年5月)

黒川紀章回顧展～21世紀への遺言～

(黒川紀章回顧展実行委員会)
劇団態変'96エンジンバラおよび帰国公演「BLOOM～咲く～」
(イマージュ)

モンテリオール交響楽団演奏会
(財三重県文化振興事業団)

NINAGAWA COMPANYY'
公演「1996・待つ」

(NINAGAWA COMPANYY')

プロフェッショナル・ダンス・センター公演「ヒロシマ・レクイエム」

(プロフェッショナル・ダンス・センター)

シリーズ アジアの人形芝居

Part4 台湾の伝統人形芝居布袋戯(ポーテーヒー)日本公演

(財現代人形劇センター)

西川千麗 舞の夕「千麗源氏物語」

(西川千麗)

首都オペラ第5回公演「トゥーランドット」

(首都オペラ)

「トポスの復権」展?

(「トポスの復権」展実行委員会)

「青少年の心を育てる会」10周年記念 ミュージカル「ファープルの昆虫記」公演

(青少年の心を育てる会)

第2回北とびお国際音楽祭

(財北区文化振興財団)

EARTH CELEBRATIONS'96

(アース・セレブレーション実行委員会)

東京室内歌劇場28期第86回公演

オペラ「さんせう太夫」

(東京室内歌劇場)

團伊玖磨作曲 オペラ「ひかりこけ」

(財神奈川芸術文化財団)

宮沢賢治+デフ・パベットシアター・ひとみ「ドッテテ ドッテテ

ドッテテド」

(デフ・パベットシアター・ひとみ)

EU・ジャパンフェスト 日欧交流事業 天台宗聲明公演

(EU・ジャパンフェスト日本委員会)

EU・ジャパンフェスト 日欧交流事業 オーケストラ・アンサンブル金沢コンサート

(EU・ジャパンフェスト日本委員会)

パシフィック・ミュージック・フェスティバル1996

(パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会)

第21回新宿ケチャまつり

(芸能山城組)

「アート・オン・ザ・ネット/インターネットへの挑戦1996」展

(アート・オン・ザ・ネット実行委員会)

波瀾満子 スーパー・AIUEO'96

(有うりほ)

第2回助成認定活動(1996年7月)

アジア・オペラフェスティバルII

「センチュリーオペラ・オープン
ングコンサート」
(日本センチュリーオペラ)
ミュージアム・シティ・天神
1996, Fukuoka, Japan
(ミュージアム・シティ・プロジ
ェクト)
関西二期会第46回／第47回定期オ
ペラ公演
(関西二期会)
東京芸術劇場 5 周年記念公演 劇
団民藝「アンネの日記」
(財東京都教育文化財団)
大阪市立美術館開館60周年記念事
業
(大阪市立美術館開館60周年記念
事業実行委員会)
モルフェ'96「翼～asian wing
～」
(モルフェ組織委員会)
東京オペラシティコンサートホー
ルオープン記念企画「コンポーシ
アム1997」
(財東京オペラシティ文化財団)
ジョエル・レアンドル来日コンサ
ート
(ジョエル・レアンドル招聘委員
会)
オムスク日本文化と芸術フェス
ティバル
(オムスク日本文化と芸術フェス
ティバル日本組織委員会)
龍の会公演「逃亡」(高行健 作)
「龍の会」
安倍圭子マリンバコンサートIX
～太陽の国メキシコからのメッセ
ージ～
(安倍圭子マリンバコンサート実
行委員会)
オーストリア1000年祭 IN FU-
JINO
(オーストリア1000年祭 IN FU-
JINO 実行委員会)
巡回写真展「伝統芸能を支える
人々」楽器編
(伝統と文化を考える会)
MATOMA フランス公演
(MATOMA)
新宿梁山泊10周年公演「四谷怪談
～梁山泊版」
(新宿梁山泊)
第8回京都フランス音楽アカデミ
ー

(京都フランス音楽アカデミー実
行委員会)
舞踏集団 Nomade～s 96年度
年間活動
(舞踏集団 Nomade～s)

第3回助成認定活動(1996年9月)

ピープルシアター公演「プラット
ホーム・炎の秋」
(ピープルシアター)
「新制作座フェスティバル」中国
公演
(財新制作座文化センター)
現代日本陶磁の秀作・アジア巡回
展
(社国際文化協会)
帯広市民オペラ公演事業
(帯広市民オペラの会)
映画「どんぐりの家」の製作
(映画「どんぐりの家」製作委員
会)
1997年オルフェウス室内管弦楽団
日本公演
(オルフェウス日本公演実行委員
会)
東京インターナショナルアートフ
ェスティバル'97
「佐伯祐三展」および「記念講演
会」
(東京インターナショナルアート
フェスティバル'97実行委員会)
第2回宝塚市民バレエ
(財宝塚市文化振興財団)
東京室内歌劇場26期第88回公演
(東京室内歌劇場)
かもねぎショット「夢十夜」シリ
ーズ第二夜「嘘」
(かもねぎショット)
第18回「アジア藝術節」参加「外国
人の為の歌舞伎教室 “Kabuki
for Everyone”」
(外国人の為の歌舞伎教室実行委員
会)
ブラン・ヴァン・ヴェルデ展
(「ブラン・ヴァン・ヴェルデ展」
実行委員会)
「世界の中のル・コルビュジエ：
ル・コルビュジエと日本」国際シ
ンポジウム
(「ル・コルビュジエと日本」国際
シンポジウム実行委員会)
中山ダイスケ・ハンブルク

「DISCORD」美術展出展
(中山ダイスケ)

第4回助成認定活動(1996年11月)

映画「地球が動いた日」製作活動
(映画「地球が動いた日」製作委
員会)
内藤礼 新作インスタレーショ
ン・ドローイング展
(内藤礼)
オペラ「信濃の国・善光寺物語」
の制作および公演
(オペラ「信濃の国・善光寺物語」
制作公演実行委員会)
'97京都市交響楽団ヨーロッパ公
演
('97京響ヨーロッパ公演実行委員
会)
'97DA・M 演劇公演「SO
WHAT / ～たとえは偶然の花嫁、
必然の花婿」
(DA・M (ダム))
「新世代への視点'97～環境・生命
～」
(東京現代美術画廊会議)
「生の芸術展～その発見と未来～」
(生の芸術展実行委員会)
「現代詩フェスティバル'97
ダンス/ポエジー～ある交差配列
の試み～」
(梶アトリエ・エルスール)
惑星磁場修正計画 VOL. 8
(伊丹裕)
「兵庫アートウィーク・イン東京」
(アート・エイド神戸実行委員会)
クイーンズ美術館 コンテンポラ
リー・カレンツ 蔡國強展 “プロ
ジェクト・フォー・20世紀”
(蔡國強20世紀プロジェクト事務
局)

第5回助成認定活動(1997年1月)

ヒューバー・マリオンネツ サス
ペンティドゥ・アニメーション公
演
(岐阜人形劇センター)
第8回ラ・ストラダ弦楽アンサン
ブル演奏会
(ラ・ストラダ弦楽アンサンブ
ル)
第2回宮崎国際室内楽音楽祭

(財宮崎県立芸術劇場)
モーツァルト劇場公演「救われた
ベトゥーリア」

(モーツァルト劇場)
劇団道化座公演<生きる>シリー
ズ3「4人だけの同窓会」、シリー
ズ4「0号発刊」

(劇団道化座)
第5回プリンツ21グランプリ展
97

(プリンツ21グランプリ展事務局)
新しい世代の芸術祭'97

(新しい世代の芸術祭実行委員会)
ノール室内合奏団1997年度年間活
動

(ノール室内合奏団)
リゾートセミナー in キロロ'97

(リゾートセミナー実行委員会)
プロフェッショナル・ダンス・セ
ンター公演
「ヒロシマ・レクイエム」

(プロフェッショナル・ダンス・
センター)

第6回助成認定活動(1997年3月)

金杉 忠男 ASSOCIATES'97
年度年間活動

(金杉忠男 ASSOCIATES)
高橋秀展「高橋秀：画家とコレク
ター」展

(高橋秀展実行委員会)
アリスフェスティバル'97・第1
回アジア小劇場演劇ネットワーク
東京公演

(タイニイアリス)
第6回首都オペラ公演「カルメ
ン」

(首都オペラ)
梅若会 能ヨーロッパ公演

(財梅若会)

日本美術展カタログ収集プロジェ
クト

(日本美術展カタログ収集推進委
員会)

全国ウッドクラフト公募展入賞作
品巡回展

(全国ウッドクラフト公募展実行
委員会)

かわせみ座公演

(かわせみ座)
ハバナ・ビエンナーレの日本人作
家(佐藤時啓) 出品支援

(ハバナ・ビエンナーレ日本人作
家出品支援実行委員会)

新日本フィルハーモニー交響楽団
演奏会

(財三重県文化振興事業団)
記録映画「潮騒に耳をすませば一
野枝と大杉と娘たち」(仮題)の
製作および上映活動

(「ルイズ」製作委員会)
シエナウインドオーケストラ第3
回定期演奏会

(シエナウインドオーケストラ)
「バーチャルアーキテクチャー」
展

(「バーチャルアーキテクチャー」
展実行委員会)

第20回日本の象牙彫刻記念展

(第20回日本の象牙彫刻記念展組
織委員会)

日中国交正常化25周年記念事業
日中合作歌劇「蓬萊の国—徐福伝
説」

(日中合作歌劇「蓬萊の国—徐福
伝説」実行委員会)

山形国際ドキュメンタリー映画
祭'97

(山形国際ドキュメンタリー映画
祭実行委員会)

中村明一 尺八の世界 第8回リ

サイタル

(オフィス・サウンド・ポット)
京都チェンバーオーケストラ1997
年度定期演奏会(第8、9、10
回)

(京都チェンバーオーケストラ協
会)

「中西和久ひとり芝居 しのだづ
ま考」東欧公演

(向京楽座)
HAGI 世界映画芸術祭

(HAGI 世界映画芸術祭実行委員
会)

かもねぎシヨット 夢十夜シリー
ズ 第三夜「道」、第四夜「窓」
(かもねぎシヨット)

芝居仕掛けの音楽会 Vol. 3「わ
たし、うれしい」公演

(NANYA-SHIP (ナンヤ・シ
ップ))

第3回北とびあ国際音楽祭

(財北区文化振興財団)
メキシコ映画祭

(メキシコ映画祭実行委員会)
武元賀寿子 DANCE PER-
FORMANCE “A・huu
…・vol. V GARDEN—
Niwa—”

(武元賀寿子)
劇団解体社 '97欧州ツアー

(劇団解体社)
龍の会第2回公演「逃亡」上演

(龍の会)
MATSURI'97

(MATSURI'97)
DA・M アビニョン演劇祭公演

「Walking—S. ベケットに捧
ぐ」

(DA・M)

1996年度支援者一覧

1996年度中に、企業メセナ協議会経由で助成認定活動にご寄付いただいた方はつぎのとおりです。(五十音順/敬称略)

アイシン精機株
愛知製鋼株
株アイネス
朝鍋静生

株浅野太鼓楽器店
朝日生命保険(株)
アサヒビール株
株旭屋書店

株足利銀行
アジア太平洋トレードセンター株
味の素株
株アテランス

- 阿部裕三
 荒井眞
 株アルソア社
 アルチザンハウス株
 株アルトコーポレーション
 アルファ北日本販売株
 安念正義
 飯田電機工業株
 飯野不動産(有)
 五十嵐芳三
 池野通建株
 石井紀子
 石島満里子
 石原泰夫
 いすゞ自動車株
 イセト紙工株
 イタリヤード株
 株市川造園
 出光興産株
 株伊藤園
 伊藤組土建株
 伊藤七郎
 伊藤忠燃料株
 稲垣美穂子
 稲畑産業株
 株入江製作所
 岩井会計事務所
 岩谷産業株
 有インパクト
 株上野運輸商会
 上野製菓株
 植村カ子
 ウシオ電機株
 内野株
 梅田クリニック
 エーアイプリント(有)
 エイトレント株
 江崎グリコ株
 株エス・アンド・エス・エンジニ
 アリング
 SMK 株
 江藤世助
 株 NHK アート
 エヌビー総合開発株
 有エフネット
 株エル・ワーク
 遠藤楽
 オーエス興産株
 OMソーラー協会
 王子信用金庫
 大阪ガス株
 株大阪教映社
 株大阪市開発公社
- 大阪市街地開発株
 大阪市住宅供給公社
 株大阪シティドーム
 大阪信用金庫
 大阪地下街株
 大阪地下街サービス振興株
 大阪長堀開発株
 株大阪マーチャンダイズマート
 株大阪ワールドトレードセンター
 ビルディング
 大島木材工業株
 太田興業株
 大塚製菓株
 大富工業株
 大貫憲一
 株大林組
 岡田敏
 岡村印刷工業株
 株岡村製作所
 小川テント株
 沖縄電力株
 株小倉屋山本
 株お世話センター
 帯広建設業協会
 有オフィスふかざわ
 小淵恵三
 小俣シャッター工業株
 オムロン株
 オリエンタル建設株
 株海天堂書店
 花王株
 鹿島建設株
 鹿島テナントプランニング株
 香取純一
 金井俊一郎
 神奈川県民共済生活協同組合
 神奈川県労働金庫
 鎌倉正
 紙バルブ技術協会
 カルビー株
 川崎毅一郎
 株川島織物
 川田工業株
 川田勝哉
 川本工業株
 関西電力株
 株神崎高級工機製作所
 関東自動車工業株
 株カンノ商事
 株共栄社
 有京花園
 協業組合公清企業
 株協興商事
- 京セラ株
 京都魚市場株
 京都信用金庫
 京都青果合同株
 協同組合日専連帯広会
 協同広告株
 株共同テレビジョン
 共立建設株
 共和電気工事株
 協和発酵工業株
 キックマン株
 木内建設株
 私市扶木子
 岸三郎
 株北一硝子
 北ケーブルネットワーク株
 株北日本コグロ
 キハラ株
 株崎陽軒
 キリンビール株
 近畿日本鉄道株
 株近商ストア
 株近鉄百貨店
 株久家道子エンプロイダリー
 株國設計
 株クボタ
 株クリエイト
 有クルマ機械工業所
 株黒川紀章建築都市設計事務所
 桑名歯科医院
 株ケイセイ
 株ケイバブック
 京阪空調工業株
 京浜警備保障株
 京北産業株
 京北倉庫株
 株劇団 目覚時計
 月桂冠株
 健栄製菓株
 剣菱酒造株
 有弦楽器工房高崎
 株コーサー
 コーナン建設株
 河野登記測量事務所
 株コーノリサーチ
 株公益社
 株コウキ
 株神戸風月堂
 公立学校共済組合東京宿泊所
 國分紀一
 コクヨ株
 越野建設株
 小島電機工業株

- コスモ石油株
 小谷公穂
 コニシ株
 小林製薬株
 古磨電設株
 コマニー株
 小山俊子
 コンクリート破砕処理工業株
 近藤クリニック
 斉藤武男
 斎藤雅子
 佐伯建設工業株
 株サカクラ
 相模アセチレン株
 株さくら銀行
 佐藤郁夫
 佐藤恵子
 佐藤有子
 佐藤祐司
 佐藤陽子
 佐波準之助
 サミー工業株
 沢の鶴株
 三機工業株
 三協アルミニウム工業株
 三鶏通商株
 サンコー倉庫有
 三興工業株
 三星産業株
 株三省堂書店
 サントリー株
 株サンマロ
 三洋株
 三洋倉庫運輸株
 三洋電機情報機器株
 株三和銀行
 秀和電工株
 湘南信用金庫
 株昭和
 株昭和起重機製作所
 昭和光機株
 株昭和メンテサービス
 南初夏の風
 南シーアイ・エンタープライズ
 株シー・アイ・シー
 株CSK
 四方朋子
 株資生堂
 志立託爾
 株四宮造園
 南司馬グループ
 清水建設株
 株シミズサービス千葉
- 株シミズスポーツ
 シミズ舞台工芸株
 下飯坂法律事務所
 株 JEUGIA
 株住建産業
 十條倉庫株
 株上智
 ジョンソン株
 白沢純
 白山殖産株
 株シルクロード・プロモーション
 株しんぎんクレジットサービス
 株新宅工務店
 新北光石油株
 新菱冷熱工業株
 株スーパーサブ
 株すかいらーく
 スズキ株
 鈴木興産株
 鈴木仁史
 株スナダフーズ
 住友海上火災保険株
 住友金属工業株
 株住友銀行
 住友電気工業株
 炭平コーポレーション株
 生活クラブ生活協同組合
 株清光社
 株清康社
 株西友
 清和海運株
 南成和通商
 積水ハウス株
 設備メンテナンス株
 瀬戸宏
 セルコホーム株
 セントラル硝子株
 株銭高組
 全日本空輸株
 ソニー株
 株染谷商会
 大成建設株
 大平株
 太陽工業株
 高砂熱学工業株
 高島玲子
 タカナシ乳業株
 高畑公一
 南タカミデザインハウス
 タカラベルモント株
 滝川弘
 瀧野川信用金庫
 竹内清
- 株タケシタ
 武田薬品工業株
 株竹中工務店
 タケヤ刷子工業株
 多田正毅
 辰野株
 田中偉児一級建築士事務所
 田中勇
 田中龍夫
 田村商事株
 丹下健三都市建築設計研究所株
 丹野雄二
 株ダックスインターナショナル
 株ダイイチ
 株第一勧業銀行
 第一興業株
 第一生命保険(株)
 大王工業株
 株大協器械製作所
 ダイキン工業株
 大日本印刷株
 ダイハツ工業株
 株ダイヤモンドホテル
 株大米建設
 大良武晴
 株大和銀行
 大和證券株
 南ダダ
 チャコット株
 株中央興産
 株地球倶楽部
 ちとせ舞台美術株
 千葉會一
 株つうけん
 月島機械株
 堤土建株
 株つむら工芸
 ティーディーケイ株
 株ティエラ
 TDK コア株
 株テザック
 株テラ
 寺田倉庫株
 株テルミック
 南天龍窯
 株天王寺ステーションビルディング
 株天王寺都ホテル
 天理興業株
 南ティ・エヌ・ジィ
 株ティーシーカード
 株デンソー
 トックベアリング株

- 凸版印刷株
 凸版城北印刷株
 株トータル・ケア
 TOWA 株
 株東海銀行
 東海旅客鉄道株
 株東急百貨店
 株東急ホテルチェーン
 東京衣裳株
 東京海上火災保険株
 東京ガス株
 東京急行電鉄株
 東京書籍株
 東京書籍印刷株
 東京電力株
 有東京特殊効果
 株東京ニュース通信社
 株東京舞台照明
 株東京放送
 東京防災設備株
 株東京三菱銀行
 株東天紅
 東畑朝子
 東宝舞台株
 東洋病院
 東和不動産株
 同和火災海上保険株
 十勝米穀株
 株十勝毎日新聞社
 トステム株
 株トナカイ
 砺波工業株
 富島運輸株
 豊田工場株
 豊田合成株
 トヨタ自動車株
 株豊田自動織機製作所
 トヨタ車体株
 株豊田中央研究所
 豊田通商株
 豊田紡織株
 トライマリンジャパン株
 内外紙業株
 永井建築株
 長尾好輝
 株中北製作所
 中塚菊雄
 中野武
 株なかまち
 中村寛之助
 中村弘
 那須高原ビール株
 株なとり
- 株ナムコ
 新潟交通佐渡株
 株西尾倉庫
 南西川興産
 西日本旅客鉄道株
 株西日本シミズ
 株日建設計
 日興證券株
 日興電機工業株
 日産自動車株
 日産ディーゼル工業株
 日写興業株
 日商岩井株
 日清食品株
 株日栄
 日動火災海上保険株
 ニッタ株
 日本アンダーセングループ
 日本火災海上保険株
 日本汽船株
 株日本興業銀行
 株日本システムティベロップメン
 ト
 日本水産観光株
 日本製紙株
 日本たばこ産業株
 日本テレコム株
 日本電気株
 日本電信電話株
 日本道路資材株
 日本ビクター株
 株ネスト
 株野沢園
 野地欣久
 株野田企画
 野村證券株
 株はあーと&はあーと
 秋信用金庫
 萩原建設工業株
 株博進堂企画印刷
 株ハクユウ
 はごろもフーズ株
 長谷川智恵子
 浜浩之
 早川正一
 林正久
 株ハリウッドビューティサロン
 阪神電気鉄道株
 バイオニア株
 株百五銀行
 株ヒューマンウェイ
 表示灯株
 日野自動車工業株
- ヒロセ株
 株ビービーケーケー
 株美広エージェンシー
 有ピーアンドエム
 株ピエトロ
 株ファイヴワン
 福助株
 鮎子田昭司
 株フジアル
 不二音響株
 富士火災海上保険株
 藤木企業株
 株富士銀行
 株フジクリイェティブコーポレー
 ション
 富士コカ・コーラボトリング
 富士重工業株
 富士精密電機株
 富士ゼロックス株
 不二ソーラー株
 株フジタ電機
 藤重技研工業株
 藤縄昭
 藤原成子
 株フルールセージ
 プラス株
 株ベリカン石鹼
 北海道ガス株
 北海道放送株
 寶船冷蔵株
 細山紀典
 本田技研工業株
 本間亮雄
 株増田組
 株松坂屋
 松下通信工業株
 松下電器産業株
 松下電工株
 マツダ株
 マツナガ通機株
 株本建設株
 有松本工房
 松本長子
 株丸島アクアシステム
 株丸善
 株丸八
 三浦藤沢信用金庫
 医療法人社団三上整形外科医院
 株ミキモト
 株水谷組
 有水留造園
 ミズノ株
 有美園フラワー

三井ホーム株	ローム株	
三菱地所株	YKK アーキテクチュラルプロダ	
三菱自動車工業株	クツ株	
三菱電機株	YKK 株	
三菱マテリアル株	若鶴酒造株	
株ミツワ	若宮会計事務所	
株湊町開発センター	株ワコール	
南化研株		
株三松		
株宮入		
南みやざき印刷		
株宮崎銀行		
株宮崎太陽銀行		
株宮本工務店		
株明響社		
株メティア・レブ		
メルシャン株		
株モリタ		
森ビル株		
森平舞台機構株		
八木通商株		
安田株		
安田火災海上保険株		
安田金治		
株安田物産		
やなせたかし		
山一證券株		
ヤマギワ株		
株山種総合研究所		
山田信子		
大和製罐株		
株ヤマナカ		
株山中大仏堂		
ヤマハ発動機株		
山森隆		
株山禮		
ユーコー商事株		
南ユーロスペース		
祐工商事株		
横江昭		
横浜エレベータ株		
株横浜銀行		
株横浜シミス		
横浜信用金庫		
吉田和弘		
吉田美枝		
ライオン株		
株緑苑振興公社		
リーバイ・ストラウスジャパン株		
株リクルート		
株リブテック		
株リモデリング21		
レッキス工業株		

「メセナ白書1997」の制作にあたり、つぎに掲げる企業および企業財団から、ご回答をいただきました。

企業名

あ行

愛知製鋼株式会社
株式会社青森銀行
株式会社秋田銀行
株式会社浅沼組
旭硝子株式会社
株式会社朝日広告社
株式会社朝日新聞社
株式会社大通通信
アサヒビール株式会社
朝日放送株式会社
旭松食品株式会社
株式会社足利銀行
味の素株式会社
アメリカン・エクスプレス・インターナショナル、Inc.
株式会社アルプス物流
アロン化成株式会社
石川島運搬機械株式会社
石川島建材工業株式会社
イズミヤ株式会社
株式会社伊勢丹
伊藤忠商事株式会社
株式会社イトーヨーカ堂
株式会社伊予銀行
宇徳運輸株式会社
栄研化学株式会社
AIU 保険会社
エス・バイ・エル株式会社
エッソ石油株式会社
株式会社大分銀行
株式会社大分放送
大江工業株式会社
株式会社オーエム製作所
株式会社大垣共立銀行
大阪ガス株式会社
株式会社オートバックスセブン
株式会社大盛工業
オムロン株式会社
株式会社オリンピック

か行

花王株式会社
株式会社香川銀行
科研製薬株式会社
カシオ計算機株式会社
鹿島建設株式会社
株式会社カスミ
カテナ株式会社
鐘紡株式会社
亀田製菓株式会社
カヤバ工業株式会社
カルソニック株式会社
勸角証券株式会社
関西電力株式会社
株式会社カンセイ
株式会社関東銀行
北九州コカ・コーラボトリング株式会社
北野建設株式会社
キッコーマン株式会社
株式会社紀伊國屋書店
キヤノン販売株式会社
九宏薬品株式会社
九州電力株式会社
株式会社求龍堂
株式会社紀陽銀行
京セラ株式会社
株式会社京都銀行
桐生機械株式会社
キリンビール株式会社
株式会社クボタ
倉敷紡績株式会社
呉羽化学工業株式会社
グンゼ産業株式会社
株式会社群馬銀行
株式会社建設技術研究所
株式会社公益社
株式会社講談社
国際試薬株式会社
国産電機株式会社
コスモ石油株式会社
株式会社コロナ

さ行

株式会社佐賀銀行
株式会社さくら銀行
株式会社サクラダ
株式会社札幌銀行
佐藤工業株式会社
三協アルミニウム工業株式会社
株式会社サンゲツ
サントリー株式会社
山陽コカ・コーラボトリング株式会社
三洋信販株式会社
三洋電機株式会社
三和酒類株式会社
JTB
四国コカ・コーラボトリング株式会社
四国電力株式会社
株式会社静岡銀行
株式会社資生堂
株式会社自衛堂
清水建設株式会社
ジャスコ株式会社
シャチハタ工業株式会社
株式会社 JEUGIA
株式会社十八銀行
株式会社主婦の友社
株式会社常陽銀行
昭和電工株式会社
株式会社産殖銀行
信越化学工業株式会社
神姫バス株式会社
新日本空調株式会社
株式会社親和銀行
住友海上火災保険株式会社
株式会社住友銀行
住友生命保険相互会社
住友電設株式会社
住友電装株式会社
住友林業株式会社
セイコーエプソン株式会社
セイコー電子工業株式会社
西濃運輸株式会社
株式会社セガ・エンタープライゼ

ス	株式会社東京トーム	日本航空株式会社
積水化学工業株式会社	東京都競馬株式会社	日本合成化学工業株式会社
セゾングループ	株式会社東京都民銀行	日本合成ゴム株式会社
株式会社せとうち銀行	株式会社東京放送	日本コムシス株式会社
株式会社泉州銀行	東芝プラント建設株式会社	日本酸業株式会社
株式会社ゼンチク	東邦ガス株式会社	日本食研株式会社
株式会社ゼンリン	東洋エンジニアリング株式会社	日本信販株式会社
株式会社増進会出版社	東洋ゴム工業株式会社	日本水産株式会社
株式会社ソキア	東洋シャッター株式会社	日本製紙株式会社
ソニー株式会社	東洋テック株式会社	日本生命保険相互会社
株式会社ソネック	同和火災海上保険株式会社	日本たばこ産業株式会社
	東レ株式会社	株式会社日本長期信用銀行
た行	株式会社トーメン	日本電気株式会社
株式会社第一勧業銀行	株式会社十勝毎日新聞社	日本電気システム建設株式会社
第一生命保険相互会社	株式会社戸上電機製作所	日本電信電話株式会社
第一製薬株式会社	株式会社トクヤマ	日本配合飼料株式会社
株式会社タイカン	株式会社徳陽シティ銀行	日本発条株式会社
株式会社大光銀行	株式会社栃木銀行	日本ビストンリング株式会社
株式会社第二銀行	凸版印刷株式会社	日本メナード化粧品株式会社
株式会社第四銀行	トビー工業株式会社	
大正製薬株式会社	株式会社トミー	は行
株式会社大真空	株式会社富山銀行	株式会社博報堂
大東京火災海上保険株式会社	トヨタ自動車株式会社	株式会社八十二銀行
大同生命保険相互会社	株式会社豊田自動織機製作所	株式会社阪神百貨店
大都工業株式会社	豊田通商株式会社	東日本旅客鉄道株式会社
大日本土木株式会社		株式会社ビケンテクノ
大日本印刷株式会社	な行	株式会社肥後銀行
大日本スクリーン製造株式会社	株式会社ナイガイ	ビジョン株式会社
大和證券株式会社	株式会社名古屋銀行	日立機電工業株式会社
ダイワ精工株式会社	株式会社ナムコ	株式会社日立製作所
株式会社高田工業所	檜崎産業株式会社	日立造船株式会社
武田薬品工業株式会社	株式会社南都銀行	日立プラント建設株式会社
株式会社竹中工務店	西尾レントオール株式会社	日野自動車工業株式会社
株式会社夕チエス	西松建設株式会社	株式会社百五銀行
株式会社千葉銀行	日動火災海上保険株式会社	株式会社広島銀行
株式会社千葉興行銀行	ニチハ株式会社	広島建設工業株式会社
中外製薬株式会社	株式会社ニチレイ	株式会社広島総合銀行
中京コカ・コーラボトリング株 会社	日産自動車株式会社	ヒロセ電機株式会社
中部電力株式会社	日商エレクトロニクス株式会社	株式会社びわこ銀行
中部日本放送株式会社	株式会社ニッシン	フィリップモリス株式会社
株式会社つうけん	日新電機株式会社	株式会社フォーバル
TOA 株式会社	日精樹脂工業株式会社	株式会社フジ
株式会社 TYK	ニッタ株式会社	富士火災海上保険株式会社
株式会社テレビ東京	日鑽ドラム株式会社	富士急行株式会社
株式会社デンソー	日東エフシー株式会社	株式会社富士銀行
株式会社電通	日東電工株式会社	富士ゼロックス株式会社
東亜建設工業株式会社	日本アイ・ビー・エム株式会社	富士ソフト ABC 株式会社
東京海上火災保険株式会社	日本アムウェイ株式会社	富士通株式会社
東京ガス株式会社	日本ガイシ株式会社	株式会社富士プロジェクト
東京急行電鉄株式会社	日本火災海上保険株式会社	扶桑薬品工業株式会社
東京焼結金属株式会社	日本橋梁株式会社	古河総合設備株式会社
東京電力株式会社	日本軽金属株式会社	フレックス株式会社
	株式会社日本経済新聞社	株式会社平和

ホーチキ株式会社
北海道ガス株式会社

ま行

株式会社マイカル
前澤工業株式会社
前田建設工業株式会社
株式会社マガジンハウス
株式会社松坂屋
松下電器産業株式会社
株式会社マルイチ産商
丸紅株式会社
ミスノ株式会社
三井海上火災保険株式会社
三井観光開発株式会社
三井物産株式会社
三井不動産株式会社
三井不動産販売株式会社
株式会社三越
株式会社ミツバ
三菱ガス化学株式会社
三菱地所株式会社
三菱商事株式会社
三菱信託銀行株式会社
株式会社南日本銀行
未来工業株式会社
株式会社武蔵野銀行
メルシャン株式会社
株式会社モスフードサービス
持田製菓株式会社
モロゾフ株式会社

や行

株式会社ヤギコーポレーション
株式会社ヤクルト本社
安田火災海上保険株式会社
安田生命保険相互会社
矢作建設工業株式会社
山一証券株式会社
株式会社ヤマタネ
ヤマト運輸株式会社
株式会社山梨中央銀行
ヤマハ株式会社
株式会社ユアテック
株式会社ユーシン精機
祐徳自動車株式会社
雪印乳業株式会社
株式会社ヨークベニマル
株式会社読売新聞社

ら行

ライオン株式会社
株式会社リクルート

株式会社琉球銀行
ルイ・ヴィトン ジャパン株式会
社
株式会社レナウン
ローム株式会社
六甲バター株式会社

わ行

株式会社ワールド
ワコー電器株式会社
株式会社ワコール

企業財団名

財団法人愛銀教育文化財団
財団法人赤澤記念財団
財団法人朝日新聞文化財団
財団法人アサヒビール芸術文化財
団
財団法人あさひ・ひむか文化財団
財団法人あしぎん国際交流財団
財団法人アフィニス文化財団
財団法人井植記念会
財団法人石川文化事業財団
財団法人逸翁美術館
財団法人出光美術館
財団法人伊藤忠記念財団
財団法人岩谷直治記念財団
財団法人植野アジア芸術文化振興
財団
財団法人エー・ビー・シー音楽振
興財団
財団法人エネルギー文化・スポー
ツ財団
財団人大分放送文化振興財団
財団人大衆教育文化振興財団
財団人大阪日本民芸館
財団法人音楽鑑賞教育振興会
財団法人音楽教育振興財団
財団法人花王芸術・科学財団
財団法人北野生涯教育振興会
財団法人京都服飾文化研究財団
財団法人紀陽文化財団
財団法人キリン福祉財団
財団法人熊本放送文化振興財団
財団法人五島記念文化財団
財団法人佐賀銀行文化財団
財団法人佐藤国際文化育英財団
財団法人三銀ふるさと文化財団
財団法人サントリ－音楽財団
財団法人サントリ－文化財団

財団法人四国民家博物館
財団法人十八銀行社会開発振興基
金
財団法人松竹大谷図書館
財団法人新日鐵文化財団
財団法人親和銀行ふるさと振興基
金
財団法人末永文化振興財団
財団法人杉本美術館
財団法人住友財団
財団法人駿府博物館
財団法人セゾン文化財団
財団法人ソニー音楽芸術振興会
財団人大同生命国際文化基金
財団法人第百生命フレンドシッ
プ
財団
財団法人たまし地域文化財団
財団法人中信美術奨励基金
財団法人彫刻の森美術館
財団法人東京オペラシティ文化財
団
財団法人道銀文化財団
財団法人東芝国際交流財団
財団法人東邦銀行文化財団
財団法人東洋信託文化財団
財団法人徳島新聞社会文化事業団
財団法人トヨタ財団
財団法人長島文化財団
財団法人ニッセイ文化振興財団
財団法人日本生命財団
財団法人日本テレビ放送網文化事
業団
財団法人日本美術協会
財団法人野間奉公会
財団法人野村国際文化財団
財団法人八十二文化財団
財団法人美育文化協会
財団法人東日本鉄道文化財団
財団法人美術工藝振興佐藤基金
財団法人ひろしま美術館
財団法人福岡文化財団
財団法人福武学術文化振興財団
財団法人平和堂財団
財団法人ベルナル・ビュフェ美
術館
財団法人ポーラ伝統文化振興財団
財団法人三井海上文化財団
財団法人三菱信託芸術文化財団
財団法人みどり銀行文化振興財団
財団法人明治村
財団法人ヤギメセナファンデー
ション
財団法人安田火災美術財団

財団法人安田生命クオリティオブ
ライフ文化財団
財団法人山種美術財団
財団法人大和文華館
財団法人大和文化財保存会
財団法人ヤマハ音楽振興会
財団法人ユニオン造形文化財団
財団法人ヨークベニマル文化教育
事業財団
財団法人よんでん文化振興財団
財団法人ロームミュージックファ
ンデーション

(1997年9月1日現在)

正会員

- [株] I&S
 [株] 朝日広告社
 [株] 朝日新聞社
 朝日生命保険 [相]
 [株] 旭通信社
 アサヒビール [株]
 朝日放送 [株]
 味の素 [株]
 [株] イトーヨーカ堂
 一帆会・昭和電工グループ
 [株] INAX
 岩尾磁器工業 [株]
 [株] エイ・アイ・エイ
 [株] エフエム東京
 エルメス・ジャボン [株]
 王子製紙 [株]
 大阪ガス [株]
 オムロン [株]
 [株] オリエントコーポレーション
 [株] オンワード樫山
 花王 [株]
 鹿島建設 [株]
 カトーレック [株]
 鐘紡 [株]
 カルティエ ジャパン [株]
 勸角証券 [株]
 関西電力 [株]
 キヤノン [株]
 [株] 求龍堂
 京セラ [株]
 キリンビール [株]
 [株] 京王プラザホテル
 [株] 経済界
 [株] 現代彫刻センター
 [株] 講談社
 [株] 光文社
 コスモ石油 [株]
 [株] さくら銀行
 [株] 産業経済新聞社
 サントリー [株]
 三洋電機 [株]
 三和酒類 [株]
 JTB
 [株] ジェイブ
 [株] 資生堂
 清水建設 [株]
 シヤチハタ工業 [株]
 ジャスコ [株]
 [株] 集英社
 [株] 主婦と生活社
 [株] 主婦の友社
- [株] 小学館
 松竹 [株]
 [株] 新潮社
 新日本製鐵 [株]
 住友海上火災保険 [株]
 [株] 住友銀行
 住友生命保険 [相]
 セイコーエプソン [株]
 [株] 世界文化社
 積水化学工業 [株]
 セコム [株]
 セゾングループ
 全国朝日放送 [株]
 セントラル警備保障 [株]
 全日本空輸 [株]
 [株] 増進会出版社
 ソニー [株]
 [株] 第一勧業銀行
 第一企画 [株]
 第一生命保険 [相]
 [株] 大広
 大正製薬 [株]
 大東京火災海上保険 [株]
 大同生命保険 [相]
 大日本印刷 [株]
 [株] ダイヤモンド社
 大和証券 [株]
 武田薬品工業 [株]
 [株] 竹中工務店
 [株] タダノ
 [株] 淡交社
 チェースマンハッタン銀行
 中部ガス [株]
 TOA [株]
 TBS [株] 東京放送
 [株] テレビ東京
 [株] 電通
 東海旅客鉄道 [株]
 [株] 東急エージェンシー
 東急建設 [株]
 [株] 東急百貨店
 東京ガス [株]
 東京急行電鉄 [株]
 東京電力 [株]
 [株] 東京ドーム
 [株] 東京三菱銀行
 同和火災海上保険 [株]
 [株] 十勝毎日新聞社
 凸版印刷 [株]
 トヨタ自動車 [株]
 [株] トライグループ
 西日本旅客鉄道 [株]
 [株] 日動画廊
- [株] ニチレイ
 日産自動車 [株]
 日東興業 [株]
 [株] ニッポン放送
 日本アイ・ピー・エム [株]
 日本アムウェイ [株]
 日本 AT&T [株]
 日本火災海上保険 [株]
 [株] 日本経済新聞社
 日本航空 [株]
 日本酸素 [株]
 日本食研 [株]
 日本信販 [株]
 日本製紙 [株]
 日本生命保険 [相]
 日本たばこ産業 [株]
 日本テレビ放送網 [株]
 日本電気 [株]
 日本電信電話 [株]
 日本電波塔 [株]
 野村證券 [株]
 バイオニア [株]
 [株] 博報堂
 [社] 林原共済会
 びあ [株]
 東日本旅客鉄道 [株]
 [株] 美研
 久光製薬 [株]
 [株] 日立製作所
 フィリップ モリス [株]
 [株] 富士銀行
 富士ゼロックス [株]
 [株] フジタ
 富士通 [株]
 [株] フジテレビジョン
 [株] 富士プロジェクト
 [株] 婦人画報社
 [株] プリチストン
 [株] 文藝春秋
 本田技研工業 [株]
 [株] 毎日新聞社
 [株] マガジンハウス
 松下電器産業 [株]
 丸紅 [株]
 三井観光開発 [株]
 三井不動産 [株]
 [株] 三越
 三菱重工業 [株]
 三菱商事 [株]
 三菱信託銀行 [株]
 メルシャン [株]
 [株] ヤグコーポレーション
 安田火災海上保険 [株]

安田生命保険〔相〕
 山武ハネウエル〔株〕
 ヤマト運輸〔株〕
 ヤマハ〔株〕
 雪印乳業〔株〕
 〔株〕ヨークベニマル
 〔株〕吉野工業所
 〔株〕読売広告社
 〔株〕読売新聞社
 〔株〕リクルート
 ルイ・ヴィトン ジャパン〔株〕
 〔株〕レナウン
 ローム〔株〕
 〔株〕ワコール

 準会員

〔財〕愛知県文化振興事業団
 茨城県
 EU・ジャパン フェスト日本委
 員会
 神奈川県
 〔学〕河合塾生涯教育開発室
 〔社〕企業メセナ群馬
 京都商工会議所
 〔財〕京都服飾文化研究財団
 熊本県
 慶応義塾大学アート・センター
 芸術文化交流の会
 〔株〕劇団影ぼうし
 劇団四季
 〔株〕劇団飛行船
 〔財〕埼玉県芸術文化振興財団
 佐賀県企業メセナ協議会
 〔株〕シアター・ワークショップ
 〔株〕シー・ディー・アイ
 〔株〕社会工学研究所
 昭和音楽大学
 〔財〕新国立劇場運営財団
 大東文化大学書道研究所
 〔有〕ダブルフェイス
 地人会
 中央区文化・国際交流振興協会
 東海メセナ研究会
 〔財〕東京都歴史文化財団
 〔株〕トナカイ オペラサロン ト
 ナカイ
 〔株〕トライビジョン
 〔財〕堂本印象記念近代美術振興財
 団
 日産労連リック事業部
 〔社〕日本演奏連盟
 〔財〕日本オペレッタ協会
 〔社〕日本芸能実演家団体協議会
 〔財〕日本交通文化協会
 〔財〕八十二文化財団
 〔株〕ビー・エム・エフセンター
 藤沢市
 〔株〕フジテレビギャラリー
 〔財〕北海道文化財団
 〔株〕ミクル劇団
 〔財〕水戸市芸術振興財団
 矢島邦茂法律事務所
 〔財〕余暇開発センター

〔五十音順〕

97年版メセナ白書をお届けする。

今年は毎年実施している「メセナ活動実態調査」に加え、「企業の顕彰・コンクール事業」の状況について調査・分析を行った。

まず、実態調査では、昨年度の調査でも明らかになった、メセナ活動のバブル不況からの脱出が、より顕著となった。

メセナ活動の状況把握に適切と思われる7項目についての時系列調査は、いずれも、活動の着実な拡大・充実を裏づけるものであった。また企業活動の一つとしての機能的・組織的な対応ぶりをうかがわせるものであった。

バブル崩壊後、日本社会は、物質至上主義から、精神的なものを尊ぶ傾向が顕著となり、「豊かな市民社会づくり」が世間のコンセンサスとなったといえそうである。そして、その実現にあたり、芸術・文化活動のさらなる活性化は不可欠の要素である。この意味においても企業メセナは今後さらに、重要度を増し、社会の期待も膨らんでいくのは必至である。

いっぽうで、企業のリソースにはもとより限界がある。企業はより能動的に、行政や市民・NPOとのパートナーシップづくりに注力をすべきではなからうか。芸術・文化の分野ごとの特性と、メセナとしての展開形態にフィットするパートナーシップづくりが実現できれば、メセナ活動はより稔り多きものとなる。企業も最少のリソースで最大のメセナ効果を発揮できることにつながるのは間違いない。

さて、97年版白書では、読者の見やすさ、理解しやすさの向上に努力をした。図・表をカラー化するとともに、その表記方法にも工夫をした。また項目ごとの分析結果のキャプションや解説文も、より迅速・正確に理解をいただけるよう、推稿を重ねた。

つぎに特集の「企業の顕彰・コンクール事業」は、日本における現状を総括するとともに、海外での状況との比較を含め、その意義と課題をある程度明らかにすることができたと思っている。

当白書刊行にあたっては、調査部会メンバーに多大なご尽力を賜わった。調査の集計・分析で協力をいただいたNTTメディアスコープの近藤静雄氏、編集をお願いしたダイヤモンド社の佐藤徹郎氏にも深く感謝したい。

企業メセナ協議会調査部会

345

部会長	岡部修二	トヨタ自動車株	広報部社会文化室長・担当部長
	荒木利貞	株竹中工務店	部長広報担当
	安斉辰哉	東海旅客鉄道株	広報部東京広報室
	加藤種男	アサヒビール株	企業文化部次長
	熊井泰明	勸角証券株	広報室長
	酒井 剛	株資生堂	企業文化部次長
	篠原孝明	株セゾンコーポレーション	セゾングループ広報
	花水恭二	日本製紙株	総務部広報室長
	山下紘一	日本電気株	広報部社会貢献推進室長
事務局	専務理事	根本長兵衛	
	事務局長	岩瀬慶孝	
	白書担当	武田直樹 伊藤亜希子 石動貴子	

编者紹介

社団法人 企業メセナ協議会

〒100 東京都千代田区有楽町2-5-1

有楽町マリオン13階

Tel: 03-3213-3397

Fax: 03-3215-6222

URL: <http://www.mediagalaxy.co.jp/mecenas>

E-Mail: mecenas@kt.rim.or.jp

●

企業メセナ協議会は1990年2月に設立された、
企業のメセナ〔芸術文化支援〕の活性化をめざす、
わが国初の企業の連合体〔社団法人〕。

主たる事業として、企業の芸術文化支援についての、

- 1.啓発・普及
- 2.情報集配・仲介
- 3.調査・研究
- 4.顕彰
- 5.国際交流
- 6.助成を行っている。

会長・西尾信一 理事長・福原義春。

正会員171社、準会員44団体。(97年9月1日現在)

メセナ 白書 1997

1997年10月23日 初版発行

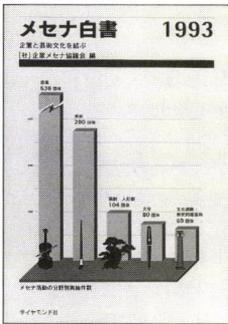
编者 社団法人 企業メセナ協議会
©1997 Association for Corporate Support of the Arts
印刷 加藤文明社
製本 宮本製本所
発行所 ダイヤモンド社
〒100-60 東京都千代田区霞が関1-4-2
電話 03-3504-6403 [編集] 03-3504-6517 [販売]
振替口座 00190-6-25976

ISBN4-478-30054-2 C0034

落丁・乱丁本はお取替えいたします

Printed in Japan

『メセナ白書』は年度版で刊行しています。



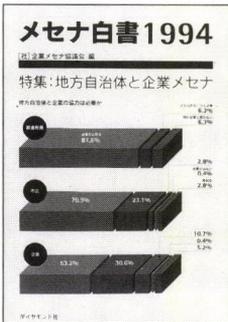
メセナ白書1993

[社]企業メセナ協議会 編

定価(本体2427円+税)

特集：企業メセナと舞台芸術

芸術団体は企業メセナをどうみているか
メセナの充実を望む舞台芸術



メセナ白書1994

[社]企業メセナ協議会 編

定価(本体2718円+税)

特集：地方自治体と企業メセナ

地方自治体の芸術文化振興事業の
実態と動向
ルポ「地方自治体の企業メセナの
協力事例 [6つのテーマで]」

編者紹介

社団法人 企業メセナ協議会

- 企業メセナ協議会は1990年2月に設立された、企業のメセナ〔芸術文化支援〕の活性化をめざす、わが国初の企業の連合体〔社団法人〕。主たる事業として、企業の芸術文化支援についての、
1.啓発・普及 2.情報集配・仲介 3.調査・研究
4.顕彰 5.国際交流 6.助成を行っている。
会長・西尾信一 理事長・福原義春。
正会員171社、準会員44団体。(97年9月1日現在)

メセナ 白書 1997

[社] 企業メセナ協会 編

ISBN4-478-30054-2

C0034 ¥3000E



ダイヤモンド社

定価(本体) **3000**円+税)



9784478300541



1920034030004

1社あたりの平均支援件数と資金援助額

